

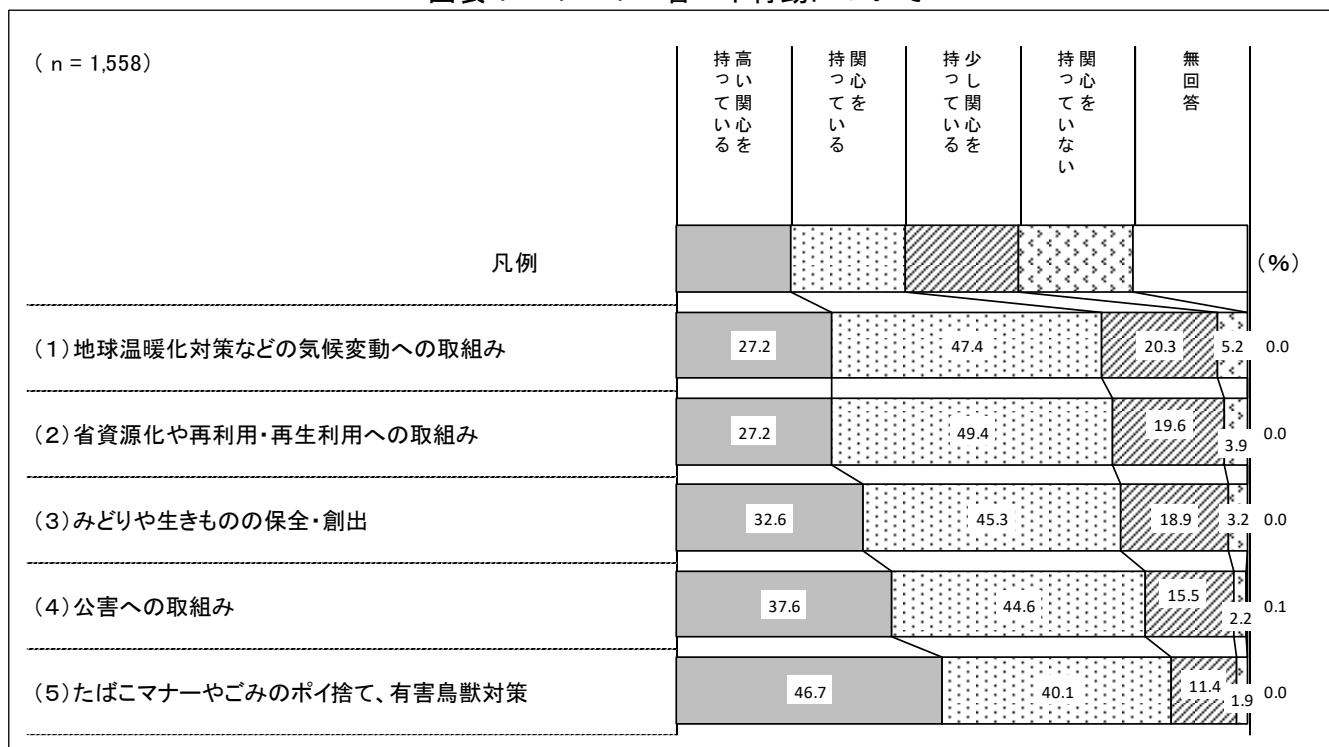
調 査 結 果

1. 区民の皆さんの環境への意識について

(1) 「環境」分野の関心について

問1 あなたにとっての「環境」分野の関心について伺います。次の(1)～(5)の「環境」の項目について、それぞれ当てはまる番号に1つ〇をつけてください。

図表1-1-1 省エネ行動について



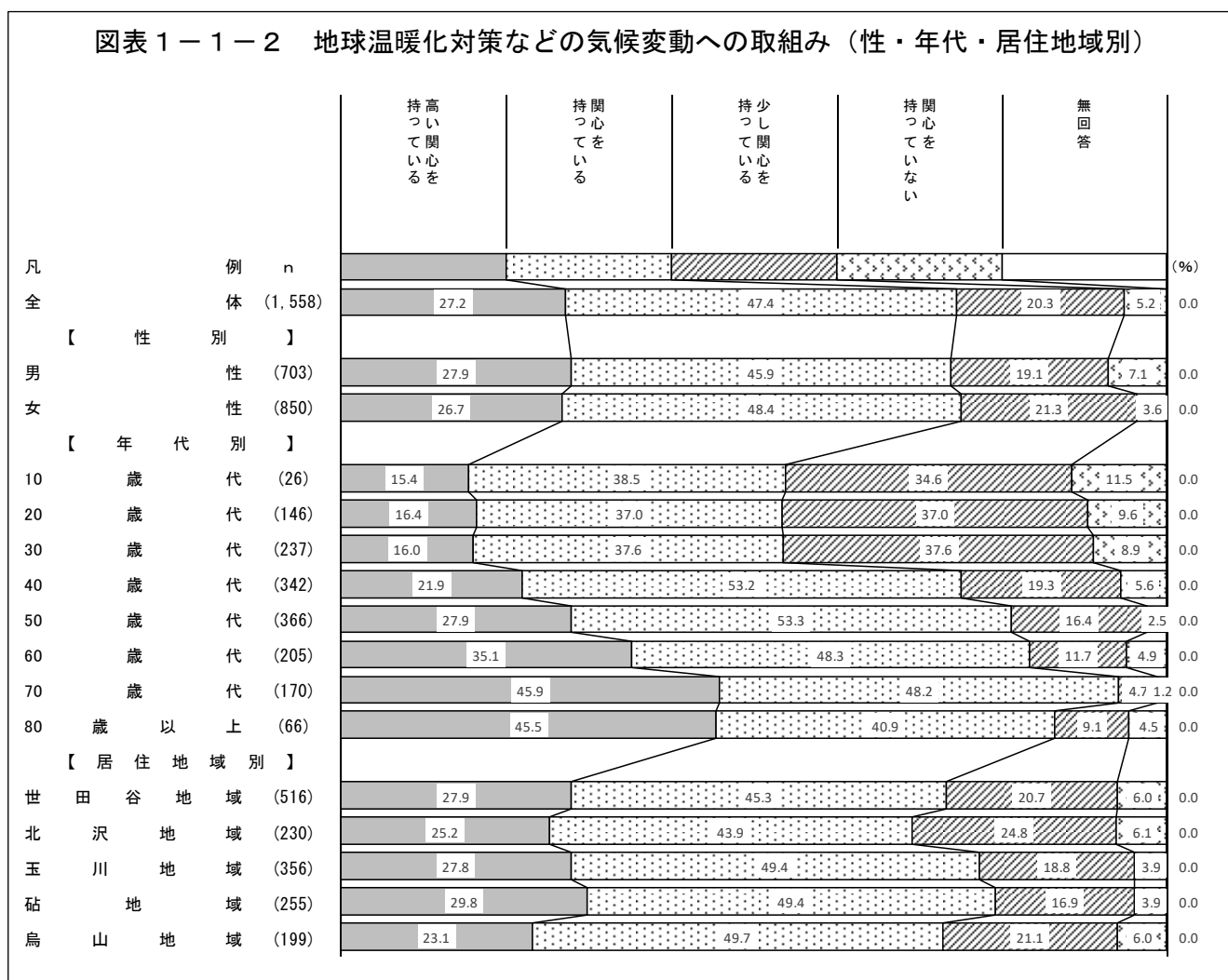
5項目の「環境」分野の関心について、「高い関心を持っている」は、『(5) たばこマナーやごみのポイ捨て、有害鳥獣対策』が46.7%で最も高く、次いで『(4) 公害への取組み』が37.6%であり、身近な問題で関心が高い傾向がみられる。その他の3項目については、おおむね3割前後となっている。

「高い関心を持っている」と「関心を持っている」を合わせると、すべての項目で7割以上が《関心を持っている》と回答している。これに「少し関心を持っている」を合わせると9割を超えており、「関心を持っていない」は『(1) 地球温暖化対策などの気候変動への取組み』で5%を超えやや高いものの、それ以外の項目は5%以下にとどまっている。(図1-1-1)

※以下、《関心を持っている》は「高い関心を持っている」と「関心を持っている」の合計とする。

(2) 地球温暖化対策などの気候変動への取組み

図表 1-1-2 地球温暖化対策などの気候変動への取組み（性・年代・居住地域別）

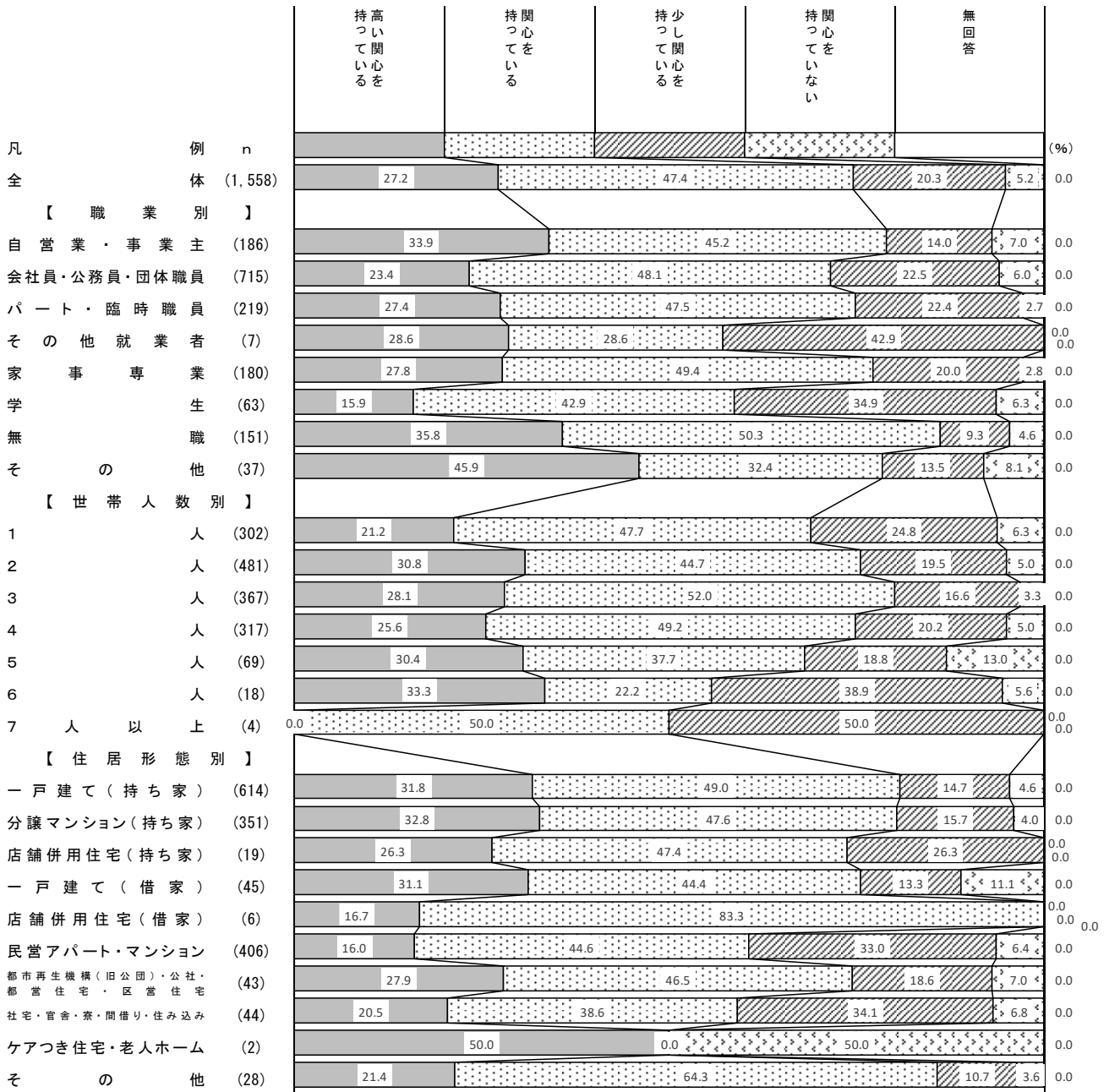


全体で見ると、「関心を持っている」が47.4%で最も高く、「高い関心を持っている」(27.2%)と合わせると74.6%が《関心を持っている》と回答している。また、20.3%が「少し関心を持っている」と回答している。

年代別にみると、30歳代から70歳代にかけては「高い関心を持っている」は年代が上がるにつれ高くなり、70歳代と80歳以上では大きな増減はみられない。(図表1-1-2)

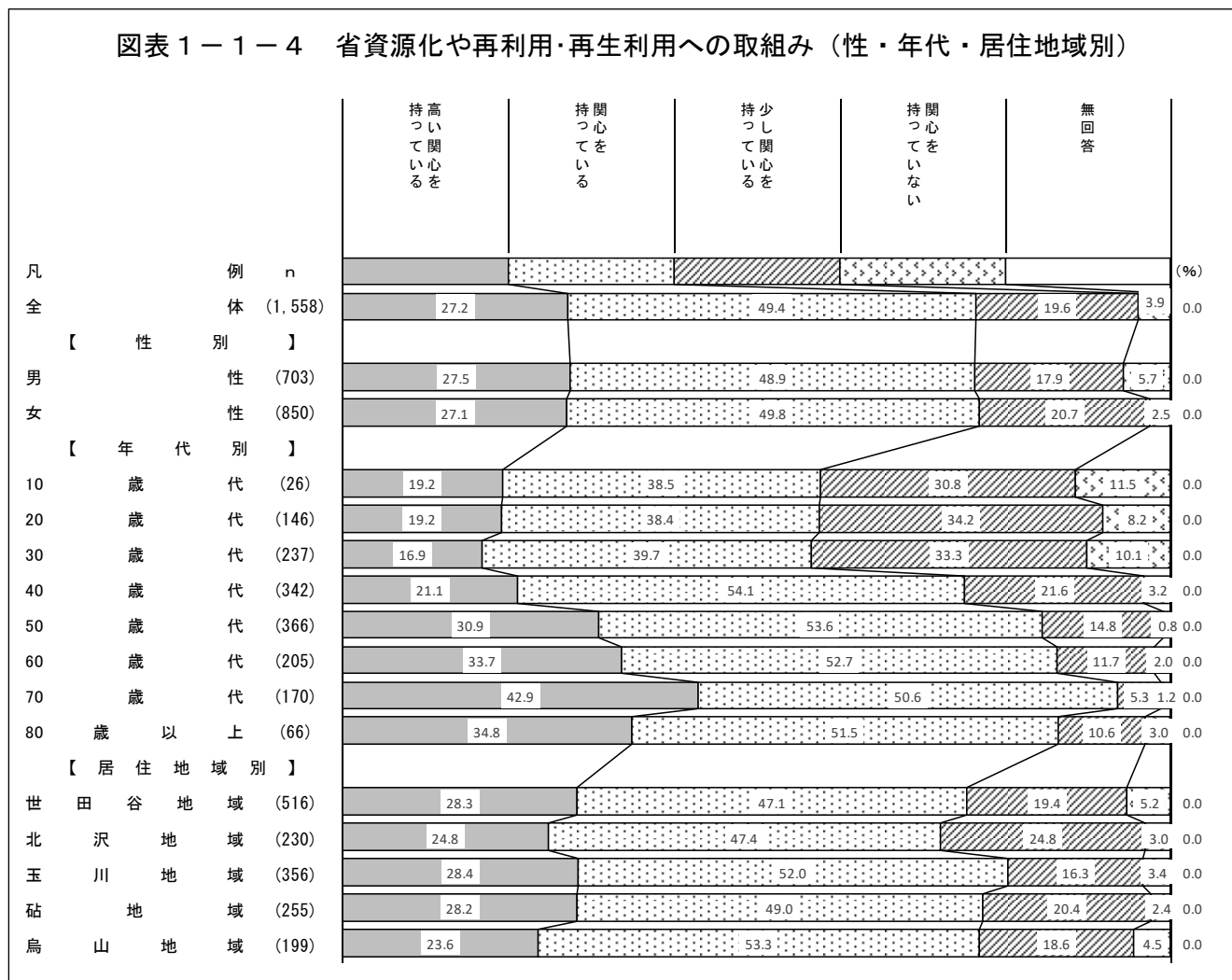
職業別にみると、「高い関心を持っている」はその他(45.9%)、「無職」(35.8%)、自営業・事業主(33.9%)で高くなっている。(図表1-1-3)

図表 1-1-3 地球温暖化対策などの気候変動への取組み（職業・世帯人数・居住形態別）



(3) 省資源化や再利用・再生利用への取組み

図表 1-1-4 省資源化や再利用・再生利用への取組み（性・年代・居住地域別）

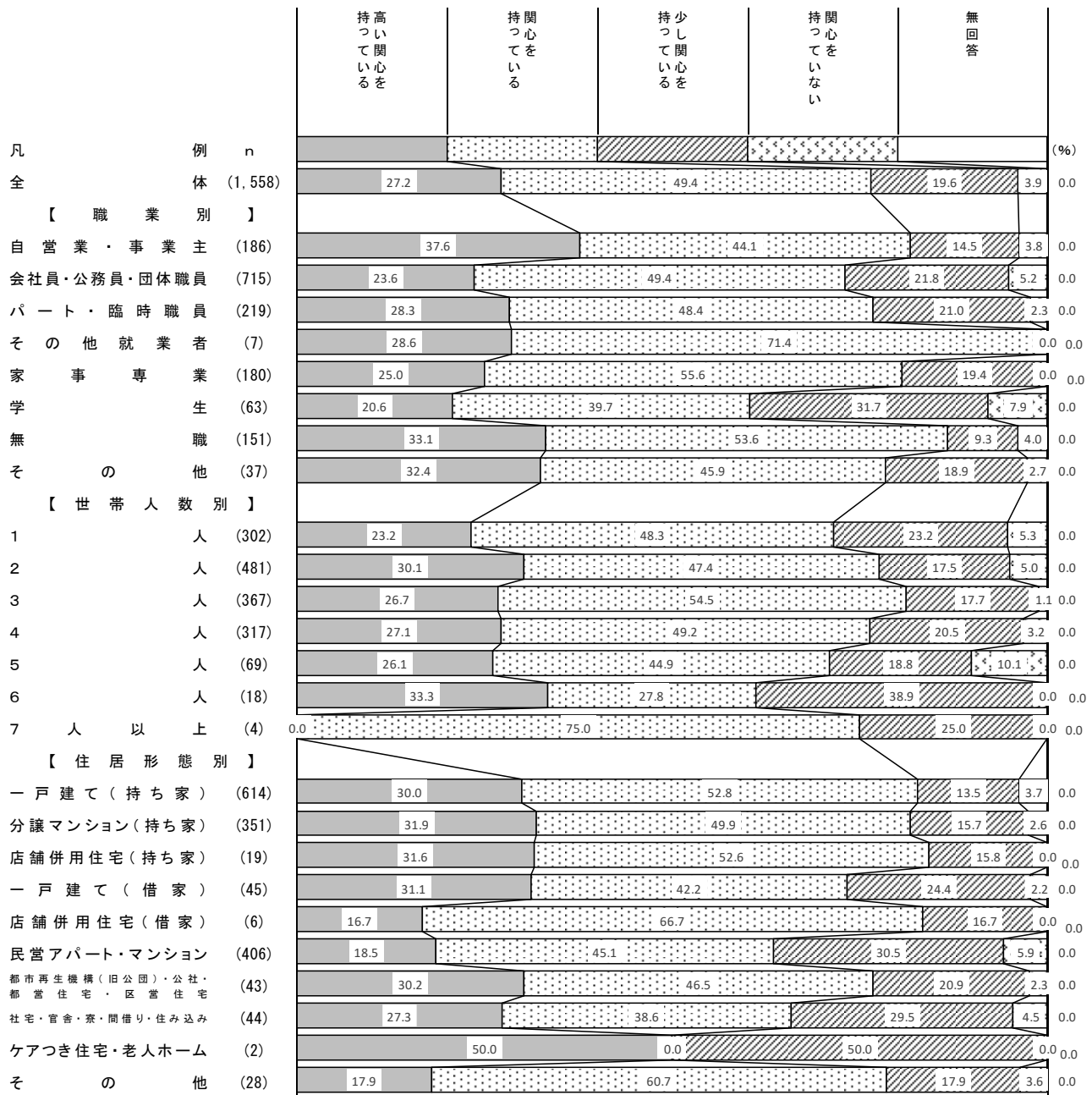


全体で見ると、「関心を持っている」が49.4%で最も高く、「高い関心を持っている」(27.2%)と合わせると76.6%が《関心を持っている》と回答している。また、19.6%が「少し関心を持っている」と回答している。

年代別にみると、30歳代から70歳代にかけては、「高い関心を持っている」は年代が上がるにつれ高くなっている。(図表1-1-4)

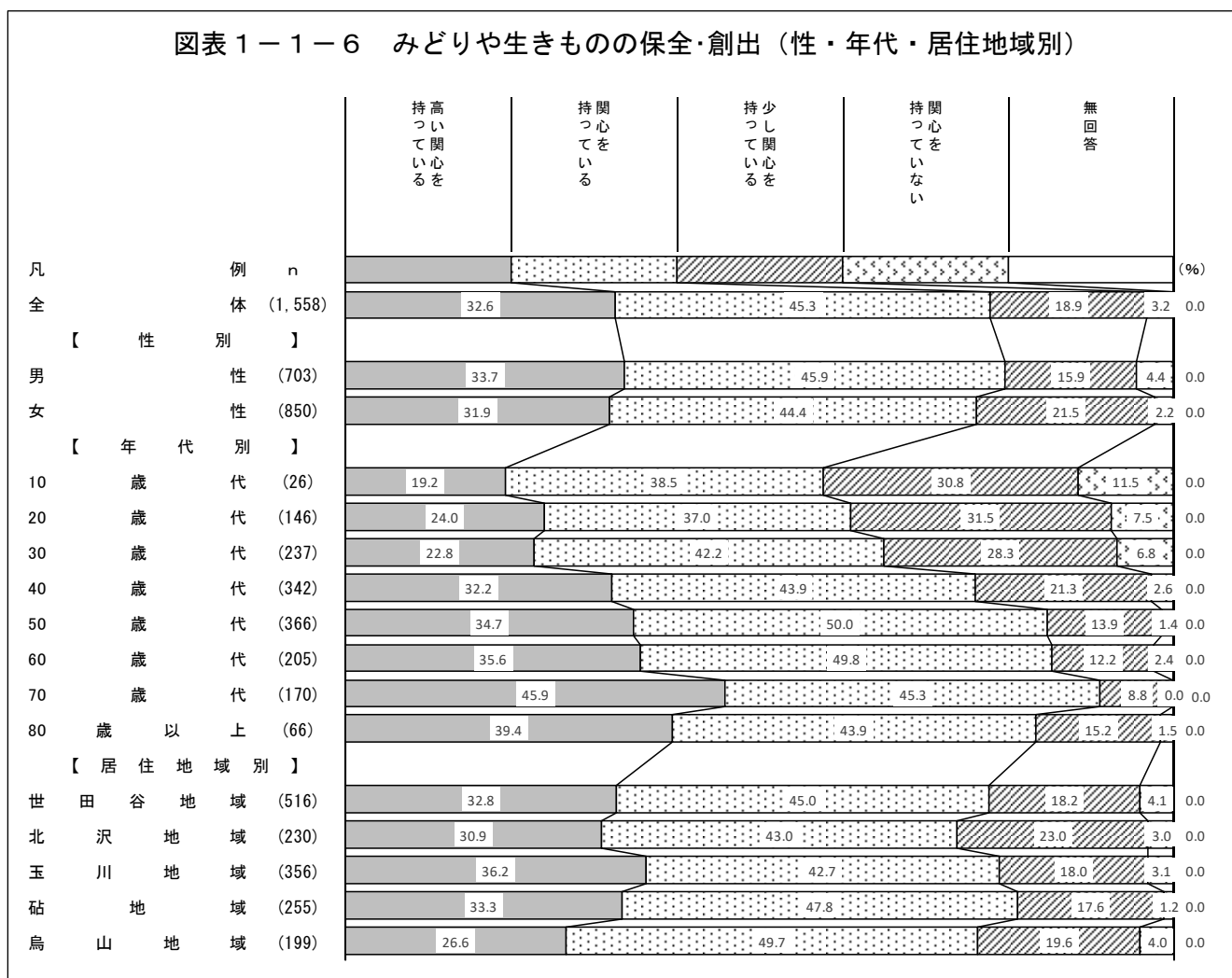
職業別にみると、「高い関心を持っている」は自営業・事業主(37.6%)で高くなっている。(図表1-1-5)

図表 1-1-5 省資源化や再利用・再生利用への取組み（職業・世帯人数・居住形態別）



(4) みどりや生きものの保全・創出

図表 1-1-6 みどりや生きものの保全・創出 (性・年代・居住地域別)

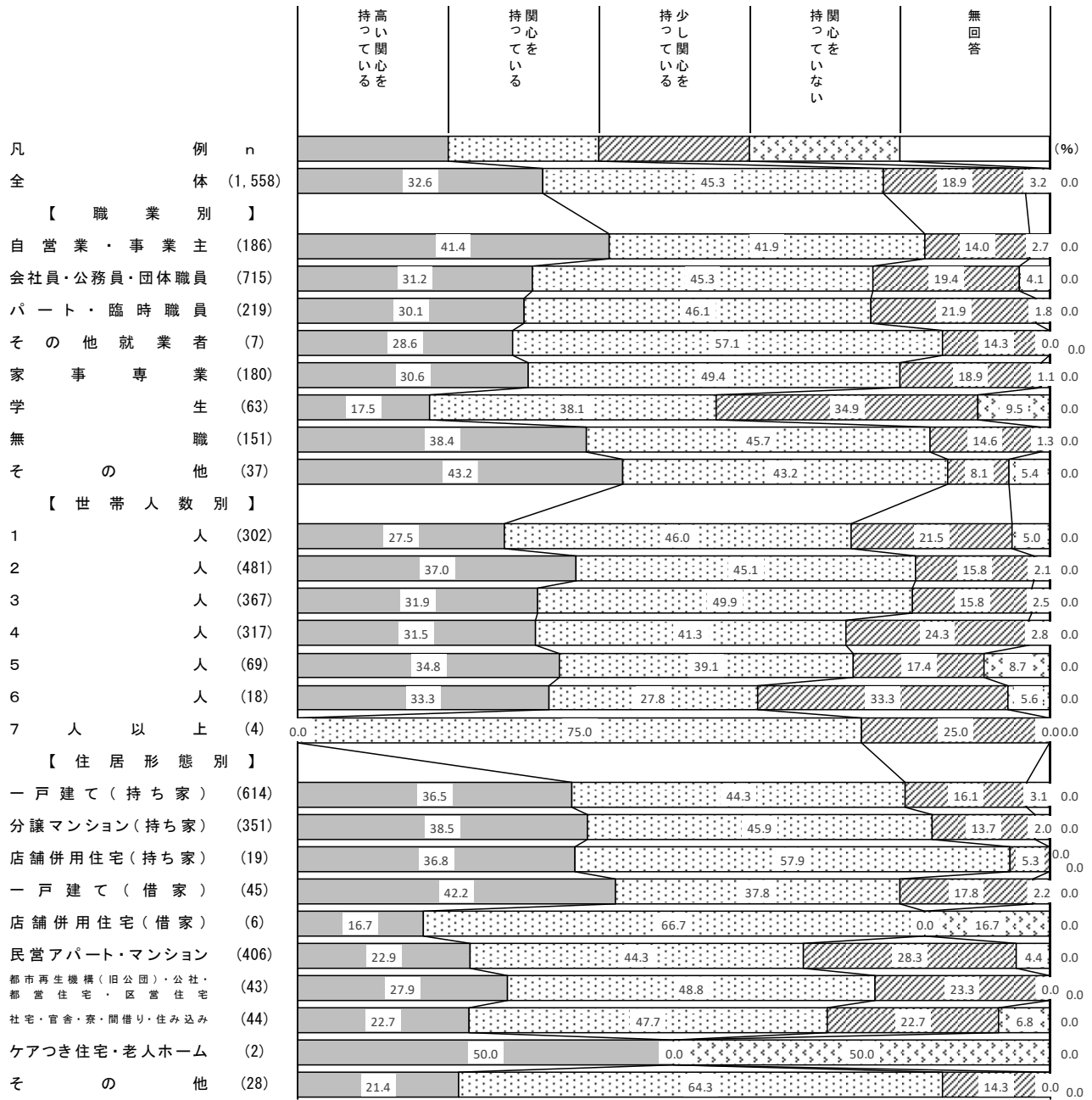


全体で見ると、「関心を持っている」が45.3%で最も高く、「高い関心を持っている」(32.6%)と合わせると77.9%が《関心を持っている》と回答している。また、18.9%が「少し関心を持っている」と回答している。

年代別にみると、30歳代から70歳代で、「高い関心を持っている」は年代が上がるにつれ高くなっている。(図表1-1-6)

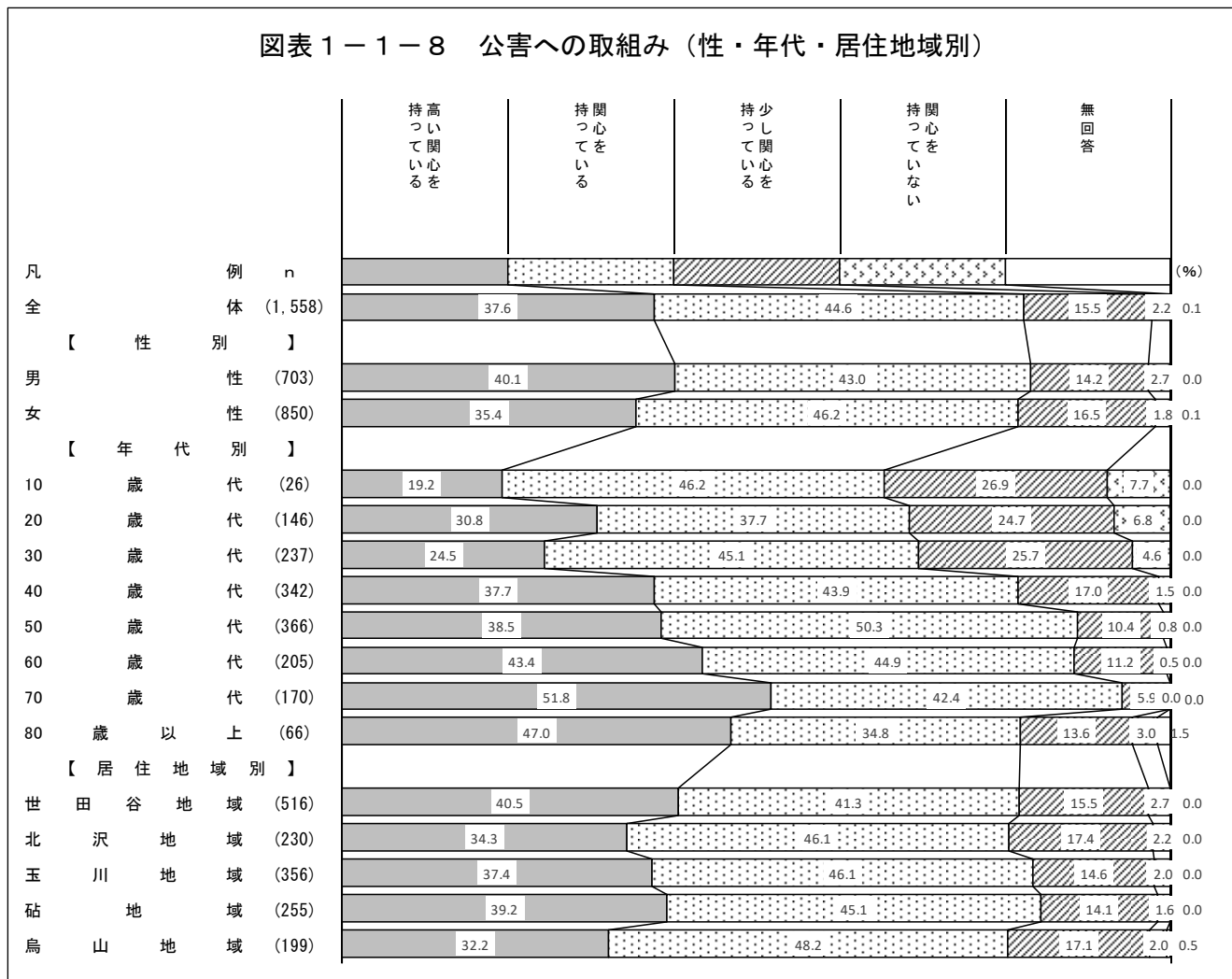
職業別にみると、「高い関心を持っている」は、その他(43.2%)、自営業・事業主(41.1%)で高くなっている。(図表1-1-7)

図表 1-1-7 みどりや生きものの保全・創出（職業・世帯人数・居住形態別）



(5) 公害への取組み

図表 1-1-8 公害への取組み (性・年代・居住地域別)

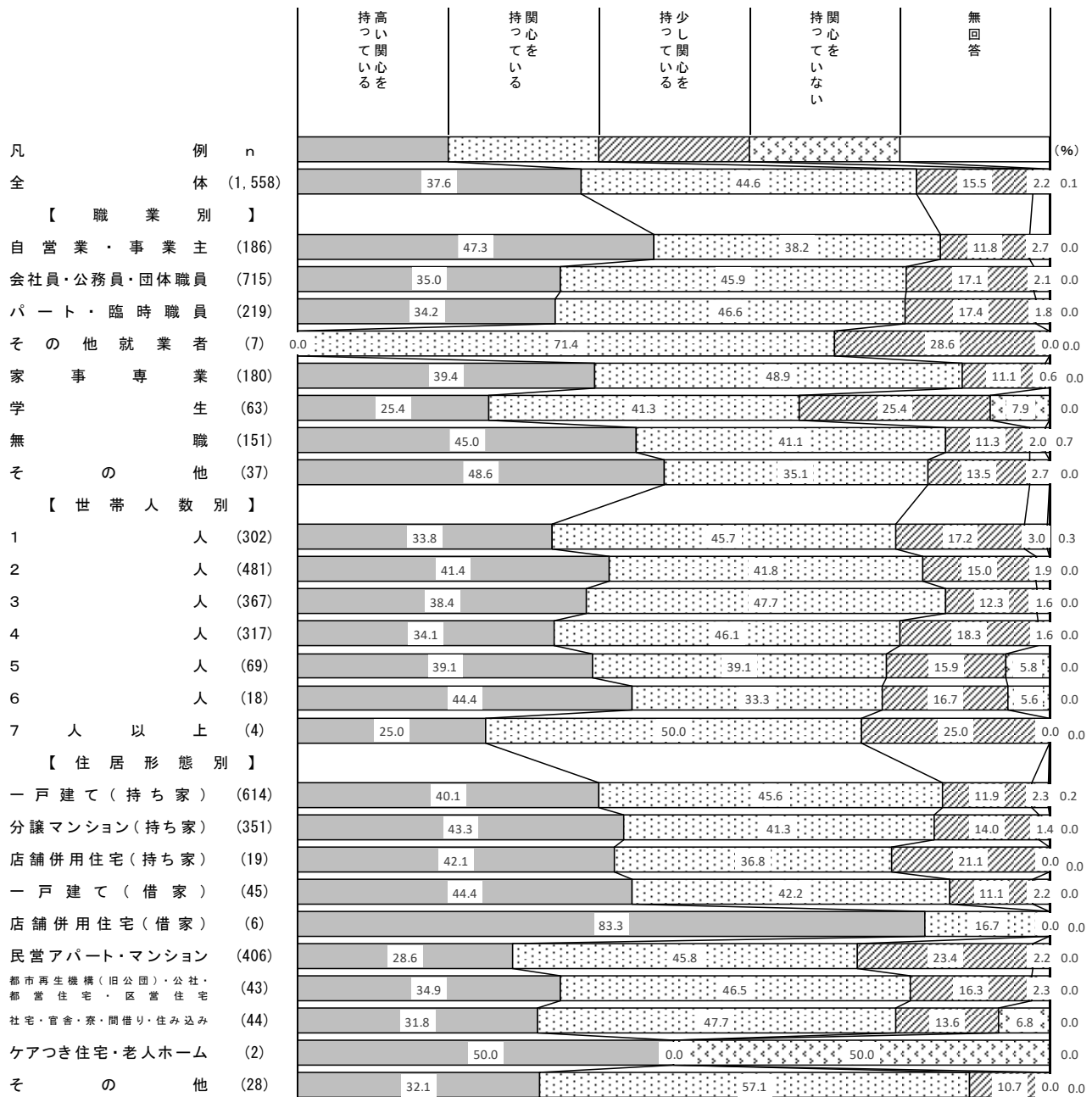


全体で見ると、「関心を持っている」が44.6%で最も高く、「高い関心を持っている」(37.6%)と合わせると82.2%が《関心を持っている》と回答している。また、15.5%が「少し関心を持っている」と回答している。

年代別にみると、30歳代から70歳代で、「高い関心を持っている」は年代が上がるにつれ高くなっている。(図表1-1-8)

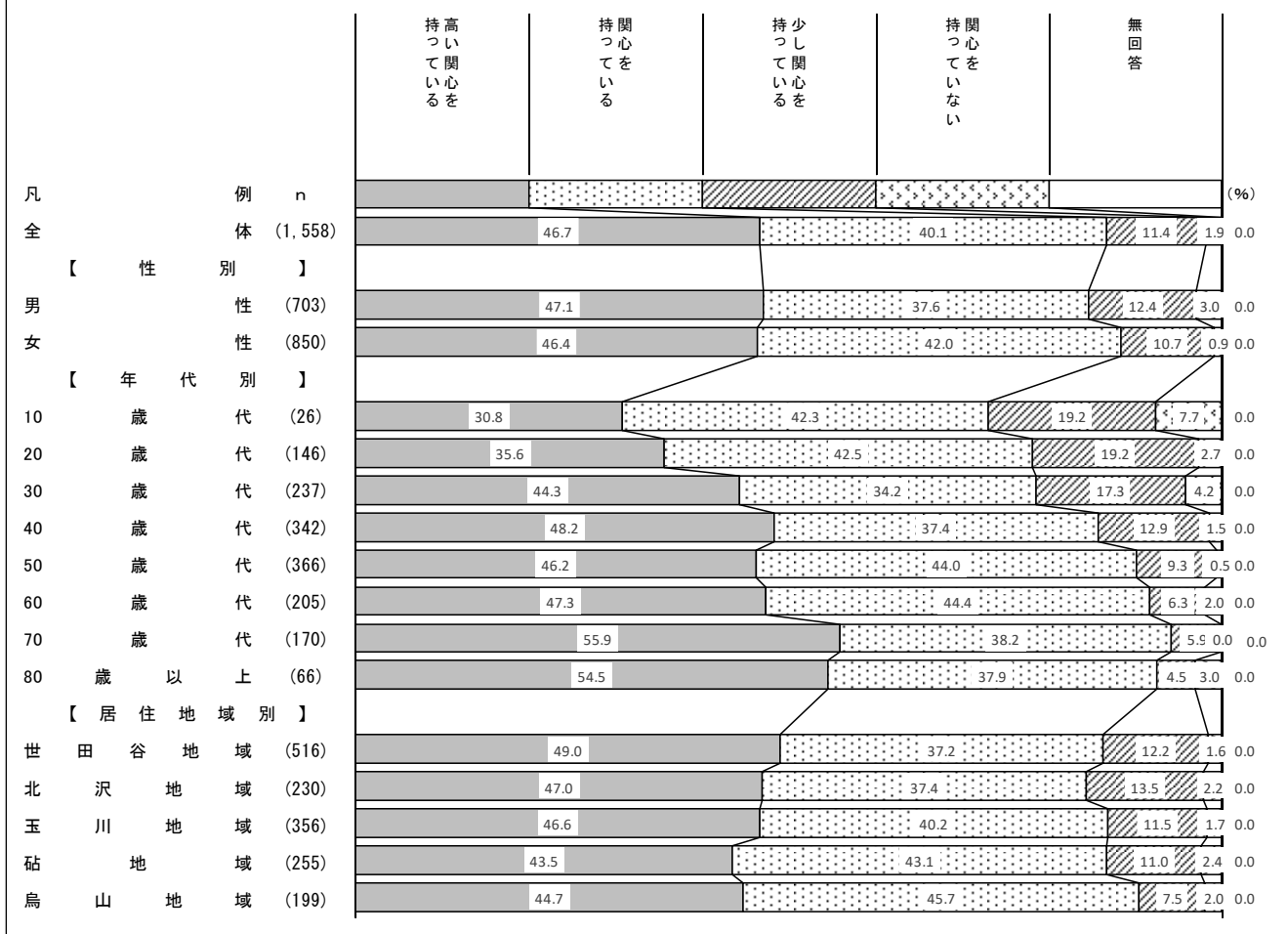
職業別にみると、「高い関心を持っている」はその他(48.6%)、自営業・事業主(47.3%)で高くなっている。(図表1-1-9)

図表 1-1-9 公害への取組み（職業・世帯人数・居住形態別）



(6) たばこマナーやごみのポイ捨て、有害鳥獣対策

図表 1-1-10 たばこマナーやごみのポイ捨て、有害鳥獣対策 (性・年代・居住地域別)

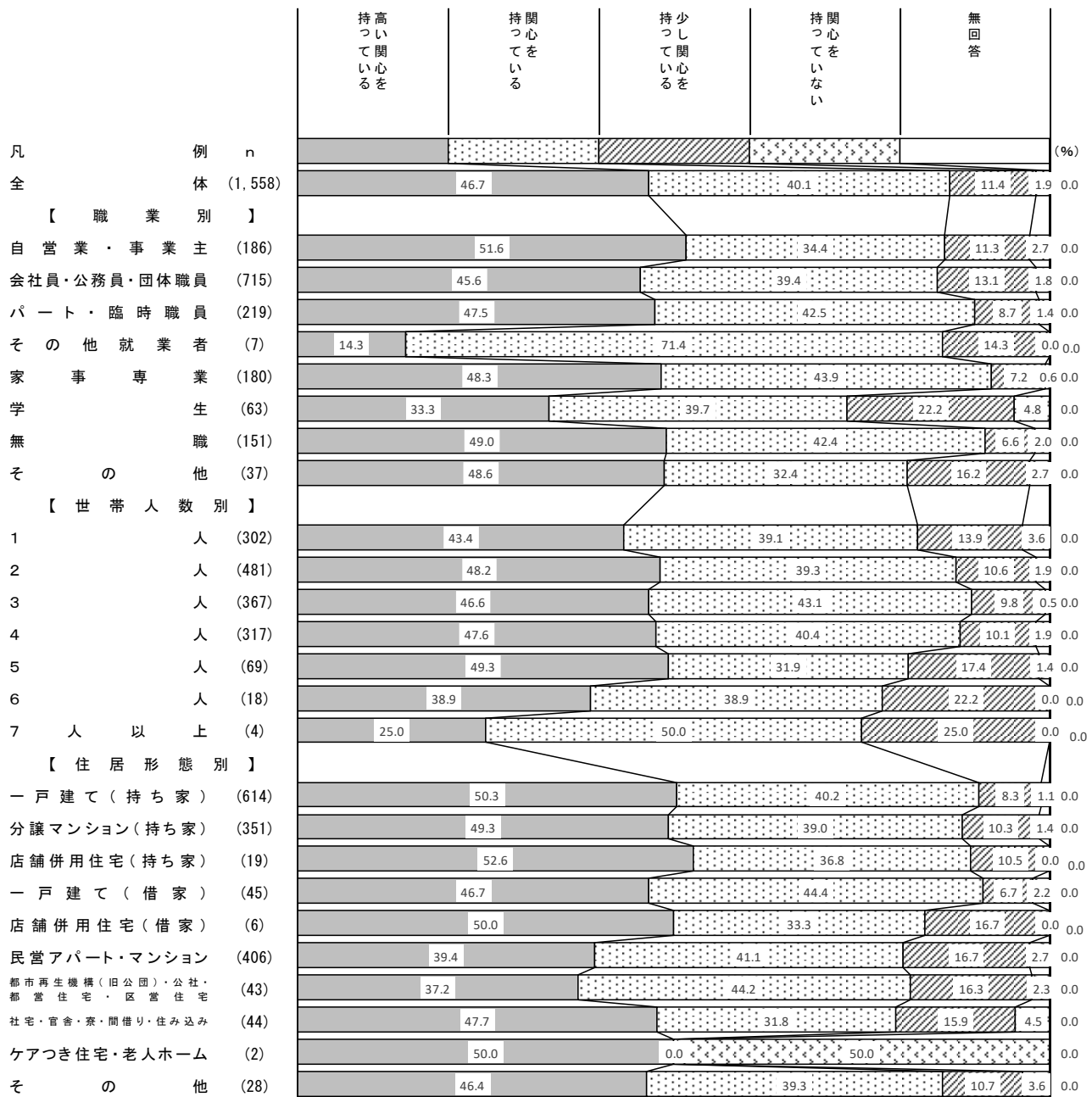


全体で見ると、「高い関心を持っている」が46.7%で最も高く、「関心を持っている」(40.1%)と合わせると86.8%が《関心を持っている》と回答している。また、11.4%が「少し関心を持っている」と回答している。

年代別にみると、「高い関心を持っている」は70歳代(55.9%)、80歳以上(54.5%)で高くなっている。(図表1-1-10)

職業別にみると、「高い関心を持っている」は自営業・事業主(51.6%)で高くなっている。(図表1-1-11)

図表 1-1-11 たばこマナーやごみのポイ捨て、有害鳥獣対策（職業・世帯人数・居住形態別）



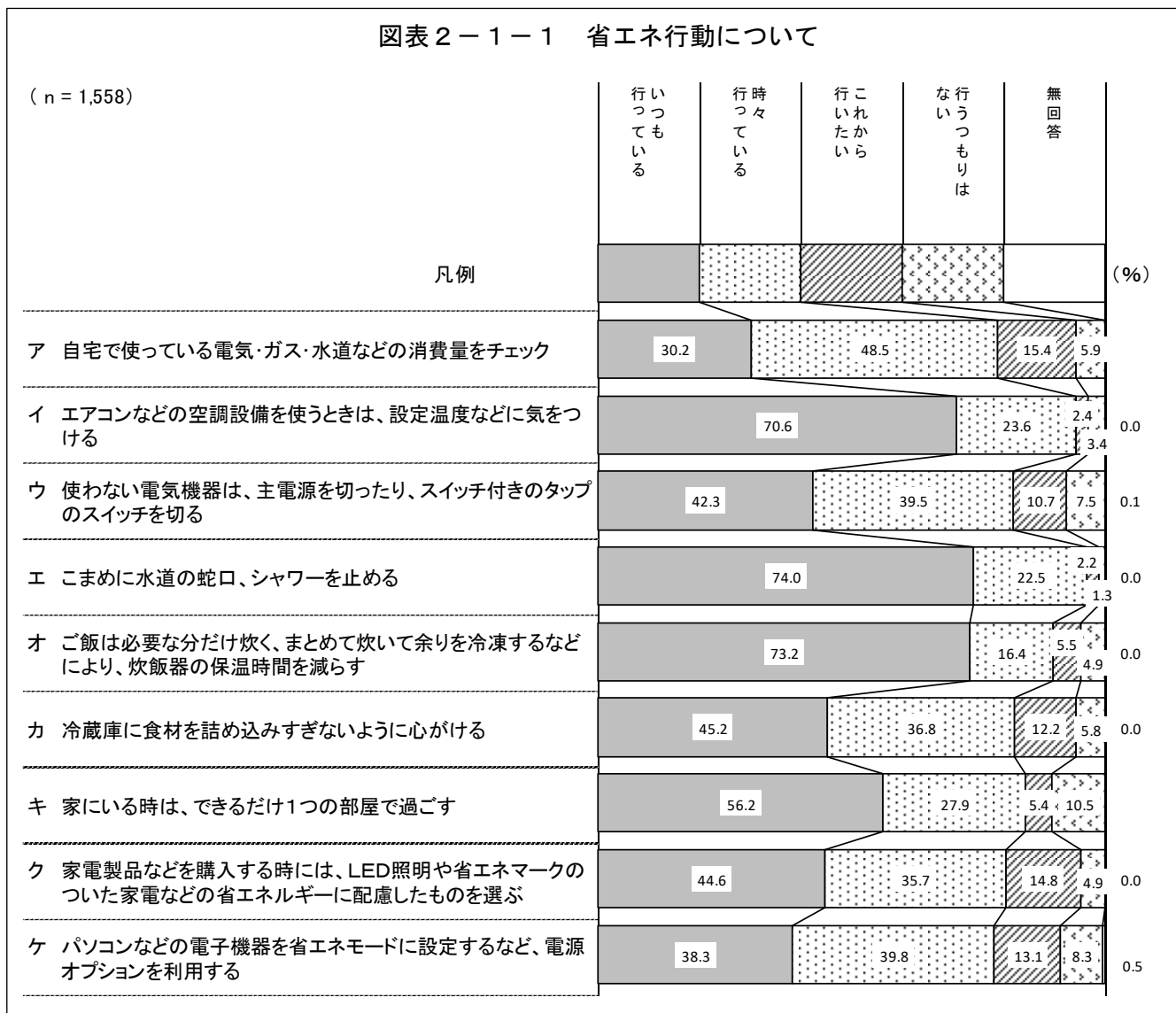
2. 区民の皆さんの環境に配慮した行動について

(1) 省エネ行動について

問2 あなたの環境に配慮した行動の状況をうかがいます。次の(1)～(12)の各項目について、当てはまるものを選んでください。

(1) 次のア～ケの省エネ行動について、それぞれ当てはまる番号に1つ〇をつけてください。また、その他に行っている取組みがあれば記入してください。

図表2-1-1 省エネ行動について

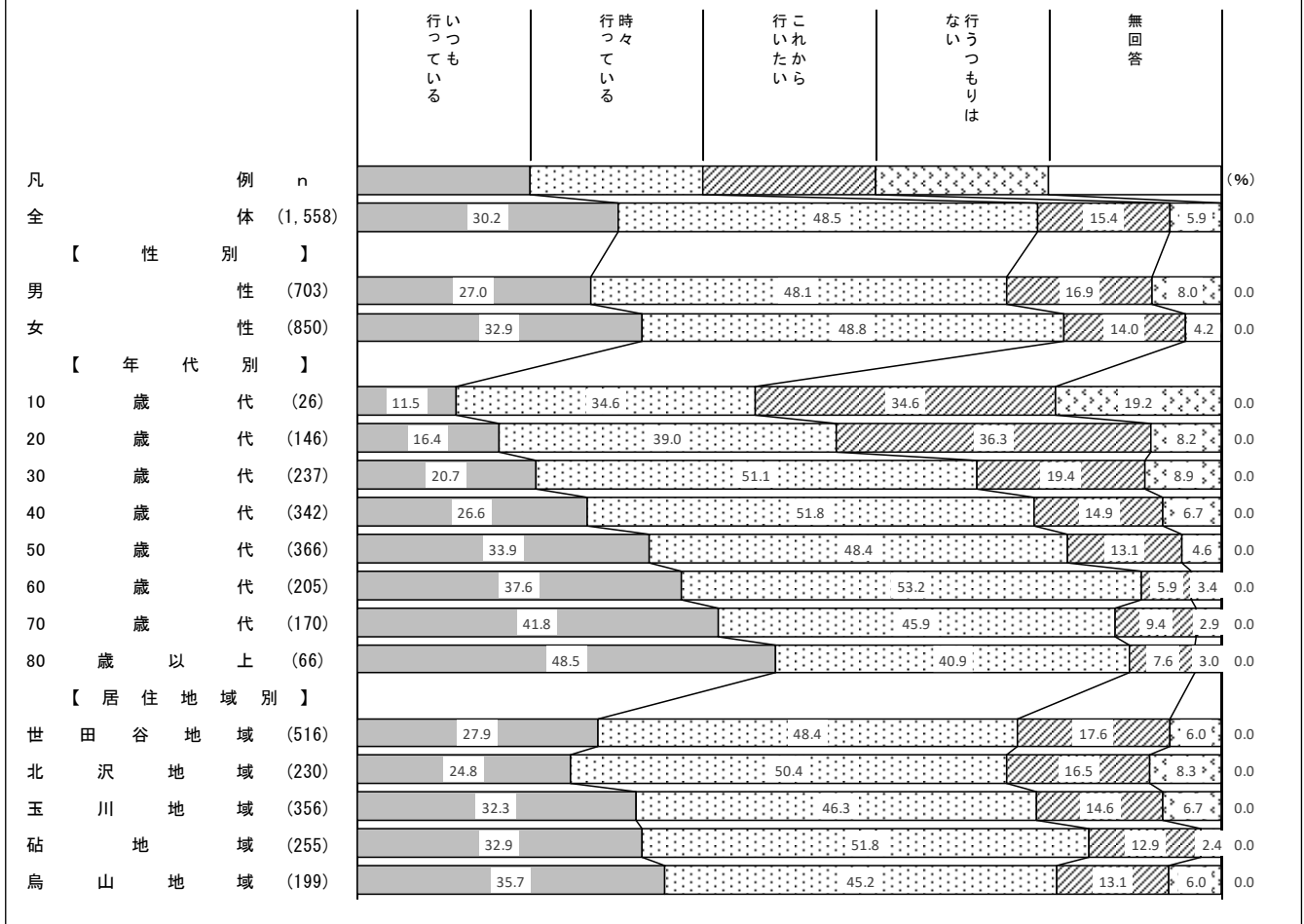


9項目の省エネ行動について、「いつも行っている」は、『エ こまめに水道の蛇口、シャワーを止める』(74.0%)、『オ ご飯は必要な分だけ炊く、まとめて炊いて余りを冷凍するなどにより、炊飯器の保温時間を減らす』(73.2%)、『イ エアコンなどの空調設備を使うときは、設定温度などに気をつける』(70.6%)の3項目で高く、7割以上となっている。また、『キ 家にいる時はなるべく1つの部屋で過ごす』(56.2%)までの4項目で5割以上となっている。「いつも行っている」と「時々行っている」を合わせると、すべての項目で7割以上が《行っている》と回答している。(図2-1-1)

※以下、《行っている》は「いつも行っている」と「時々行っている」の合計とする。

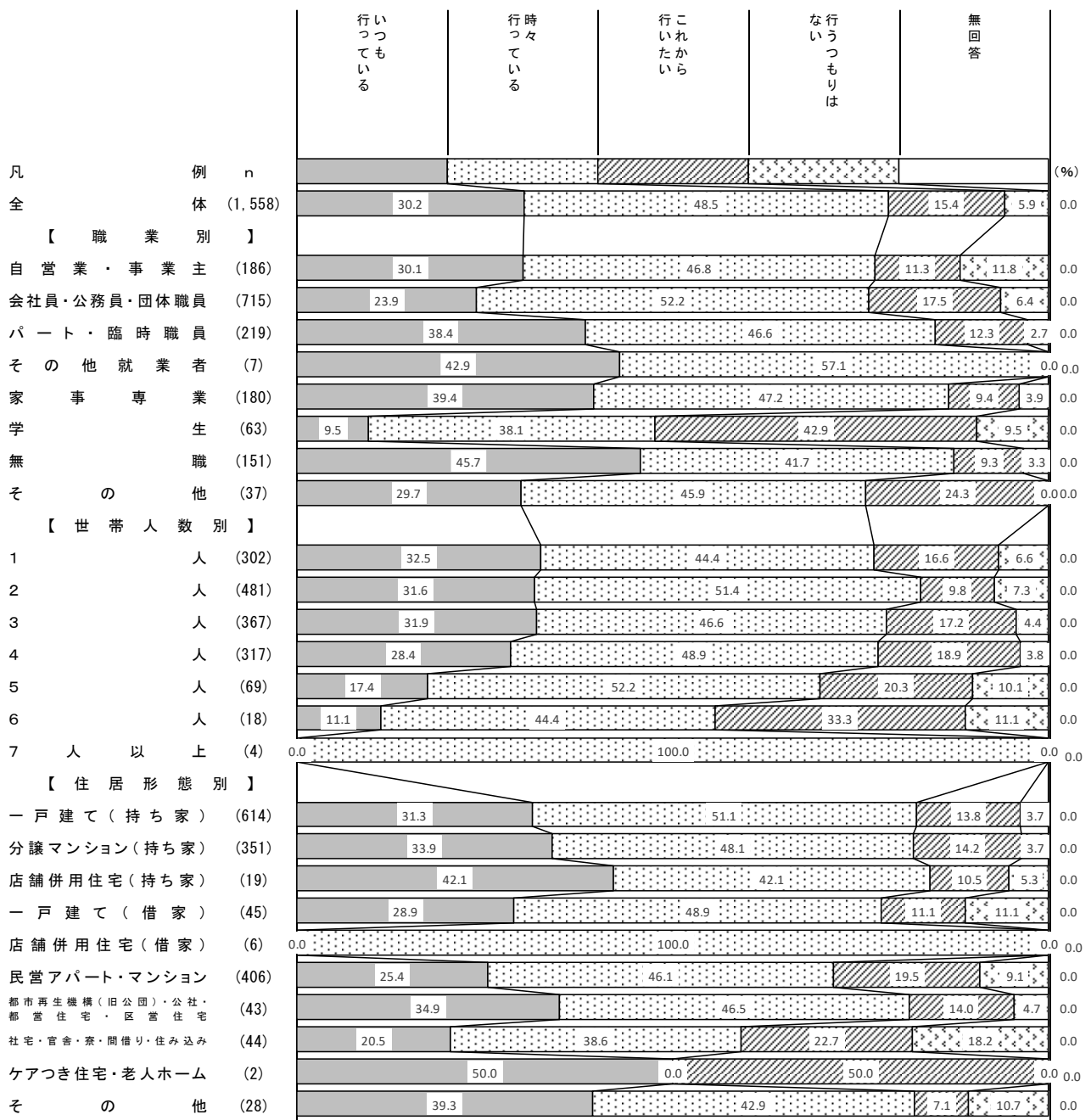
(ア) 自宅で使っている電気・ガス・水道などの消費量をチェックし、削減に取り組む

図表 2-1-2 自宅で使っている電気・ガス・水道などの消費量をチェックし、削減に取り組む
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「時々行っている」が48.5%で最も高く、「いつも行っている」(30.2%)と合わせると78.7%が《行っている》と回答している。また、15.4%が「これから行いたい」と回答している。
年代別にみると、「いつも行っている」は年代が上がるにつれ高くなっている。(図表2-1-2)
職業別にみると、「いつも行っている」は無職(45.7%)で高くなっている。(図表2-1-3)

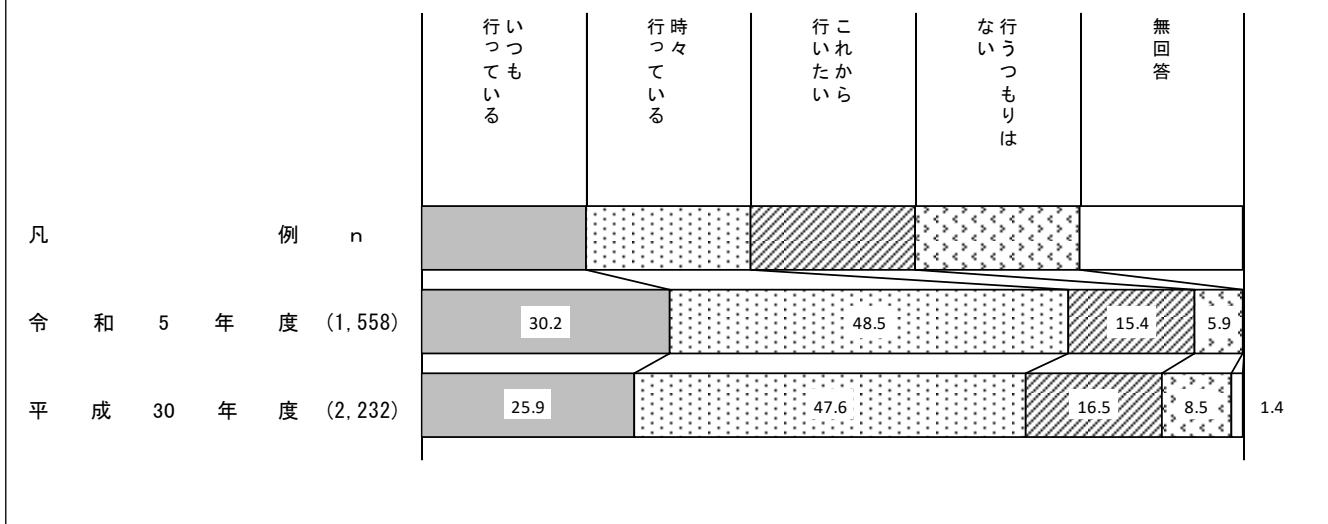
図表 2-1-3 自宅で使っている電気・ガス・水道などの消費量をチェックし、削減に取り組む
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

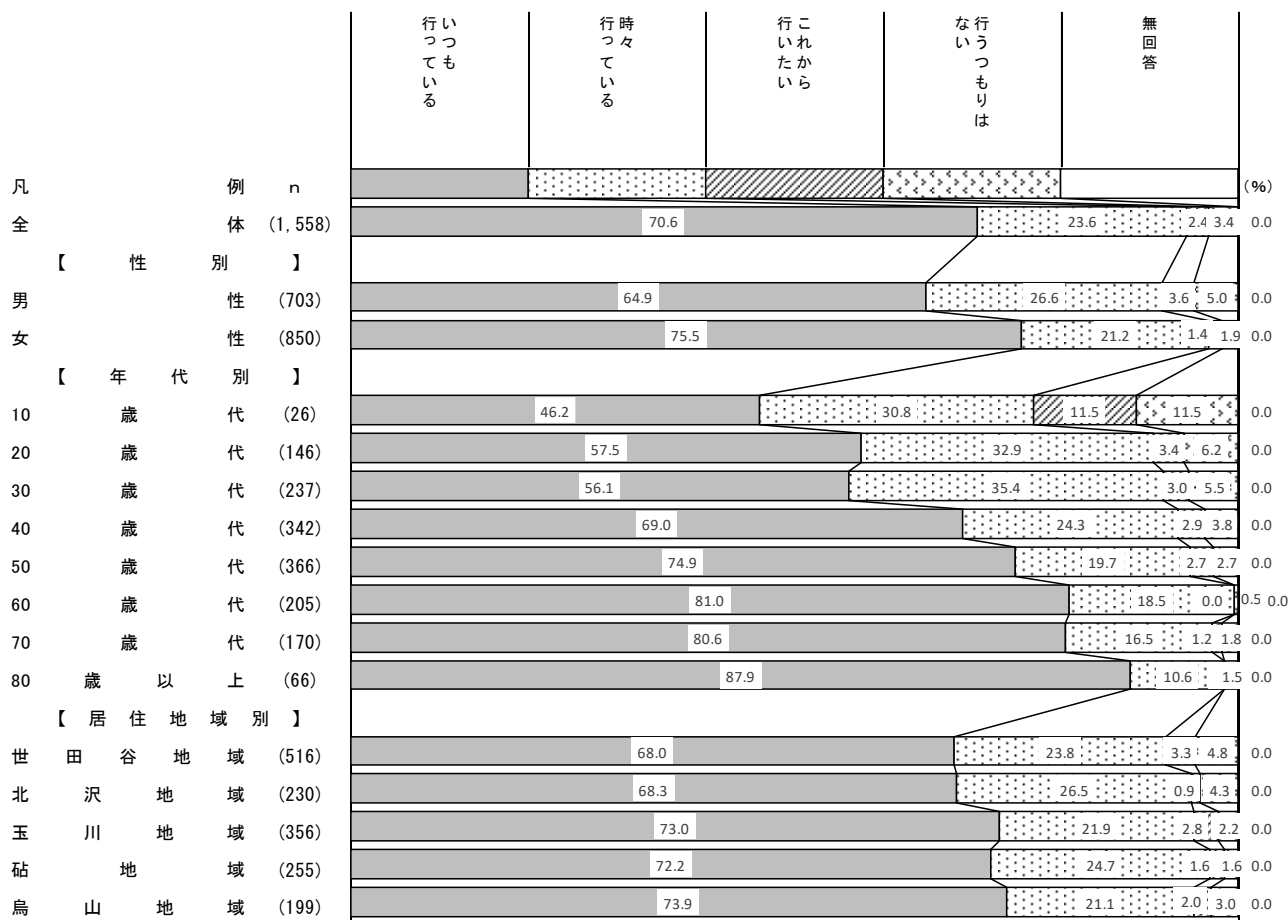
平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」が増加し、最も割合の高い「時々行っている」もわずかに増加している。《行っている》は、『平成 30 年度』は 73.5%、『令和 5 年度』は 78.7% と 5 ポイントほど増加している。(図表 2-1-4)

図表 2-1-4 自宅で使っている電気・ガス・水道などの消費量をチェックし、削減に取り組む
(平成 30 年度調査結果との比較)



(イ) エアコンなどの空調設備を使うときは、設定温度などに気を付ける

図表 2-1-5 エアコンなどの空調設備を使うときは、設定温度などに気を付ける
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「いつも行っている」が70.6%で最も高く、「時々行っている」(23.6%)と合わせると94.2%が《行っている》と回答している。また、2.4%が「これから行いたい」と回答している。

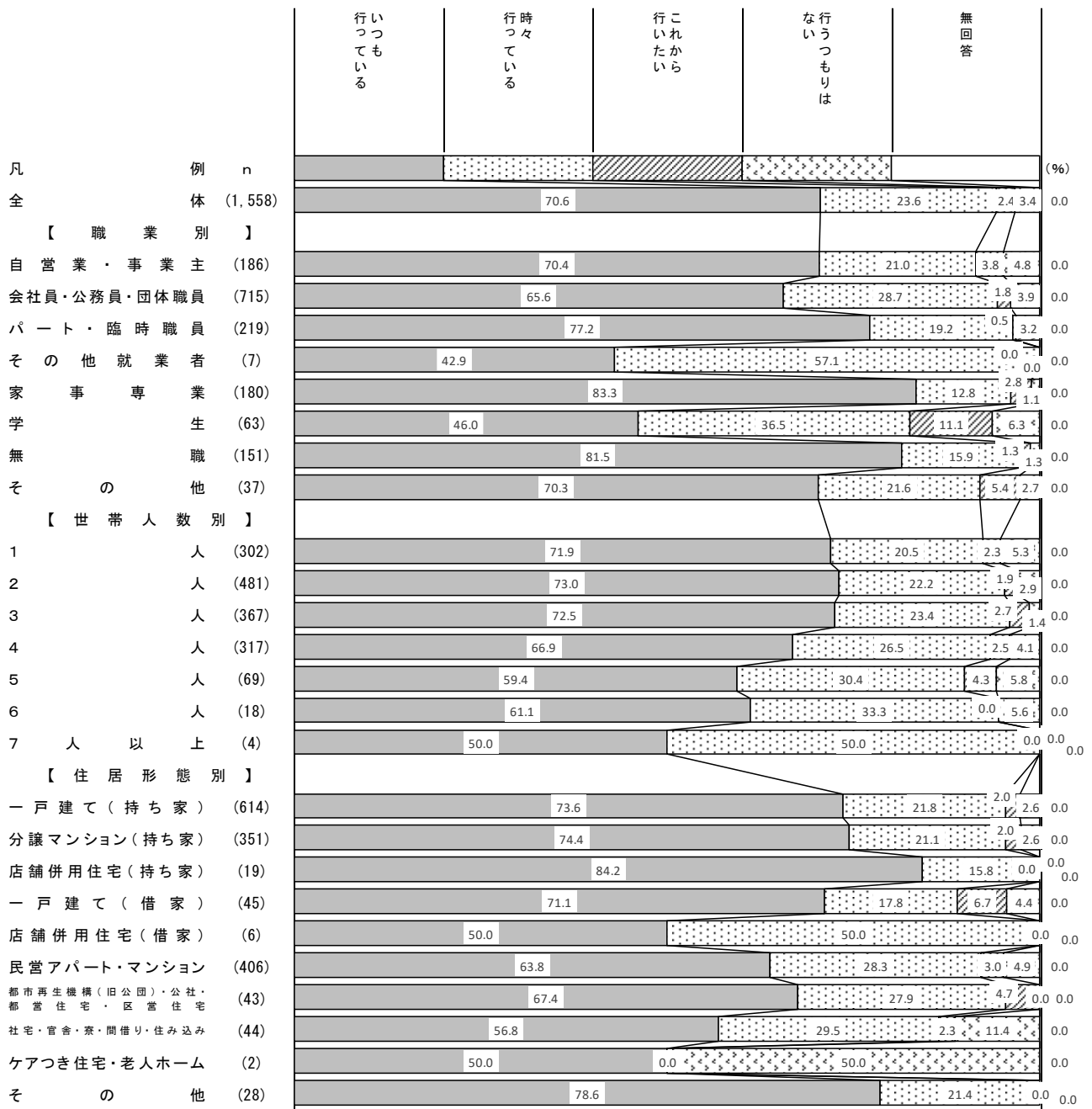
性別にみると、「いつも行っている」は男性(64.9%)に比べ女性(75.5%)が高くなっている。

年代別にみると「いつも行っている」は年代が上がるにつれ高い傾向であるが、30歳代は20歳代よりわずかに低く、70歳代と80歳以上はほぼ同じ割合となっている。(図表2-1-5)

職業別にみると、「いつも行っている」は家事専業(83.3%)、無職(81.5%)、で高くなっている。

(図表2-1-6)

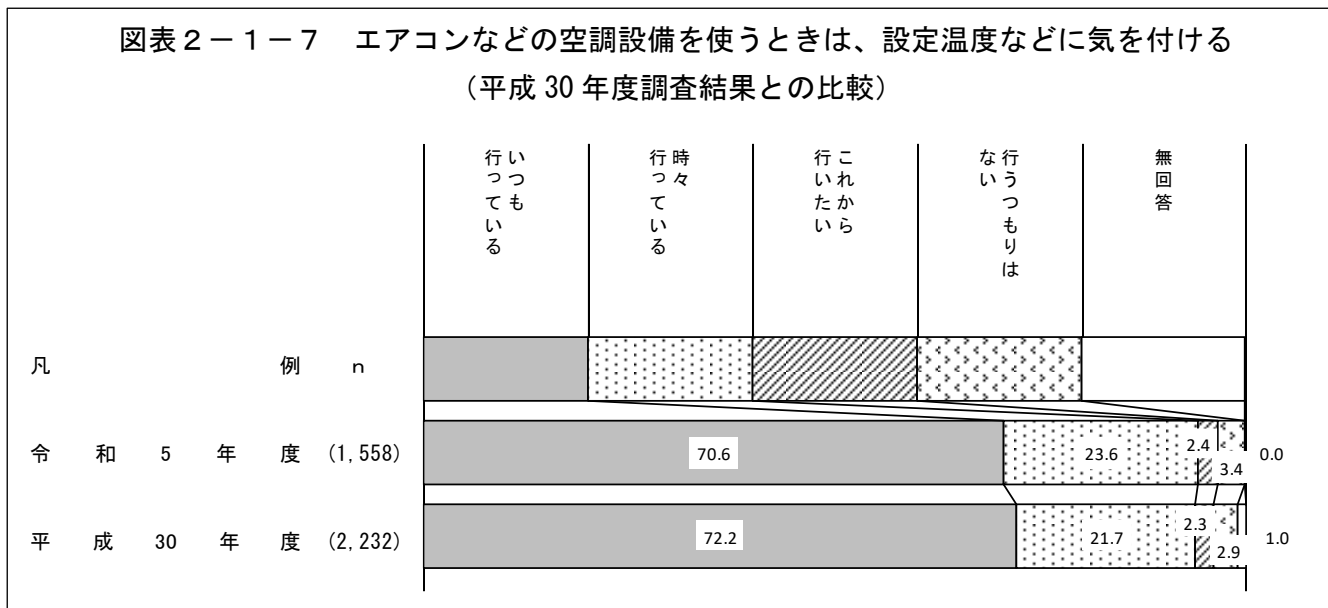
図表2-1-6 エアコンなどの空調設備を使うときは、設定温度などに気を付ける
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

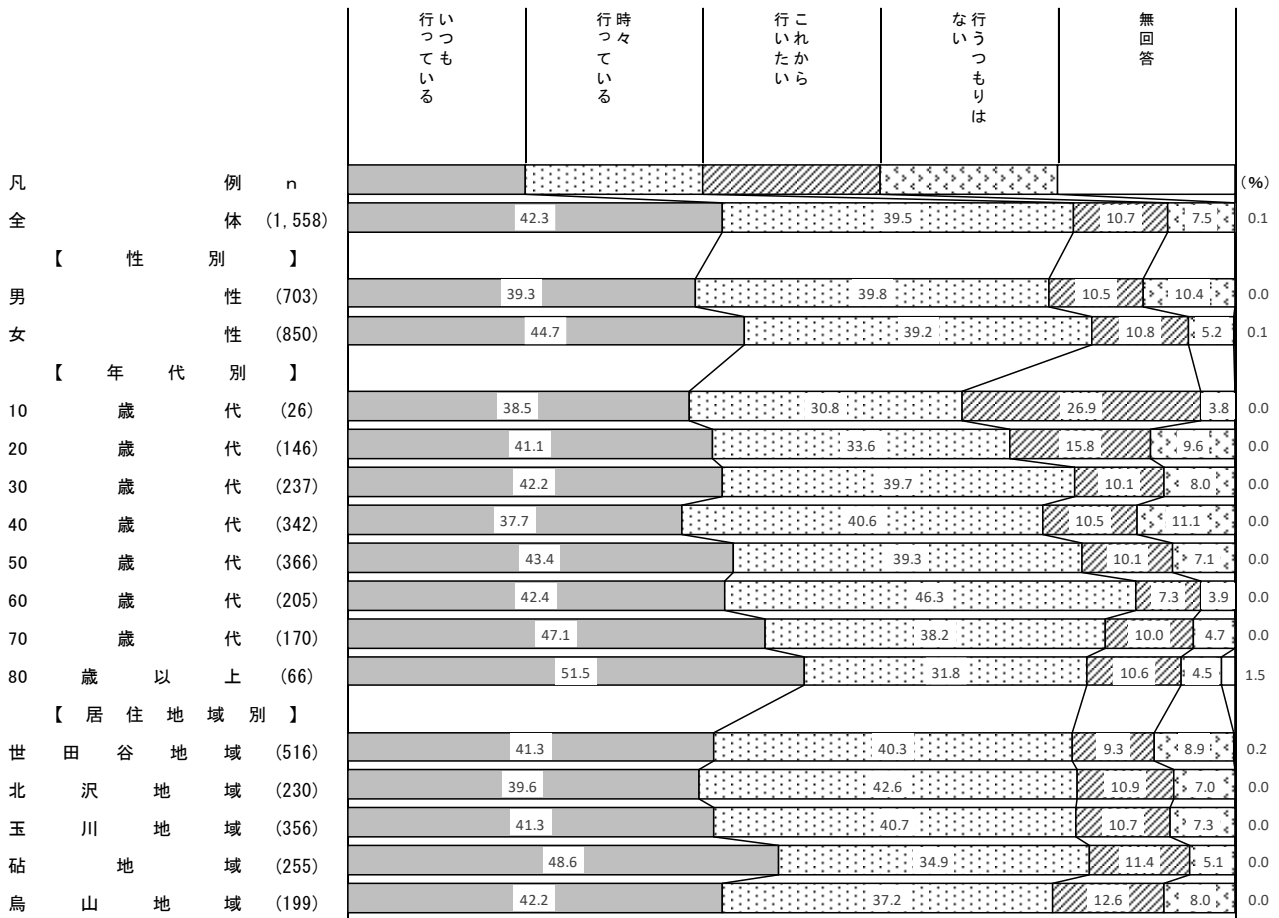
平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」が 1 ポイント余り減少し、「時々行っている」2 ポイント近く増加している。《行っている》は、『平成 30 年度』は 93.9%、『令和 5 年度』は 94.2% と 0.3 ポイント増でほぼ横ばいとなっている。(図表 2-1-7)

図表 2-1-7 エアコンなどの空調設備を使うときは、設定温度などに気を付ける
(平成 30 年度調査結果との比較)



(ウ) 使わない電気機器は、主電源を切ったり、スイッチ付きのタップのスイッチを切る

図表 2-1-8 使わない電気機器は、主電源を切ったり、スイッチ付きのタップのスイッチを切る (性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「いつも行っている」が42.3%で最も高く、「時々行っている」(39.5%)と合わせると81.8%が《行っている》と回答している。また、10.7%が「これから行いたい」と回答している。

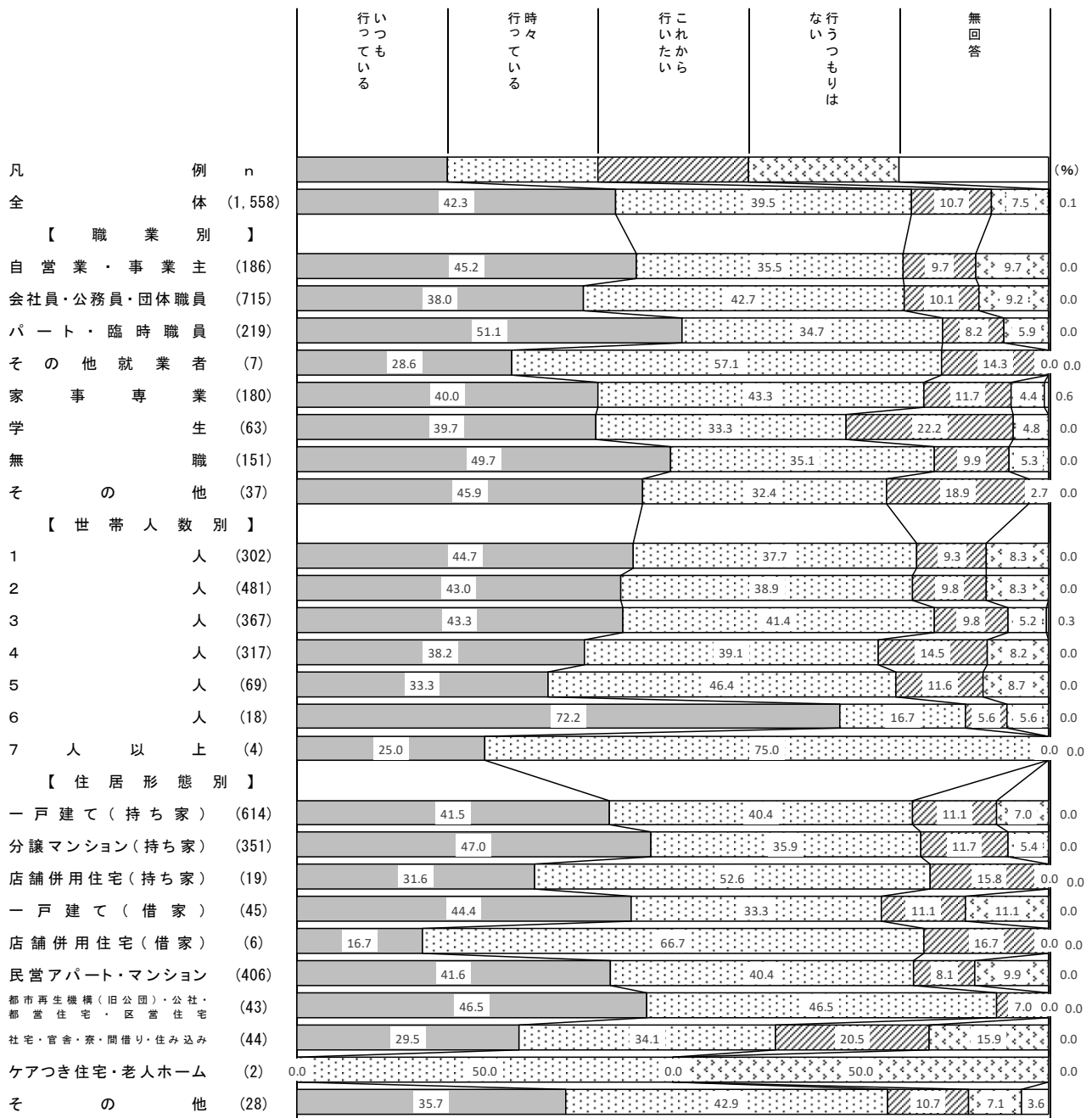
年代別にみると、「いつも行っている」は80歳以上(51.5%)で高く、5割以上となっている。

(図表 2-1-7)

職業別にみると「いつも行っている」はパート・臨時職員(51.1%)で高く、5割以上となっている。

(図表 2-1-8)

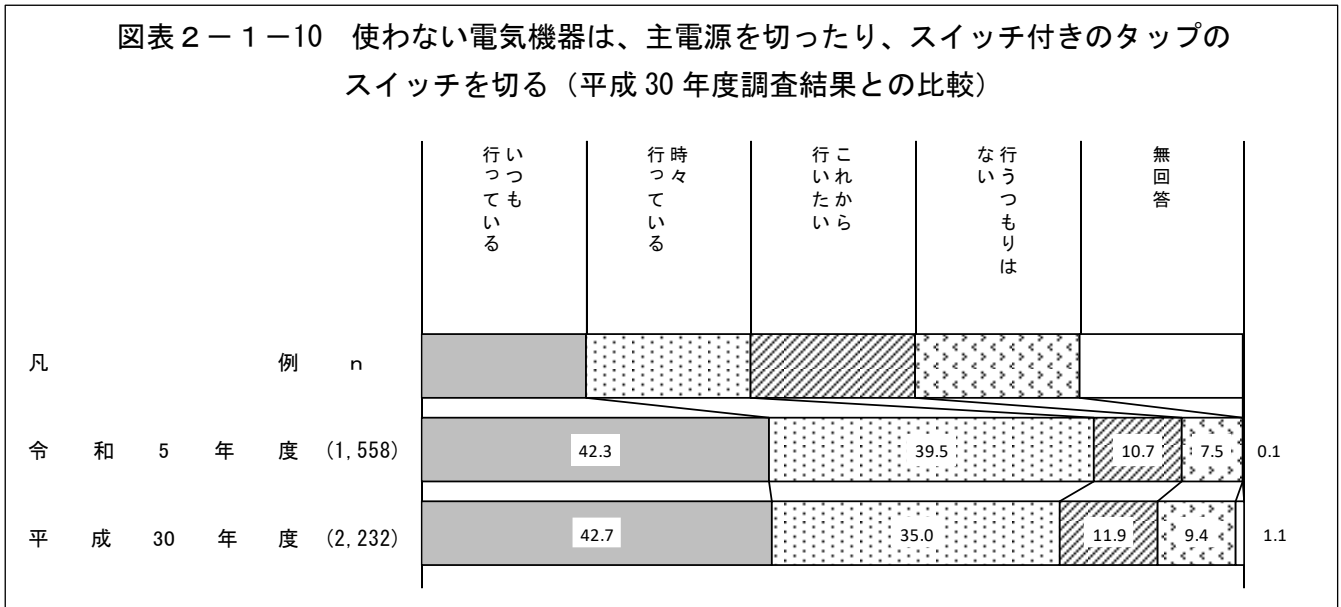
図表2-1-9 使わない電気機器は、主電源を切ったり、スイッチ付きのタップのスイッチを切る（職業・世帯人数・居住形態別）



《平成 30 年度調査結果との比較》

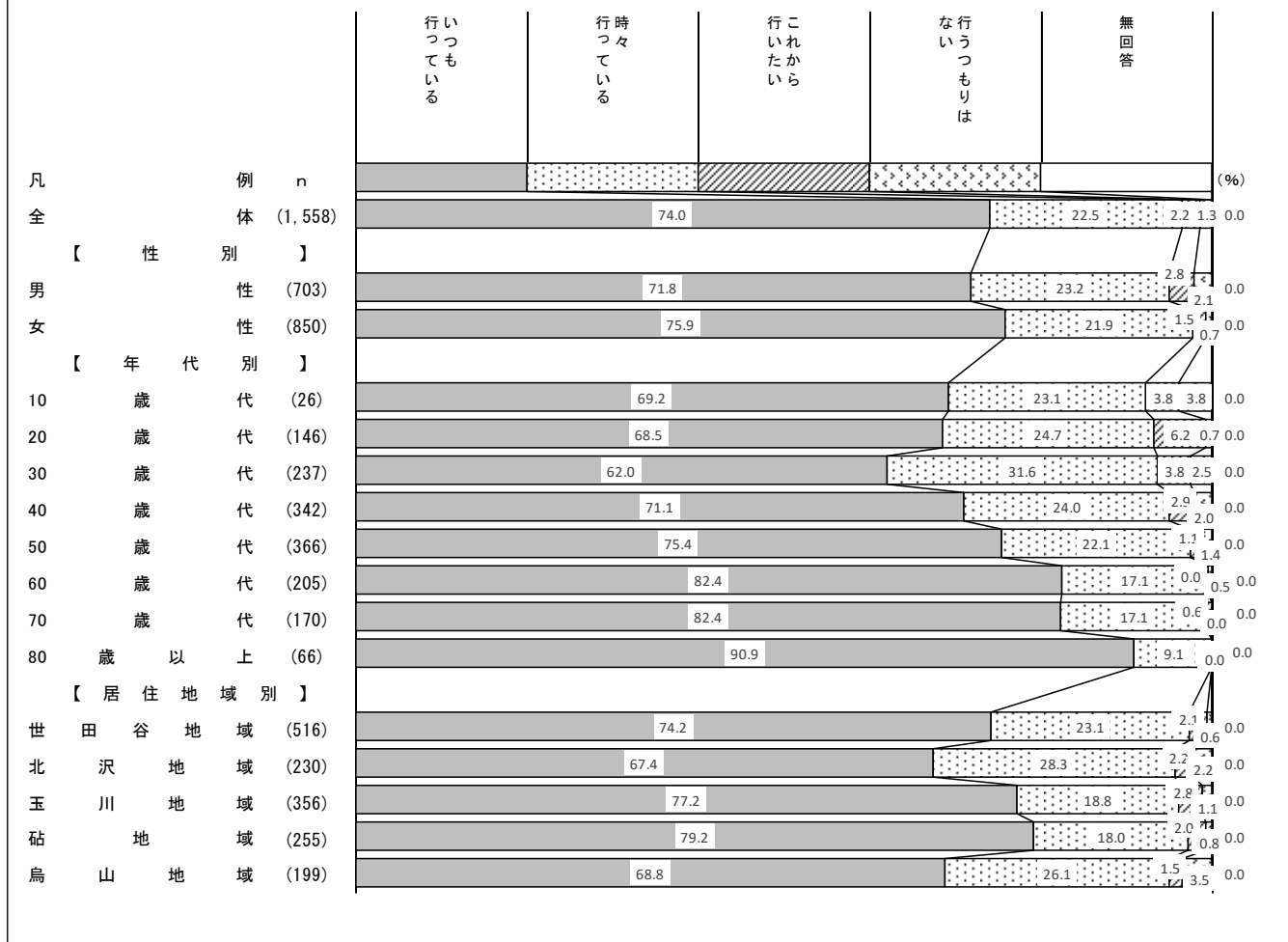
平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」0.4 ポイントが減少とほぼ横ばいであり、「時々行っている」が 4.5 ポイント増加している。《行っている》は、『平成 30 年度』は 77.7%、『令和 5 年度』は 81.8%となっており、4 ポイント程度増加している。(図表 2-1-10)

図表 2-1-10 使わない電気機器は、主電源を切ったり、スイッチ付きのタップのスイッチを切る (平成 30 年度調査結果との比較)



(エ) こまめに水道の蛇口、シャワーを止める

図表 2-1-11 こまめに水道の蛇口、シャワーを止める
(性・年代・居住地域別)

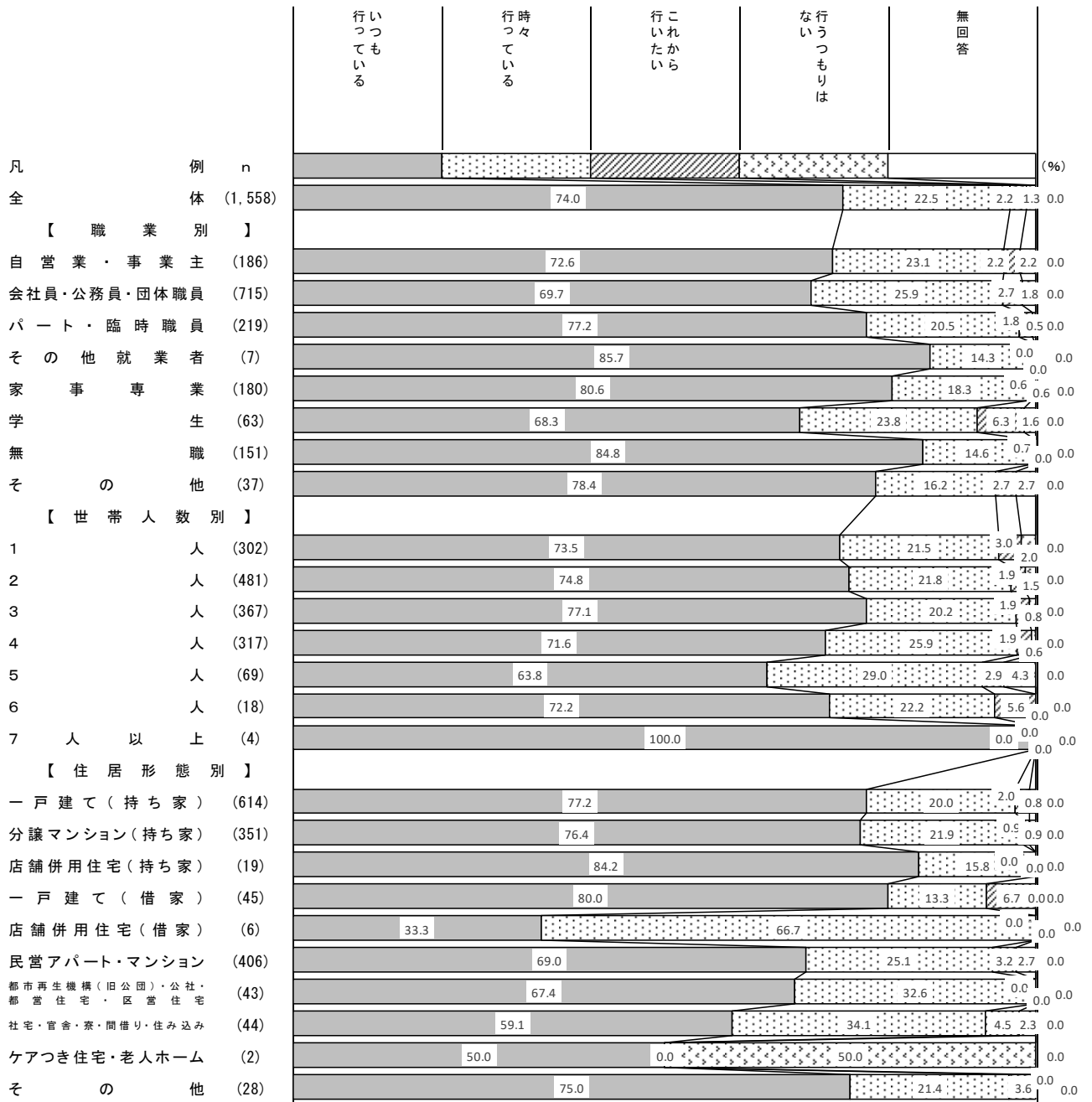


全体で見ると、「いつも行っている」が74.0%で最も高く、「時々行っている」(22.5%)と合わせると96.5%が《行っている》と回答している。また、2.2%が「これから行いたい」と回答している。

年代別にみると、「いつも行っている」は80歳以上(90.9%)で高く、30歳代(62.0%)で低くなっている。(図表2-1-11)

職業別で見ると、無職(84.8%)、家事専業(80.6%)などで高い。(図表2-1-12)

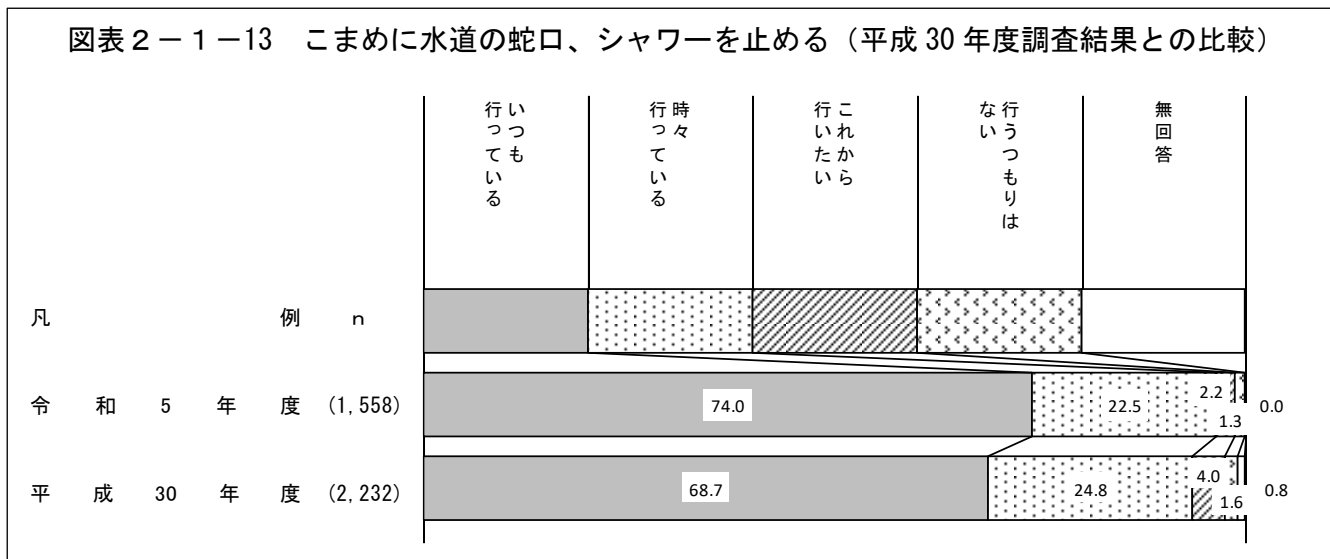
図表2-1-12 こまめに水道の蛇口、シャワーを止める
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

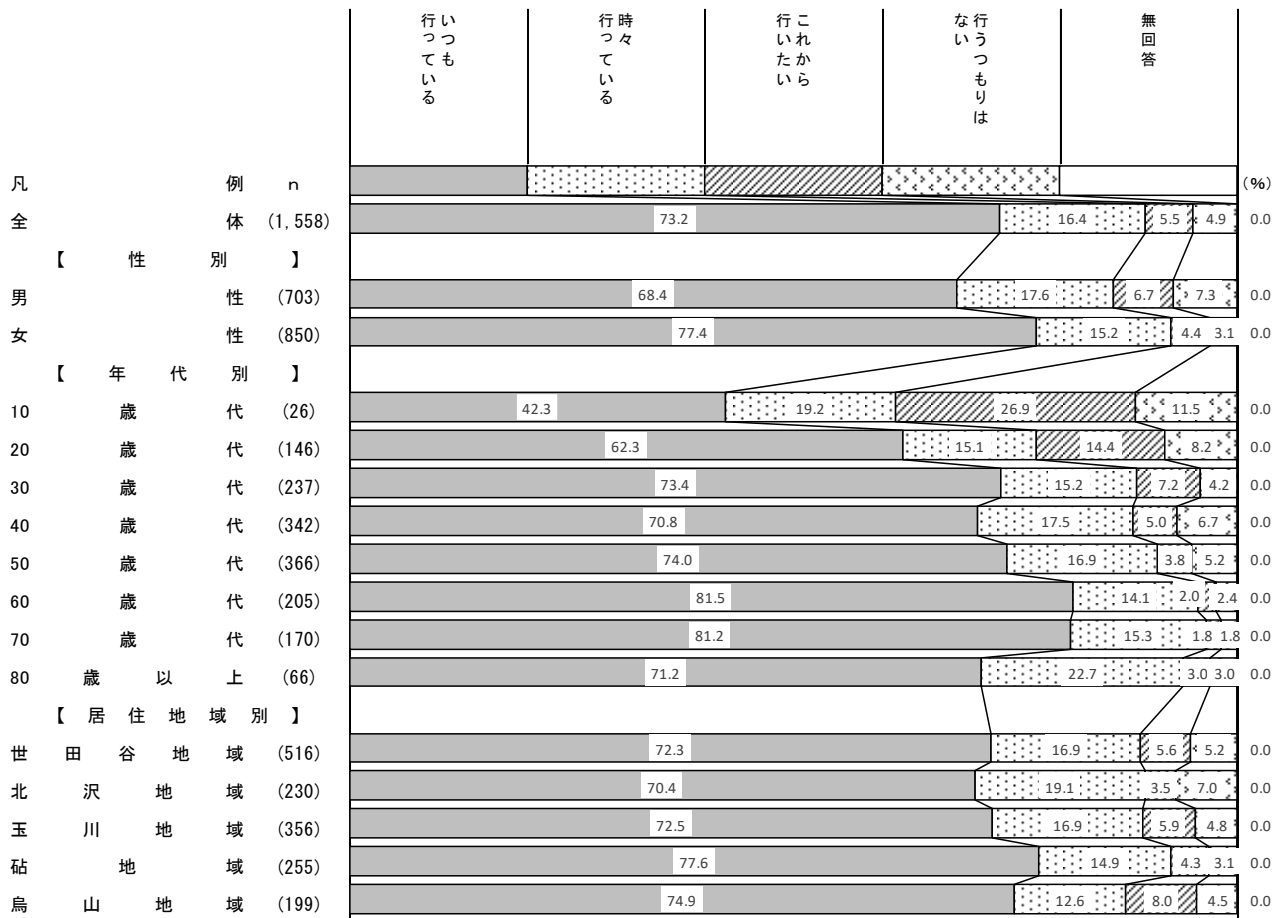
平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」が 5 ポイント余り増加し、「時々行っている」が 2 ポイント余り減少している。《行っている》は、『平成 30 年度』は 93.5%、『令和 5 年度』は 96.5% となっており、3 ポイントの増加となっている。(図表 2-1-13)

図表 2-1-13 こまめに水道の蛇口、シャワーを止める（平成 30 年度調査結果との比較）



(オ) ご飯は必要な分だけ炊く、まとめて炊いて余りを冷凍するなどにより、炊飯器の保温時間を減らす

図表 2-1-14 ご飯は必要な分だけ炊く、まとめて炊いて余りを冷凍するなどにより、炊飯器の保温時間を減らす (性・年代・居住地域別)



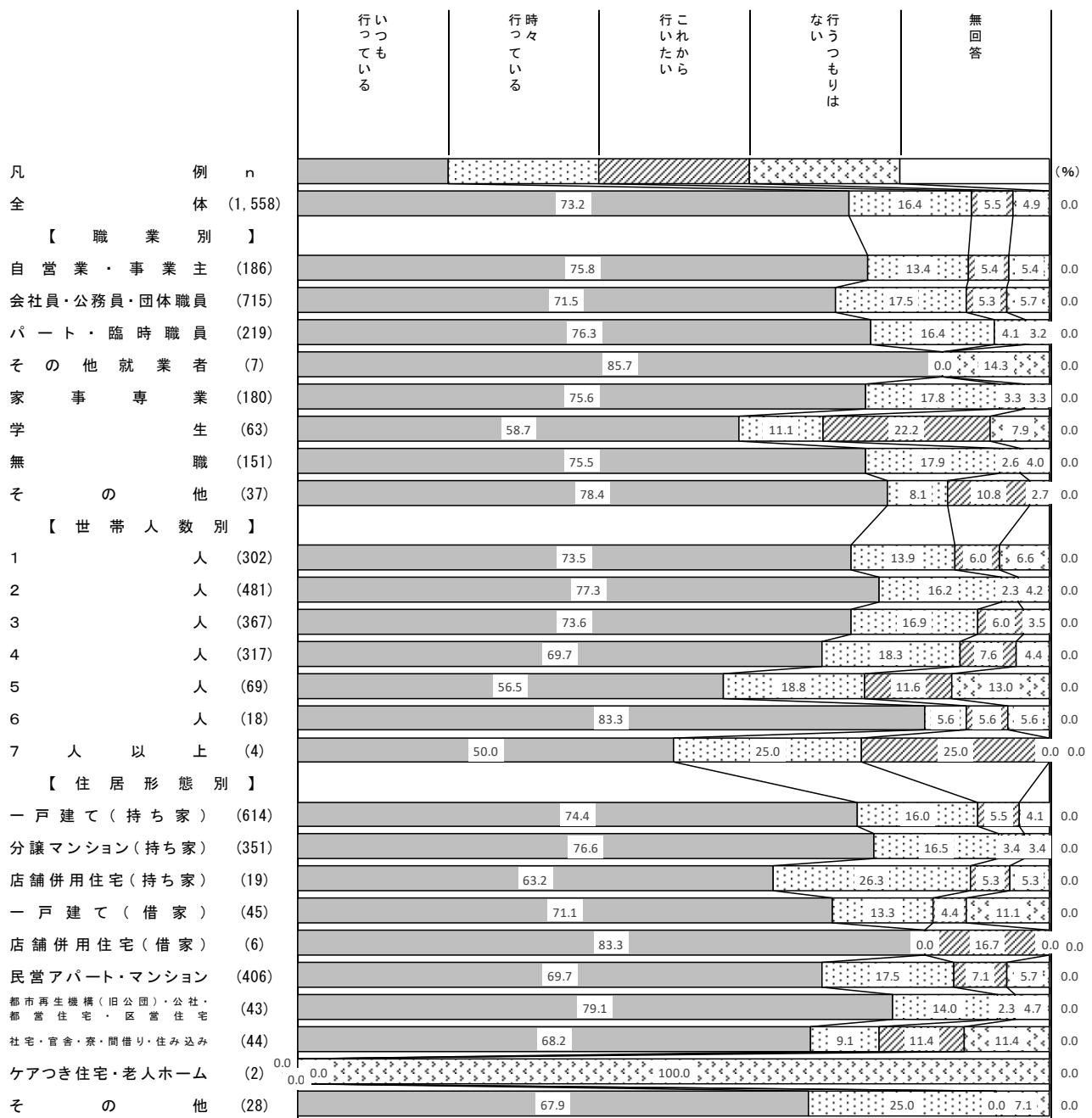
全体で見ると、「いつも行っている」が73.2%で最も高く、「時々行っている」(16.4%)と合わせると89.6%が《行っている》と回答している。また、5.5%が「これから行いたい」と回答している。

性別にみると、「いつも行っている」は男性(68.4%)に比べ女性(77.4%)が高くなっている。

年代別にみると、「いつも行っている」は20歳代では62.3%であるが、30歳代から50歳代では70%台、60歳代、70歳代では80%台となっている(図表2-1-14)

世帯人数別にみると、世帯人数が2人から5人において、「いつも行っている」は、世帯人数が増えるにつれ低くなっている。(図表2-1-15)

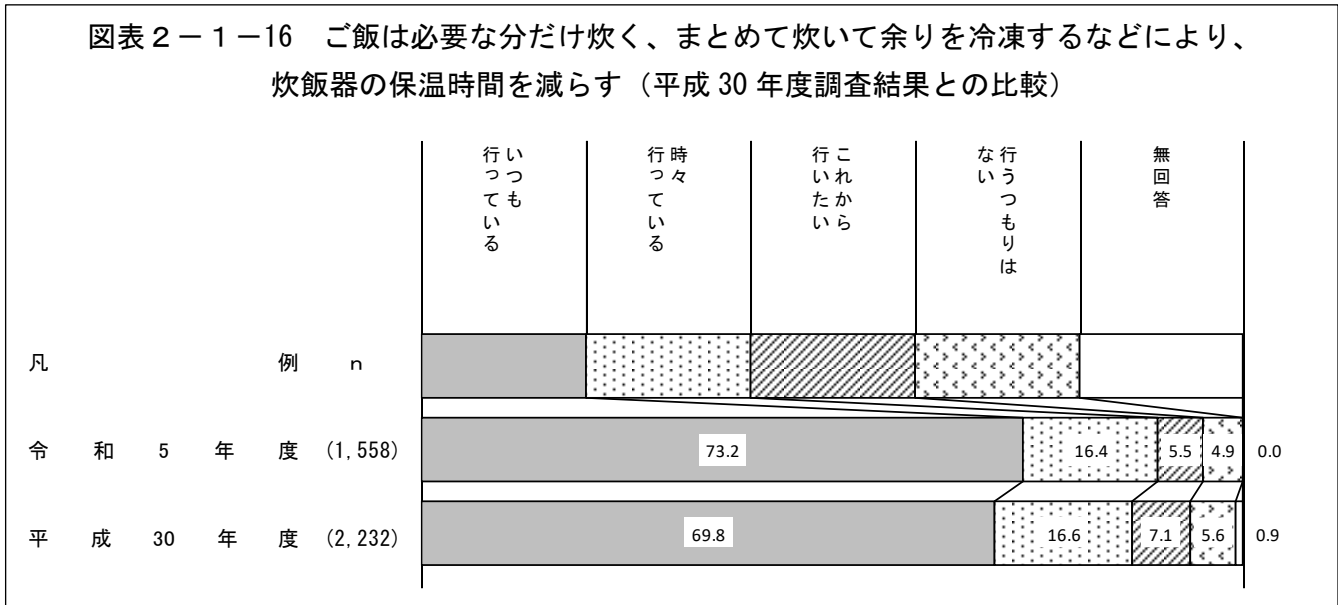
図表 2-1-15 ご飯は必要な分だけ炊く、まとめて炊いて余りを冷凍するなどにより、炊飯器の保温時間を減らす（職業・世帯人数・居住形態別）



《平成 30 年度調査結果との比較》

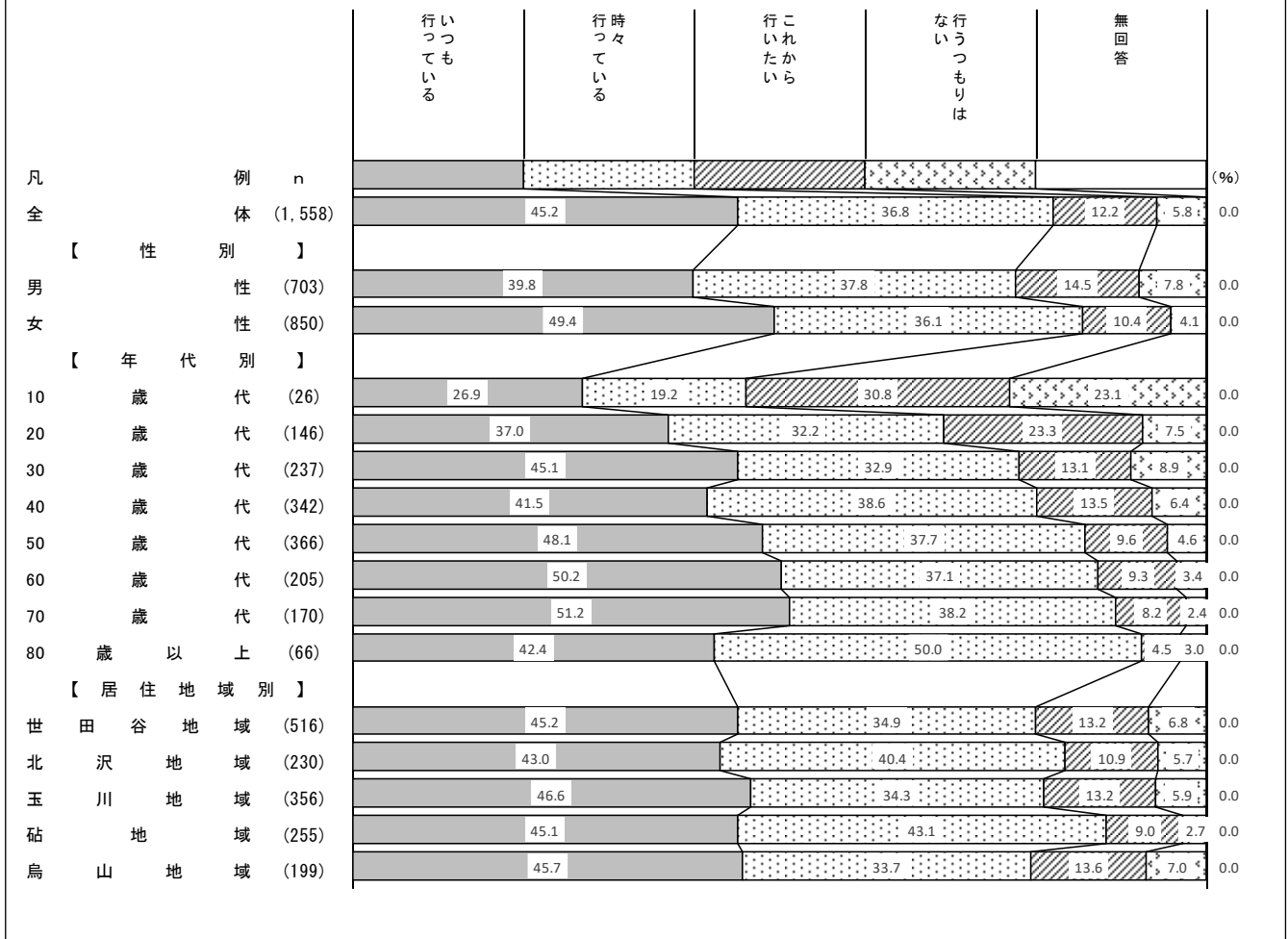
平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」が 3 ポイント余り増加、「時々行っている」は 0.2 ポイント減少となっている。《行っている》は、『平成 30 年度』は 86.4%、『令和 5 年度』は 89.6%となっており、3 ポイント余り増加している。(図表 2-1-16)

図表 2-1-16 ご飯は必要な分だけ炊く、まとめて炊いて余りを冷凍するなどにより、炊飯器の保温時間を減らす (平成 30 年度調査結果との比較)



(カ) 冷蔵庫に食材を詰め込みすぎないように心がける

図表 2-1-17 冷蔵庫に食材を詰め込みすぎないように心がける
(性・年代・居住地域別)



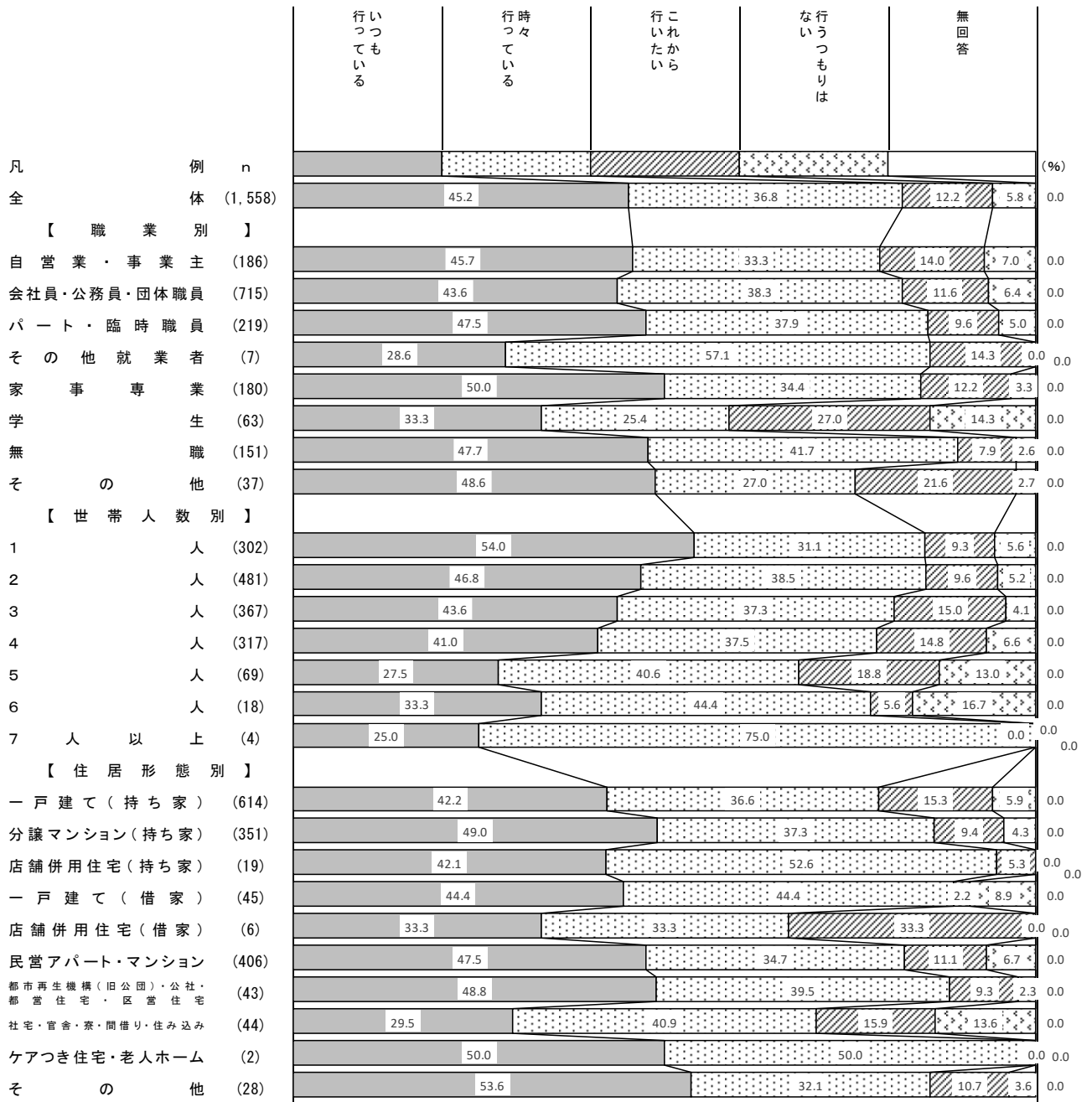
全体で見ると、「いつも行っている」が45.2%で最も高く、「時々行っている」(36.8%)と合わせると82.0%が《行っている》と回答している。また、12.2%が「これから行いたい」と回答している。

性別にみると、「いつも行っている」は男性(39.8%)に比べ女性(49.4%)が高くなっている。

年代別にみると、《行っている》は、年代が上がるにつれ高くなっている。(図表2-1-13)

世帯人数別にみると、世帯人数が1人から5人において、「いつも行っている」は世帯人数が増えるにつれ低くなっている。(図表2-1-17)

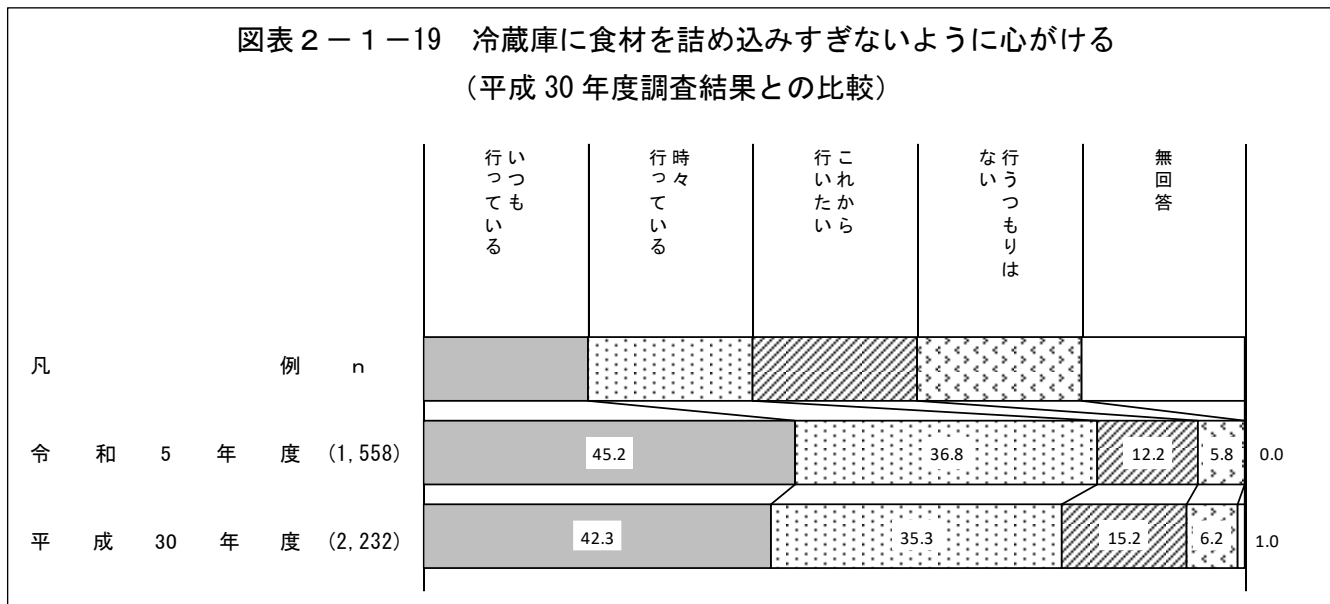
図表 2-1-18 冷蔵庫に食材を詰め込みすぎないように心がける
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

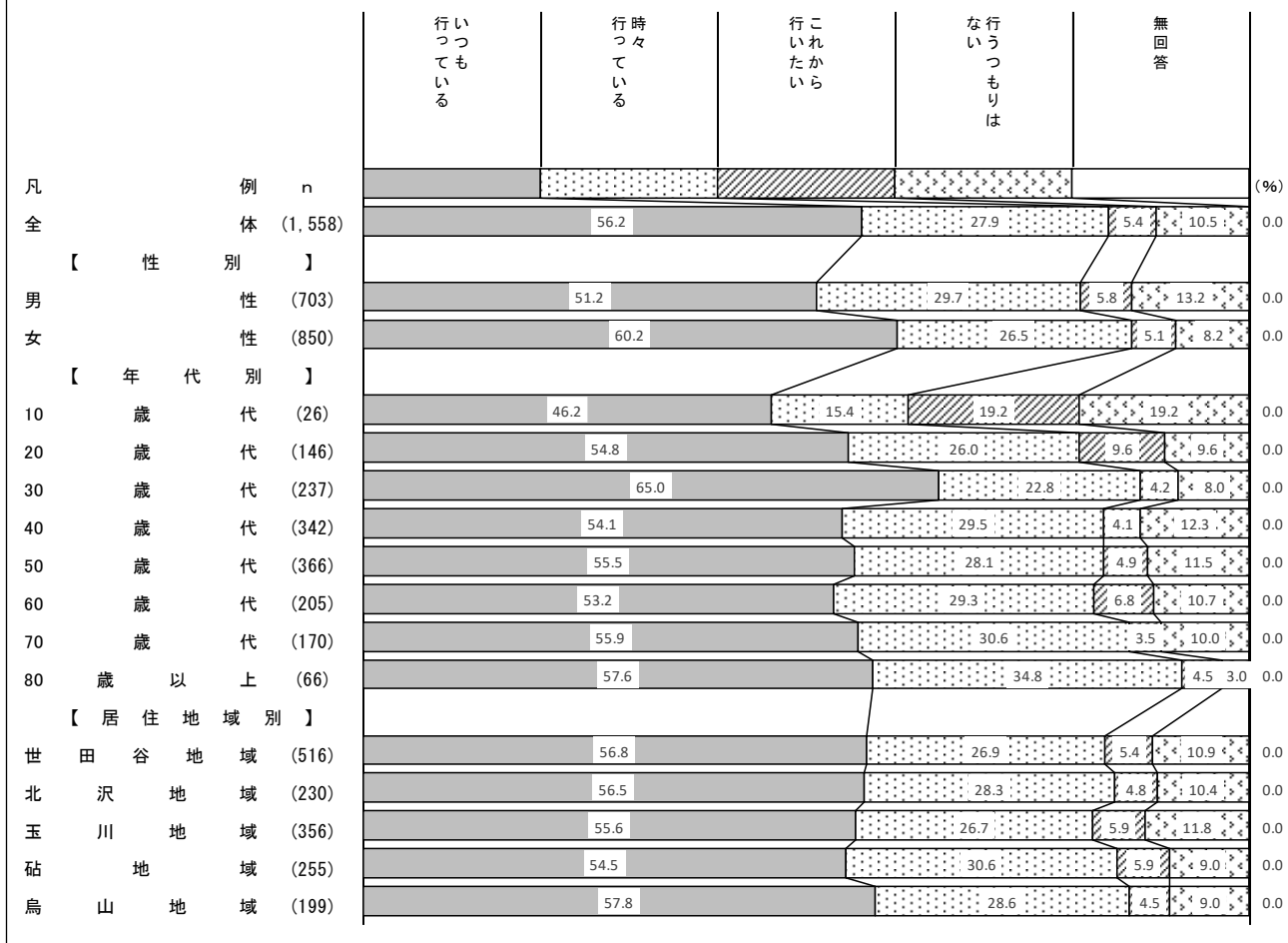
平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」が 3 ポイント近く増加し、「時々行っている」も 1 ポイント余り増加している。《行っている》は、『平成 30 年度』は 77.6%、『令和 5 年度』は 82.0% となっており、4 ポイント余りの増加となっている。(図表 2-1-19)

図表 2-1-19 冷蔵庫に食材を詰め込みすぎないように心がける
(平成 30 年度調査結果との比較)



(キ) 家にいる時は、なるべく1つの部屋で過ごす

図表2-1-20 家にいる時は、なるべく1つの部屋で過ごす
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「いつも行っている」が56.2%で最も高く、「時々行っている」(27.9%)と合わせると84.1%が《行っている》と回答している。また、5.4%が「これから行いたい」と回答している。

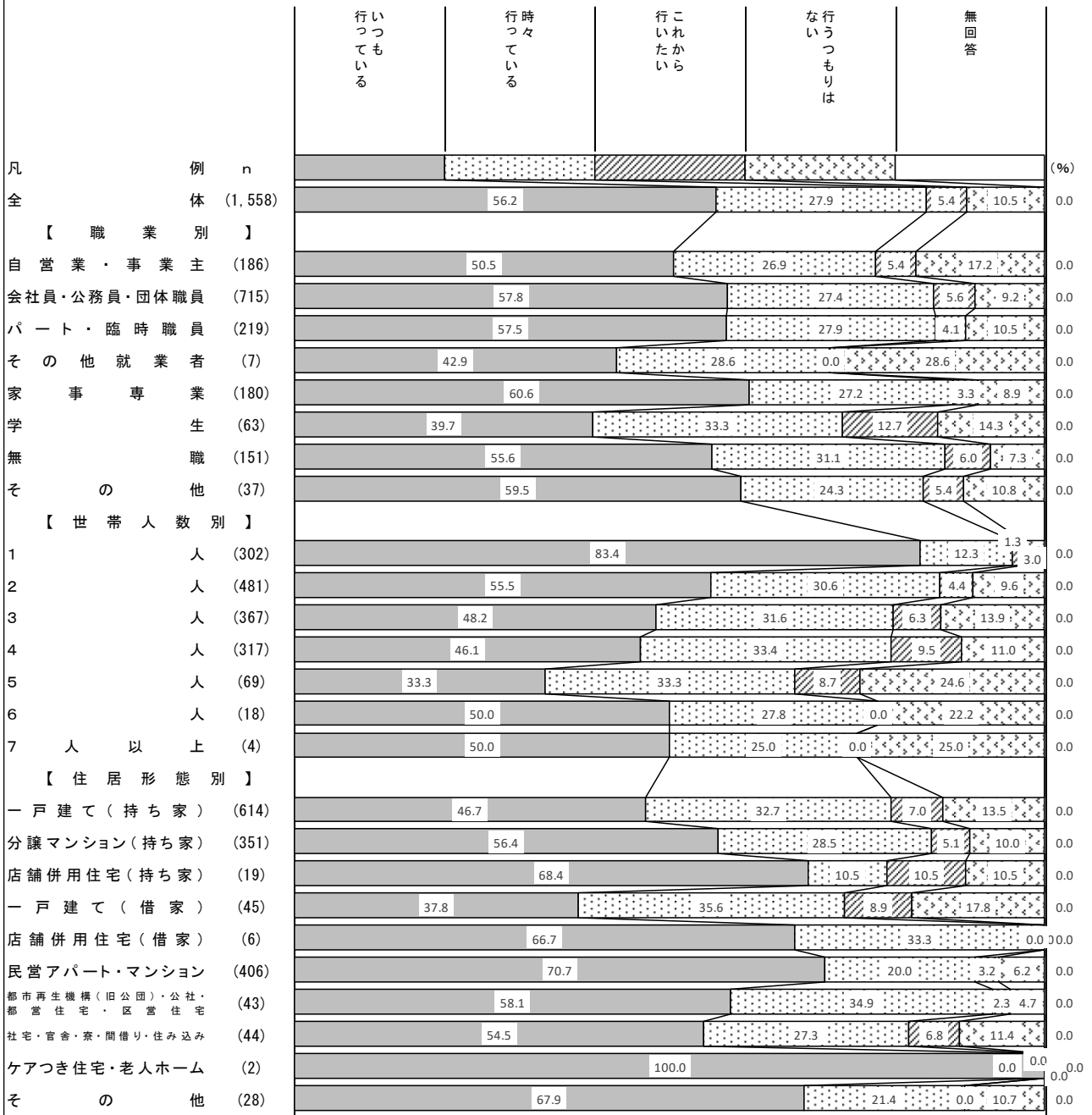
性別にみると、「いつも行っている」は男性(51.2%)に比べ女性(60.2%)が高くなっている。

年代別にみると、「いつも行っている」は、30歳代(65.0%)で高くなっている。(図表2-1-20)

世帯人数別にみると、「いつも行っている」は1人から5人において世帯人数が増えるにつれ低くなっている。

住居形態別にみると、「いつも行っている」は一戸建て(借家)(37.8%)、一戸建て(持ち家)(46.7%)など一戸建てで低くなっている。(図表2-1-21)

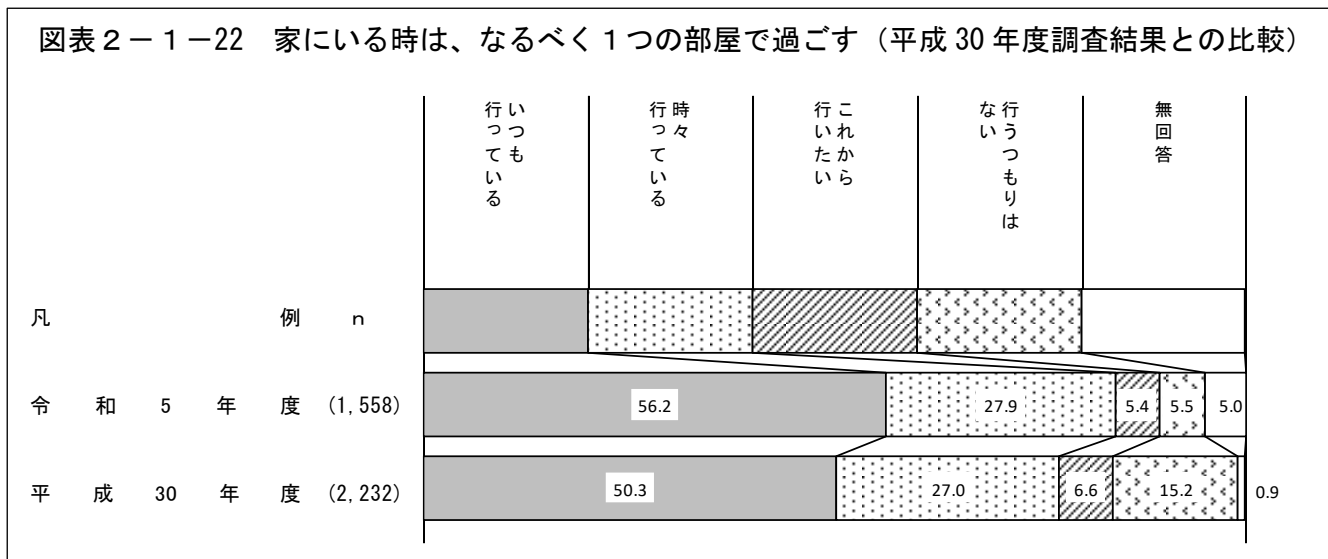
図表 2-1-21 家にいる時は、なるべく1つの部屋で過ごす
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

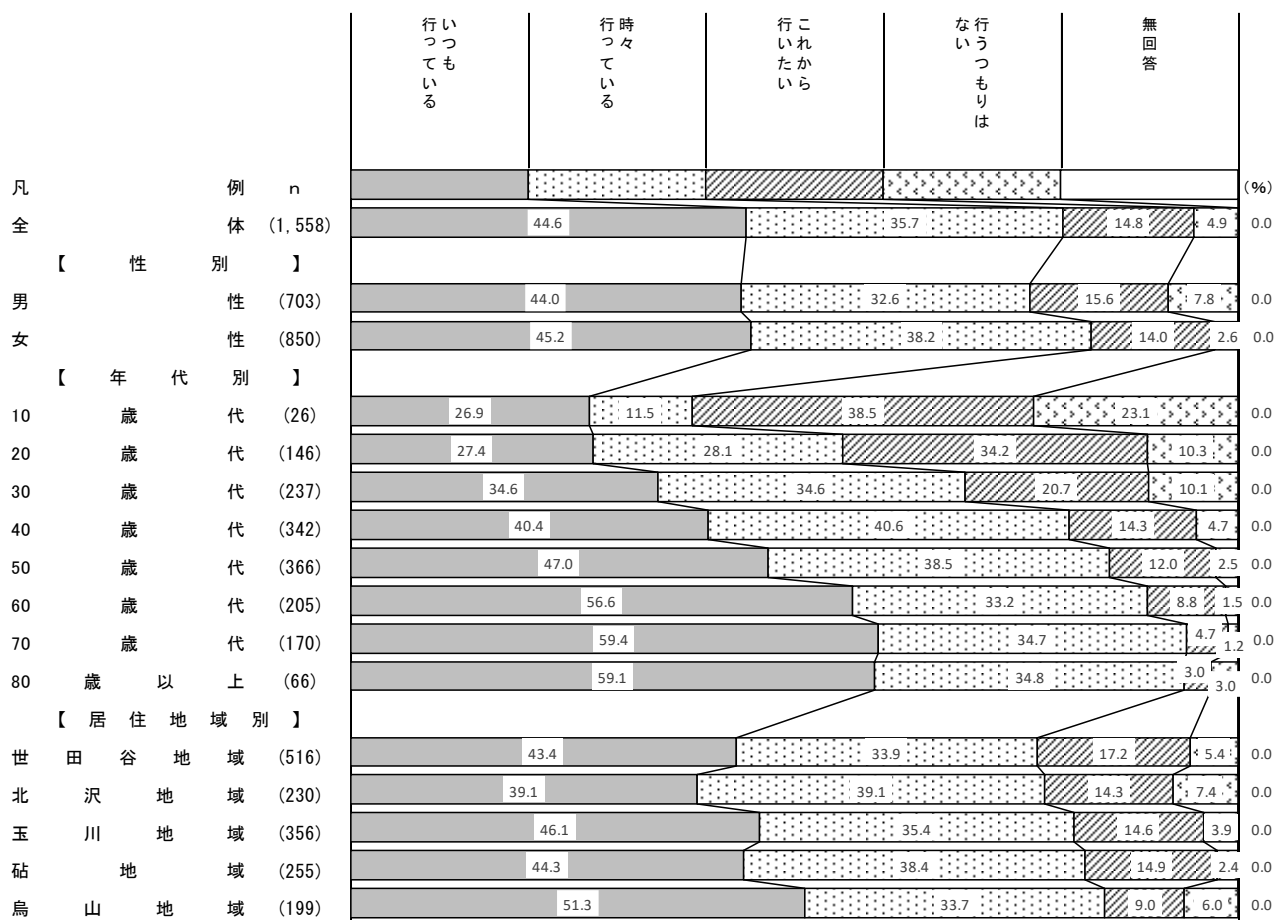
平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」が 6 ポイント近く増加、「時々行っている」も 1 ポイント近く増加している。《行っている》は、『平成 30 年度』は 77.3%、『令和 5 年度』は 84.1% となっており、7 ポイント近く増加している。(図表 2-1-22)

図表 2-1-22 家にいる時は、なるべく 1 つの部屋で過ごす (平成 30 年度調査結果との比較)



(ク) 家電製品などを購入する時には、LED照明や省エネマークのついた家電などのエネルギーに配慮したものを選ぶ

図表 2-1-23 家電製品などを購入する時には、LED照明や省エネマークのついた家電などのエネルギーに配慮したものを選ぶ (性・年代・居住地域別)

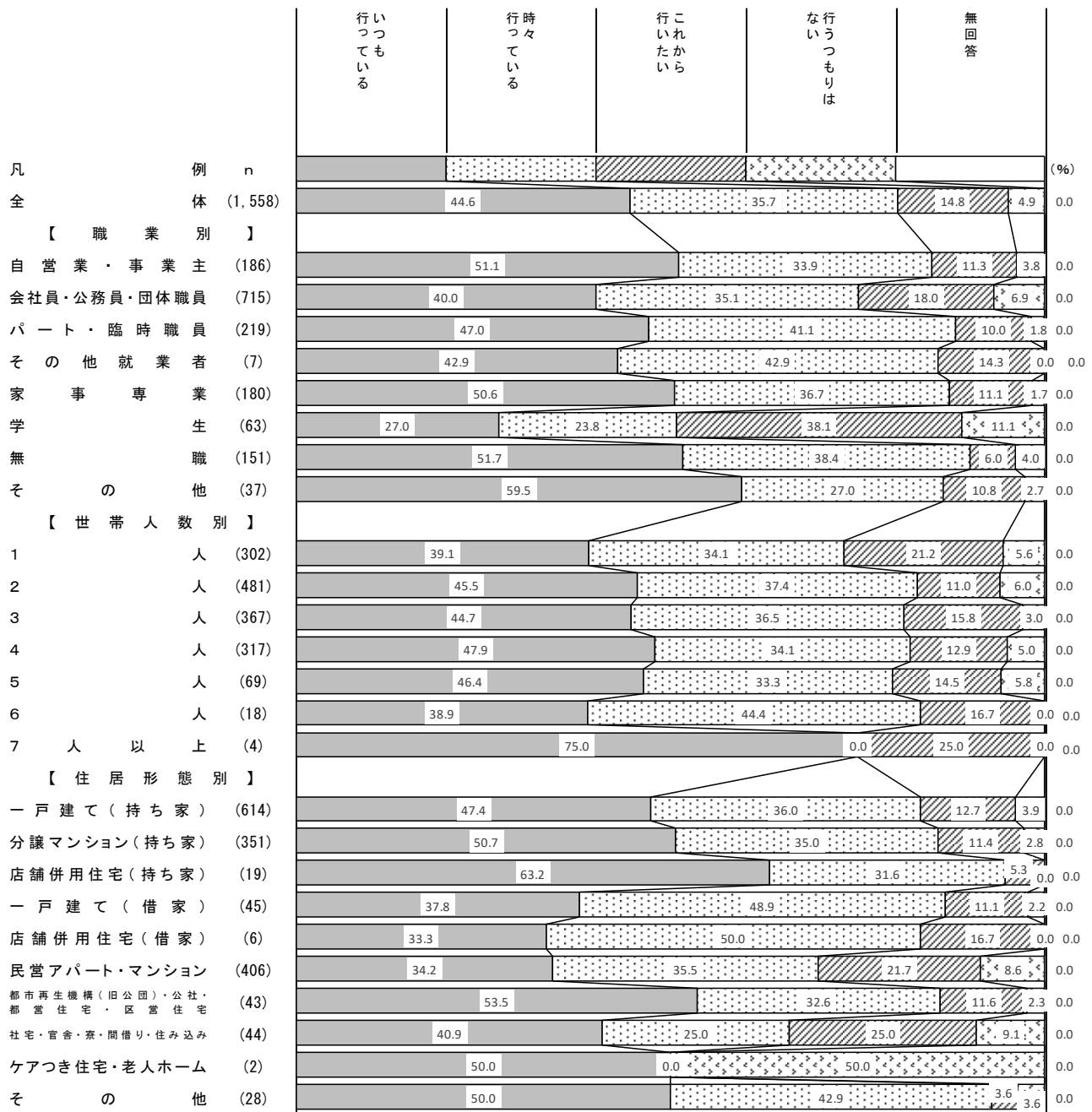


全体で見ると、「いつも行っている」が44.6%で最も高く、「時々行っている」(35.7%)と合わせると80.3%が《行っている》と回答している。また、14.8%が「これから行いたい」と回答している。

年代別にみると、「いつも行っている」は、70歳代より下の年代において年代が上がるにつれ高くなっている。(図表2-1-23)

住居形態別にみると、「いつも行っている」は民営アパート・マンション(34.2%)、一戸建て(借家)(37.8%)などで低くなっている。(図表2-1-24)

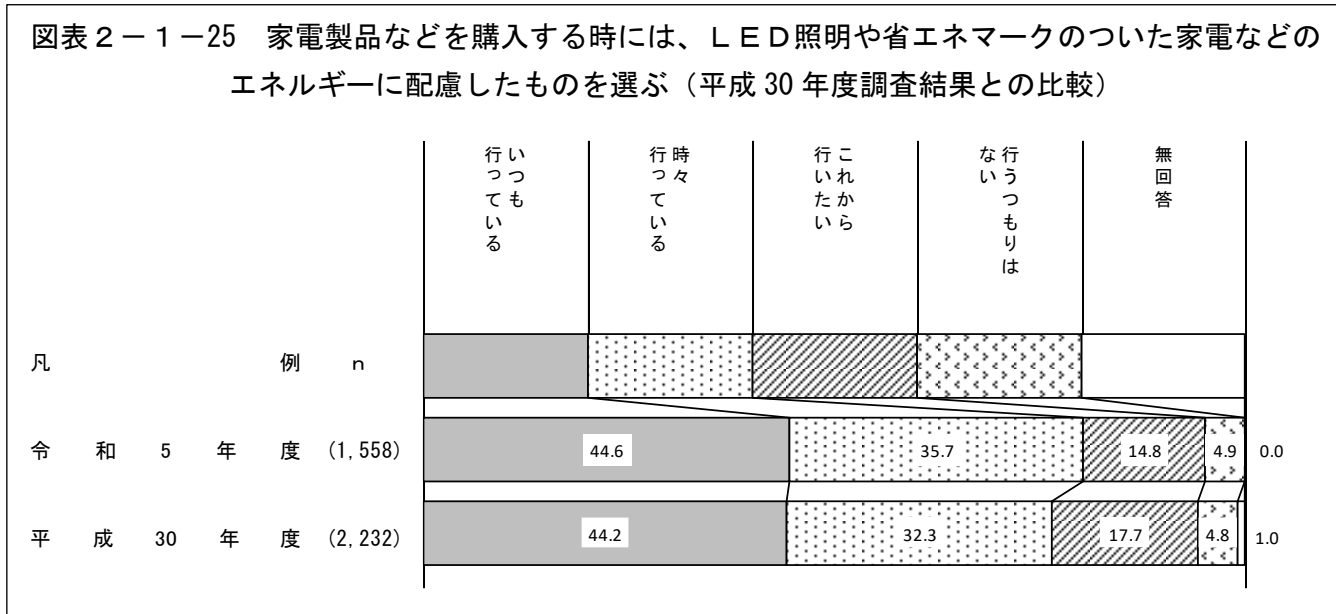
図表 2-1-24 家電製品などを購入する時には、LED照明や省エネマークのついた家電などのエネルギーに配慮したものを選ぶ（職業・世帯人数・居住形態別）



《平成 30 年度調査結果との比較》

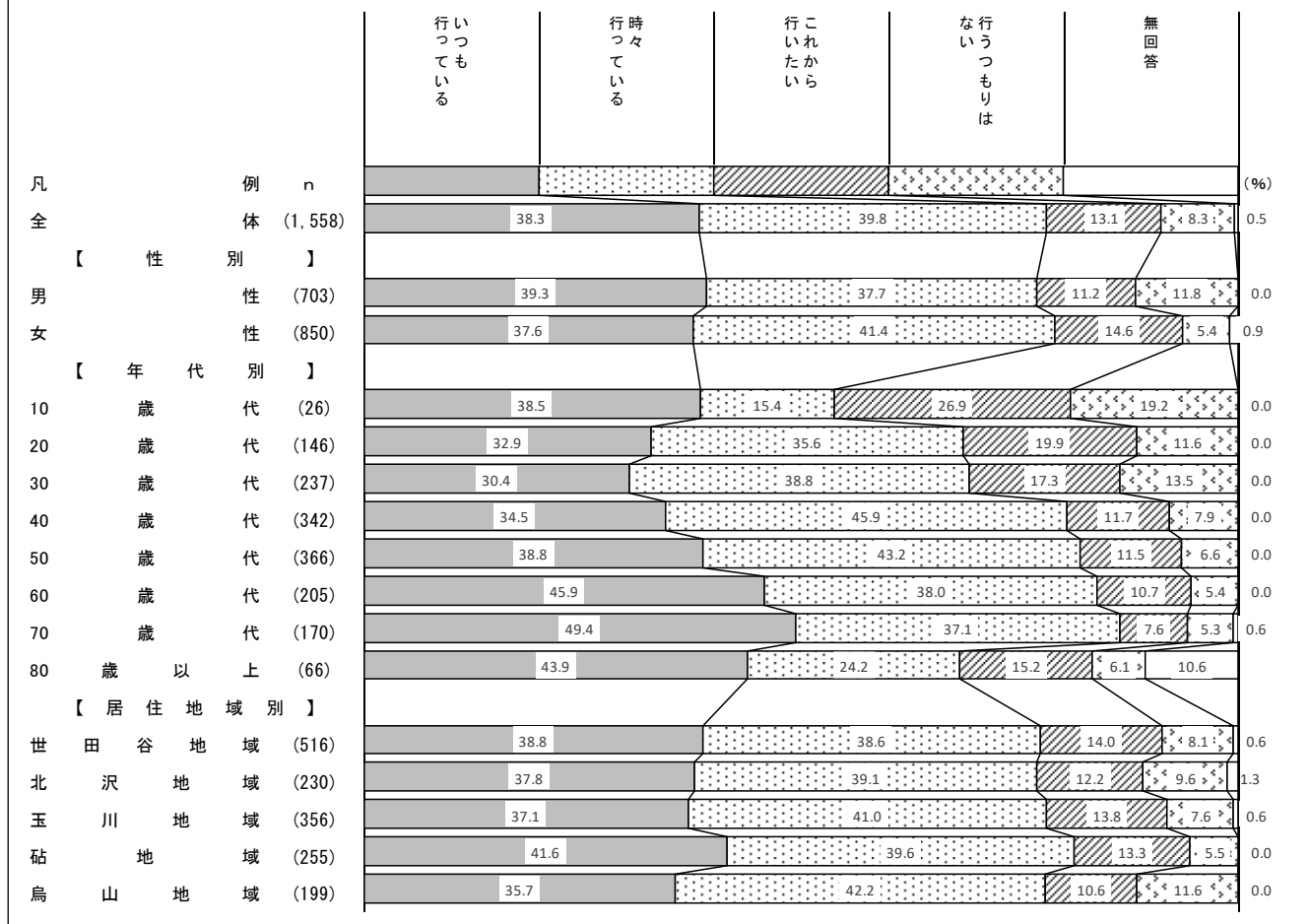
平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」は 0.4 ポイント増加とほぼ横ばい、「時々行っている」が 3 ポイント余り増加している。《行っている》は、『平成 30 年度』は 76.5%、『令和 5 年度』は 80.3%となっており、4 ポイント近く増加している。(図表 2-1-25)

図表 2-1-25 家電製品などを購入する時には、LED照明や省エネマークのついた家電などのエネルギーに配慮したものを選ぶ（平成 30 年度調査結果との比較）



(ケ) パソコンなどの電子機器を省エネモードに設定するなど、電源オプションを利用する

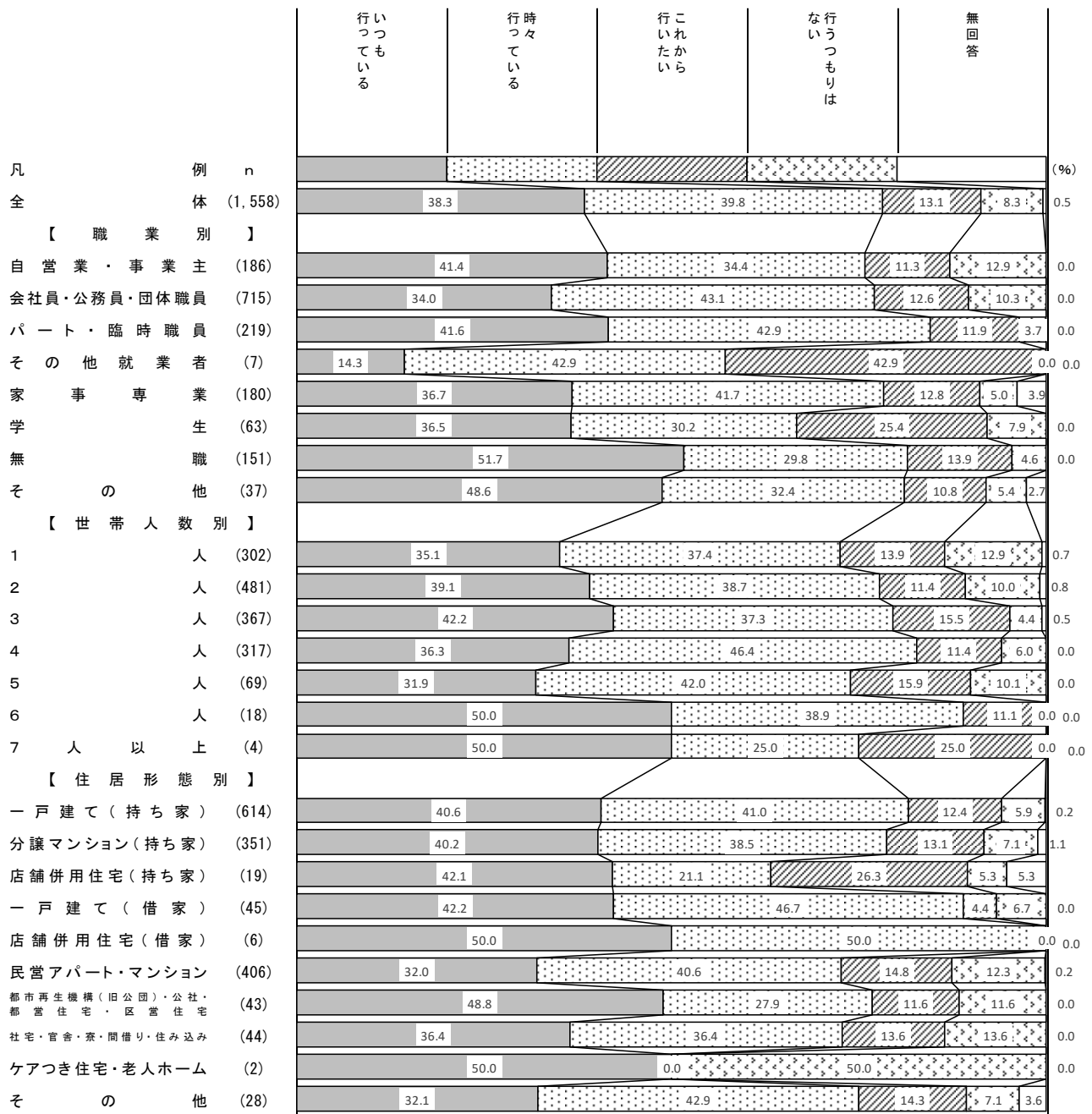
図表 2-1-26 パソコンなどの電子機器を省エネモードに設定するなど、電源オプションを利用する（性・年代・居住地域別）



全体で見ると、「時々行っている」が 39.8% で最も高く、「いつも行っている」(38.3%) と合わせると 78.1% が《行っている》と回答している。また、13.1% が「これから行いたい」と回答している。

年代別にみると、30 歳代から 70 歳代の年代において、「いつも行っている」は、年代が上がるにつれ高くなっている。(図表 2-1-26)

図表 2-1-27 パソコンなどの電子機器を省エネモードに設定するなど、電源オプションを利用する（職業・世帯人数・居住形態別）



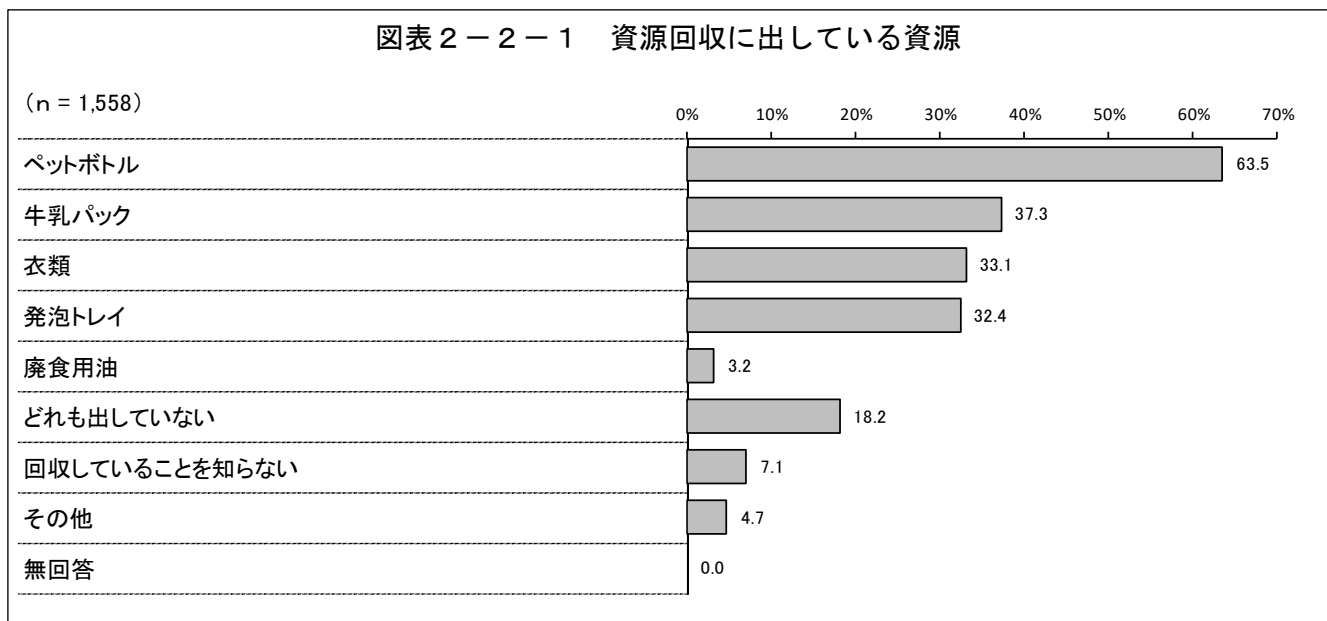
《その他の取組み》

その他に行っている取組みについて 78 件の回答があった。「電気」の節約に関する取組みが 40 件と最も多く、次いで「水」の節約に関する取組みが 21 件、「ガス」の節約に関する取組みが 5 件となっている。なお、複数の内容を含む回答は、該当する項目すべてにカウントしている。以下、回答の抜粋。

- 冷蔵庫のドア開閉数を減らす努力（女性 80 歳以上・玉川地域）
- 特に夏場のエアコンに関しては、強くするのではなくカーテンなどを閉めて部屋の温度を上がりすぎないようにしている。（女性 50 歳代・砧地域）
- ペットボトルの購入をなるべく控え飲み物を持参する（女性 40 歳代・玉川地域）
- 追い焚きをしないで良い様に、なるべく家族同じ時間帯に順番にお風呂に入る。（女性 50 歳代・玉川地域）
- 車のガソリンの消費に関して、運転の仕方を工夫して、抑制するように努めている。（男性 50 歳代・世田谷地域）
- シャワーは節水タイプを利用。トイレタンク内に水を入れたペットボトルを入れて節水している。（男性 50 歳代・砧地域）
- 生ごみを乾燥させてから捨てる。（女性 40 歳代・砧地域）
- お風呂のお湯で洗濯する。（女性 40 歳代・北沢地域）

(2) 資源回収に出している資源

(2) 資源の分別回収のほかに、地域の団体による回収、公共施設や店頭での資源回収が行われています。あなたが地域の団体や店頭などに出している資源は何ですか。(〇はいくつでも)



資源回収に出している資源は、「ペットボトル」が63.5%と最も高く、次いで「牛乳パック」(37.3%)、衣類(33.1%)、発泡トレイ(32.4%)となっている。

「回収していることを知らない」は7.1%、「どれも出していない」が18.2%となっている。

(図表 2-2-1)

《その他》

その他について74件の回答があった。「缶・ビン」が22件と最も多く、次いで「段ボール」が18件、「新聞・古紙」、「ペットボトルのふた」がそれぞれ15件となっている。なお、複数の内容を含む回答は、該当する項目すべてにカウントしている。

図表 2-2-2 資源回収に出している資源（性・年代・居住地域別）

(%)

		n	ペットボトル	牛乳パック	衣類	発泡トレイ	廃食用油	どれも出していない	回収していない 知らない	その他	無回答
全 体		1,558	63.5	37.3	33.1	32.4	3.2	18.2	7.1	4.7	0.0
性別	男性	703	63.2	36.3	28.9	31.2	2.8	18.3	8.0	4.0	0.0
	女性	850	63.8	38.2	36.6	33.5	3.5	18.1	6.4	5.4	0.0
年齢別	10歳代	26	34.6	19.2	11.5	19.2	0.0	23.1	34.6	0.0	0.0
	20歳代	146	54.1	29.5	15.8	22.6	0.7	26.0	15.1	1.4	0.0
	30歳代	237	45.1	21.9	24.5	16.0	0.8	26.2	12.2	2.5	0.0
	40歳代	342	61.7	36.0	31.9	31.0	2.0	21.1	4.7	3.2	0.0
	50歳代	366	65.3	38.0	37.4	34.4	2.7	15.6	4.4	6.0	0.0
	60歳代	205	74.1	44.4	37.6	38.0	3.9	15.1	3.4	5.9	0.0
	70歳代	170	84.7	55.9	45.3	54.1	9.4	5.3	4.1	6.5	0.0
	80歳以上	66	74.2	50.0	48.5	40.9	9.1	12.1	6.1	15.2	0.0
地域別	世田谷地域	516	62.8	34.5	27.9	29.1	4.1	19.6	7.8	3.9	0.0
	北沢地域	230	59.6	39.6	33.0	30.9	2.2	21.3	7.4	5.7	0.0
	玉川地域	356	64.0	35.7	38.8	33.7	3.7	15.4	7.6	6.5	0.0
	砧地域	255	69.8	40.8	39.2	39.6	3.1	14.9	2.7	5.1	0.0
	烏山地域	199	60.8	40.2	28.6	31.2	1.5	20.1	9.5	2.5	0.0

年代別にみると、「どれも出していない」は40歳代以下の年代でいずれも2割を超えており、30歳代(26.2%)、20歳代(26.0%)で高くなっている。(図表2-2-2)

図表 2-2-3 資源回収に出している資源

(職業・世帯人数・居住形態別)

(%)

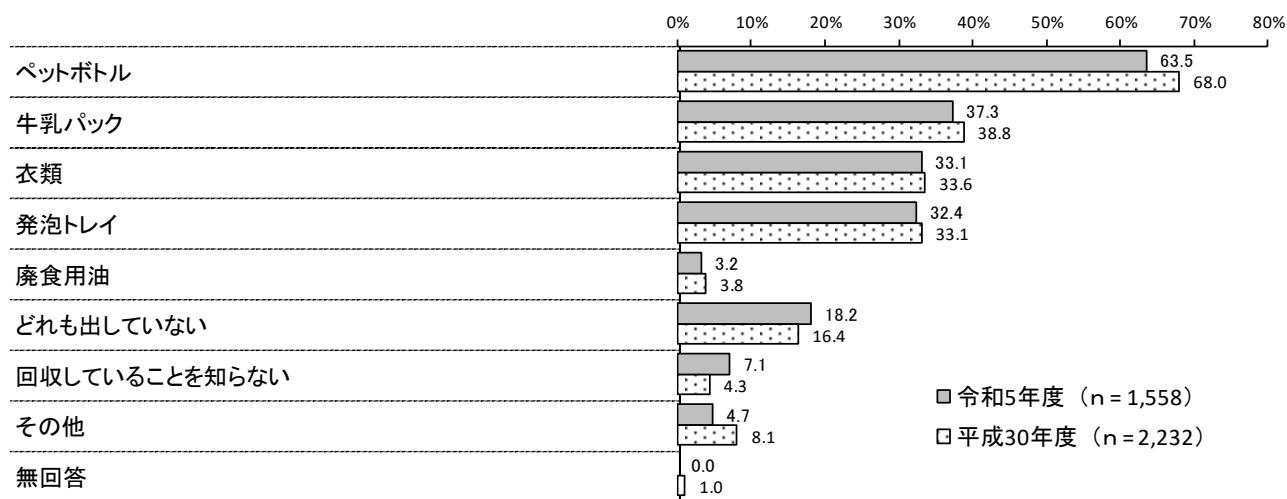
		n	ペット ボトル	牛乳 パック	衣 類	発 泡 ト レ イ	廃 食 用 油	ど れ も 出 し て い な い	回 収 し て い る こ と を 知 ら な い	そ の 他	無 回 答
全 体		1,558	63.5	37.3	33.1	32.4	3.2	18.2	7.1	4.7	0.0
職 業 別	自営業・事業主	186	68.3	37.1	41.9	30.6	5.9	15.1	4.8	4.8	0.0
	会社員・公務員・団体職員	715	58.5	32.4	27.0	27.0	1.5	20.7	8.7	2.8	0.0
	パート・臨時職員	219	63.0	42.9	40.6	37.4	3.7	19.6	4.6	7.3	0.0
	その他就業者	7	71.4	57.1	57.1	57.1	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0
	家事専業	180	70.6	43.9	38.3	44.4	4.4	13.9	5.0	9.4	0.0
	学生	63	52.4	34.9	22.2	31.7	0.0	20.6	15.9	1.6	0.0
	無職	151	75.5	43.0	35.8	37.7	6.6	12.6	5.3	6.0	0.0
	その他	37	75.7	43.2	40.5	32.4	2.7	16.2	5.4	5.4	0.0
世 帯 人 数 別	1人	302	59.3	26.2	20.5	20.5	2.3	25.2	9.3	5.6	0.0
	2人	481	65.5	38.5	34.5	36.0	4.8	16.4	8.7	5.4	0.0
	3人	367	67.0	39.0	37.3	35.7	3.3	16.9	4.1	4.4	0.0
	4人	317	62.1	41.6	36.9	34.7	1.9	15.8	6.0	4.4	0.0
	5人	69	58.0	44.9	39.1	31.9	2.9	17.4	7.2	1.4	0.0
	6人	18	55.6	50.0	27.8	33.3	0.0	22.2	5.6	0.0	0.0
	7人以上	4	75.0	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
居 住 形 態 別	一戸建て（持ち家）	614	68.6	43.3	39.3	37.5	4.1	13.2	5.0	5.5	0.0
	分譲マンション（持ち家）	351	67.2	42.2	34.8	34.2	2.8	17.1	6.3	4.6	0.0
	店舗併用住宅（持ち家）	19	84.2	36.8	57.9	36.8	10.5	5.3	5.3	5.3	0.0
	一戸建て（借家）	45	68.9	33.3	31.1	35.6	4.4	13.3	4.4	4.4	0.0
	店舗併用住宅（借家）	6	50.0	66.7	0.0	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0
	民営アパート・マンション	406	52.0	25.4	21.9	24.4	2.0	27.3	10.3	3.7	0.0
	都市再生機構（旧公団）・ 公社・都営住宅・区営住宅	43	72.1	30.2	37.2	30.2	4.7	16.3	2.3	7.0	0.0
	社宅・官舎・寮・間借り・ 住み込み	44	56.8	31.8	29.5	27.3	2.3	20.5	13.6	2.3	0.0
	ケアつき住宅・老人ホーム	2	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	28	50.0	32.1	35.7	21.4	0.0	21.4	14.3	7.1	0.0	

《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、資源回収に出している資源は、いずれも減少しており、例えば「ペットボトル」は 68.0%から 63.5%と 4 ポイント余り減少している。

「どれも出していない」、「回収していることを知らない」はいずれも増加している。(図表 2-2-4)

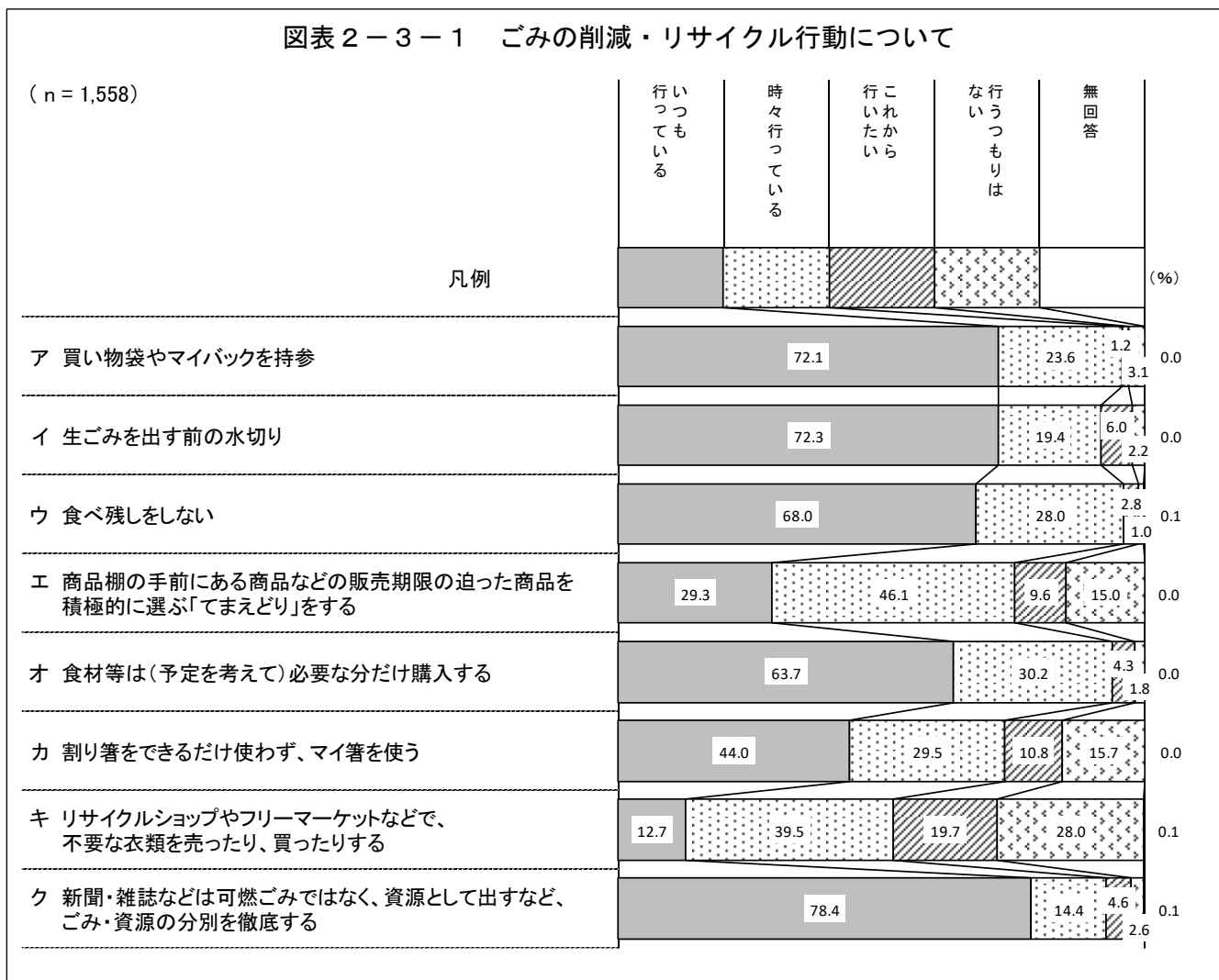
図表 2-2-4 資源回収に出している資源
(平成 30 年度調査結果との比較)



(3) ごみの削減・リサイクル行動について

(3) 次のア～クのごみの削減・リサイクルの行動について、それぞれ当てはまる番号に1つ○をつけてください。また、その他に行っている取組みがあれば記入してください。

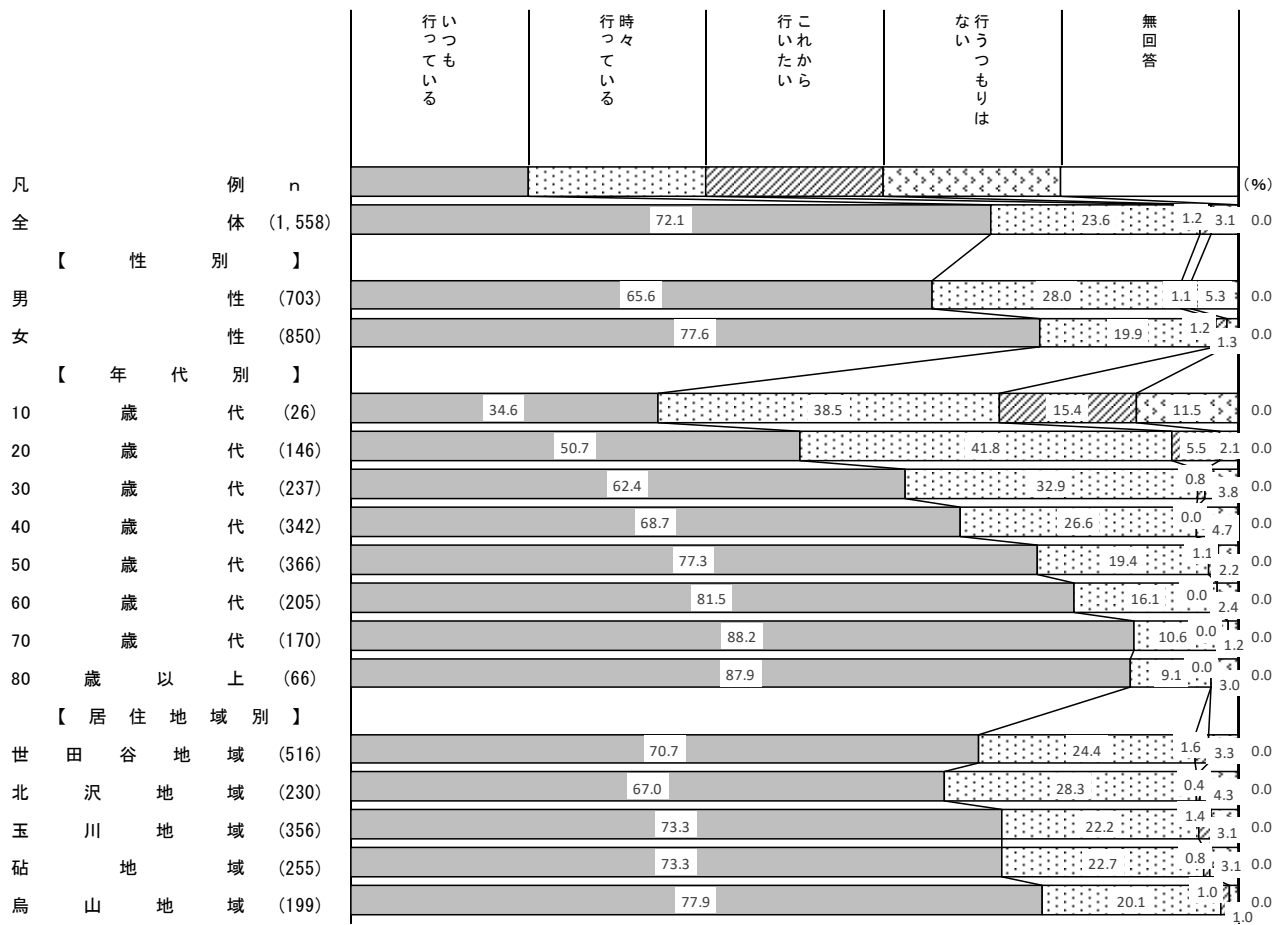
図表 2-3-1 ごみの削減・リサイクル行動について



8項目のごみの削減・リサイクル行動について、「いつも行っている」は、『ク 新聞・雑誌などは可燃ごみではなく、資源として出すなど、ごみ・資源の分別を徹底する』(78.4%)、『イ 生ごみを出す前の水切り』(72.3%)、『ア 買い物袋やマイバックを持参』(72.1%)、『ウ 食べ残しをしない』(68.0%)、『オ 食料等は(予定を考えて)必要な分だけ購入する』(63.7%)の5項目で5割以上となっている。《行っている》は、『キ リサイクルショップやフリーマーケットなどで、不要な衣類を売ったり、買ったりする』を除いた7項目で7割以上となっている。(図2-3-1)

(ア) 買い物袋を持参してレジ袋を使わない、過剰包装を断る

図表 2-3-2 買い物袋を持参してレジ袋を使わない、過剰包装を断る
(性・年代・居住地域別)



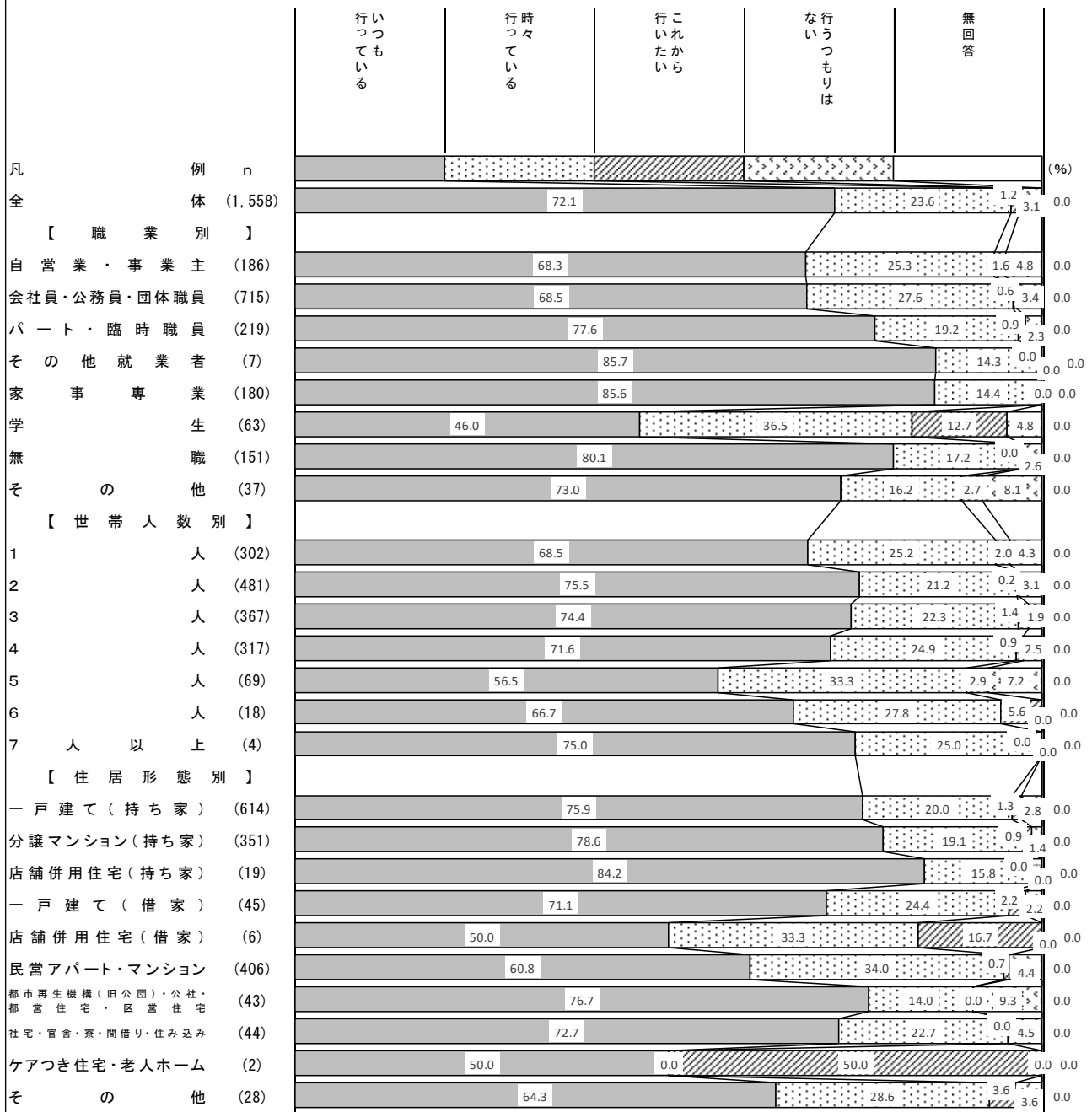
全体で見ると、「いつも行っている」が72.1%で最も高く、「時々行っている」(23.6%)と合わせると95.7%が《行っている》と回答している。また、1.2%が「これから行いたい」と回答している。

性別にみると、「いつも行っている」は、男性(65.6%)に比べ女性(77.6%)が高くなっている。

年代別にみると、「いつも行っている」は70歳より下の年代において、年代が上がるにつれ高くなっている。(図表2-3-2)

職業別にみると、「いつも行っている」は家事専業(85.6%)などで高くなっている。(図表2-3-3)

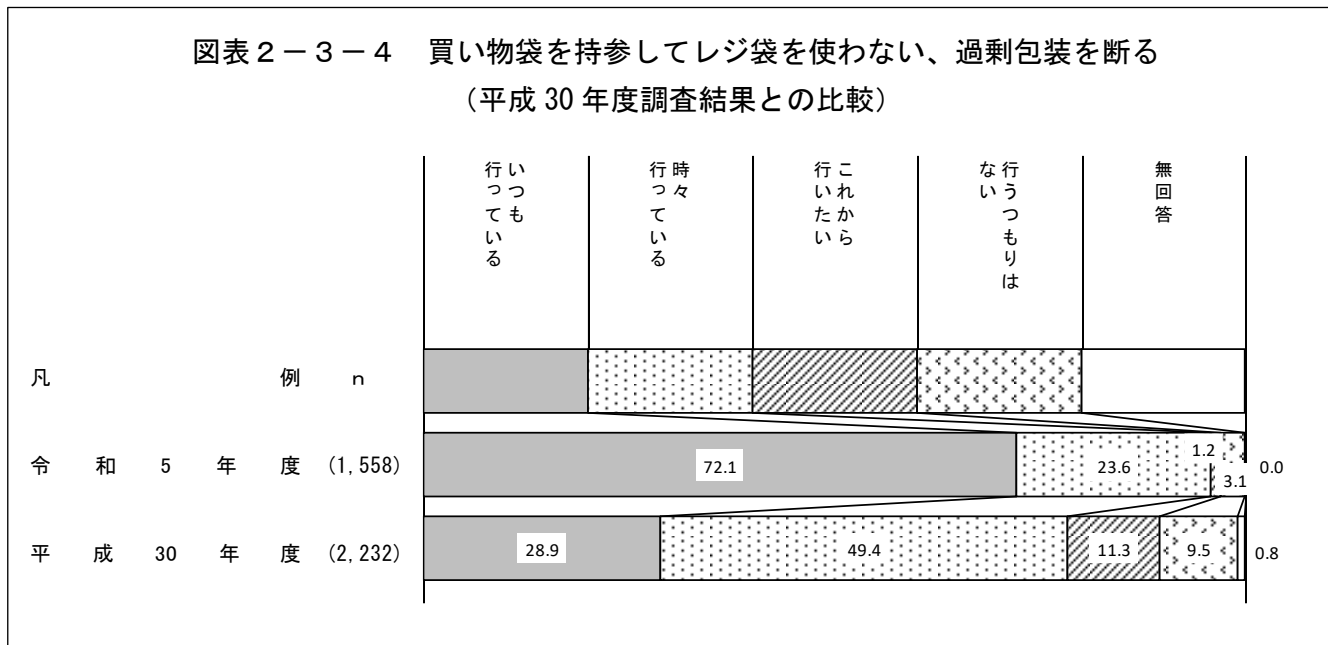
図表 2-3-3 買い物袋を持参してレジ袋を使わない、過剰包装を断る
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

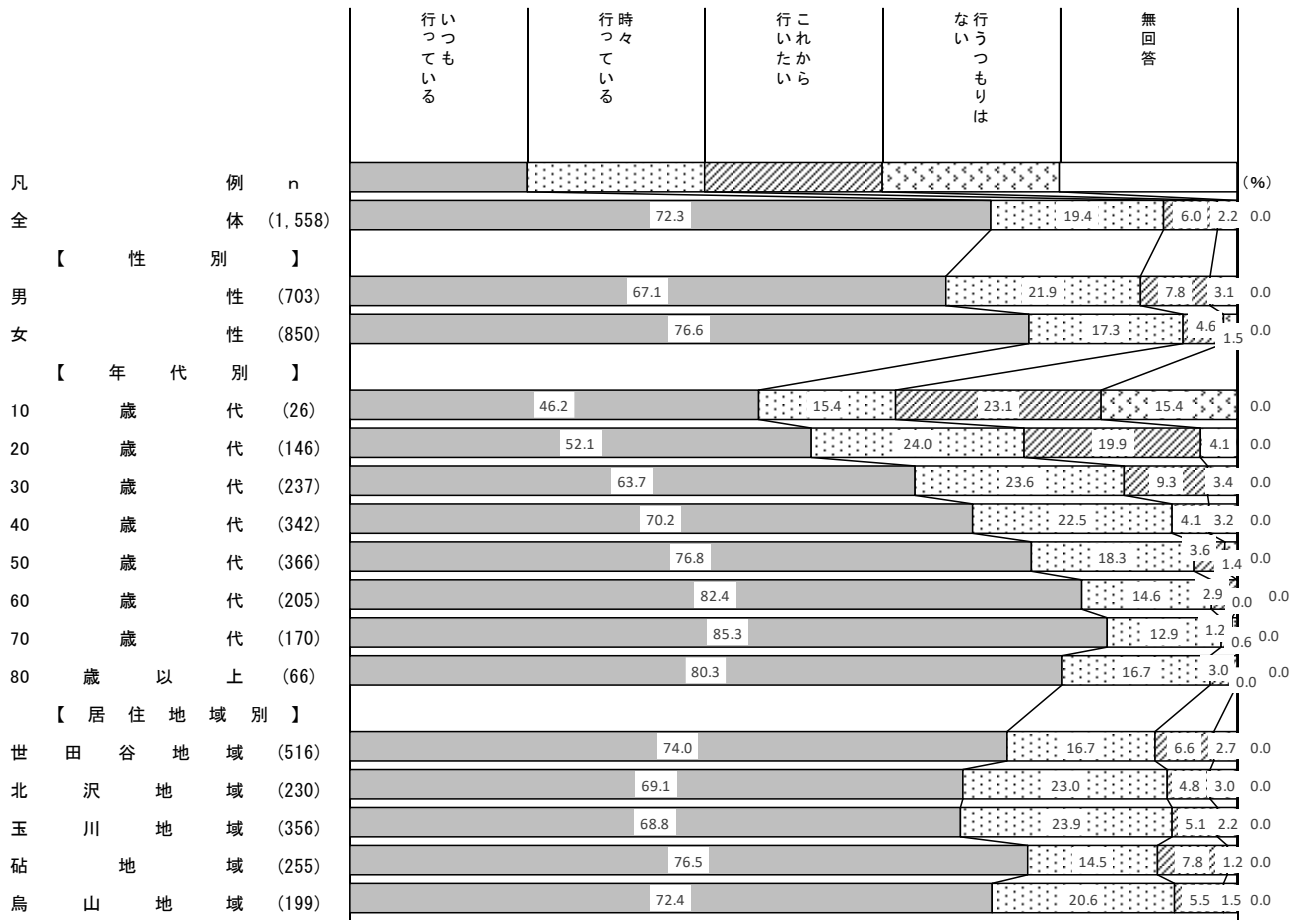
平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」が 40 ポイント以上と大幅に増加している。プラスチック製買い物袋の有料化が令和 2 年 7 月から開始された影響が大きいと推測できる。

《行っている》の結果をみても、『平成 30 年度』は 78.3%、『令和 5 年度』は 95.7%と 15 ポイント以上の増加となっている。(図表 2-3-4)



(イ) 生ごみを出す前の水切り

図表 2-3-5 生ごみを出す前の水切り
(性・年代・居住地域別)



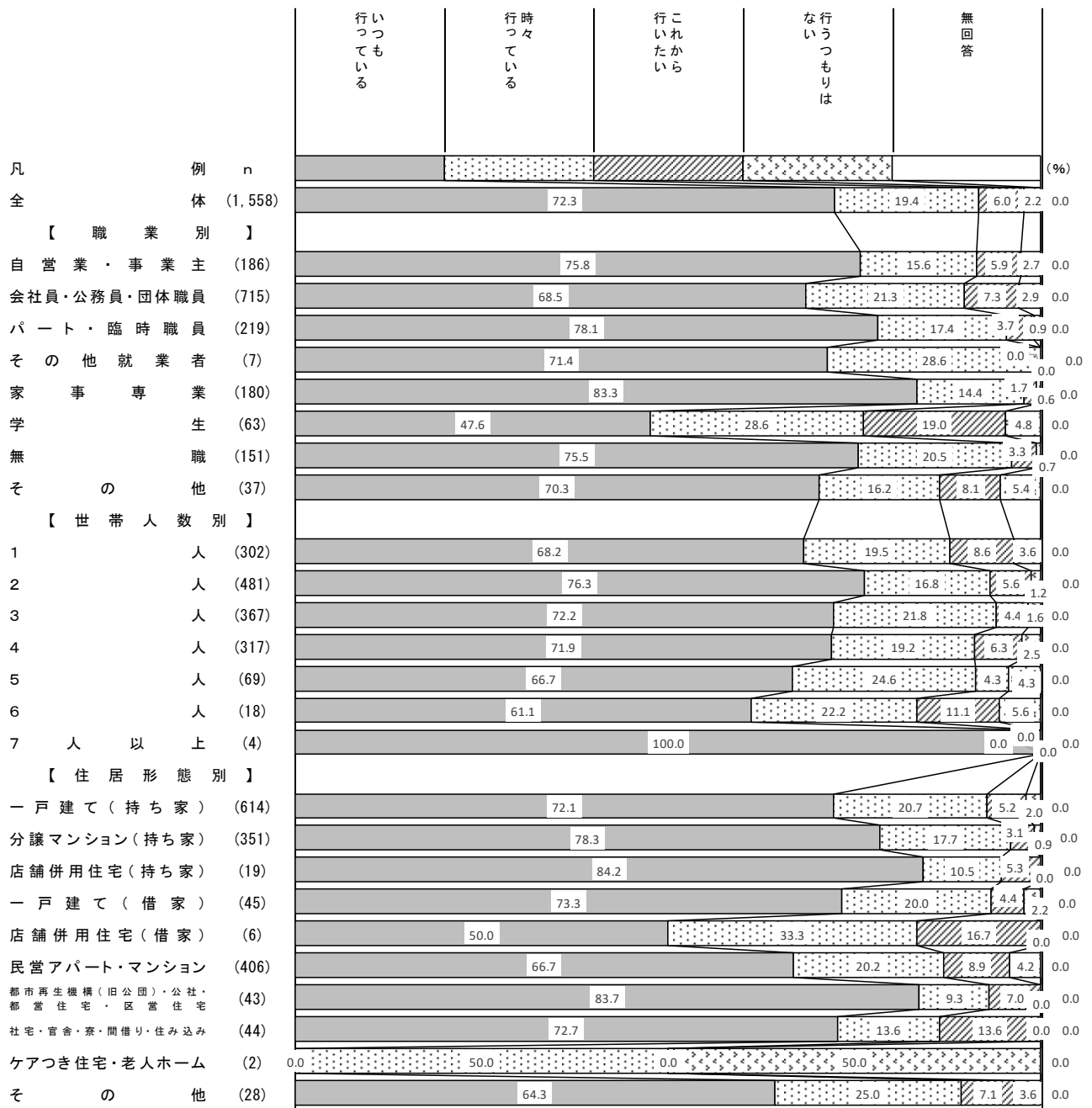
全体で見ると、「いつも行っている」が72.3%で最も高く、「時々行っている」(19.4%)と合わせると91.7%が《行っている》と回答している。また、6.0%が「これから行いたい」と回答している。

性別にみると、「いつも行っている」は男性(67.1%)に比べ女性(76.6%)が高くなっている。

年代別にみると、70歳より下の年代において、「いつも行っている」は年代が上がるにつれ高くなっている。(図表2-3-5)

世帯人数別にみると、世帯人数が2人から6人において、「いつも行っている」は人数が増えるにつれ低くなっている。(図表2-3-6)

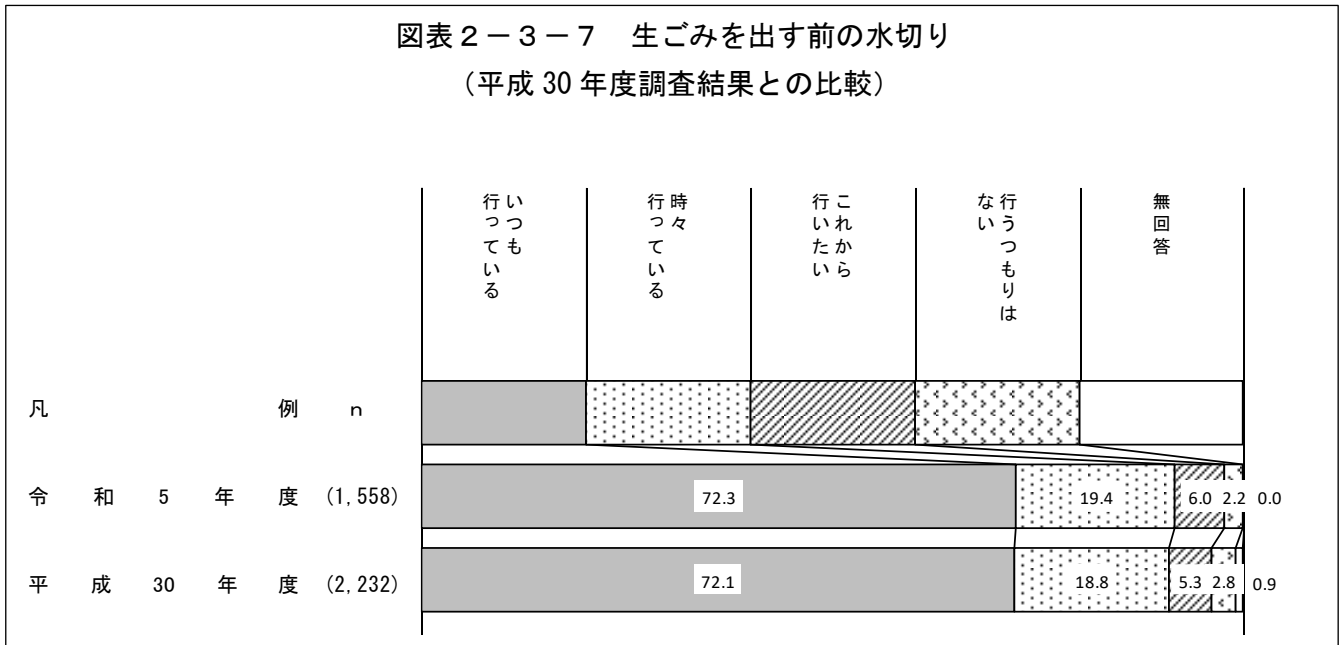
図表 2-3-6 生ごみを出す前の水切り
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

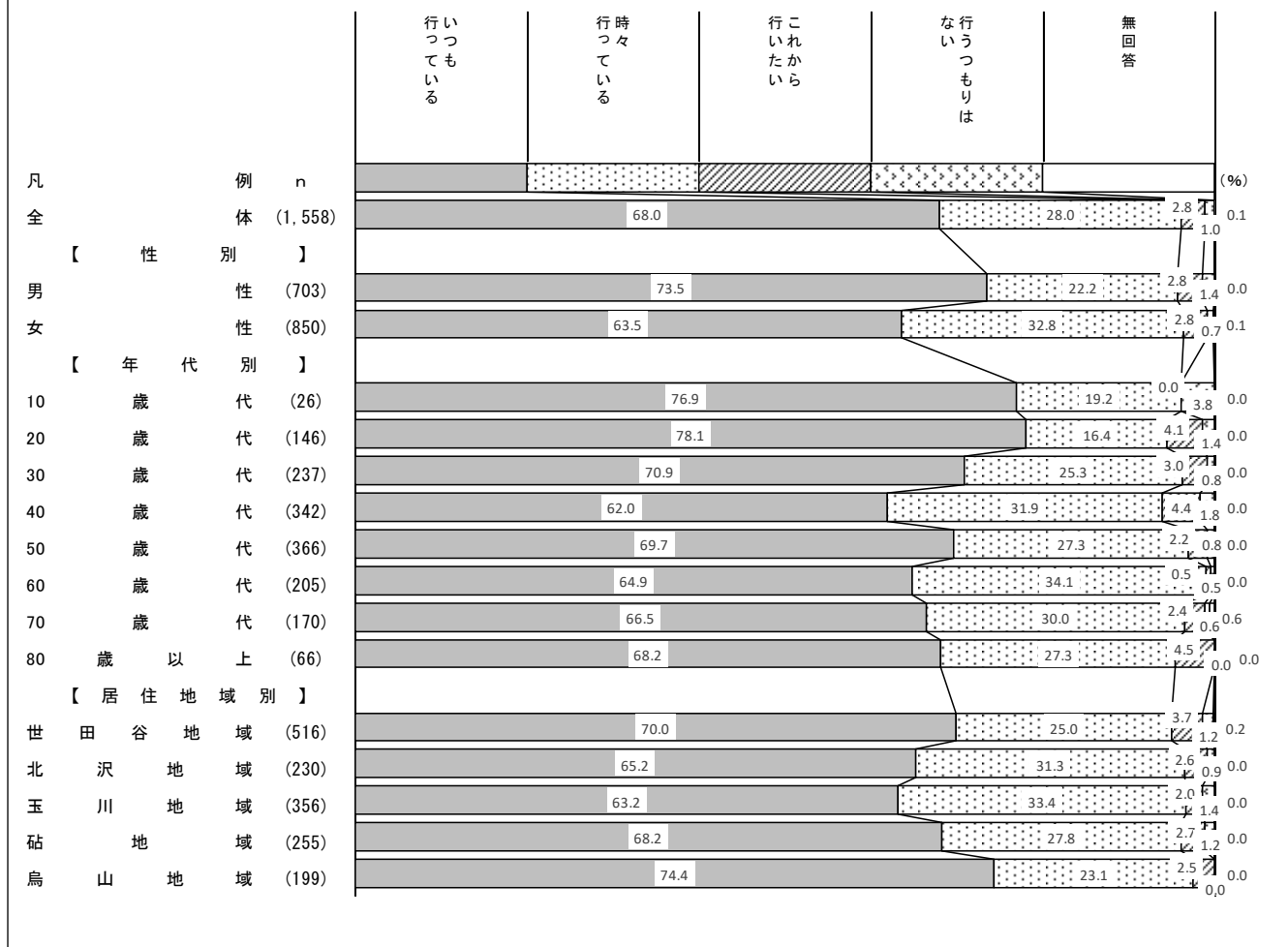
平成 30 年度調査と比較すると、《行っている》は『平成 30 年度』は 90.9%、『令和 5 年度』は 91.7% となっており、増減はほぼない。(図表 2-3-7)

図表 2-3-7 生ごみを出す前の水切り
(平成 30 年度調査結果との比較)



(ウ) 食べ残しをしない

図表 2-3-8 食べ残しをしない
(性・年代・居住地別)

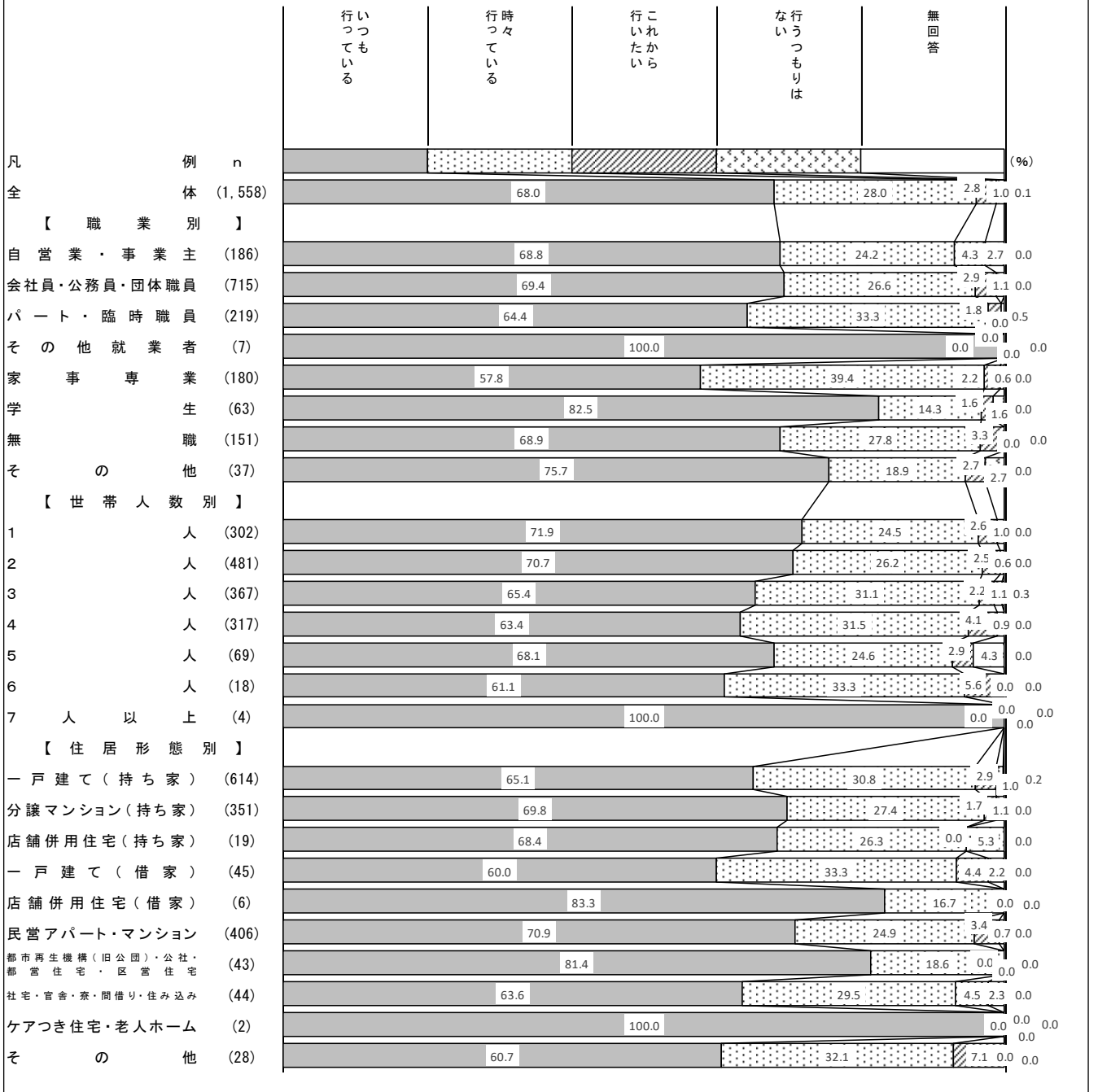


全体で見ると、「いつも行っている」が68.0%で最も高く、「時々行っている」(28.0%)と合わせると96.0%が《行っている》と回答している。また、2.8%が「これから行いたい」と回答している。

性別にみると、「いつも行っている」は女性(63.5%)に比べ男性(73.5%)が高くなっている。(図表2-3-8)

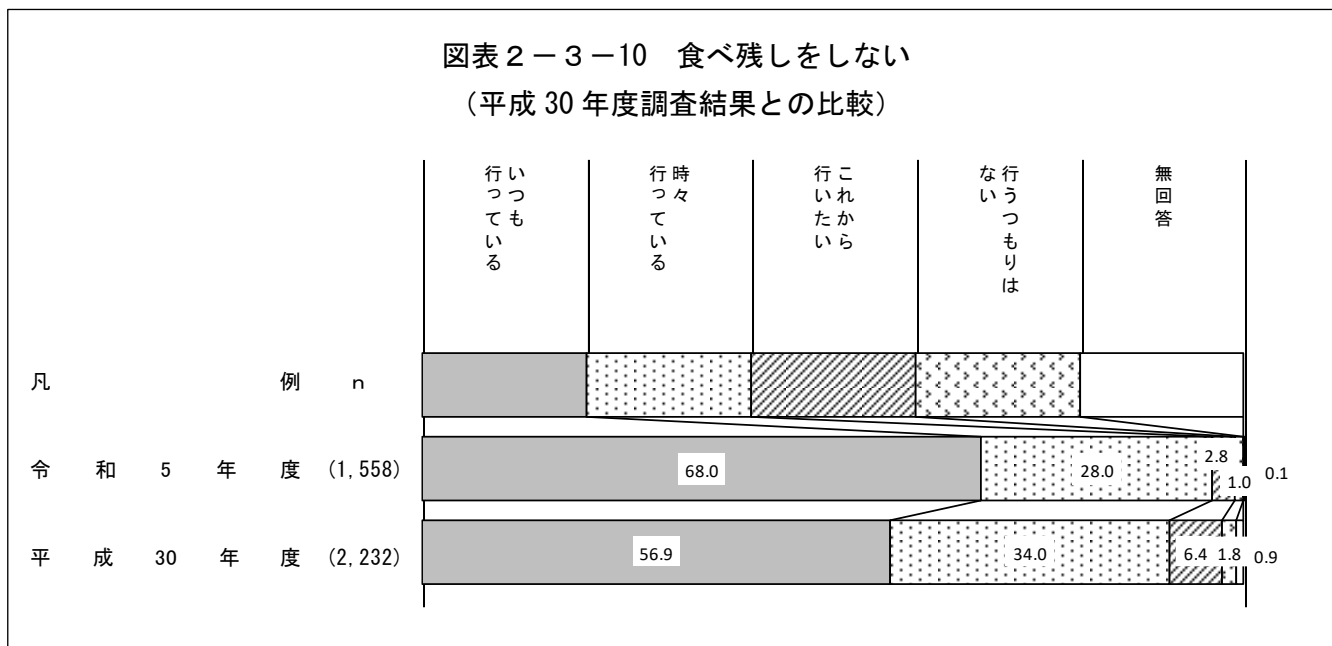
世帯人数別にみると、「いつも行っている」は1人(71.9%)で高く、4人までで世帯人数が増えるほど、低くなっている。(図表2-3-9)

図表 2-3-9 食べ残しをしない
(職業・世帯人数・居住形態別)



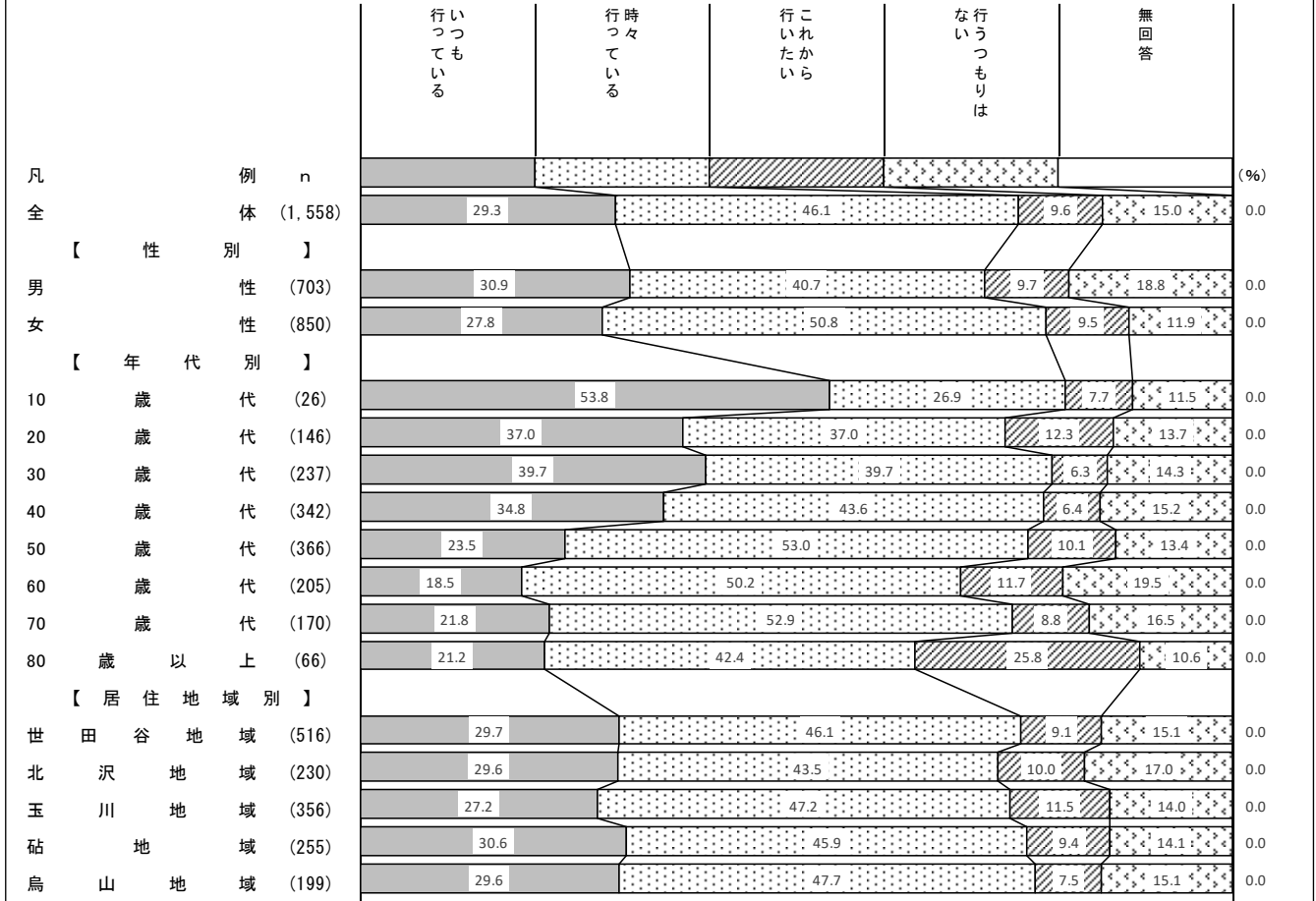
《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」が 10 ポイント以上増加し、「時々行っている」は 6 ポイント減少している。《行っている》は『平成 30 年度』は 90.9%、『令和 5 年度』は 96.0%と 5 ポイント余り増加している。(図表 2-3-10)



(エ) 商品棚の手前にある商品などの販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ「てまえどり」をする

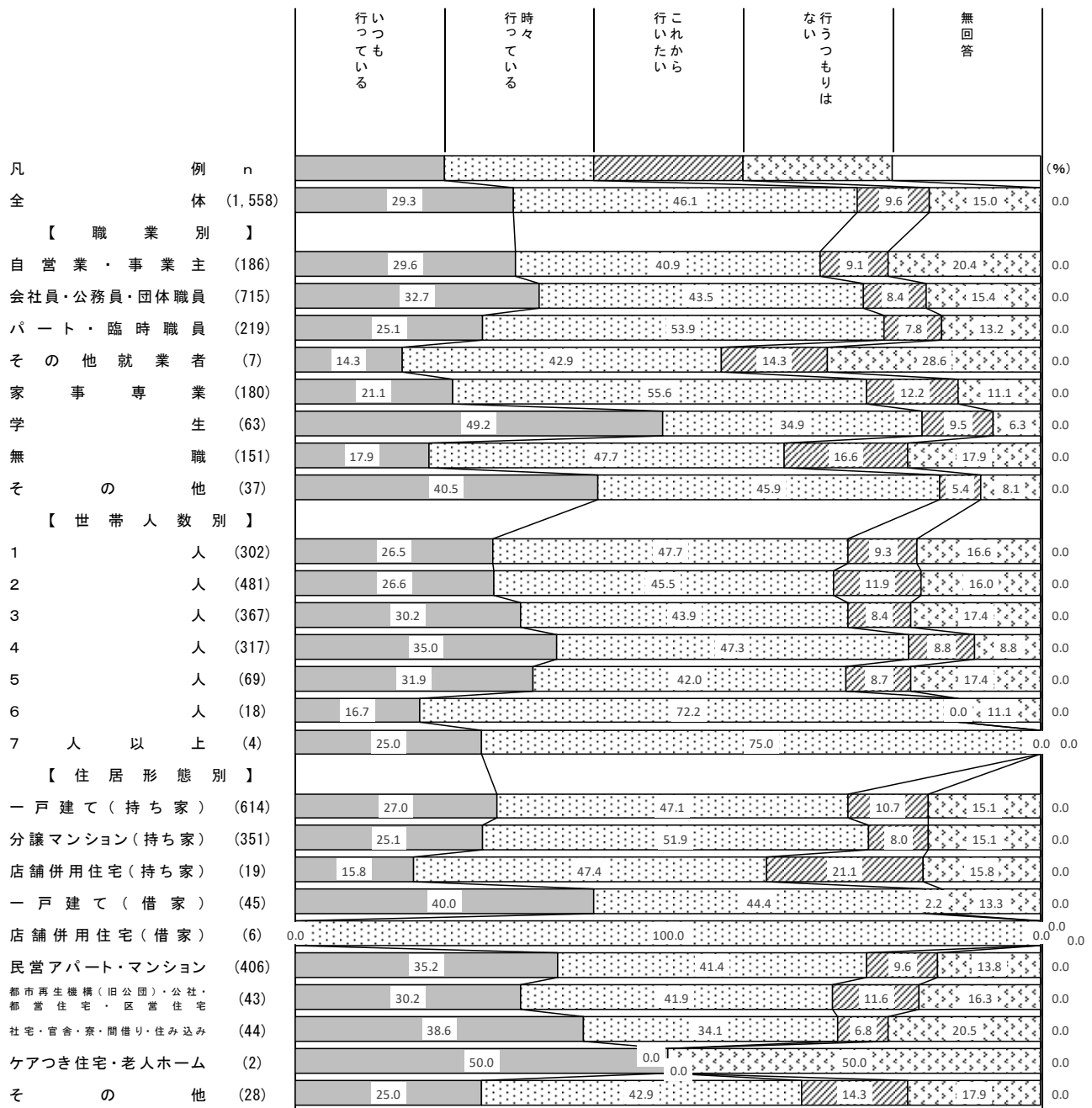
図表 2-3-11 商品棚の手前にある商品などの販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ「てまえどり」をする
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「時々行っている」が46.1%で最も高く、「いつも行っている」(29.3%)と合わせると75.4%が《行っている》と回答している。また、9.6%が「これから行いたい」と回答している。

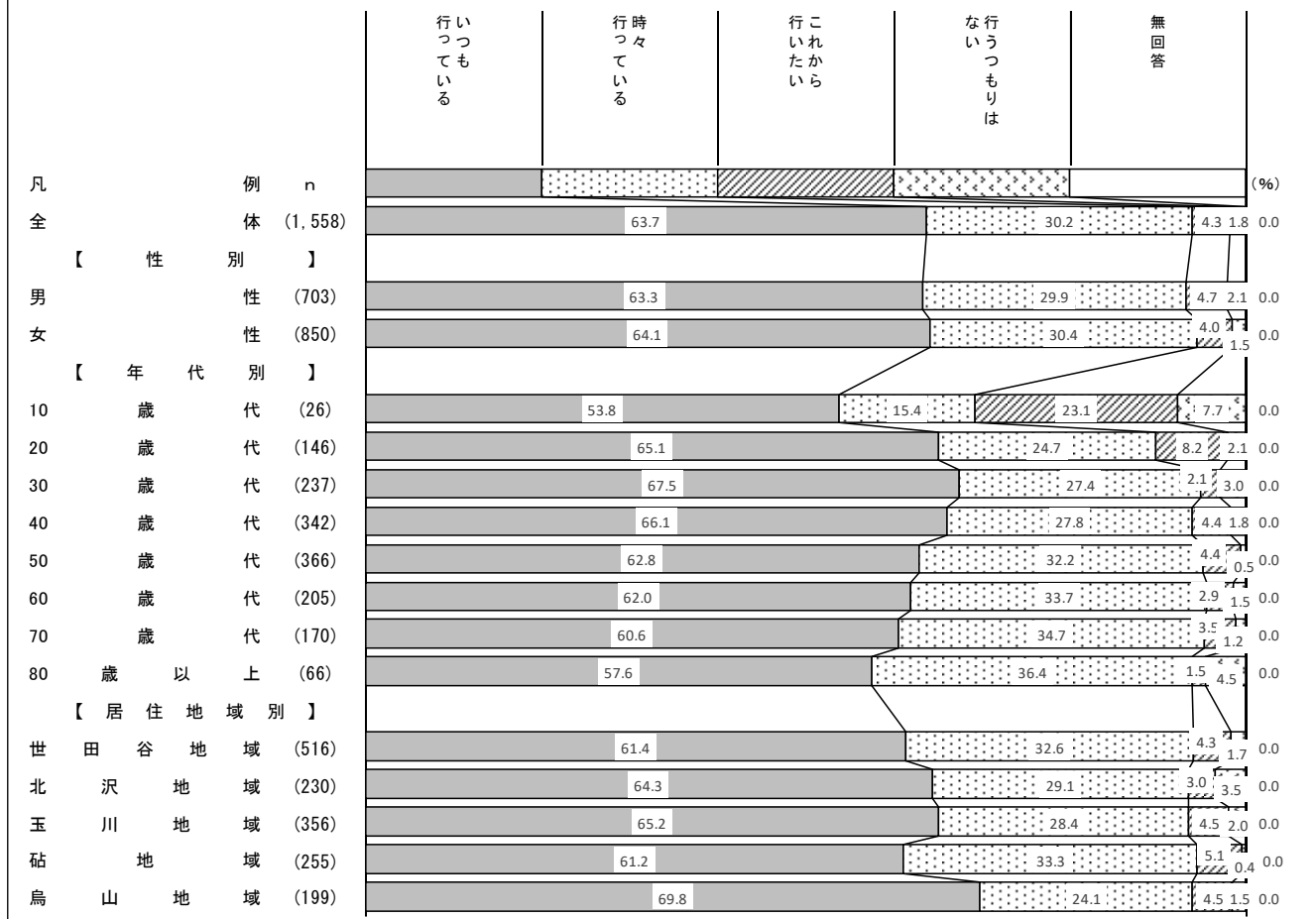
年代別にみると、「いつも行っている」は、30歳代から60歳代において年代が上がるほど低くなっている。(図表2-3-11)

図表 2-3-12 商品棚の手前にある商品などの販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ
「てまえどり」をする
(職業・世帯人数・居住形態別)



(オ) 食材等は（予定を考慮して）必要な分だけ購入する

図表 2-3-13 食材等は（予定を考慮して）必要な分だけ購入する
（性・年代・居住地域別）

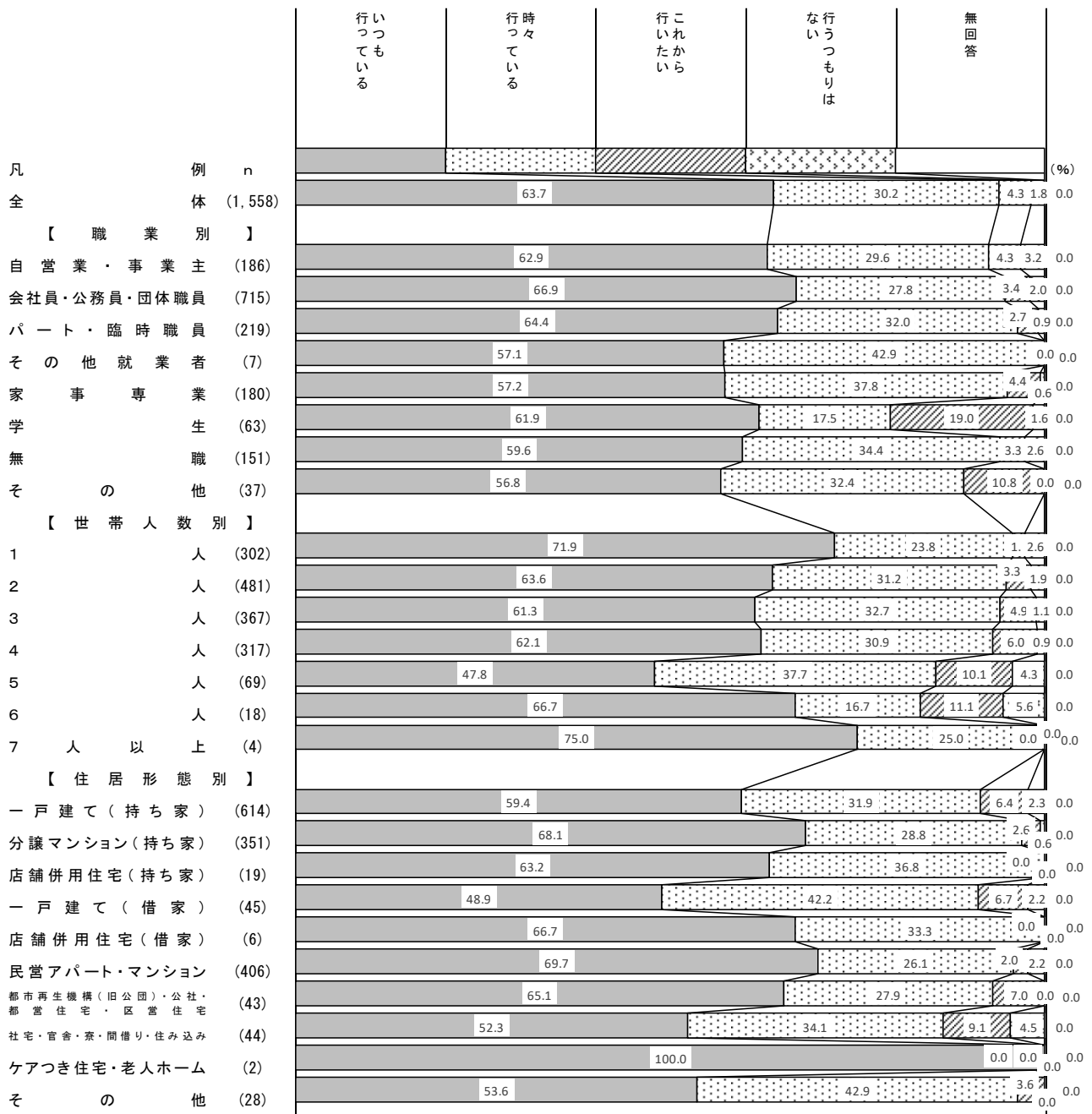


全体で見ると、「いつも行っている」が 63.7%で最も高く、「時々行っている」(30.2%) と合わせると 93.9%が《行っている》と回答している。また、4.3%が「これから行いたい」と回答している。

年代別にみると、「いつも行っている」は、30歳代より上の年代で年代が上がるほど低くなっている。

(図表 2-3-13)

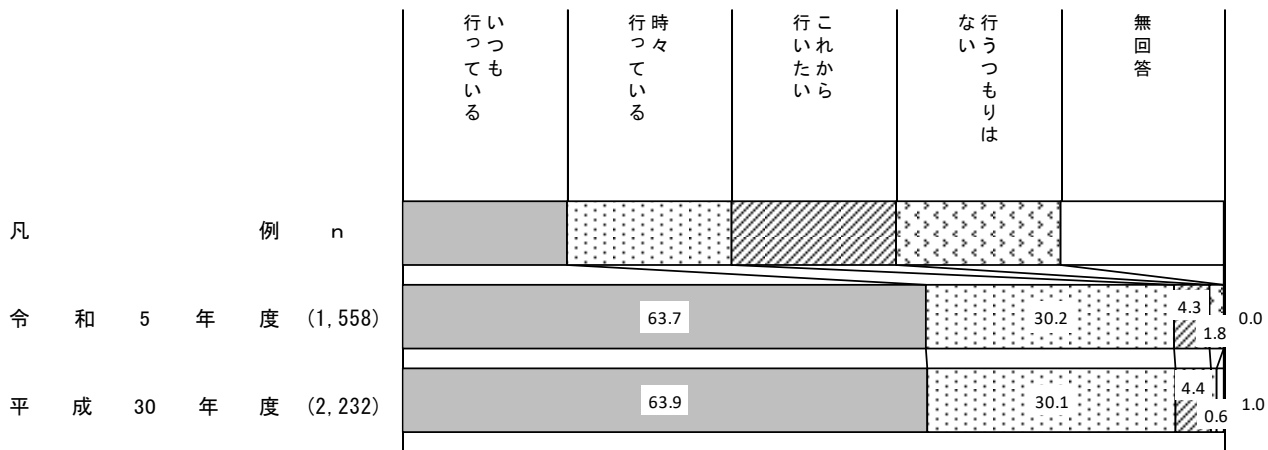
図表 2-3-14 食材等は（予定を考慮して）必要な分だけ購入する
（職業・世帯人数・居住形態別）



《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、《行っている》は『平成 30 年度』は 94.0%、『令和 5 年度』は 93.9% となっており、大きな増減はみられない。(図表 2-3-15)

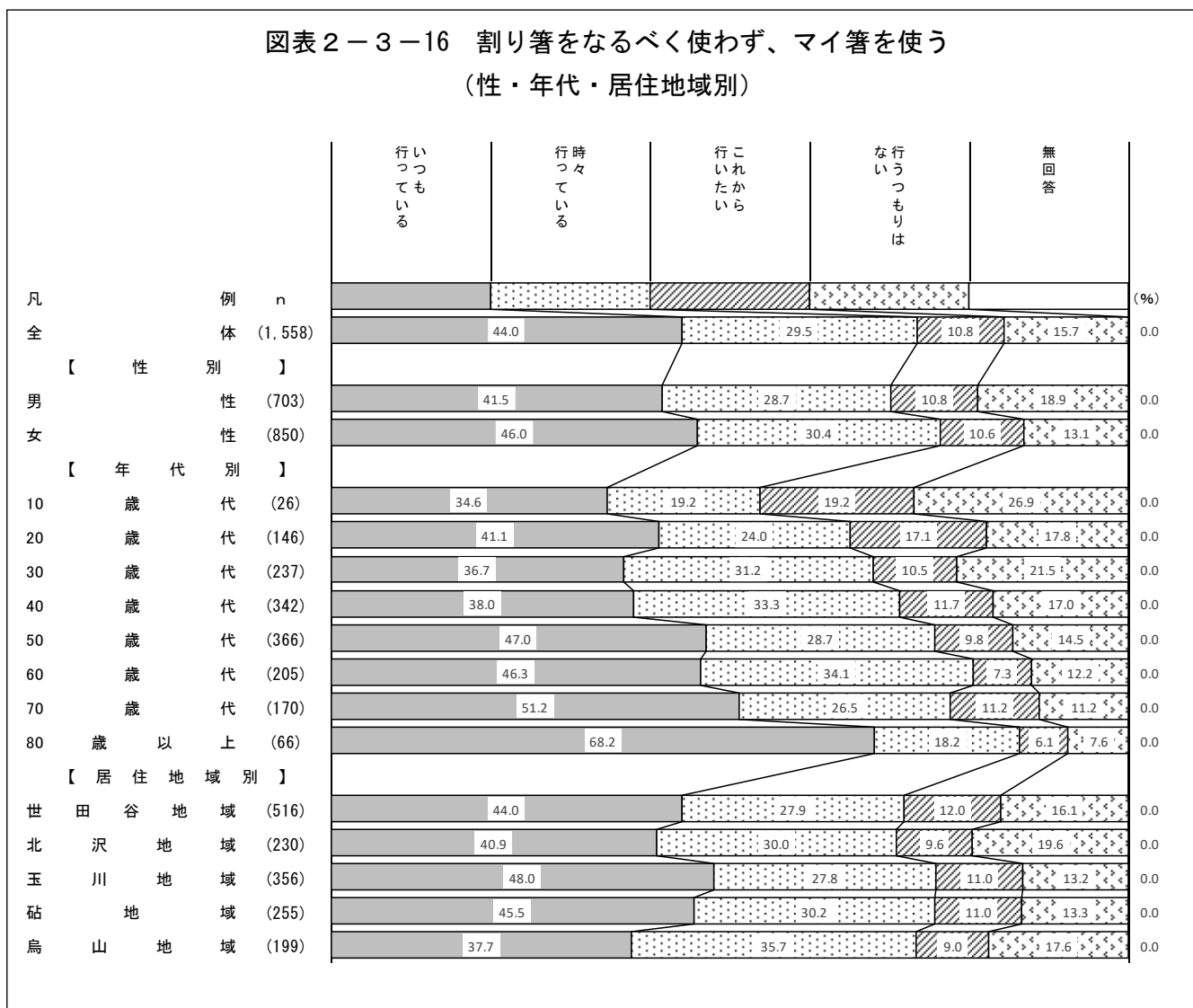
図表 2-3-15 買い物袋を持参してレジ袋を使わない、過剰包装を断る
(平成 30 年度調査結果との比較)



※平成30年度の設問は「必要なものはよく選んで買う」

(カ) 割り箸をなるべく使わず、マイ箸を使う

図表 2-3-16 割り箸をなるべく使わず、マイ箸を使う
(性・年代・居住地域別)

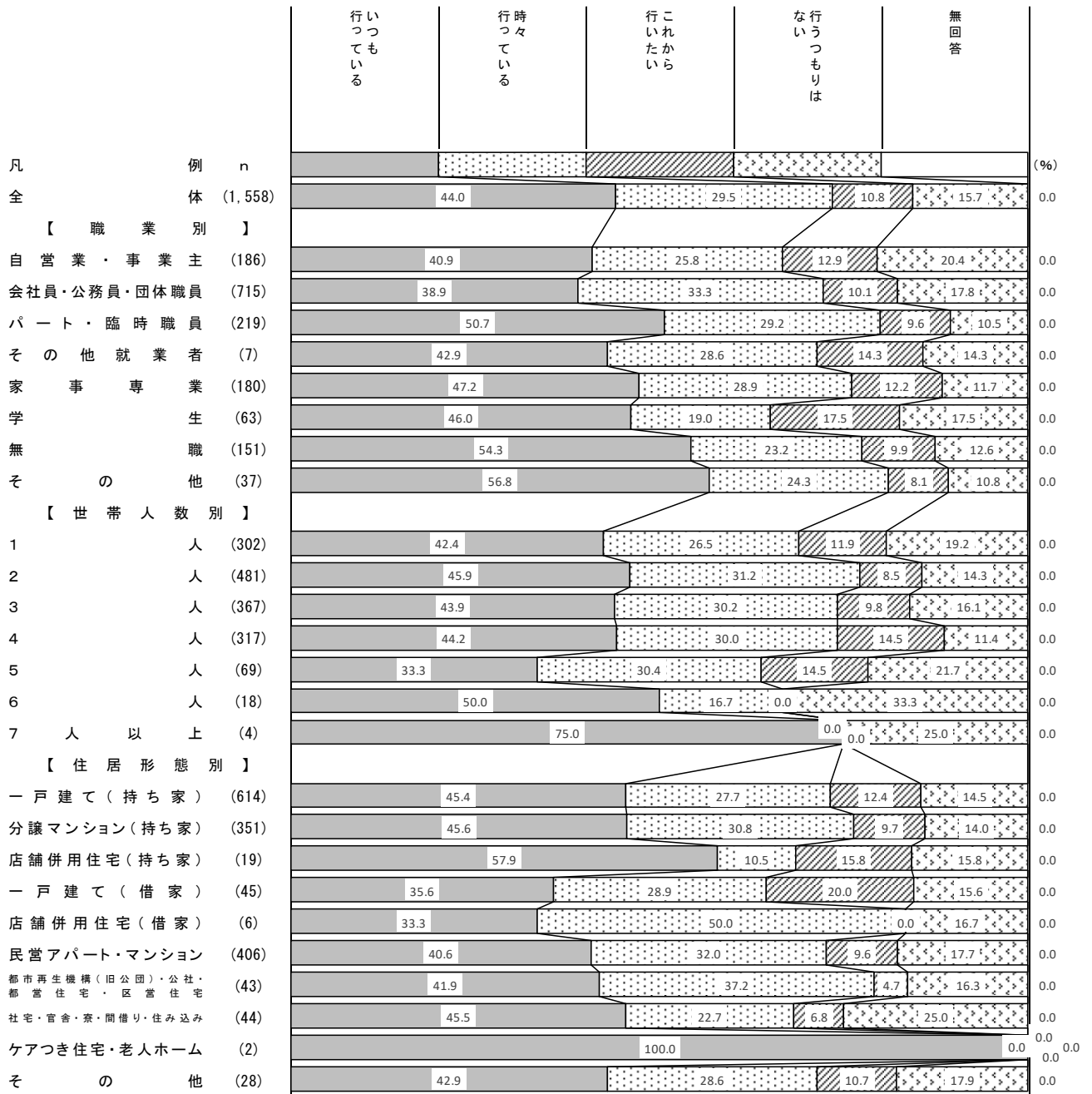


全体で見ると、「いつも行っている」が44.0%で最も高く、「時々行っている」(29.5%)と合わせると73.5%が《行っている》と回答している。また、10.8%が「これから行いたい」と回答している。

年代別にみると、「いつも行っている」は70歳代(51.2%)、80歳以上(68.2%)で高くなっている。(図表1-3-16)

職業別にみると、「いつも行っている」は、その他(56.8%)、「無職」(54.3%)、「パート・臨時職員」(50.7%)で高く5割を超えている。(図表2-3-17)

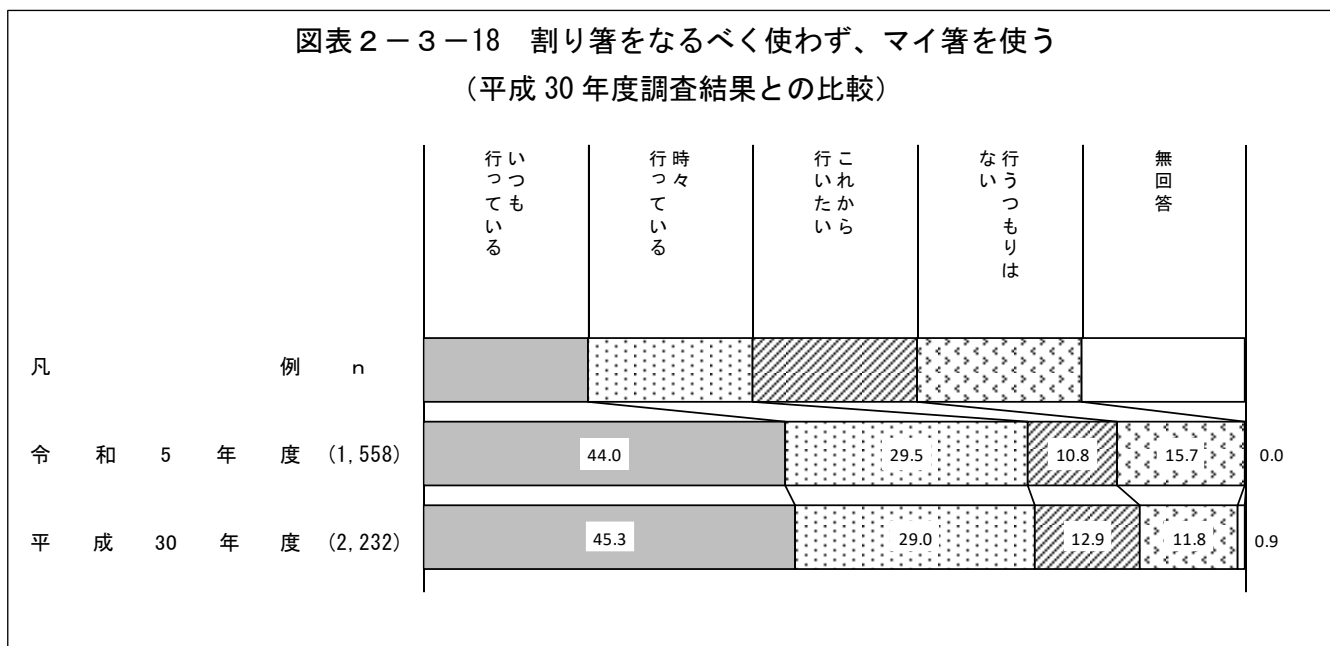
図表2-3-17 割り箸をなるべく使わず、マイ箸を使う
(職業・世帯人数・居住形態・自家用車の有無別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

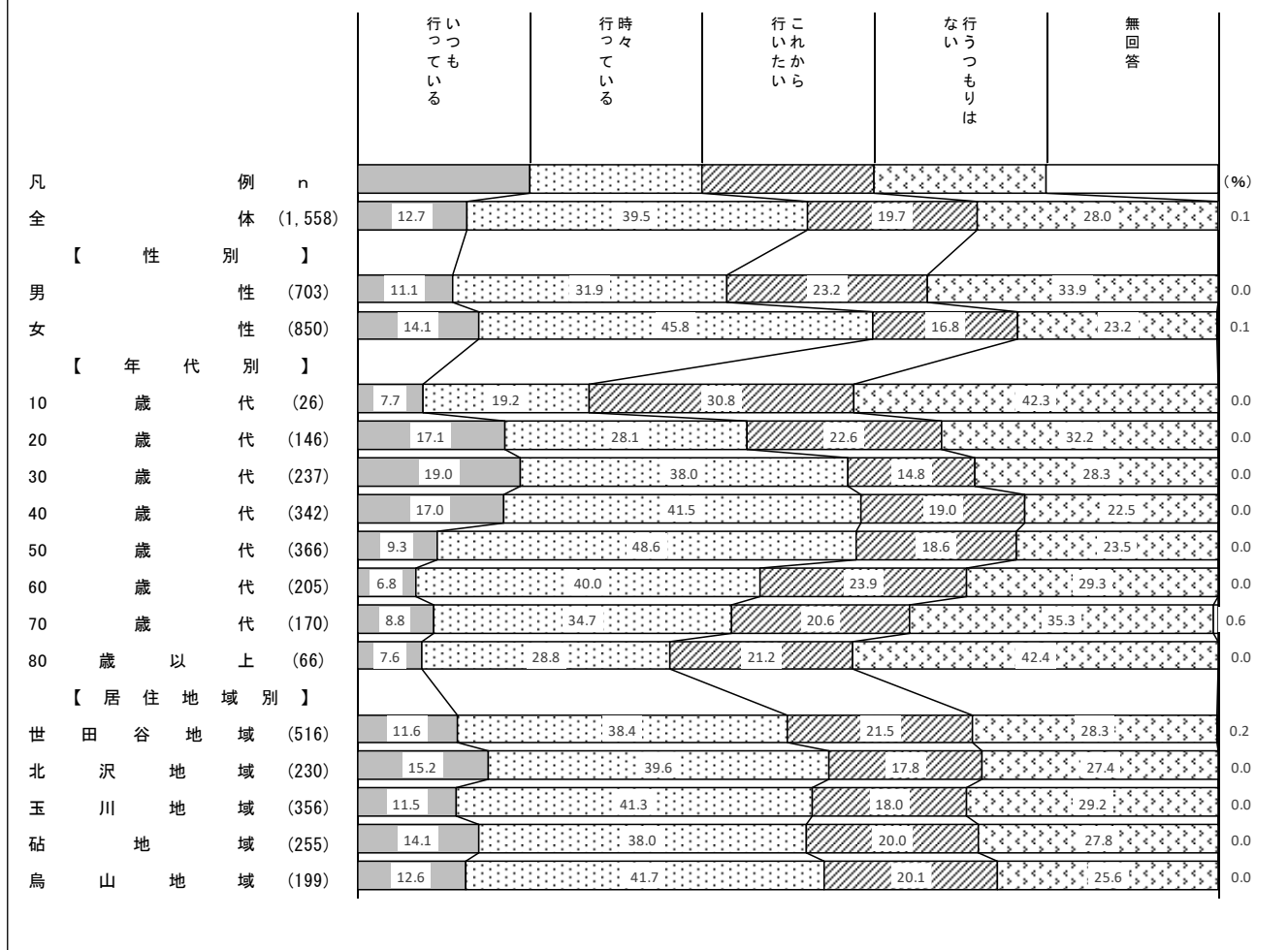
平成 30 年度調査と比較すると、《行っている》は『平成 30 年度』は 74.3%、『令和 5 年度』は 73.5% となっており、増減はほぼない。(図表 2-3-18)

図表 2-3-18 割り箸をなるべく使わず、マイ箸を使う
(平成 30 年度調査結果との比較)



(キ) リサイクルショップやフリーマーケットなどで不要な衣類を売ったり、
買ったりする

図表 2-3-19 リサイクルショップやフリーマーケットなどで不要な衣類を
売ったり、買ったりする (性・年代・居住地域別)



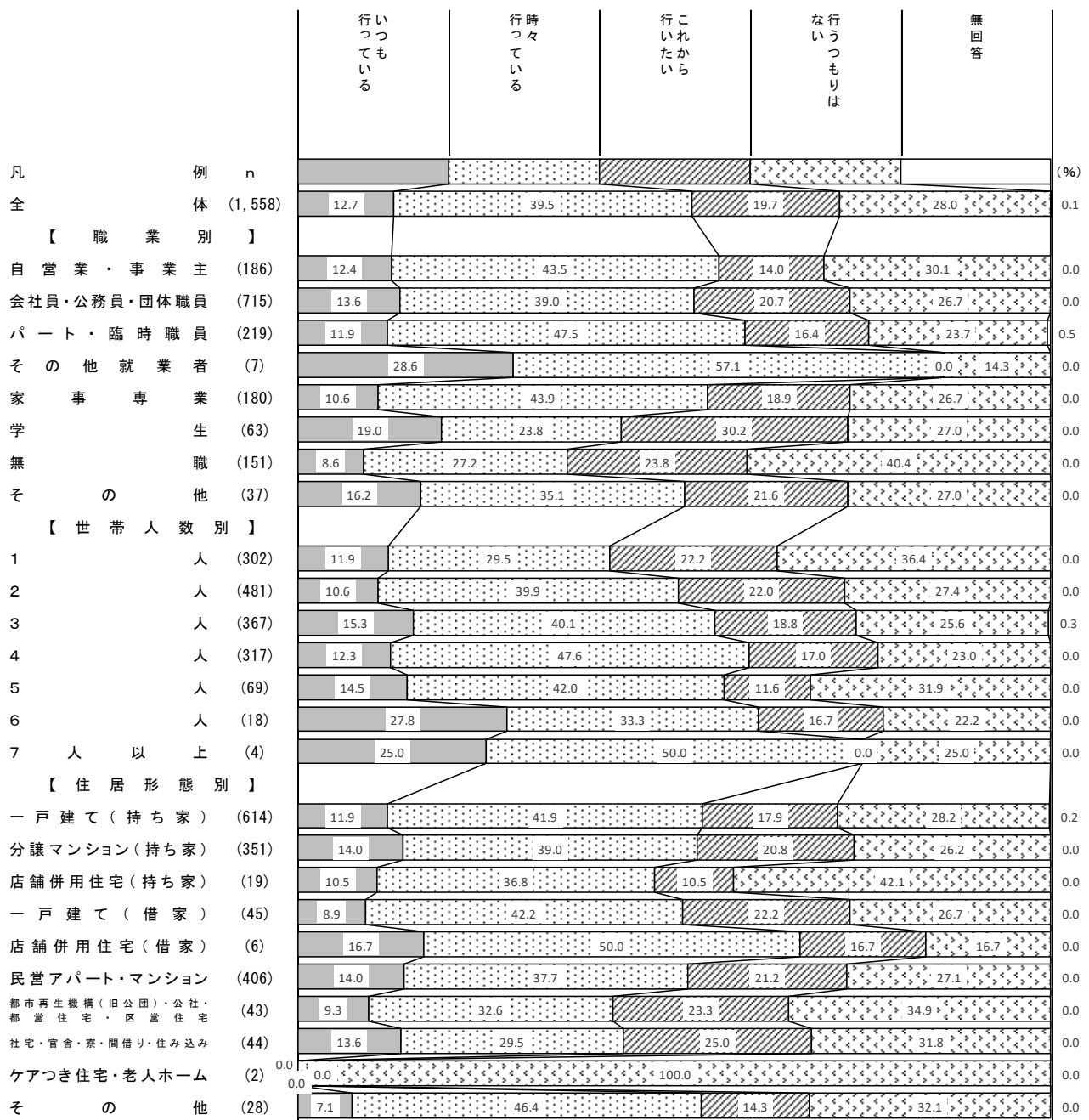
全体で見ると、「時々行っている」が39.5%で最も高くなっている。「いつも行っている」(12.7%)と合わせると52.2%が《行っている》と回答している。また、19.7%が「これから行いたい」と回答している。

性別にみると、《行っている》は、男性(43.0%)に比べ女性(59.9%)が高くなっている。

年代別にみると、《行っている》は、40歳代(58.5%)で高く、30歳代から50歳代の年代で5割以上となっている。40歳代から上の年代において、《行っている》は年代が上がるにつれ低くなっている。80歳以上では「行うつもりはない」が42.4%と4割以上となっている。(図表2-3-19)

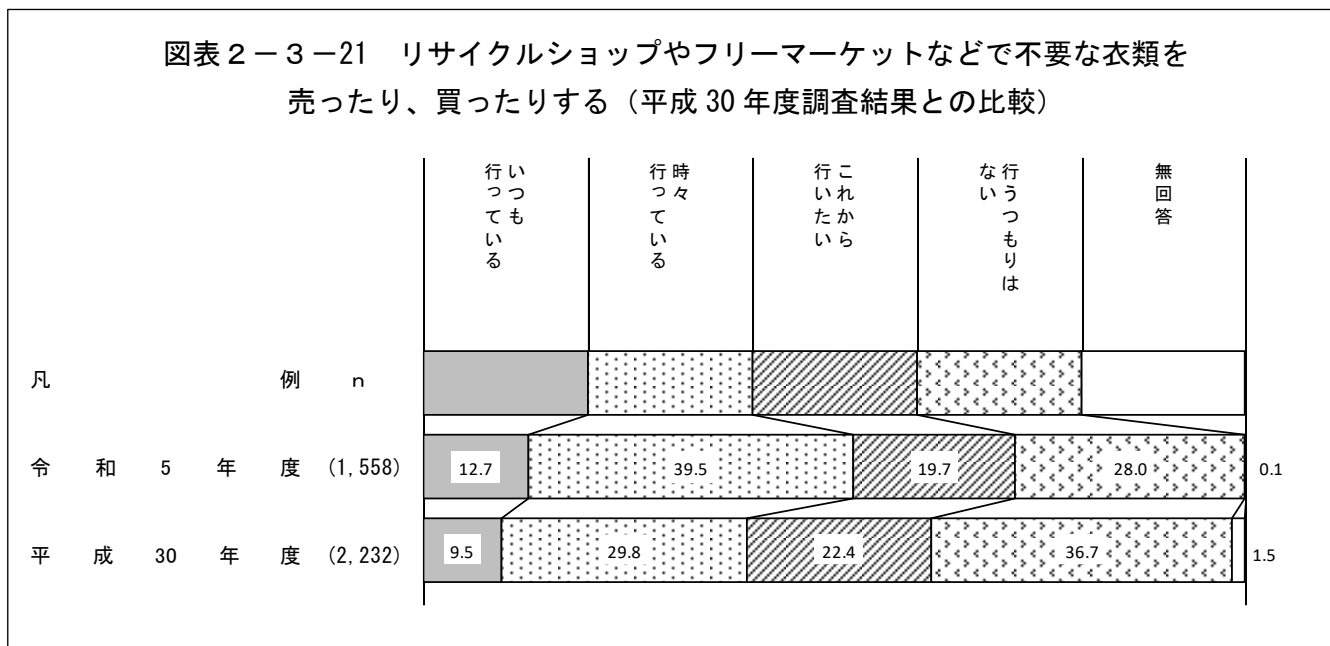
世帯人数別にみると、《行っている》は、世帯人数4人以下において、世帯人数が増えるにつれ高くなっている。(図表2-3-20)

図表 2-3-20 リサイクルショップやフリーマーケットなどで不要な衣類を
売ったり、買ったりする（職業・世帯人数・居住形態別）



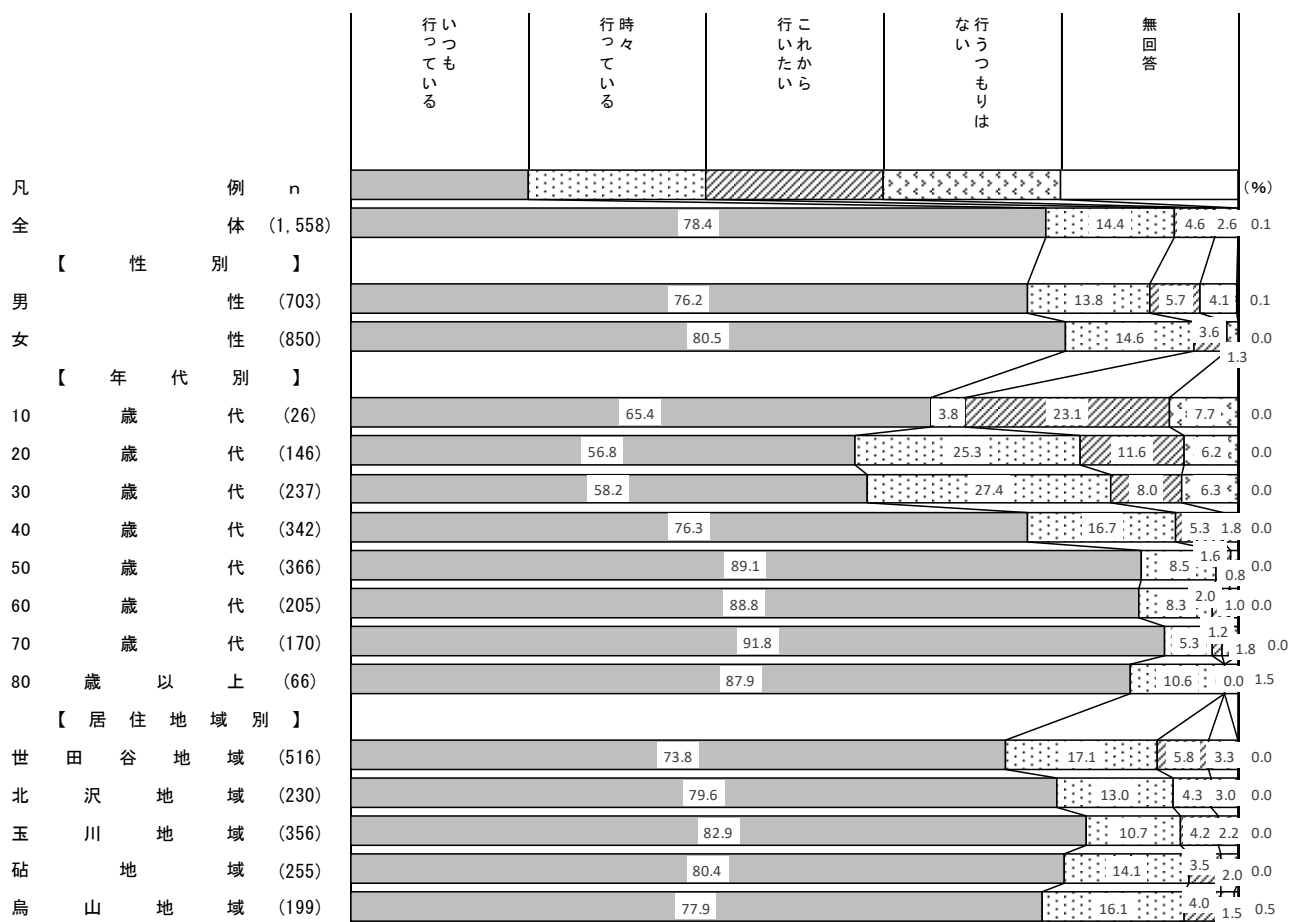
《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」は 3 ポイント余り、「時々行っている」は 10 ポイント近く増えている。その結果《行っている》は『平成 30 年度』は 39.3%、『令和 5 年度』は 52.2%となっており、12 ポイント余り増加している。(図表 2-3-21)



(ク) 新聞・雑誌などは可燃ごみではなく、資源として出すなど、ごみ・資源の分別を徹底する

図表 2-3-22 新聞・雑誌などは可燃ごみではなく、資源として出すなど、ごみ・資源の分別を徹底する (性・年代・居住地域別)



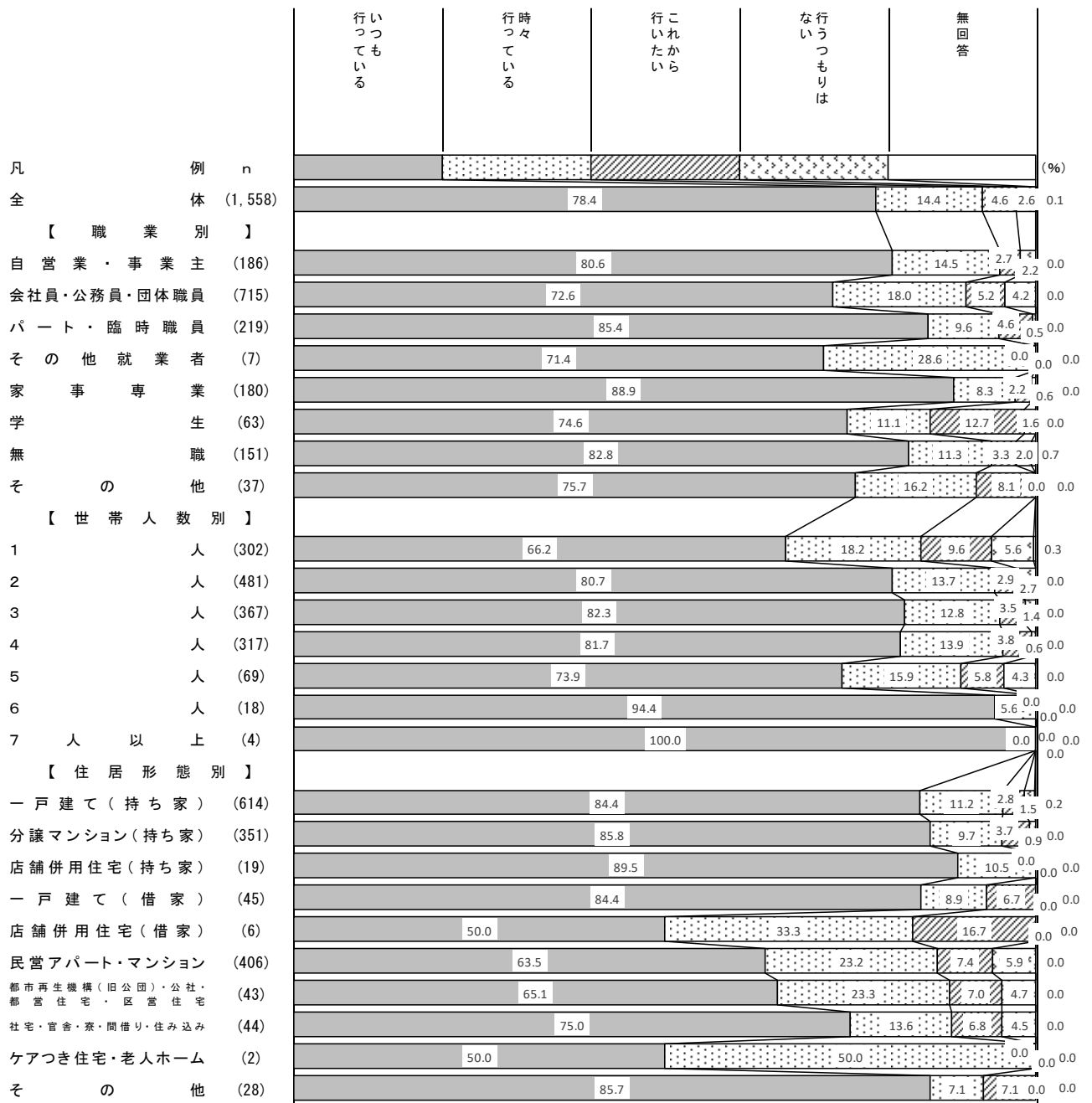
全体で見ると、「いつも行っている」が78.4%で最も高く、「時々行っている」(14.4%)と合わせると92.8%が《行っている》と回答している。また、4.6%が「これから行いたい」と回答している。

年代別にみると、「いつも行っている」は30歳代から下の年代では6割程度であるのに対し、40歳代(76.3%)では7割以上、50歳代より上の年代ではいずれも9割近くとなっている。(図表2-3-22)

職業別にみると、「いつも行っている」は家事専業(90.5%)で高く、9割前後となっている。

住居形態別にみると、「いつも行っている」は民間アパート・マンション(63.5%)、都市再生機構(旧公団)・公社・都営住宅・区営住宅(65.1%)などで低くなっている。(図表1-3-23)

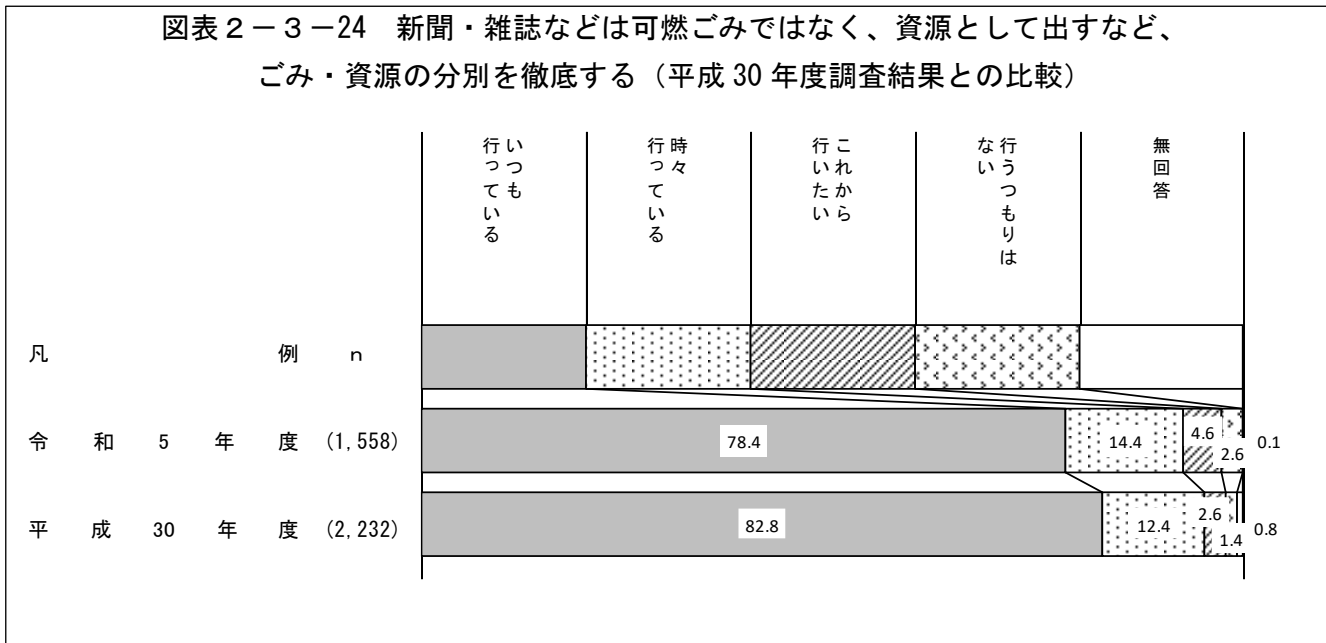
図表 2-3-23 新聞・雑誌などは可燃ごみではなく、資源として出すなど、
ごみ・資源の分別を徹底する（職業・世帯人数・居住形態別）



《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」4ポイント余り減少し、「時々行っている」が2ポイント増加している。《行っている》は、『平成 30 年度』は 95.2%、『令和 5 年度』は 92.8%となっており、2ポイント余り減少している。(図表 2-3-24)

図表 2-3-24 新聞・雑誌などは可燃ごみではなく、資源として出すなど、
ごみ・資源の分別を徹底する（平成 30 年度調査結果との比較）



《その他の取組み》

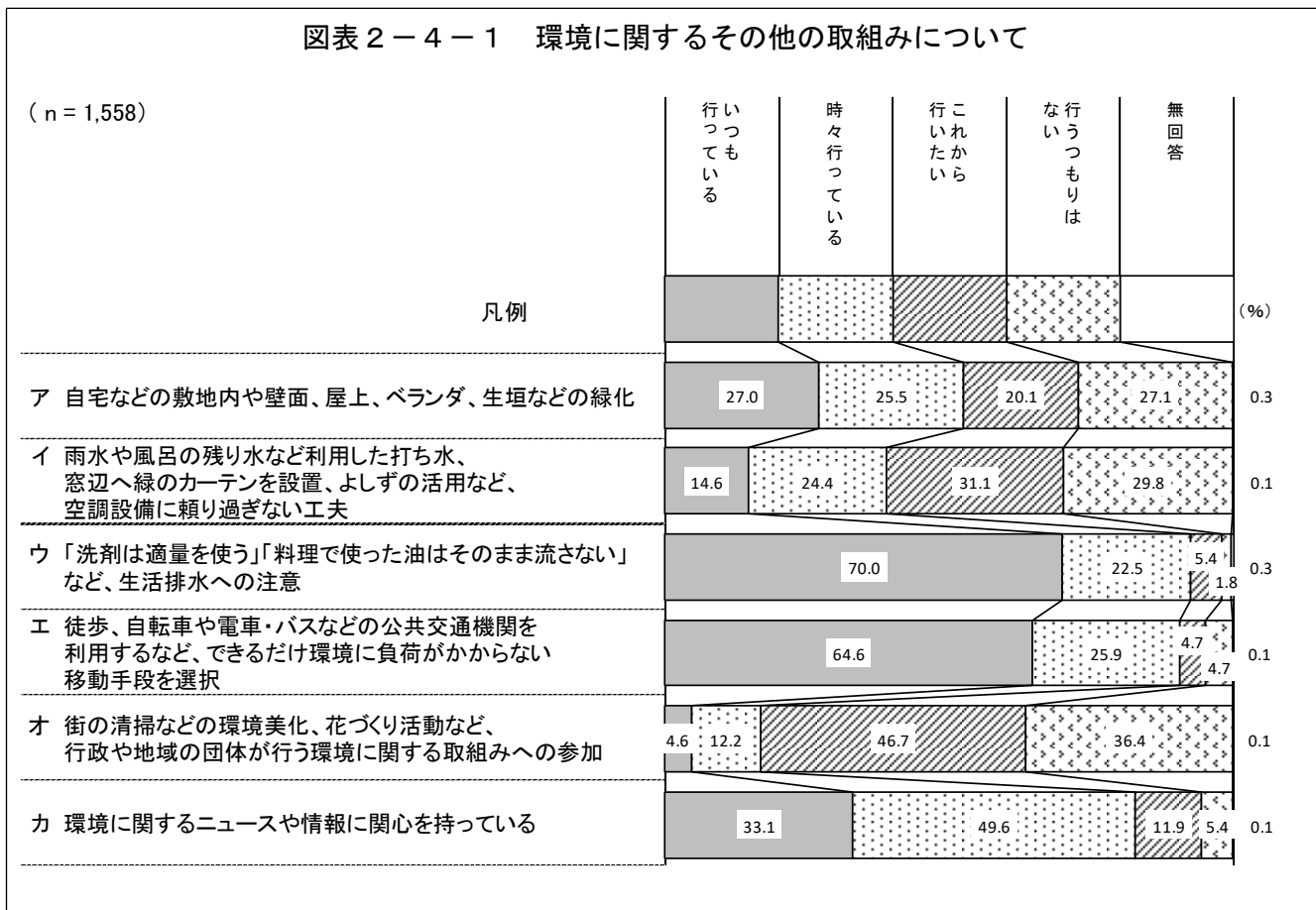
その他に行っている取組みについて121件の回答があった。「分別・資源回収」に関する取組みが29件と最も多く、次いで「ごみの減量」に関する取組みが28件、「リサイクルに出す(フリマ含む)」が21件となっている。なお、複数の内容を含む回答は、該当する項目すべてにカウントしている。以下、回答の抜粋。

- 透明のトレイ・プラごみを社会福祉協議会の回収に持参(男性70歳代・玉川地域)
- 古着や、不用品(新品も含む)等を福祉関係の法人のショップに寄付している。(女性80歳以上・世田谷地域)
- 近所の人と譲り合いをして、物を捨てずに循環させている。自宅前に、「ご自由にどうぞ」という箱を置いている。(女性40歳代・世田谷地域)
- 新聞、雑誌購入廃止、裏紙のメモ活用、冷凍食品用トレーの活用、食品販売用プラケースの活用、など(女性50歳代・烏山地域)
- 子供服、子供用品を使う人にあげる(女性40歳代・砧地域)
- 捨てる前のタオル類は最後に拭き掃除に使う。(女性40歳代・玉川地域)
- 資源は業者にできるだけ出すように努めている。(男性80歳以上・玉川地域)

(4) 環境に関するその他の取組みについて

(4) 次のア～カの環境に関するその他の取組みについて、それぞれ当てはまる番号に1つ○をつけてください。また、その他に行っている取組みがあれば記入してください。

図表 2-4-1 環境に関するその他の取組みについて

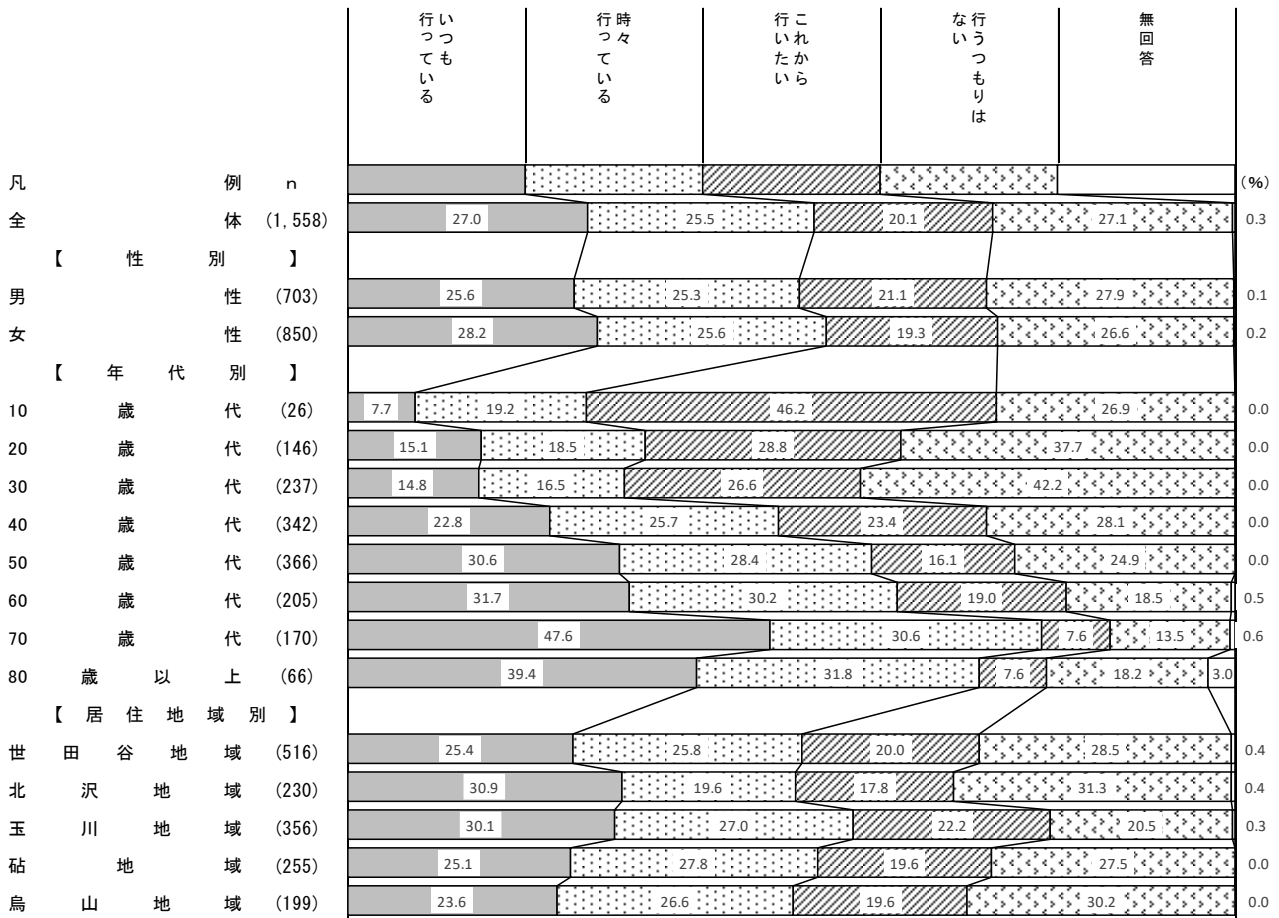


6項目の環境に関するその他の取組みについて、「いつも行っている」は、『ウ 「洗剤は適量を使う」「料理で使った油はそのまま流さない」など、生活排水への注意』(70.0%)、『エ 徒歩、自転車や電車・バスなどの公共交通機関を利用するなど、できるだけ環境に配慮した交通手段を利用』(64.6%)の2項目で5割以上となっている。

《行っている》は、『イ 雨水や風呂の残り水などを利用した打ち水、窓辺への緑のカーテンを設置、よしずの活用など、空調設備に頼り過ぎない工夫』、『オ 街の清掃などの環境美化、花づくり活動など、行政や地域の団体が行う環境に関する取組みへの参加』を除いた4項目で5割以上となっている。(図2-4-1)

(ア) 自宅などの敷地内や壁面、屋上、ベランダ、生垣などの緑化

図表 2-4-2 自宅などの敷地内や壁面、屋上、ベランダ、生垣などの緑化
(性・年代・居住地域別)



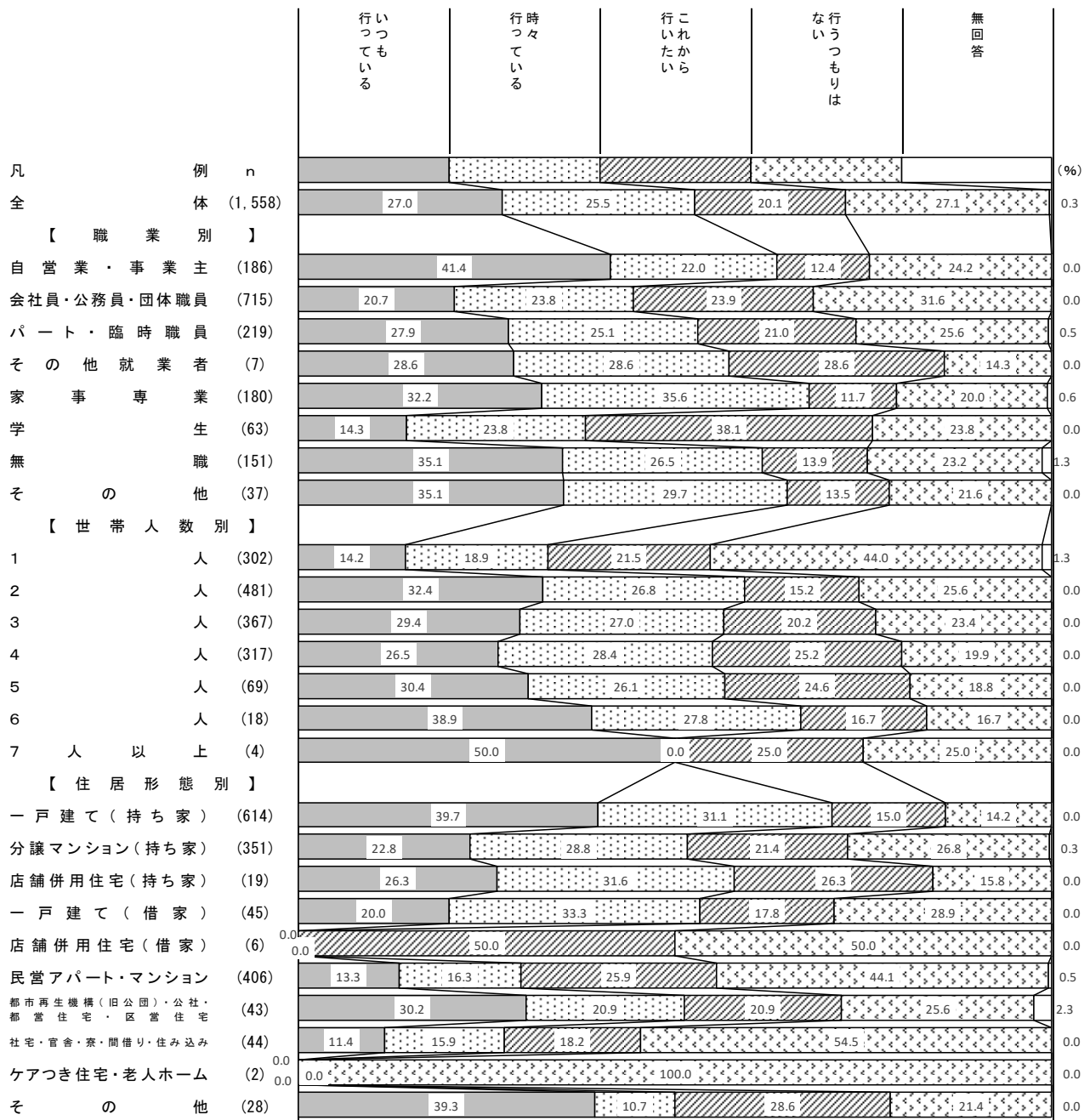
全体で見ると、「行うつもりはない」が27.1%で、「いつも行っている」(27.0%) とほぼ同じ水準である。「いつも行っている」(27.0%) と「時々行っている」(25.5%) とを合わせると52.5%が《行っている》と回答している。また、20.1%が「これから行いたい」と回答している。

年代別にみると、30歳代から70歳代の年代において、「いつも行っている」が、年代が上がるにつれ高くなっている。「行うつもりはない」は、30歳代(42.2%)、20歳代(37.7%)で高くなっている。(図表2-4-2)

世帯人数別にみると、「いつも行っている」は世帯人数が1人(14.2%)で低くなっている。

住居形態別にみると、「いつも行っている」は一戸建て(持ち家)(39.7%)で高く、社宅・官舎・寮・間借り・住み込み(11.4%)、民営アパート・マンション(13.3%)などで低くなっている。(図表2-4-3)

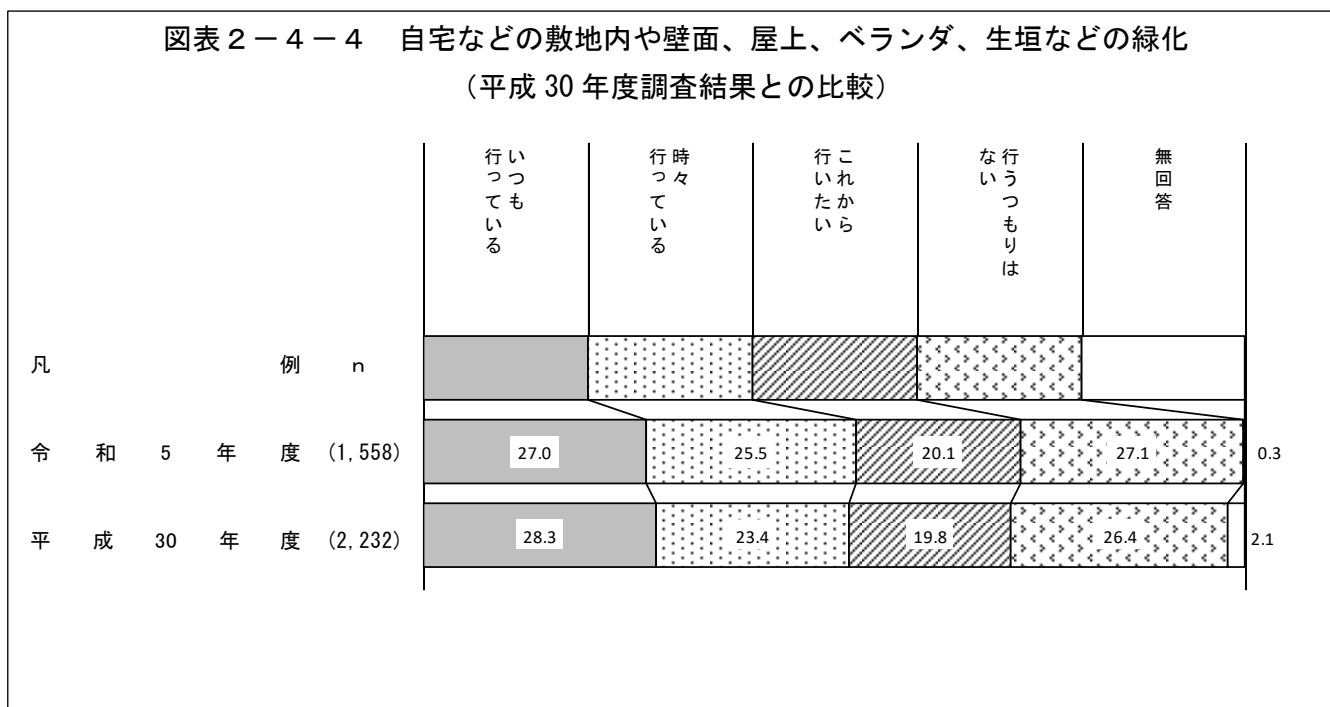
図表 2-4-3 自宅などの敷地内や壁面、屋上、ベランダ、生垣などの緑化
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

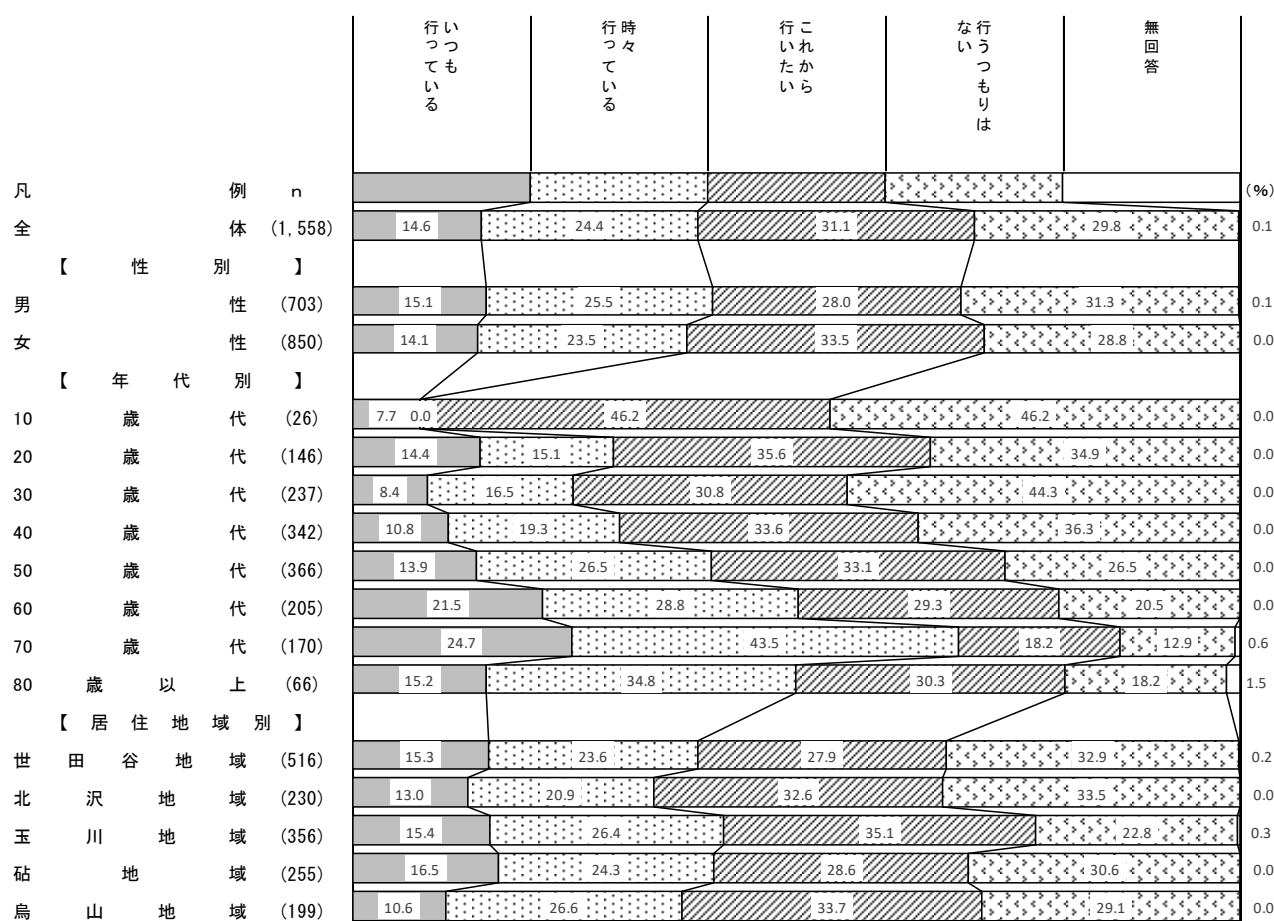
平成 30 年度調査と比較すると、《行っている》は『平成 30 年度』は 51.7%、『令和 5 年度』は 52.5% となっており、ほぼ増減はみられない。(図表 1-4-4)

図表 2-4-4 自宅などの敷地内や壁面、屋上、ベランダ、生垣などの緑化
(平成 30 年度調査結果との比較)



(イ) 雨水や風呂の残り水などを利用した打ち水、窓辺へ緑のカーテンを設置、よしずの活用など、空調設備に頼り過ぎない工夫

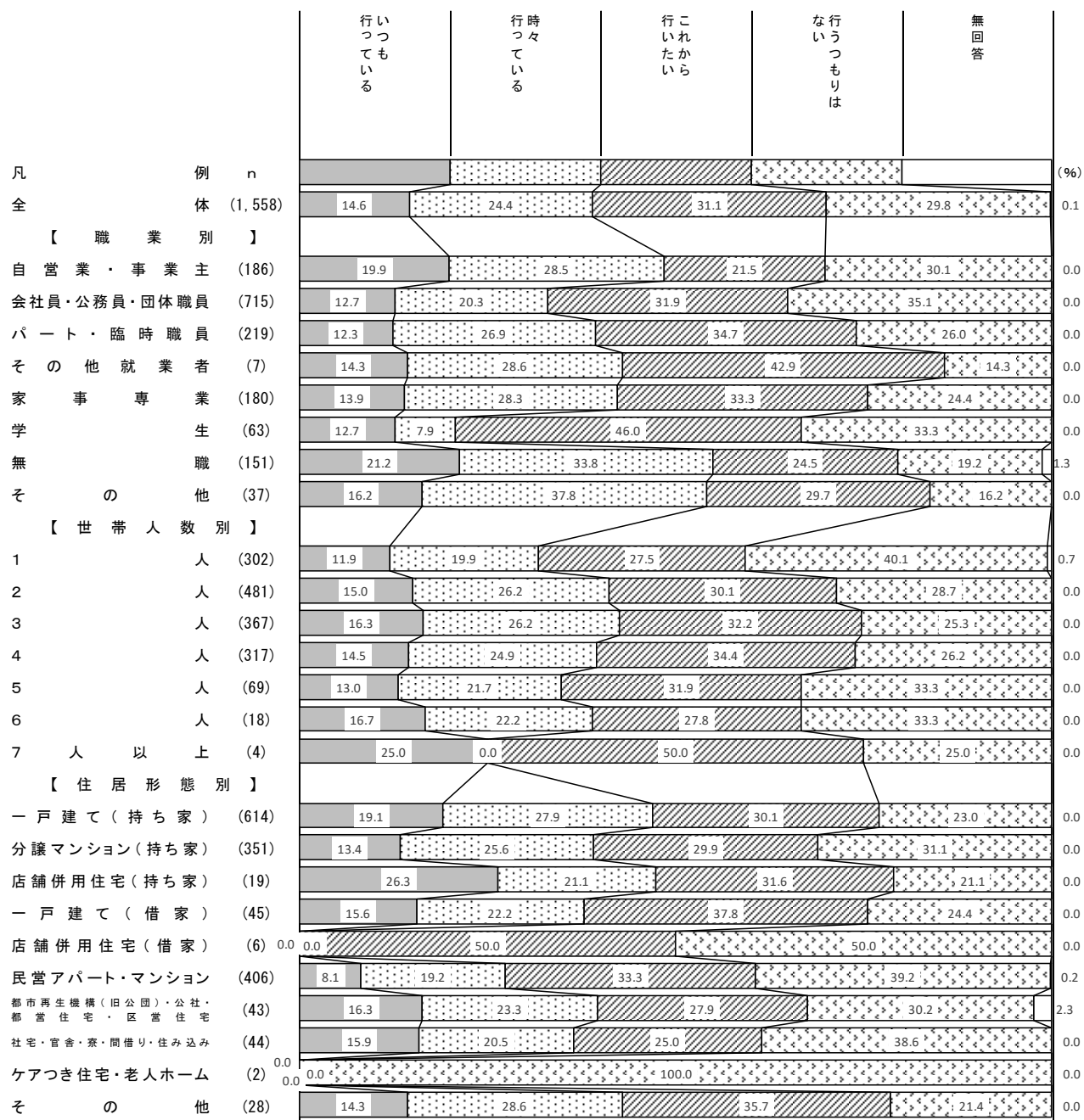
図表 2-4-5 雨水や風呂の残り水などを利用した打ち水、窓辺へ緑のカーテンを設置、よしずの活用など、空調設備に頼り過ぎない工夫 (性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「これから行いたい」が 31.1%で最も高くなっている。「いつも行っている」(14.6%)と「時々行っている」(24.4%)と合わせると 39.0%が《行っている》と回答している。

年代別にみると、30歳代から70歳代の年代において「いつも行っている」は年代が上がるにつれ高くなっている。「行うつもりはない」は10歳代(46.2%)、30歳代(44.3%)で高くなっている。(図表2-4-5)

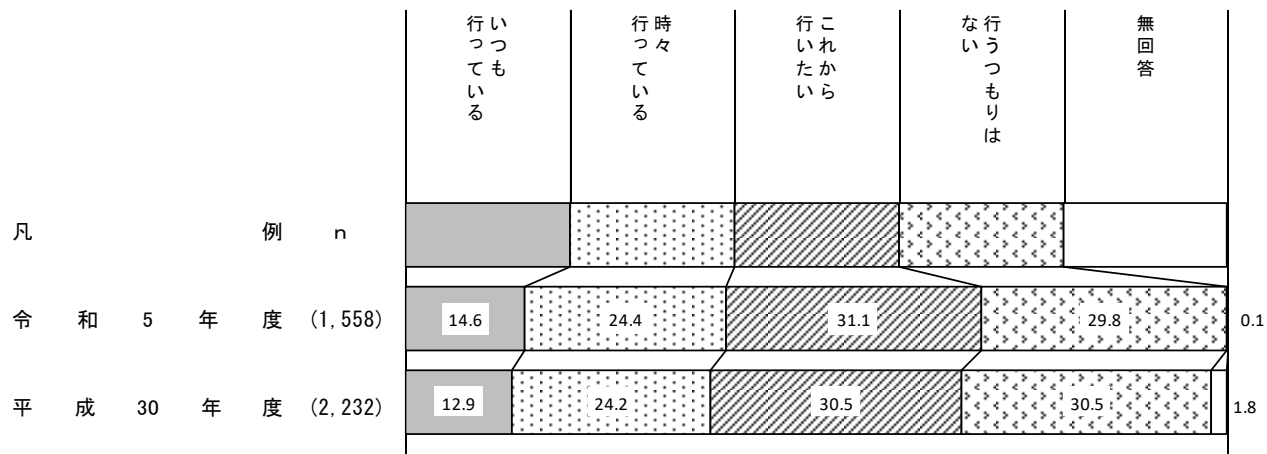
図表 2-4-6 雨水や風呂の残り水などを利用した打ち水、窓辺へ緑のカーテンを設置、よしずの活用など、空調設備に頼り過ぎない工夫（職業・世帯人数・居住形態別）



《平成 30 年度調査結果との比較》

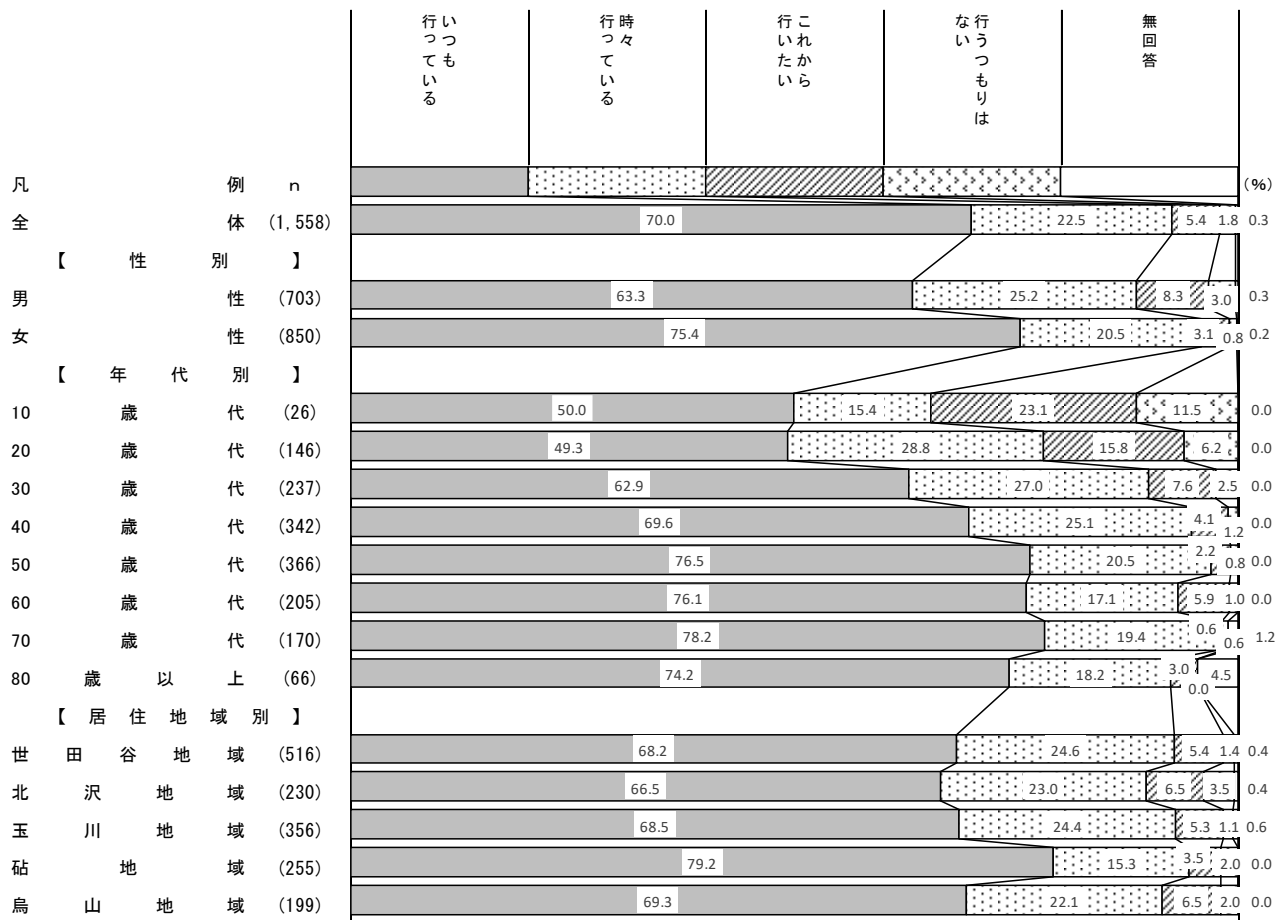
平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」は 1 ポイント余りの増加、「時々行っている」0.2 ポイント増加とほぼ横ばいとなっている。《行っている》は、『平成 30 年度』は 37.1%、『令和 5 年度』は 39.0%となっており、2 ポイント近い増加となっている。(図表 2-4-7)

図表 2-4-7 雨水や風呂の残り水などを利用した打ち水、窓辺へ緑のカーテンを設置、よしずの活用など、空調設備に頼り過ぎない工夫（平成 30 年度調査結果との比較）



(ウ) 「洗剤は適量を使う」「料理で使った油はそのまま流さない」など、生活排水への注意

図表 2-4-8 「洗剤は適量を使う」「料理で使った油はそのまま流さない」など、生活排水への注意（性・年代・居住地域別）

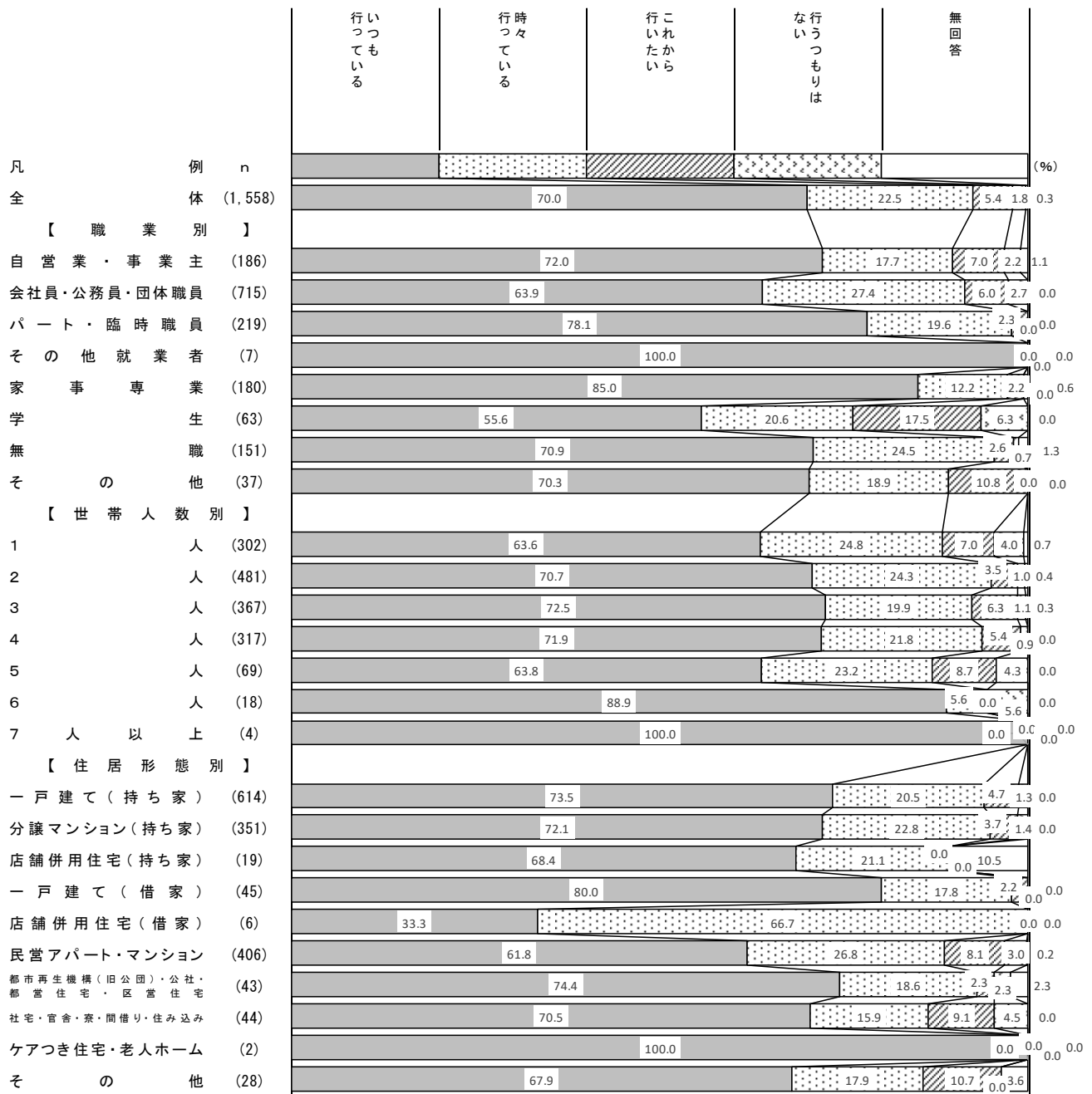


全体で見ると、「いつも行っている」が70.0%で最も高く、「時々行っている」(22.5%)と合わせると92.5%が《行っている》と回答している。また、5.4%が「これから行いたい」と回答している。

性別にみると、「いつも行っている」は男性(63.3%)に比べ女性(75.4%)が高くなっている。

年代別にみると、「いつも行っている」は、50歳代より上の年代においていずれも7割以上と高くなっている。(図表2-4-8)

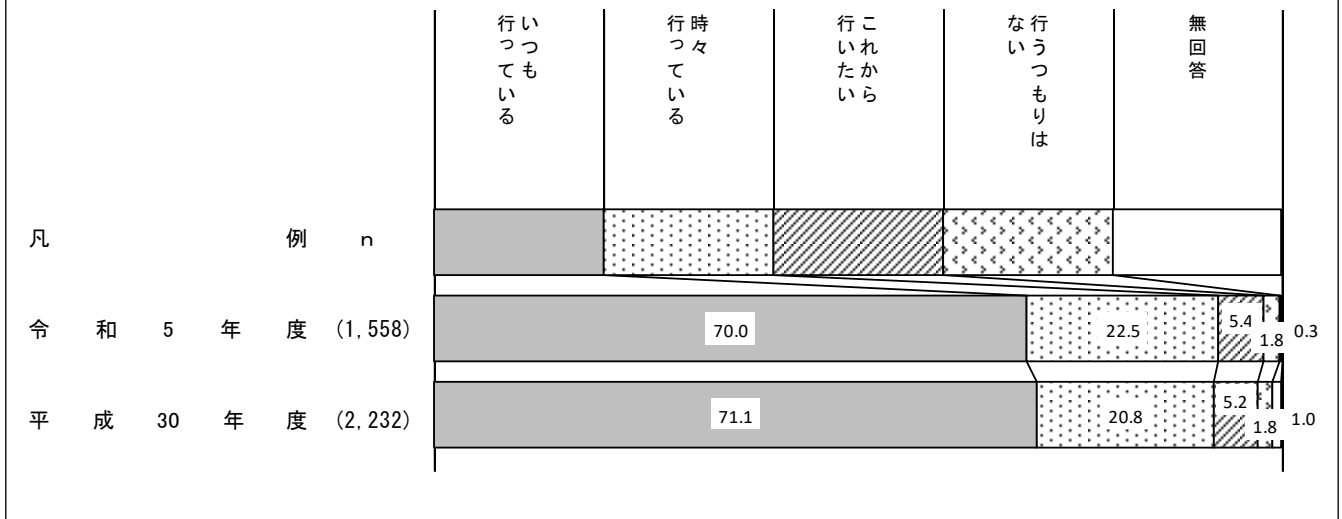
図表 2-4-9 「洗剤は適量を使う」「料理で使った油はそのまま流さない」など、
注意生活排水への注意（職業・世帯人数・居住形態別）



《平成 30 年度調査結果との比較》

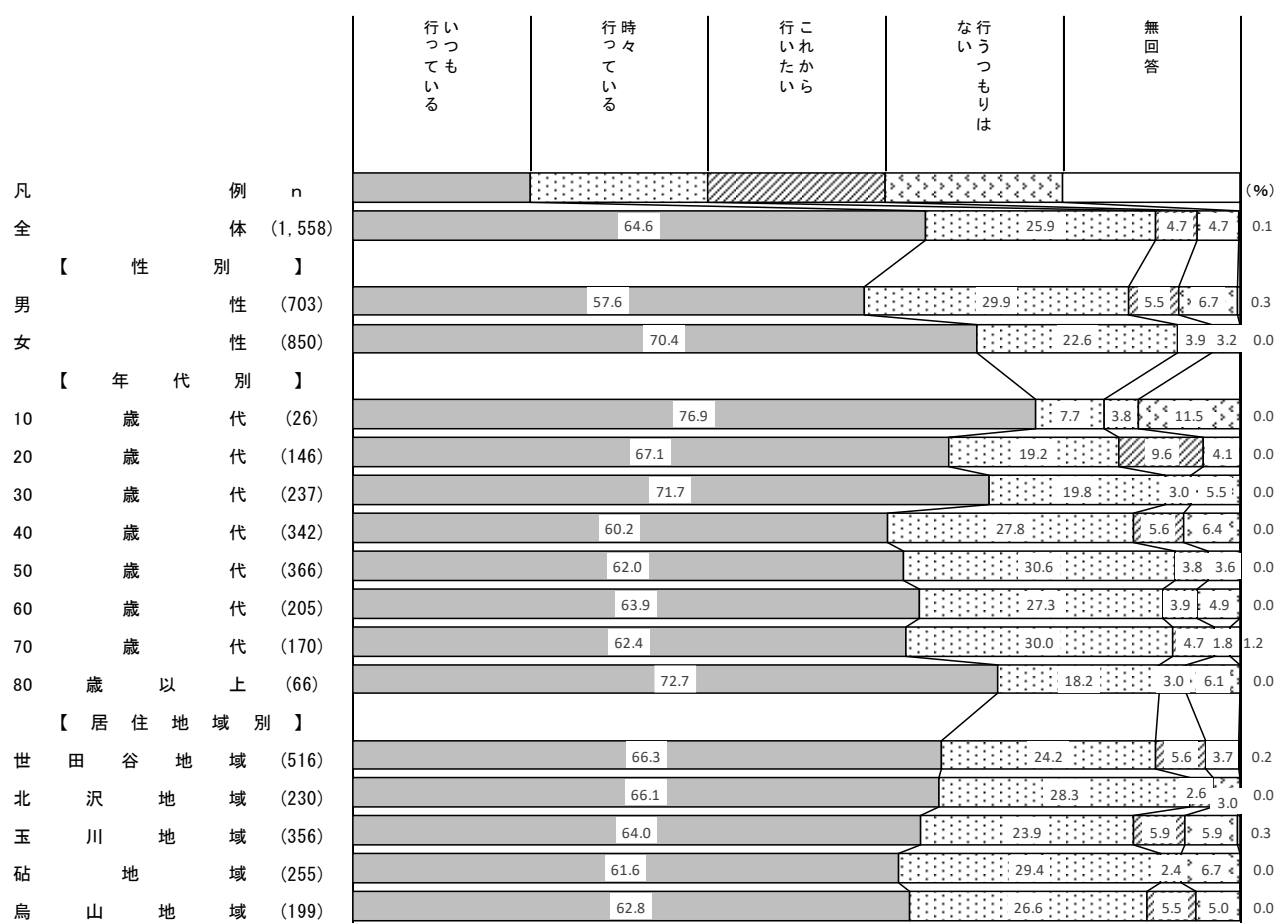
平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」は 1 ポイント程度減少し、「時々行っている」は 1 ポイント余り増加している。《行っている》は、『平成 30 年度』は 91.9%、『令和 5 年度』は 92.5%となっており、増減はほぼない。(図表 2-4-10)

図表 2-4-10 「洗剤は適量を使う」「料理で使った油はそのまま流さない」など、生活排水への注意（平成 30 年度調査結果との比較）



(エ) 徒歩、自転車や電車・バスなどの公共交通機関を利用するなど、できるだけ環境に負荷がかからない移動手段を利用

図表 2-4-11 徒歩、自転車や電車・バスなどの公共交通機関を利用するなど、できるだけ環境に負荷がかからない移動手段を利用 (性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「いつも行っている」が 64.6%で最も高く、「時々行っている」(25.9%) と合わせると 90.5%が《行っている》と回答している。また、4.7%が「これから行いたい」と回答している。

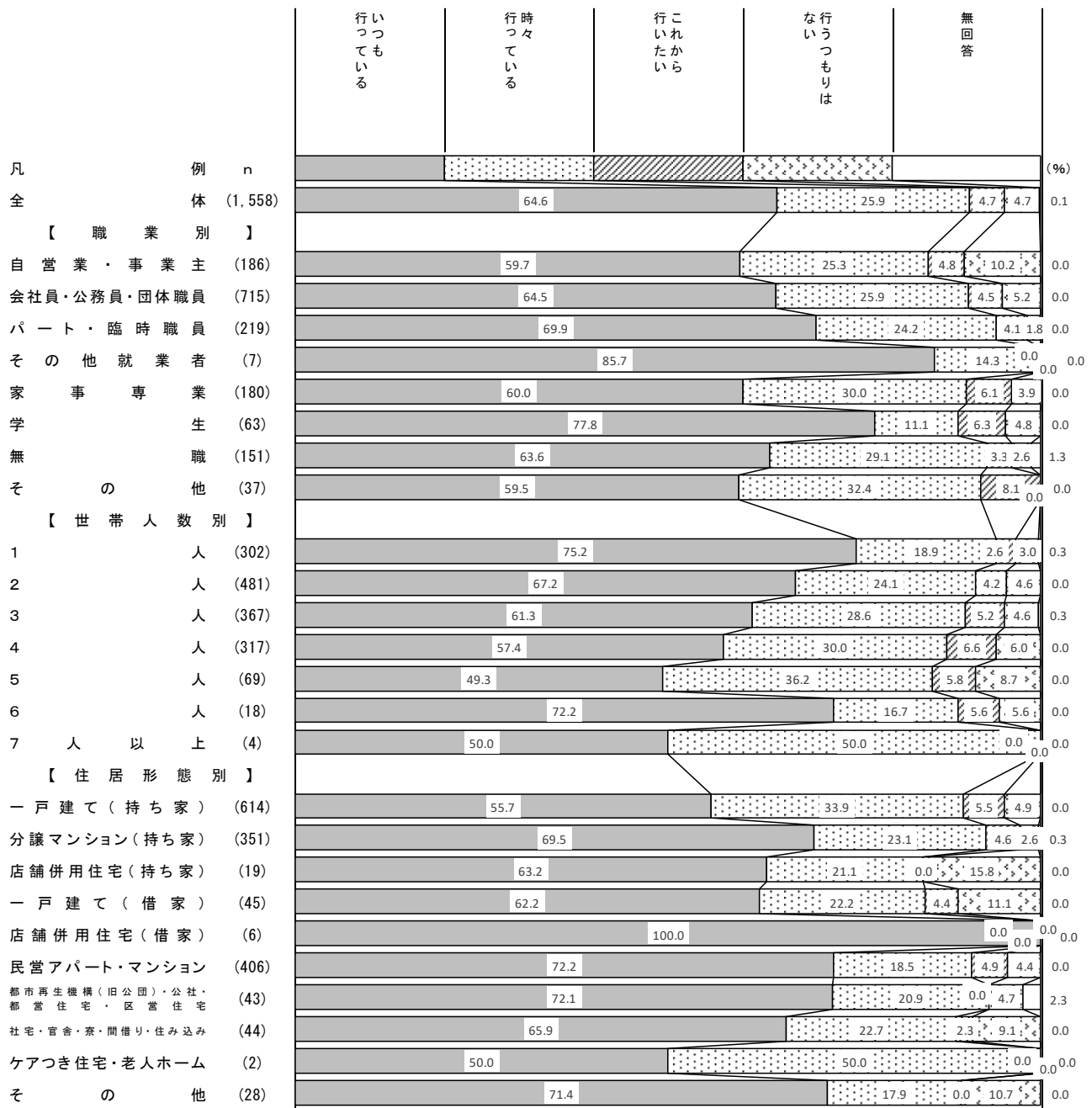
性別にみると、「いつも行っている」は男性 (57.6%) に比べ女性 (70.4%) が高くなっている。

年代別にみると、「いつも行っている」は、40歳代 (60.2%) で低く、10歳代 (76.9%) で高い。いずれの年代も 60%~70%代となっている。(図表 2-4-11)

世帯人数別にみると、世帯人数が 1人から 5人において、「いつも行っている」は世帯人数が増えるにつれ低くなっている。

住居形態別にみると、「いつも行っている」は民営アパート・マンション (72.2%)、都市再生機構 (旧公団)・公社・都営住宅・区営住宅 (72.1%) などが高くなっている。

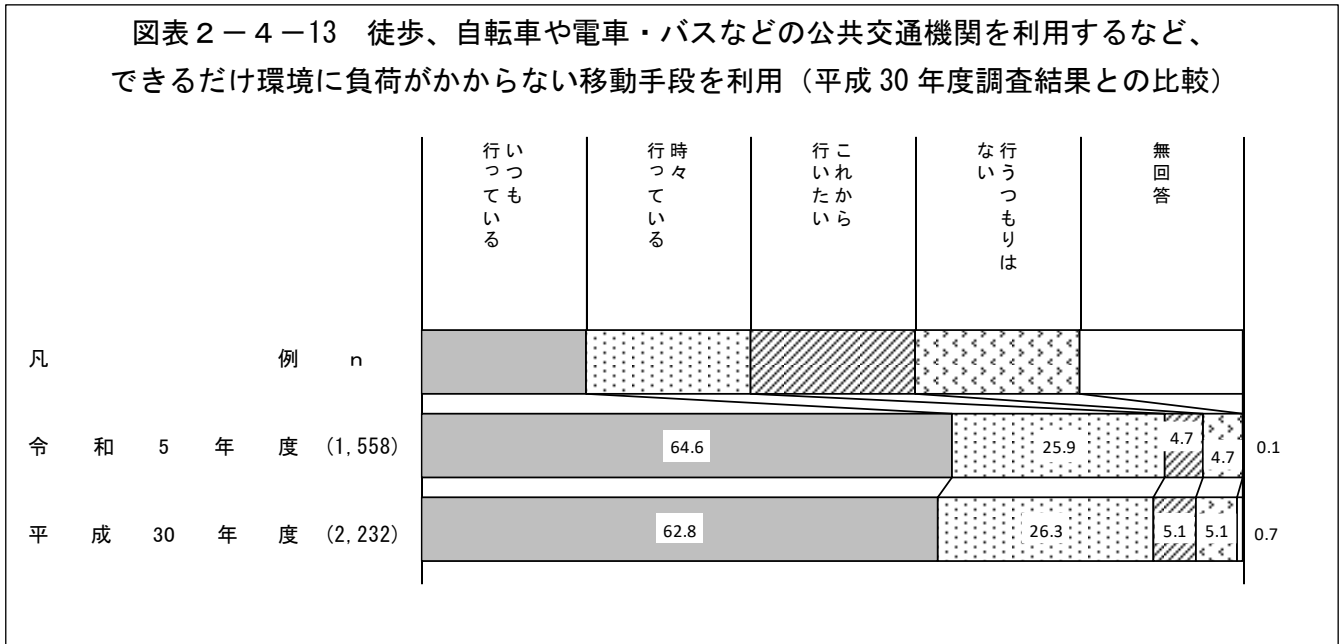
図表 2-4-12 徒歩、自転車や電車・バスなどの公共交通機関を利用するなど、
できるだけ環境に負荷がかからない移動手段を利用
(職業・世帯人数・居住形態・自家用車の有無別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

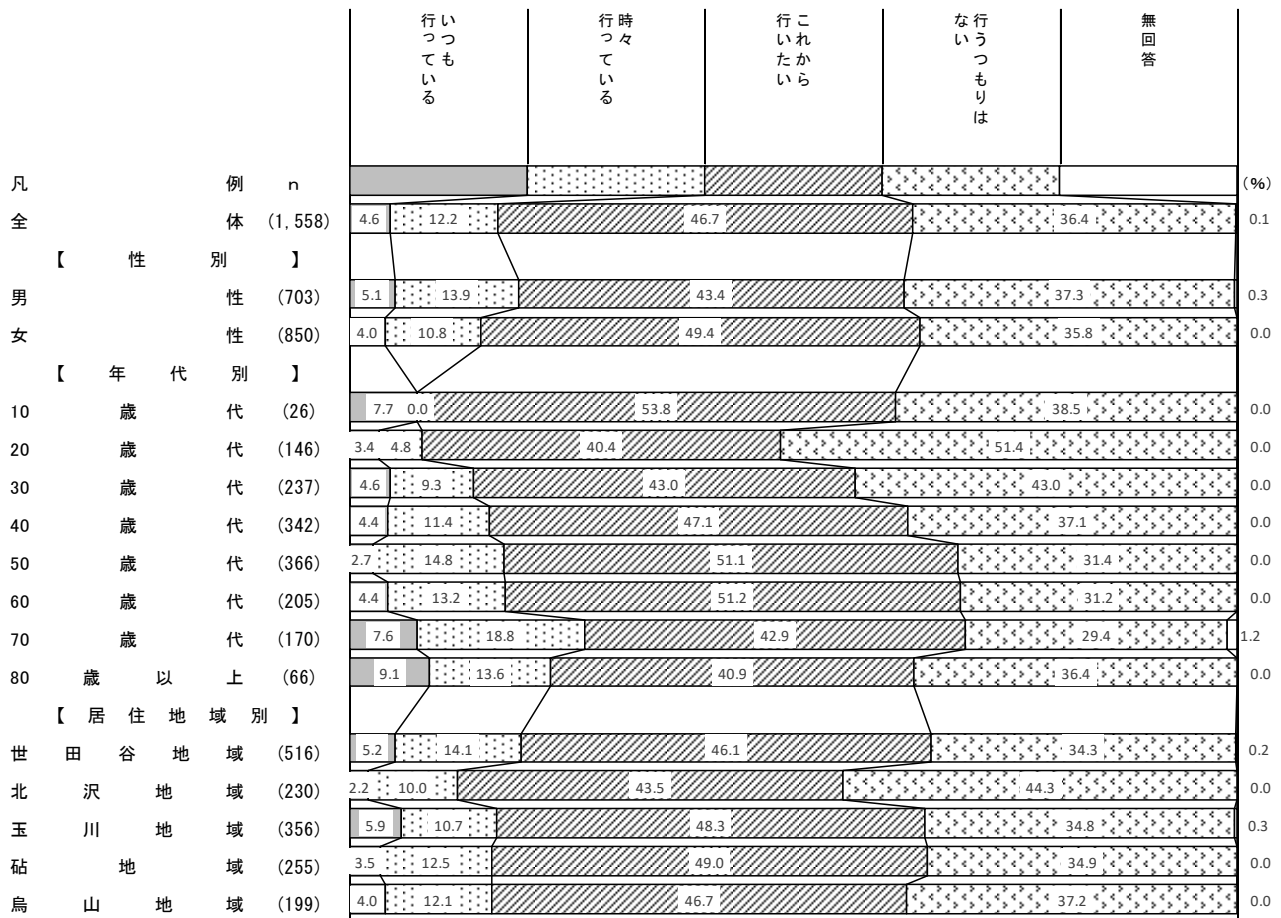
平成 30 年度調査と比較すると、「いつも行っている」は 1 ポイント余り増加し、「時々行っている」は 0.4 ポイントの減少とほぼ横ばいとなっている。《行っている》は、『平成 30 年度』は 89.1%、『令和 5 年度』は 90.5%となっており、1 ポイント余り増加している。(図表 2-4-13)

図表 2-4-13 徒歩、自転車や電車・バスなどの公共交通機関を利用するなど、できるだけ環境に負荷がかからない移動手段を利用（平成 30 年度調査結果との比較）



(オ) 街の清掃などの環境美化、花づくり活動など、行政や地域の団体が行う環境に関する
 取組みへの参加

図表 2-4-14 街の清掃などの環境美化、花づくり活動など、行政や地域の団体が行う
 環境に関する取組みへの参加 (性・年代・居住地域別)



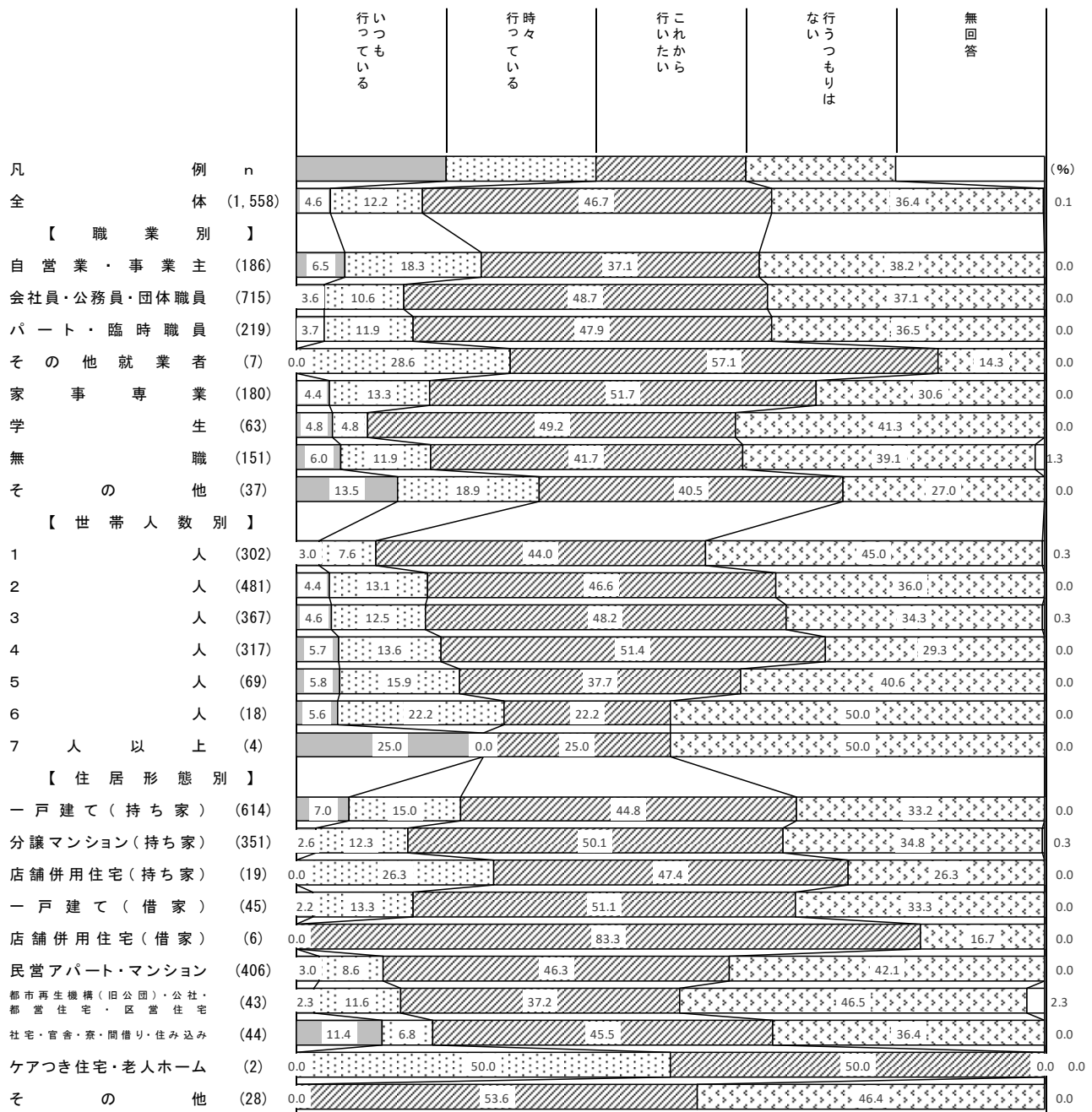
全体で見ると、「これから行いたい」が46.7%で最も高くなっている。

「いつも行っている」(4.6%)と「時々行っている」(12.2%)と合わせると16.8%が《行っている》と回答している。

年代別にみると、《行っている》は70歳代(26.4%)で高くなっている。

「行うつもりはない」は20歳代(51.4%)で高く、5割以上となっている。(図表2-4-14)

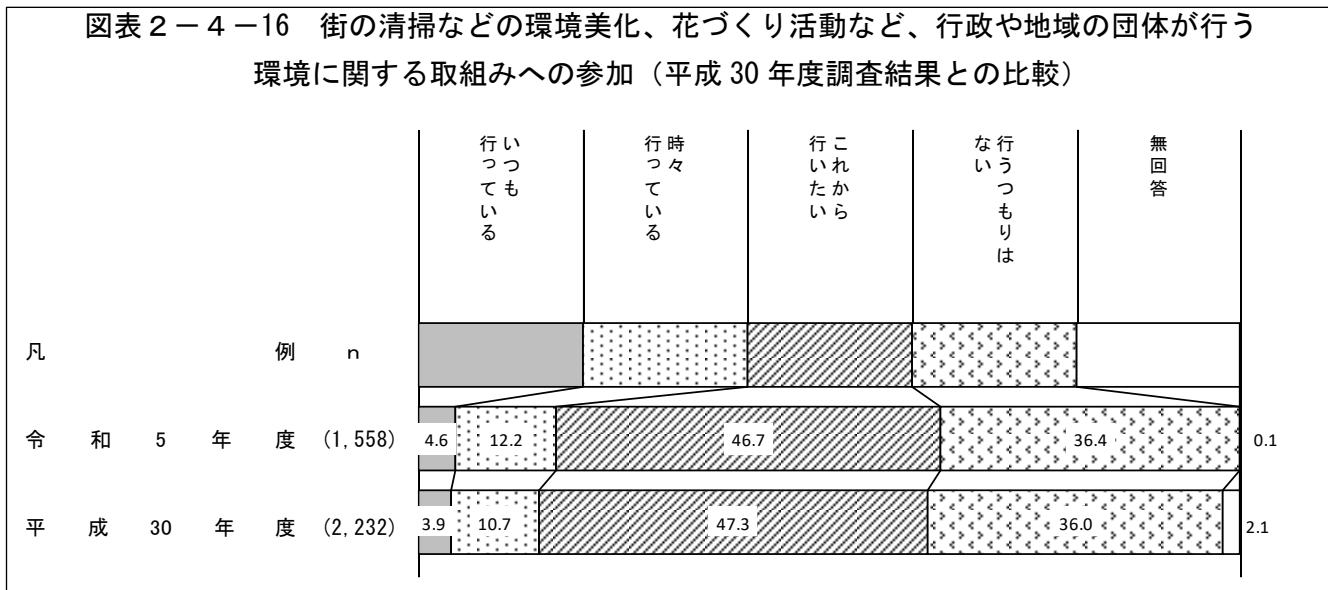
図表 2-4-15 街の清掃などの環境美化、花づくり活動など、行政や地域の団体が行う環境に関する取組みへの参加（職業・世帯人数・居住形態別）



《平成 30 年度調査結果との比較》

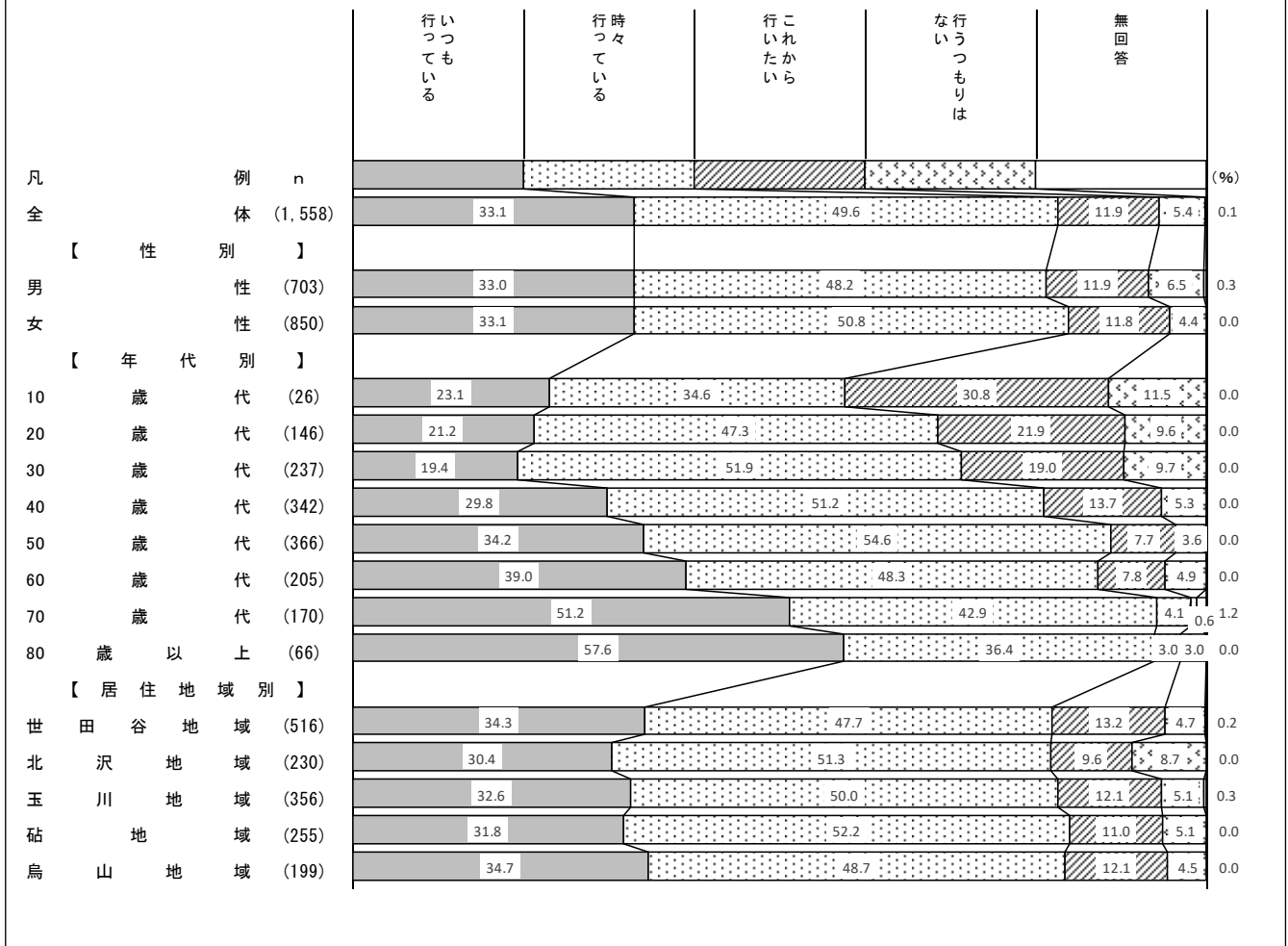
平成 30 年度調査と比較すると、《行っている》は『平成 30 年度』は 14.6%、『令和 5 年度』は 16.8% で 2 ポイント余り増加している。(図表 1-4-16)

図表 2-4-16 街の清掃などの環境美化、花づくり活動など、行政や地域の団体が行う環境に関する取組みへの参加（平成 30 年度調査結果との比較）



(カ) 環境に関するニュースや情報に関心を持っている

図表 2-4-17 環境に関するニュースや情報に関心を持っている
(性・年代・居住地域別)

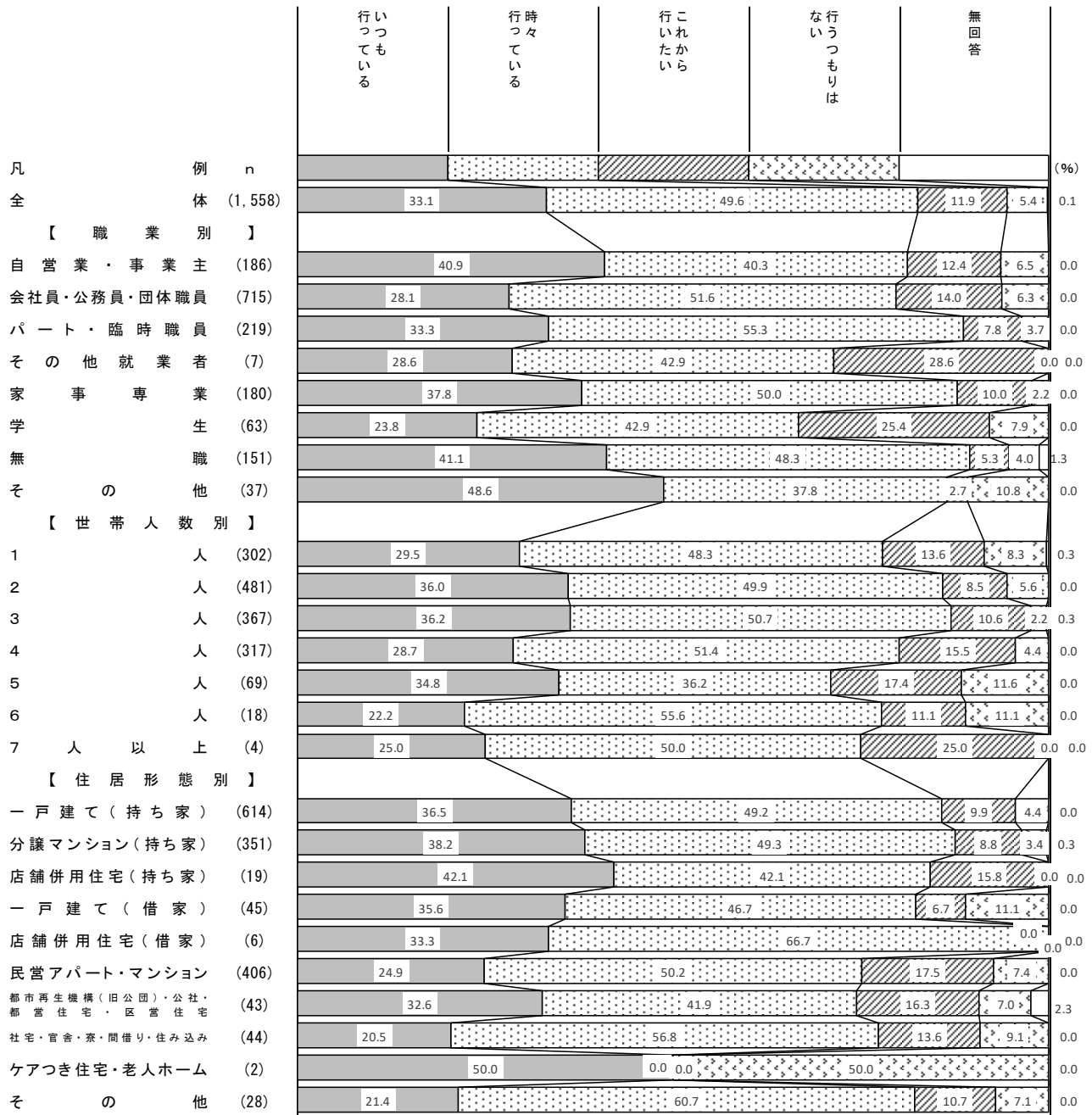


全体で見ると、「時々行っている」が49.6%で最も高く、「いつも行っている」(33.1%)と合わせると82.7%が《行っている》と回答している。また、11.9%が「これから行いたい」と回答している。

年代別にみると、30歳代より上の年代において、「いつも行っている」は年代が上がるにつれ高くなっている。(図表2-4-17)

職業別にみると、「いつも行っている」はその他(48.6%)、自営業・事業主(40.9%)で高くなっている。(図表1-4-19)

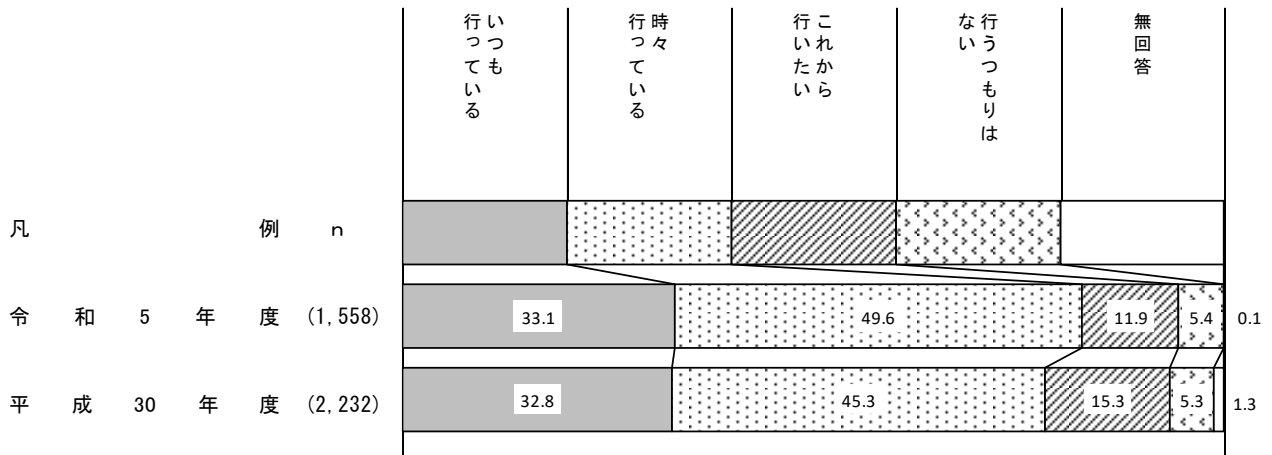
図表 2-4-18 環境に関するニュースや情報に関心を持っている
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成30年度調査結果との比較》

平成30年度調査と比較すると、《行っている》は『平成30年度』は78.1%、『令和5年度』は82.7%で4ポイント余り増加している。(図表2-4-19)

図表2-4-19 環境に関するニュースや情報に関心を持っている
(平成30年度調査結果との比較)



※平成30年度の項目は「新聞やニュースなどで環境に関する情報に関心を持っている」

《その他の取組み》

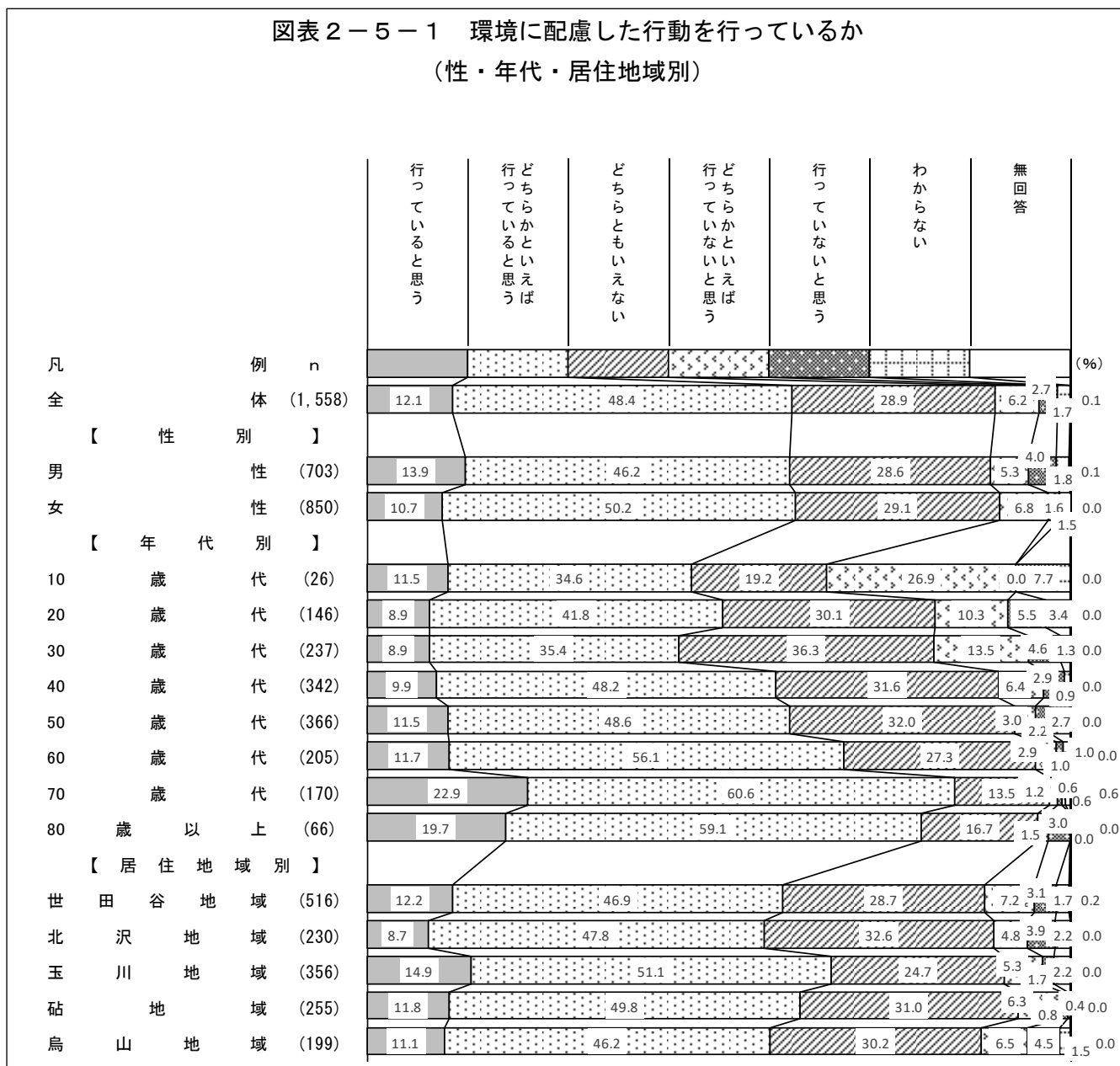
その他に行っている取組みについて70件の回答があった。「省エネ」に関する取組みが14件と最も多く、次いで、「清掃」が9件、「水質の保全」に関する取組みが8件となっている。なお、複数の内容を含む回答は、該当する項目すべてにカウントしている。以下、回答の抜粋。

- 毎日、自宅の回りの道路の清掃を行っている。落葉やたばこのポイ捨てが多い（女性 80 歳以上・世田谷地域）
- 書籍などのリユース、図書館の利用（女性 70 歳代・玉川地域）
- よしず等は台風時が怖いので使っていませんが、遮熱カーテンを取り付けました。（女性 40 歳代・玉川地域）
- できるだけ公共交通機関を利用して移動する（女性 70 歳代・砧地域）
- エコ洗剤の使用（女性 40 歳代・玉川地域）
- エコカーに乗っている（男性 40 歳代・玉川地域）

(5) 環境に配慮した行動を行っているか

(5) あなたは他の人に比べて、環境に配慮した行動を行っていると思いますか。(〇は1つ)

図表 2-5-1 環境に配慮した行動を行っているか
(性・年代・居住地域別)

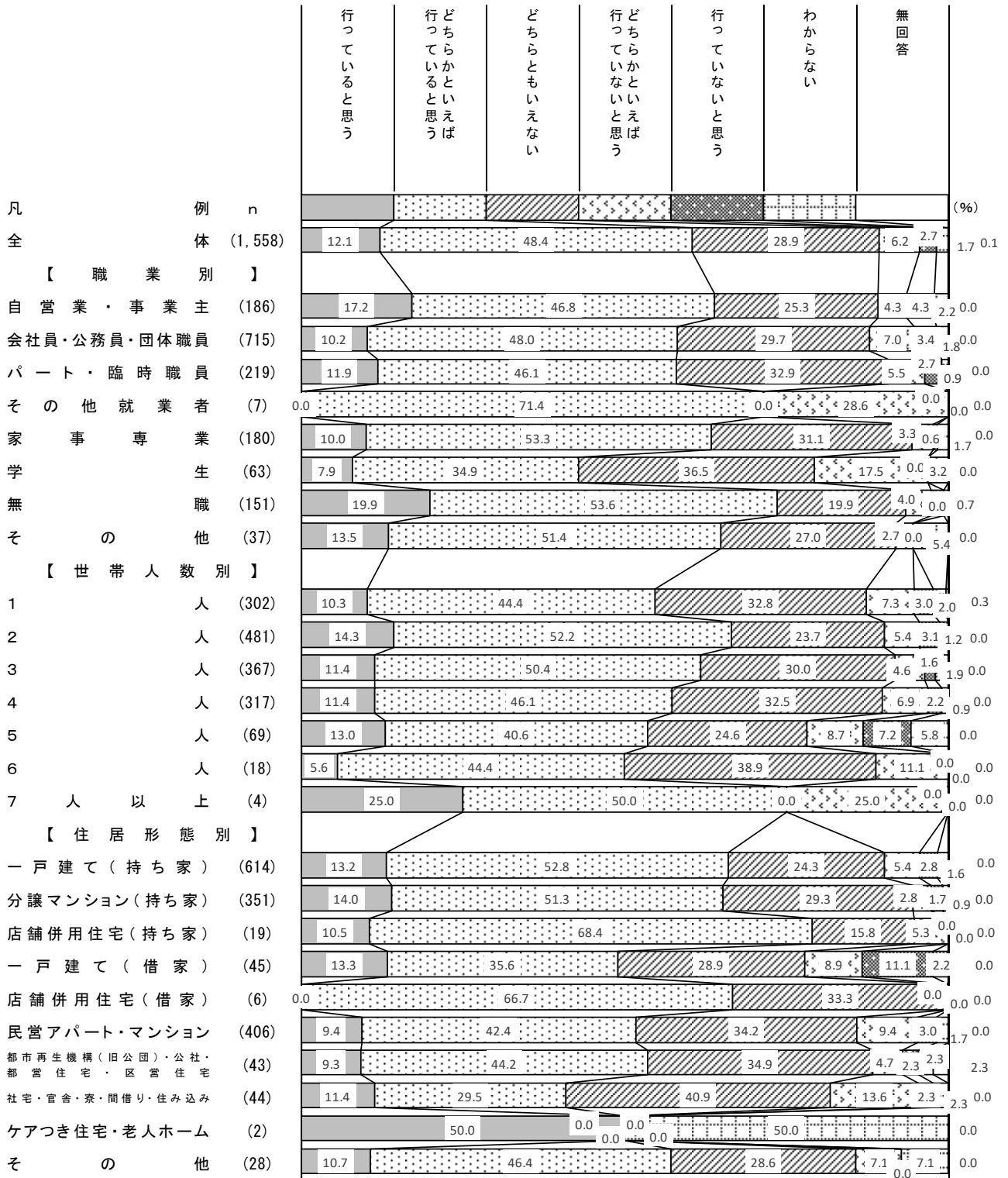


全体では「どちらかといえば行っていると思う」が 48.4%で高く、「行っていると思う」(12.1%)を合わせると、「行っていると思う」は 60.5%と 6割以上となっている。

年代別では《行っていると思う》は 30歳代から 70歳代において年代が上がるにつれて高くなっている。(図表 2-5-1)

世帯人数別でみると《行っていると思う》が 2人から 6人において世帯人数が増えるにつれて低くなっている。(図 2-5-2)

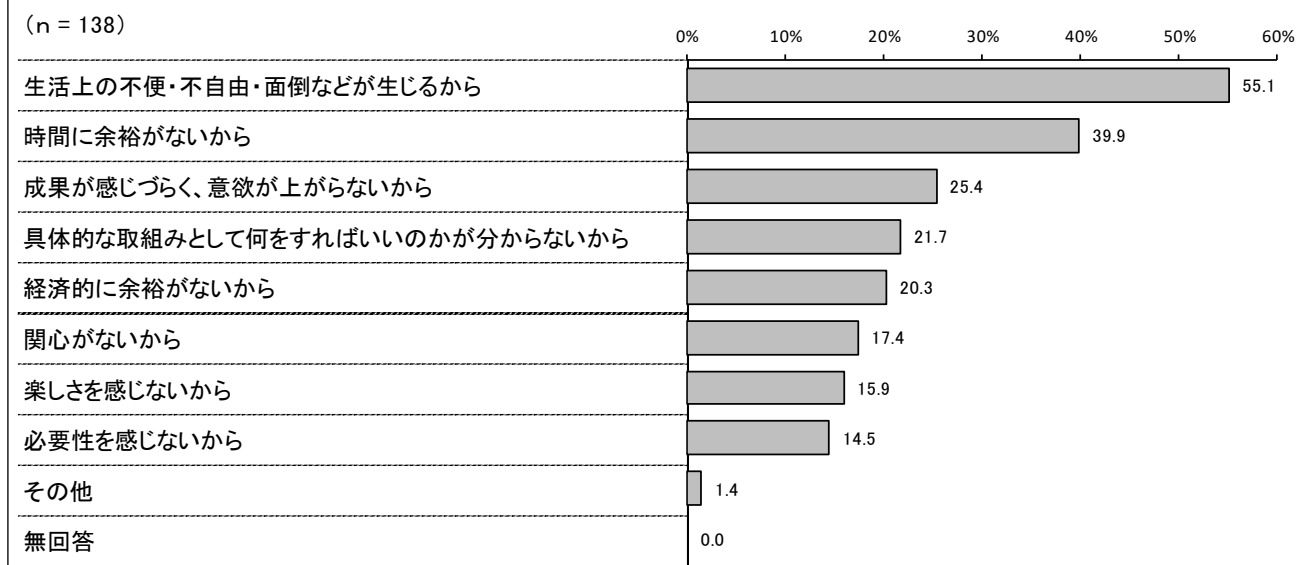
図表 2-5-2 環境に配慮した行動を行っているか
(職業・世帯人数・居住形態別)



(6) 環境に配慮した行動を妨げている理由

(6) 上記(5)で「どちらかといえば行っていないと思う」、または「行っていないと思う」に○をつけた方にお聞きします。環境に配慮した行動を妨げている理由は何ですか。
(○はいくつでも)

図表 2-6-1 環境に配慮した行動を妨げている理由



環境に配慮した行動について、「どちらかといえば行っていないと思う」、または「行っていないと思う」と回答した138人にその理由を複数回答で質問している。

その結果をみると「生活上の不便・不自由、面倒などが生じるから」が55.1%で最も高く過半数となっている。次いで「時間に余裕がないから」(39.9%)、「成果が感じづらく、意欲が上がらないから」(25.4%)となっている。(図表2-6-1)

図表 2-6-2 環境に配慮した行動を妨げている理由（性・年代・居住地域別）

(%)

		n	生活の上の不便・ 生じるから・面倒 などが	時間に余裕がない から	成果が感じづらく、 意欲が上がらない から	何をすればいいの か分からないから	具体的な取組みと しなれないから	経済的に余裕が ないから	関心がないから	楽しさを感じない から	必要性を感じない から	その他	無回答
全 体		138	55.1	39.9	25.4	21.7	20.3	17.4	15.9	14.5	1.4	0.0	
性別	男性	65	52.3	32.3	29.2	13.8	15.4	23.1	18.5	16.9	1.5	0.0	
	女性	72	58.3	47.2	22.2	27.8	25.0	12.5	13.9	12.5	1.4	0.0	
年齢別	10歳代	7	57.1	42.9	28.6	14.3	14.3	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0	
	20歳代	23	56.5	43.5	21.7	17.4	26.1	17.4	8.7	17.4	0.0	0.0	
	30歳代	43	58.1	37.2	30.2	25.6	34.9	11.6	16.3	14.0	0.0	0.0	
	40歳代	32	59.4	46.9	28.1	15.6	12.5	15.6	15.6	15.6	0.0	0.0	
	50歳代	19	42.1	36.8	26.3	21.1	5.3	26.3	26.3	10.5	5.3	0.0	
	60歳代	8	62.5	50.0	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	
	70歳代	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	
	80歳以上	3	33.3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	
地域別	世田谷地域	53	56.6	34.0	22.6	26.4	18.9	20.8	13.2	15.1	0.0	0.0	
	北沢地域	20	55.0	30.0	25.0	20.0	15.0	15.0	20.0	10.0	5.0	0.0	
	玉川地域	25	40.0	56.0	28.0	12.0	24.0	28.0	24.0	4.0	0.0	0.0	
	砧地域	18	72.2	33.3	22.2	27.8	27.8	5.6	11.1	11.1	5.6	0.0	
	烏山地域	22	54.5	50.0	31.8	18.2	18.2	9.1	13.6	31.8	0.0	0.0	

年代別にみると、「経済的に余裕がないから」は30歳代（34.9%）で高くなっている。

(図表 1-2-2)

図表2-6-3 環境に配慮した行動を妨げている理由
(職業・世帯人数・居住形態別)

(%)

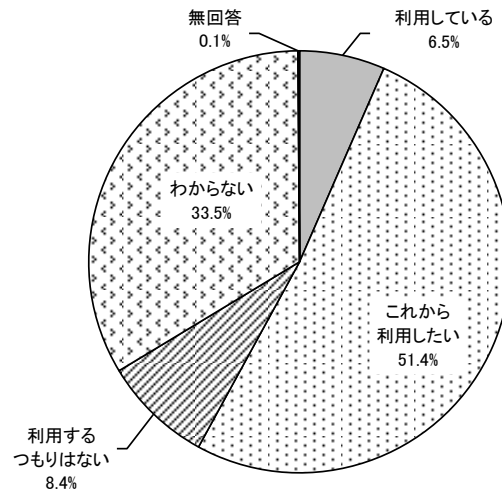
	n	生活の上の不便・ 生じるから・面倒 などが	時間に余裕がないから	成果が感じづらく、 意欲が上がらないから	何をすればいいのかが 分からないから	具体的な取り組みとして ないから	経済的に余裕が ないから	関心がないから	楽しさを感じないから	必要性を感じないから	その他	無回答
全 体	138	55.1	39.9	25.4	21.7	20.3	17.4	15.9	14.5	1.4	0.0	
職業別	自営業・事業主	16	50.0	50.0	18.8	18.8	12.5	6.3	18.8	12.5	0.0	0.0
	会社員・公務員・団体職員	74	56.8	41.9	31.1	21.6	24.3	18.9	17.6	18.9	0.0	0.0
	パート・臨時職員	18	55.6	44.4	27.8	16.7	16.7	11.1	11.1	5.6	0.0	0.0
	その他就業者	2	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	家事専業	7	71.4	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
	学生	11	45.5	27.3	18.2	18.2	9.1	36.4	27.3	9.1	0.0	0.0
	無職	9	44.4	11.1	0.0	44.4	22.2	33.3	11.1	22.2	11.1	0.0
	その他	1	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
世帯人数別	1人	31	61.3	35.5	12.9	25.8	38.7	16.1	9.7	12.9	0.0	0.0
	2人	41	51.2	41.5	36.6	29.3	19.5	22.0	24.4	24.4	2.4	0.0
	3人	23	47.8	30.4	21.7	13.0	17.4	13.0	8.7	17.4	0.0	0.0
	4人	29	62.1	44.8	31.0	10.3	6.9	10.3	20.7	6.9	3.4	0.0
	5人	11	63.6	45.5	18.2	18.2	18.2	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	6人	2	0.0	50.0	0.0	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	7人以上	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	居住形態別	一戸建て（持ち家）	50	54.0	36.0	26.0	18.0	10.0	20.0	22.0	12.0	2.0
分譲マンション（持ち家）		16	43.8	37.5	12.5	31.3	12.5	31.3	6.3	6.3	6.3	0.0
店舗併用住宅（持ち家）		1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一戸建て（借家）		9	55.6	22.2	0.0	33.3	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0
店舗併用住宅（借家）		0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
民営アパート・マンション		50	56.0	42.0	34.0	20.0	36.0	12.0	16.0	18.0	0.0	0.0
都市再生機構（旧公団）・ 公社・都営住宅・区営住宅		3	66.7	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
社宅・官舎・寮・間借り・ 住み込み		7	71.4	71.4	14.3	28.6	14.3	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0
ケアつき住宅・老人ホーム		0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他		2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0

(7) 再生可能エネルギーの利用

(7) 太陽光・風力・地熱・水力・バイオマスといった再生可能エネルギーは、温室効果ガスを排出せず、国内で生産でき、地球温暖化対策の一助となります。

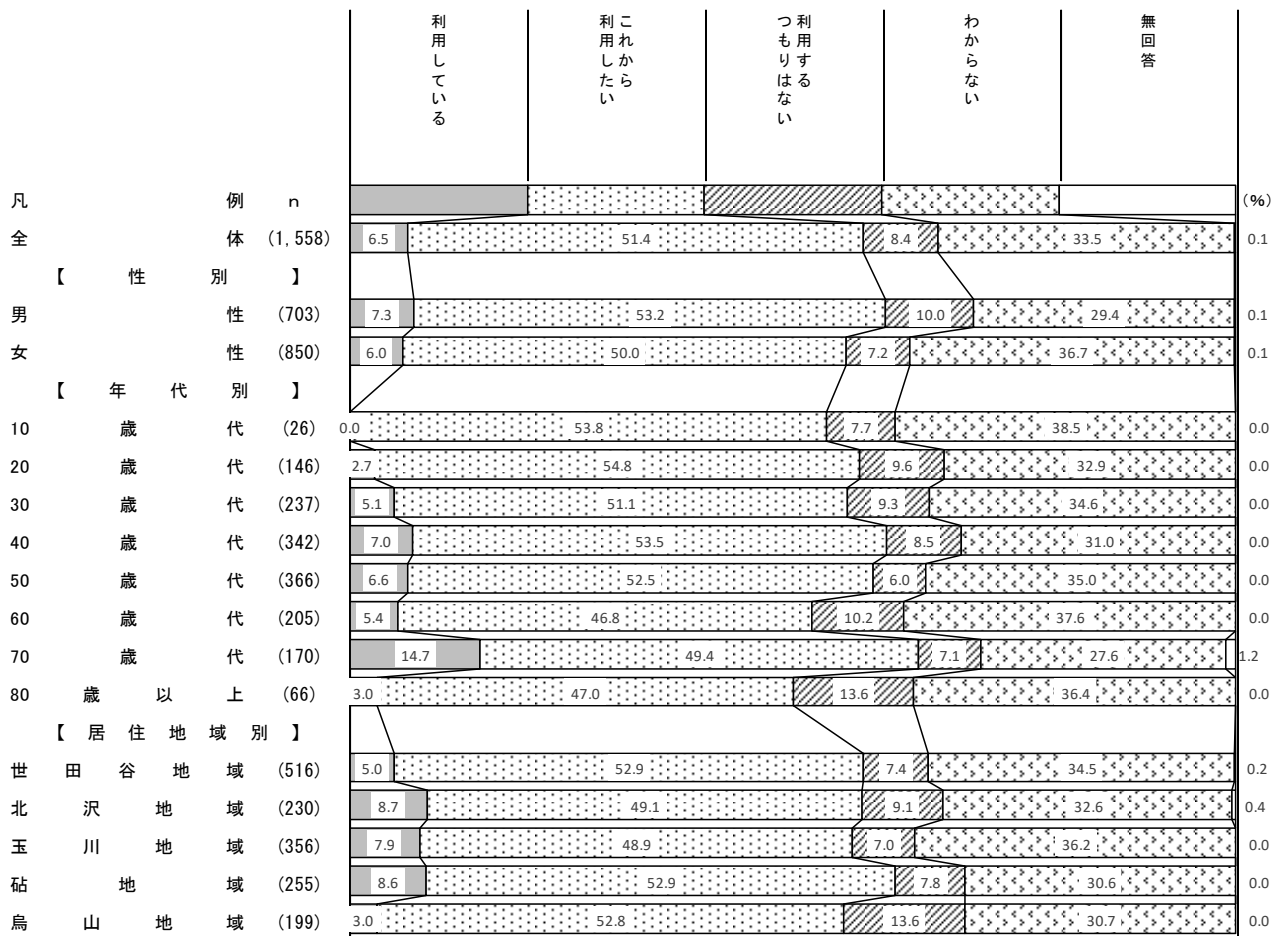
再生可能エネルギーを生活の中で利用していますか。(○は1つ)

図表 2-7-1 再生可能エネルギーの利用



再生可能エネルギーを「利用している」は6.5%となっている。「これから利用したい」が51.4%で最も高く、次いで「わからない」(33.5%)となっている。(図2-7-1)

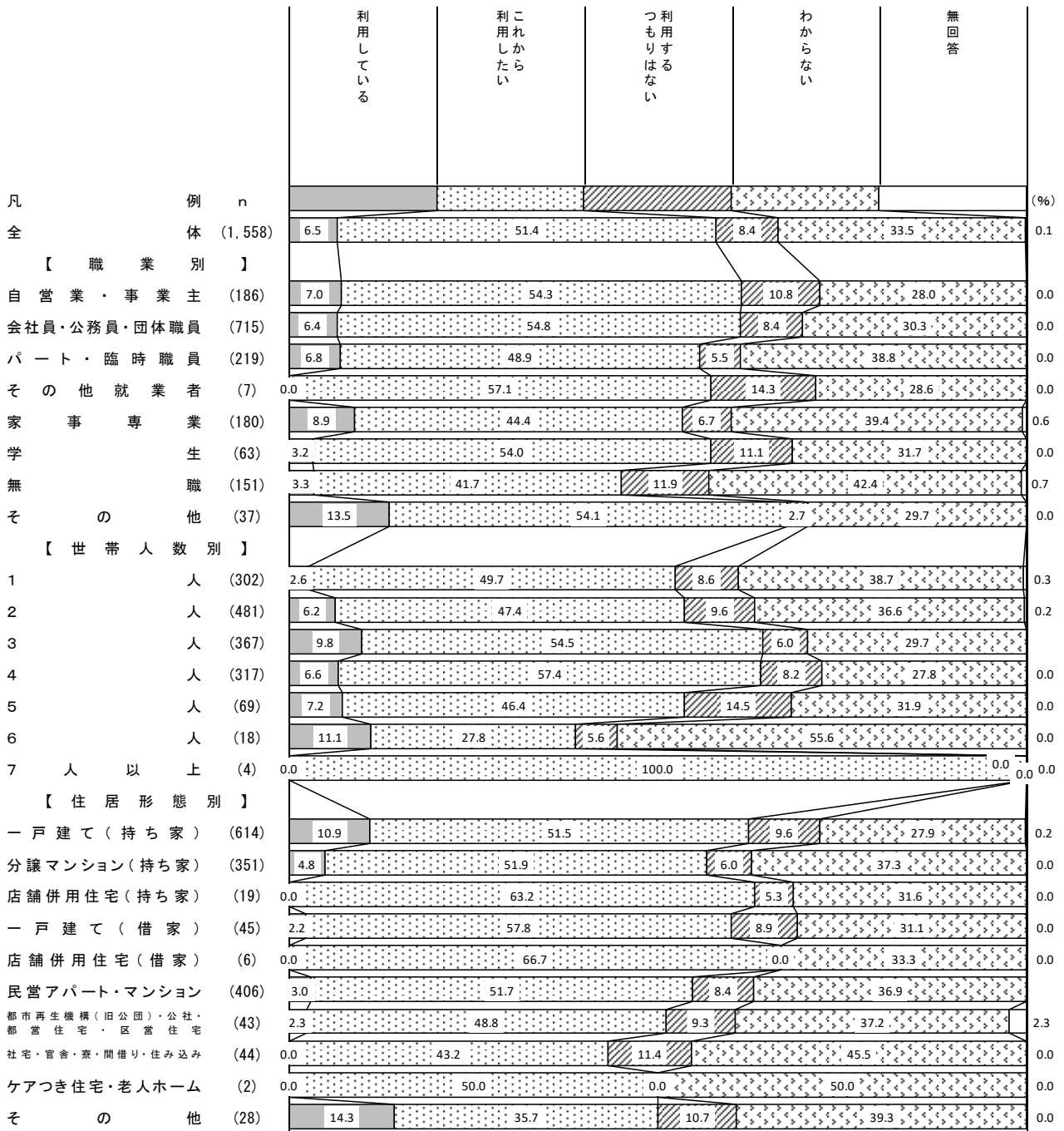
図表 2-7-2 再生可能エネルギーの利用
(性・年代・居住地域別)



年代別にみると、「これから利用したい」は 60 歳代より上の年代においていずれも 5 割以下と低くなっている。(図表 2-7-2)

住居形態別にみると、「利用している」はその他 (14.3%)、一戸建て (持ち家) (10.9%) で高くなっている。(図表 2-7-3)

図表 2-7-3 再生可能エネルギーの利用
(職業・世帯人数・居住形態別)

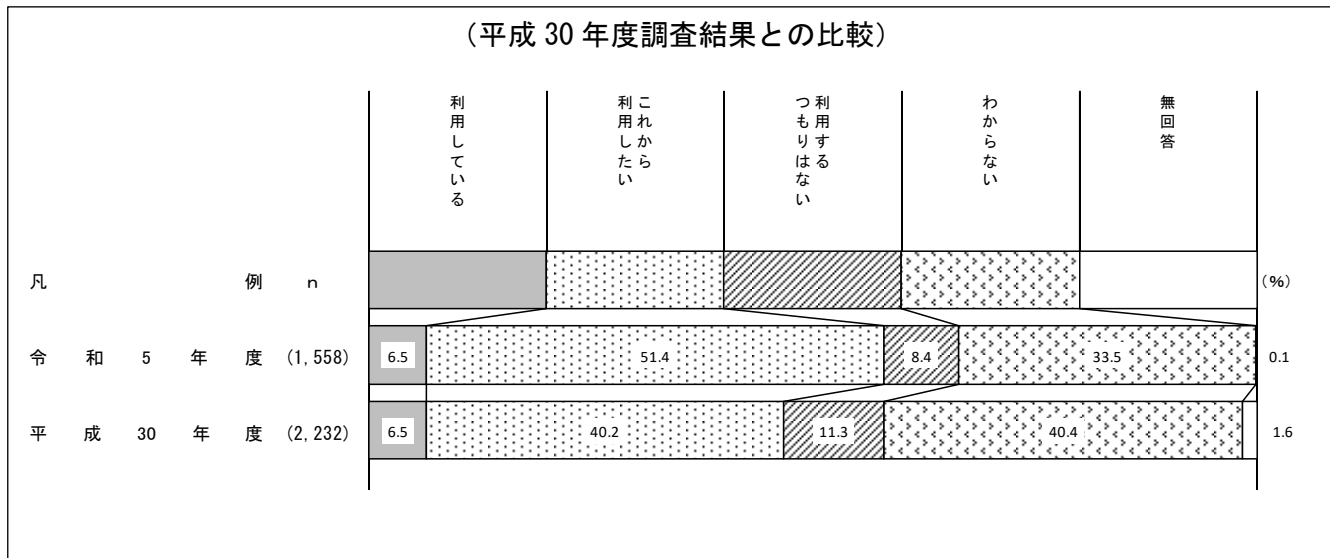


《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、「利用している」は横ばいで、「これから利用したい」が 11 ポイント余り増加している。(図表 2-7-4)

図表 2-7-4 再生可能エネルギーの利用

(平成 30 年度調査結果との比較)



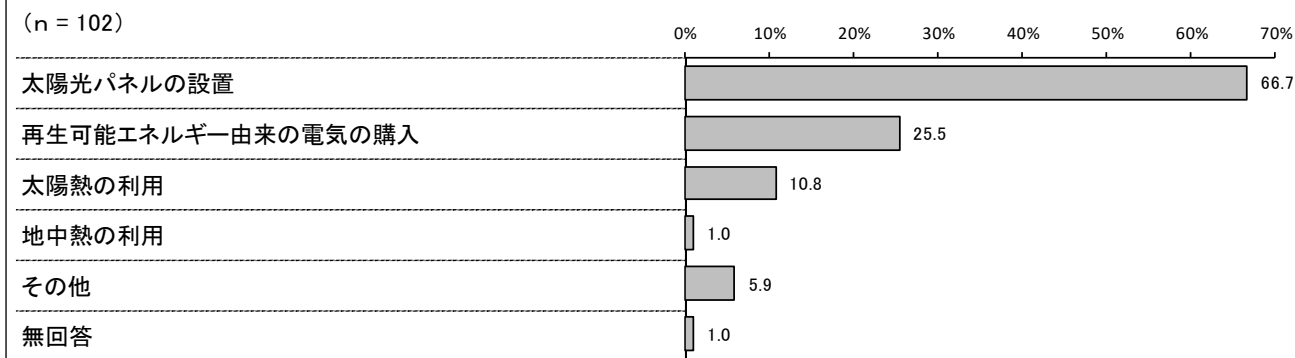
(8) 利用している再生可能エネルギーの種類

(8) 上記(7)で「1 利用している」に○をつけた方にお聞きします。

取り入れている再生可能エネルギーの種類について、次の中から選んでください。

(○はいくつでも)

図表 2-8-1 利用している再生可能エネルギーの種類



再生可能エネルギーを「利用している」と回答した 102 名に利用している再生可能エネルギーについて質問している。

その結果をみると、「太陽光パネルの設置」が 66.7%と最も高く、次いで、「再生可能エネルギー由来の電気の購入」(25.5%)、「太陽熱の利用」(10.8%)となっている。(図表 2-8-1)

図表2-8-2 利用している再生可能エネルギーの種類
(性・年代・居住地別)

								(%)
		n	太陽光 パネルの 設置	再生 可能 エネ ルギ ー の 購 入	太陽 熱の 利用	地 中 熱の 利用	そ の 他	無 回 答
全 体		102	66.7	25.5	10.8	1.0	5.9	1.0
性 別	男性	51	74.5	23.5	7.8	0.0	3.9	0.0
	女性	51	58.8	27.5	13.7	2.0	7.8	2.0
年 齢 別	10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	4	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	12	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	24	75.0	16.7	4.2	0.0	4.2	0.0
	50歳代	24	62.5	33.3	16.7	4.2	4.2	0.0
	60歳代	11	72.7	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0
	70歳代	25	56.0	24.0	16.0	0.0	16.0	4.0
	80歳以上	2	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
地 域 別	世田谷地域	26	69.2	19.2	0.0	0.0	11.5	3.8
	北沢地域	20	70.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	玉川地域	28	71.4	28.6	17.9	0.0	0.0	0.0
	砧地域	22	50.0	36.4	18.2	4.5	4.5	0.0
	烏山地域	6	83.3	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0

属性別においては、特筆すべき特徴は見られなかった。

図表 2-8-3 利用している再生可能エネルギーの種類

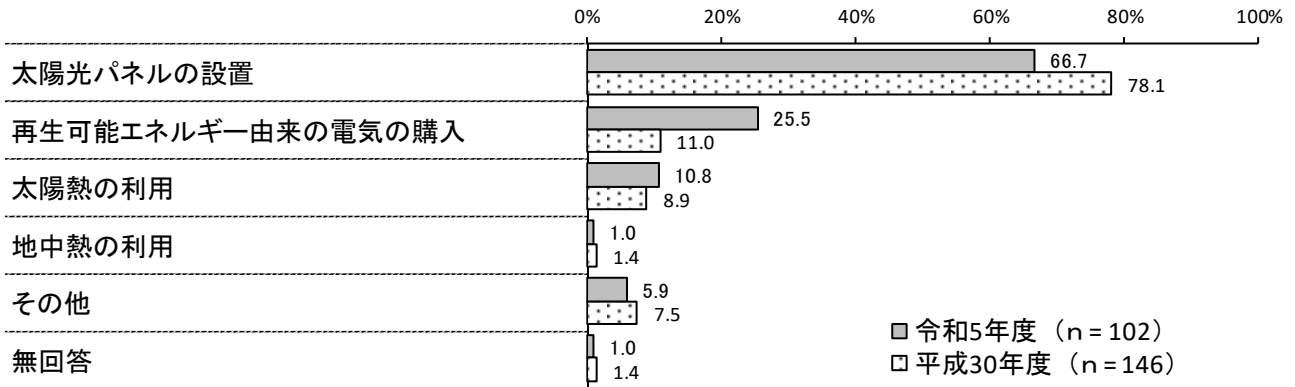
(職業・世帯人数・居住形態別)

								(%)
		n	太陽光 パネルの 設置	再生 可能 エネ ルギ ー の 購 入	太陽 熱の 利用	地中 熱の 利用	その他	無 回 答
全 体		102	66.7	25.5	10.8	1.0	5.9	1.0
職 業 別	自営業・事業主	13	61.5	30.8	7.7	0.0	7.7	0.0
	会社員・公務員・団体職員	46	76.1	26.1	6.5	2.2	2.2	0.0
	パート・臨時職員	15	46.7	26.7	13.3	0.0	6.7	6.7
	その他就業者	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	家事専業	16	56.3	25.0	25.0	0.0	6.3	0.0
	学生	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無職	5	80.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	その他	5	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0
世 帯 人 数 別	1人	8	37.5	37.5	12.5	0.0	12.5	0.0
	2人	30	66.7	26.7	16.7	0.0	10.0	0.0
	3人	36	66.7	30.6	8.3	2.8	2.8	2.8
	4人	21	71.4	14.3	9.5	0.0	4.8	0.0
	5人	5	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6人	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7人以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
居 住 形 態 別	一戸建て（持ち家）	67	73.1	16.4	10.4	1.5	7.5	1.5
	分譲マンション（持ち家）	17	58.8	41.2	17.6	0.0	5.9	0.0
	店舗併用住宅（持ち家）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	一戸建て（借家）	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	店舗併用住宅（借家）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	民営アパート・マンション	12	25.0	66.7	8.3	0.0	0.0	0.0
	都市再生機構（旧公団）・ 公社・都営住宅・区営住宅	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	社宅・官舎・寮・間借り・ 住み込み	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ケアつき住宅・老人ホーム	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、「太陽光パネルの設置」が 11 ポイント以上減少し、「再生可能エネルギー由来の電気の購入」が 14 ポイント以上増加している。(図表 2-8-4)

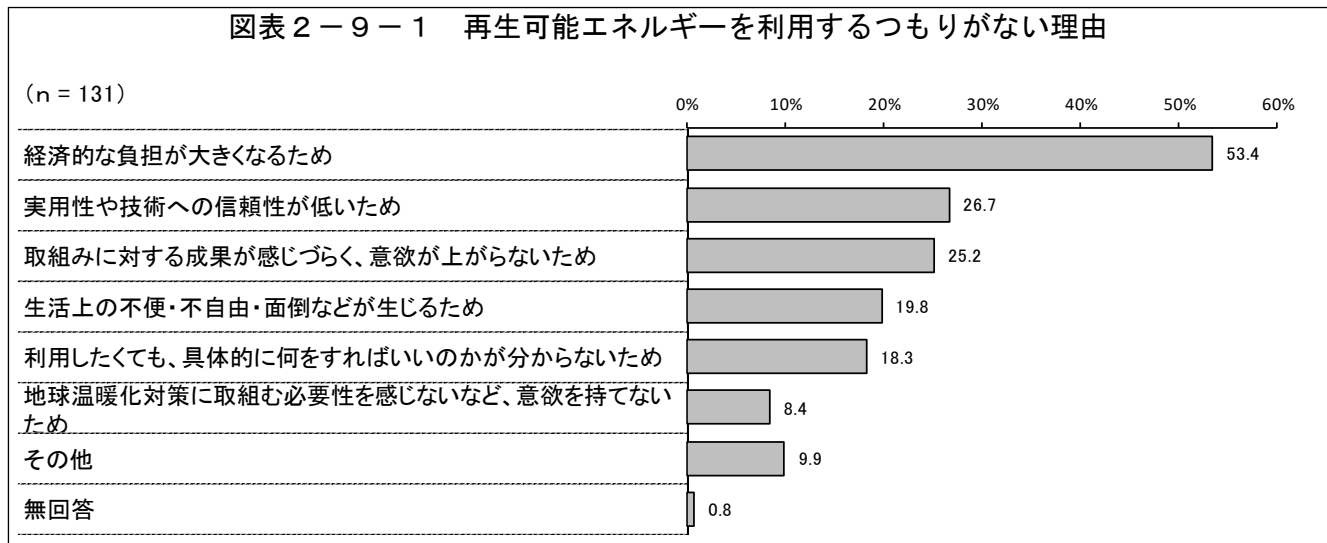
図表 2-8-4 利用している再生可能エネルギー
(平成 30 年度調査結果との比較)



(9) 再生可能エネルギーを利用するつもりがない理由

(9) 上記(7)で「3 利用するつもりはない」に○をつけた方にお聞きします。
利用するつもりがない理由について、次の中から選んでください。(○はいくつでも)

図表 2-9-1 再生可能エネルギーを利用するつもりがない理由



再生可能エネルギーを「利用するつもりはない」と回答した 131 名にその理由を質問している。

その結果をみると、「経済的な負担が大きくなるため」が 53.4%で最も高く、唯一過半数となっている。次いで「実用性や技術への信頼性が低い」(26.7%)、「取組みに対する成果が感じづらく、意欲が上がらない」(25.2%) となっている。(図表 2-9-1)

図表 2-9-2 再生可能エネルギーを利用するつもりがない理由
(性・年代・居住地域別)

(%)

		n	大 き く な る た め	信 頼 性 が 低 い た め	上 が ら な い た め	取 組 み に 対 す る 成 果 が	生 活 上 の 不 便 ・ 面 倒 な ど が	分 か ら な い た め	利 用 し た く も 、 具 体 的	意 欲 を 持 て な い た め	地 球 温 暖 化 対 策 に 取 組 む	そ の 他	無 回 答
全 体		131	53.4	26.7	25.2	19.8	18.3	8.4	9.9	0.8			
性 別	男性	70	54.3	32.9	22.9	24.3	15.7	8.6	10.0	0.0			
	女性	61	52.5	19.7	27.9	14.8	21.3	8.2	9.8	1.6			
年 齢 別	10歳代	2	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0			
	20歳代	14	78.6	28.6	7.1	14.3	7.1	0.0	7.1	0.0			
	30歳代	22	54.5	27.3	40.9	40.9	31.8	4.5	4.5	0.0			
	40歳代	29	37.9	34.5	27.6	17.2	13.8	13.8	10.3	0.0			
	50歳代	22	50.0	31.8	31.8	13.6	18.2	13.6	13.6	0.0			
	60歳代	21	52.4	14.3	14.3	19.0	19.0	14.3	9.5	0.0			
	70歳代	12	50.0	8.3	8.3	16.7	25.0	0.0	16.7	0.0			
	80歳以上	9	77.8	33.3	44.4	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1			
地 域 別	世田谷地域	38	50.0	31.6	18.4	18.4	10.5	5.3	13.2	0.0			
	北沢地域	21	33.3	38.1	19.0	14.3	23.8	14.3	9.5	4.8			
	玉川地域	25	68.0	24.0	36.0	32.0	20.0	8.0	12.0	0.0			
	砧地域	20	55.0	20.0	20.0	15.0	10.0	10.0	10.0	0.0			
	烏山地域	27	59.3	18.5	33.3	18.5	29.6	7.4	3.7	0.0			

性別にみると、「実用性や技術への信頼性が低い」は男性（32.8%）に比べ女性（19.7%）が10ポイント以上低くなっている。

図表 2-9-3 再生可能エネルギーを利用するつもりがない理由
(職業・世帯人数・居住形態別)

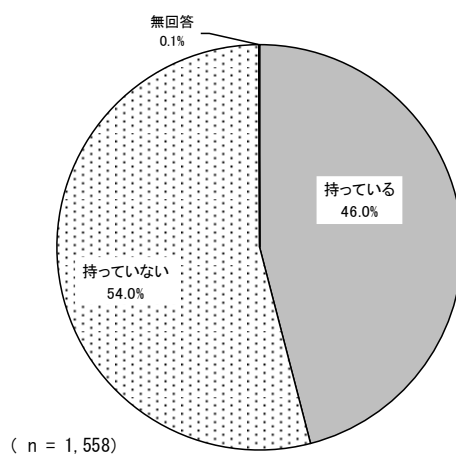
(%)

		n	大経済的なる負担が	信頼性が低い技術への	上記に感じられないため	取組みに対する成果が	生活の上の不便・面	分利用したくても、具	意地球温暖化対策に取	必要を感じないなど、	その他	無回答
全 体		138	55.1	39.9	25.4	21.7	20.3	17.4	1.4	0.0		
職業別	自営業・事業主	16	50.0	50.0	18.8	18.8	12.5	6.3	0.0	0.0		
	会社員・公務員・団体職員	74	56.8	41.9	31.1	21.6	24.3	18.9	0.0	0.0		
	パート・臨時職員	18	55.6	44.4	27.8	16.7	16.7	11.1	0.0	0.0		
	その他就業者	2	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
	家事専業	7	71.4	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0		
	学生	11	45.5	27.3	18.2	18.2	9.1	36.4	0.0	0.0		
	無職	9	44.4	11.1	0.0	44.4	22.2	33.3	11.1	0.0		
	その他	1	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
世帯人数別	1人	31	61.3	35.5	12.9	25.8	38.7	16.1	0.0	0.0		
	2人	41	51.2	41.5	36.6	29.3	19.5	22.0	2.4	0.0		
	3人	23	47.8	30.4	21.7	13.0	17.4	13.0	0.0	0.0		
	4人	29	62.1	44.8	31.0	10.3	6.9	10.3	3.4	0.0		
	5人	11	63.6	45.5	18.2	18.2	18.2	27.3	0.0	0.0		
	6人	2	0.0	50.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0		
	7人以上	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
居住形態別	一戸建て(持ち家)	50	54.0	36.0	26.0	18.0	10.0	20.0	2.0	0.0		
	分譲マンション(持ち家)	16	43.8	37.5	12.5	31.3	12.5	31.3	6.3	0.0		
	店舗併用住宅(持ち家)	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
	一戸建て(借家)	9	55.6	22.2	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0		
	店舗併用住宅(借家)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	民営アパート・マンション	50	56.0	42.0	34.0	20.0	36.0	12.0	0.0	0.0		
	都市再生機構(旧公団)・ 公社・都営住宅・区営住宅	3	66.7	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0		
	社宅・官舎・寮・間借り・ 住み込み	7	71.4	71.4	14.3	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0		
	ケアつき住宅・老人ホーム	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	その他	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0		

(10) 自家用車の保有状況

(10) あなたのご家庭では自家用車をお持ちですか。(○は1つ)

図表2-10-1 自家用車の保有状況

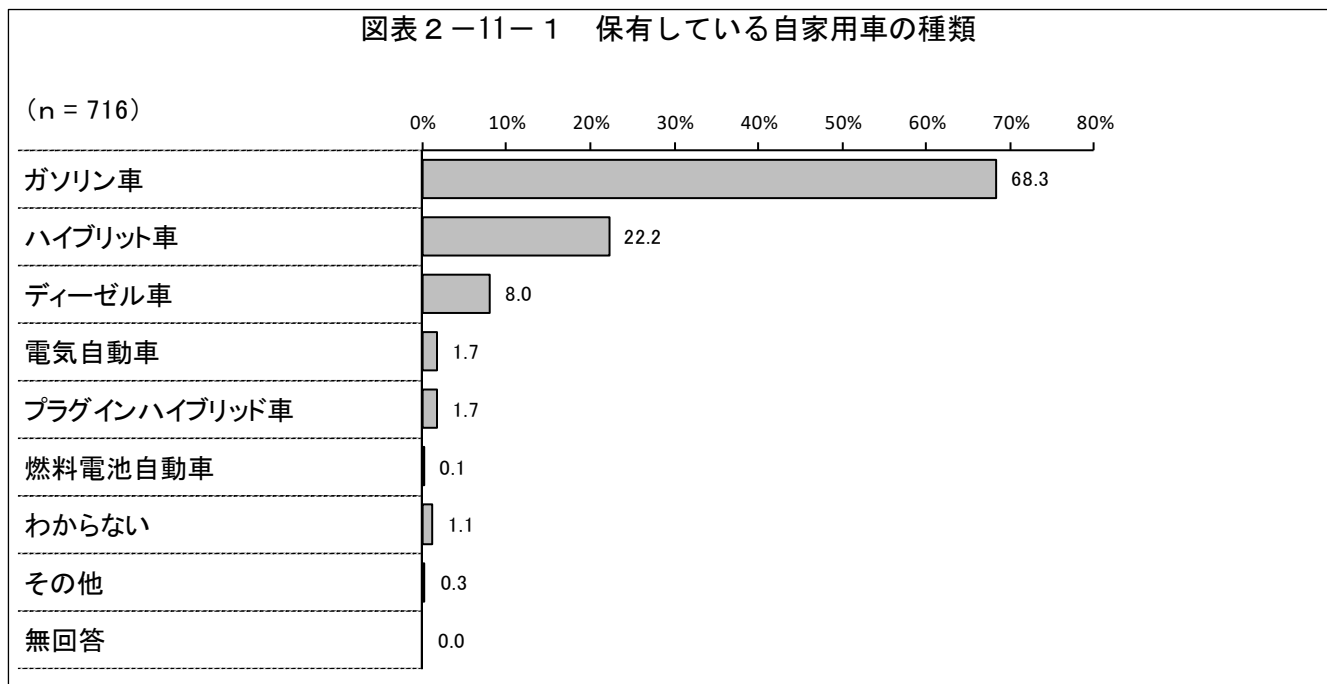


自家用車を「持っている」が46.0%、「持っていない」が54.0%となっている。(図2-10-1)

(11) 保有している自家用車の種類

(11) 上記(10)で「1. 持っている」に○をつけた方にお聞きします。

あなたの家庭の自家用車の種類について、次の中から選んでください。(○はいくつでも)



自家用車を持っていると回答した 716 名に、保有している自家用車の種類を質問している。

その結果をみると、「ガソリン車」が 68.3%、「ハイブリット車」が 22.2%となっている。この 2 種類以外はいずれも 1 割以下で「電気自動車」(1.7%)、「プラグインハイブリッド車」(1.7%)、「燃料電池自動車」(0.1%) の保有率は低くなっている。(図表 2-11-1)

図表 2-11-2 保有している自家用車の種類
(性・年代・居住地域別)

		n	ガソリン車	ハイブリット車	ディーゼル車	電気自動車	プラグインハイブリット車	燃料電池自動車	わからない	その他	(%) 無回答
全 体		716	68.3	22.2	8.0	1.7	1.7	0.1	1.1	0.3	0.0
性 別	男性	343	65.3	26.2	8.2	1.2	2.0	0.0	0.6	0.3	0.0
	女性	372	71.2	18.3	7.8	2.2	1.3	0.3	1.6	0.3	0.0
年 齢 別	10歳代	11	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	52	67.3	25.0	9.6	1.9	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0
	30歳代	65	72.3	21.5	3.1	0.0	3.1	0.0	3.1	0.0	0.0
	40歳代	155	68.4	18.1	11.0	2.6	1.3	0.0	0.6	0.0	0.0
	50歳代	206	69.4	21.8	9.2	1.0	1.5	0.0	1.5	0.5	0.0
	60歳代	117	63.2	25.6	7.7	1.7	2.6	0.9	0.0	0.9	0.0
	70歳代	86	61.6	29.1	4.7	3.5	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	80歳以上	24	83.3	16.7	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地 域 別	世田谷地域	222	68.5	20.3	8.6	3.2	1.8	0.0	0.5	0.5	0.0
	北沢地域	91	62.6	30.8	6.6	1.1	1.1	0.0	1.1	0.0	0.0
	玉川地域	176	67.0	21.0	9.7	1.7	1.7	0.6	1.7	0.0	0.0
	砧地域	141	70.9	22.0	4.3	0.7	2.8	0.0	1.4	0.7	0.0
	烏山地域	86	72.1	20.9	10.5	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0

性別、年代別、地域別では、特筆すべき特徴は見られなかった。(図表 2-11-2)

居住形態別では「電気自動車」は「一戸建て(持ち家)」と「分譲マンション(持ち家)」でのみ所有する世帯がみられる。また「プラグインハイブリット車」は「一戸建て(持ち家)」と「分譲マンション(持ち家)」と「一戸建て(借家)」で所有する世帯がみられる。(図表 2-11-3)

図表2-11-3 保有している自家用車の種類
(職業・世帯人数・居住形態別)

(%)

		n	ガソリン車	ハイブリット車	ディーゼル車	電気自動車	プラグインハイブリット車	燃料電池自動車	わからない	その他	無回答
全 体		716	68.3	22.2	8.0	1.7	1.7	0.1	1.1	0.3	0.0
職業別	自営業・事業主	101	64.4	27.7	5.9	2.0	5.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	会社員・公務員・団体職員	291	68.4	23.0	8.6	1.0	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0
	パート・臨時職員	101	68.3	16.8	11.9	0.0	3.0	1.0	2.0	0.0	0.0
	その他就業者	4	50.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	家事専業	113	72.6	17.7	6.2	3.5	1.8	0.0	1.8	0.0	0.0
	学生	32	78.1	15.6	6.3	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0
	無職	59	59.3	32.2	5.1	3.4	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0
	その他	15	80.0	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
世帯人数別	1人	43	79.1	9.3	4.7	2.3	2.3	0.0	2.3	0.0	0.0
	2人	210	68.1	24.8	5.2	1.0	1.9	0.0	1.0	0.5	0.0
	3人	195	70.8	19.0	7.7	2.6	0.5	0.5	1.0	0.5	0.0
	4人	209	65.6	21.5	11.5	1.9	2.4	0.0	1.0	0.0	0.0
	5人	47	61.7	42.6	6.4	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	6人	8	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
	7人以上	4	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
居住形態別	一戸建て（持ち家）	419	66.3	23.6	8.1	2.1	2.1	0.0	1.2	0.5	0.0
	分譲マンション（持ち家）	152	66.4	22.4	8.6	2.0	1.3	0.0	0.7	0.0	0.0
	店舗併用住宅（持ち家）	11	63.6	18.2	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	一戸建て（借家）	23	78.3	17.4	8.7	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	店舗併用住宅（借家）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	民営アパート・マンション	68	79.4	16.2	2.9	0.0	0.0	1.5	2.9	0.0	0.0
	都市再生機構（旧公団）・ 公社・都営住宅・区営住宅	13	84.6	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	社宅・官舎・寮・間借り・ 住み込み	21	76.2	19.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ケアつき住宅・老人ホーム	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	9	44.4	33.3	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(12) 環境負荷の低い自動車の購入に関して気になる点

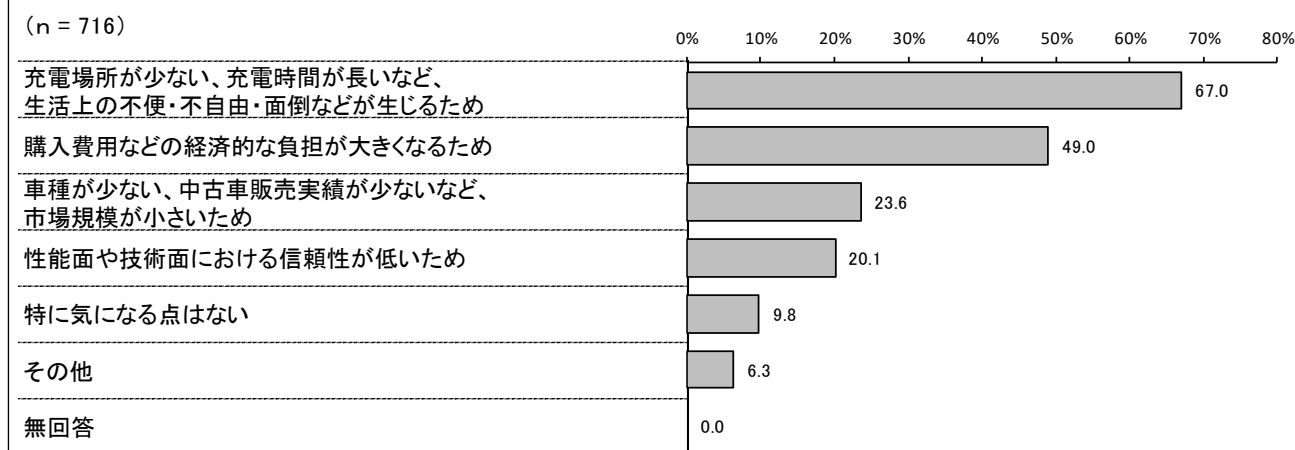
(12) 上記(10)で「1. 持っている」に○をつけた方にお聞きします。

電気自動車や燃料電池自動車などは、走行時に二酸化炭素を排出しない環境負荷の低い自動車です。

あなたが、環境負荷の低い自動車の購入に関して気になる点を、次の中から選んでください。

(○はいくつでも)

図表2-12-1 環境負荷の低い自動車の購入に関して気になる点



自家用車を所有している716名に、環境負荷の低い自動車の購入に関して気になる点を質問している。

その結果を見ると、「充電場所が少ない、充電時間が長いなど、生活上の不便・不自由・面倒などが生じるため」が67.0%で最も高く、次いで「購入費用などの経済的な負担が大きくなるため」(49.0%)となっている。(図表2-12-1)

《その他》

その他について45件の回答があった。「環境への負荷が本当に少ないのか、疑問」が14件と最も多く、次いで「購入予定なし/車にはあまり乗らない」が9件、「不便(充電場所が少ない、駐車場条件に合わないスペックが低い等)」が5件となっている。なお、複数の内容を含む回答は、該当する項目すべてにカウントしている。

図表 2-12-2 環境負荷の低い自動車の購入に関して気になる点
(性・年代・居住地域別)

			(%)									
		n	面倒な生活などが生じるため	充電時間が長いなど、充電場所が少ない	購入費用などの大きな負担があるため	経済的な負担が大きい	市場規模が小さいため	販売実績が少ない、中古車種が少ない、中古車種が少くない	性能や信頼性が低い	特に気になる点はない	その他	無回答
全 体		716	67.0	49.0	23.6	20.1	9.8	6.3	0.0			
性別	男性	343	70.6	51.3	21.9	21.9	9.3	7.0	0.0			
	女性	372	64.0	46.8	25.3	18.5	10.2	5.6	0.0			
年齢別	10歳代	11	54.5	36.4	18.2	27.3	18.2	0.0	0.0			
	20歳代	52	59.6	51.9	11.5	19.2	17.3	3.8	0.0			
	30歳代	65	75.4	52.3	26.2	20.0	10.8	3.1	0.0			
	40歳代	155	65.2	46.5	27.7	18.7	8.4	4.5	0.0			
	50歳代	206	69.4	49.5	24.3	17.0	9.7	5.3	0.0			
	60歳代	117	67.5	52.1	23.1	26.5	6.0	12.0	0.0			
	70歳代	86	66.3	44.2	25.6	22.1	9.3	8.1	0.0			
	80歳以上	24	58.3	54.2	8.3	16.7	16.7	8.3	0.0			
地域別	世田谷地域	222	64.4	44.6	20.7	19.8	10.4	7.7	0.0			
	北沢地域	91	64.8	42.9	25.3	26.4	12.1	7.7	0.0			
	玉川地域	176	67.6	48.9	25.0	19.9	9.1	6.3	0.0			
	砧地域	141	66.7	56.0	22.7	16.3	9.2	3.5	0.0			
	烏山地域	86	75.6	55.8	27.9	20.9	8.1	5.8	0.0			

属性別においては、特筆すべき特徴は見られなかった。

図表 2-12-3 環境負荷の低い自動車の購入に関して気になる点

(職業・世帯人数・居住形態別)

		n	面倒な生活などが生じるため	充電時間が長いなど、充電場所が少ない	大きな負担があるため	購入費用などの経済的な負担	市場規模が小さいため	販売実績が少ない中古車種が少ない、中古車種が少ない、中古車種が少ないため	低い信頼性が技術面に	性能や技術面に	特に気になる点はない	その他	無回答
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全 体		716	67.0	49.0	23.6	20.1	9.8	6.3	0.0				
職業別	自営業・事業主	101	63.4	45.5	27.7	23.8	9.9	7.9	0.0				
	会社員・公務員・団体職員	291	71.1	51.5	22.0	22.3	7.2	5.8	0.0				
	パート・臨時職員	101	66.3	48.5	23.8	12.9	11.9	5.0	0.0				
	その他就業者	4	50.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0				
	家事専業	113	65.5	43.4	31.9	17.7	9.7	8.0	0.0				
	学生	32	56.3	43.8	12.5	18.8	21.9	3.1	0.0				
	無職	59	62.7	55.9	18.6	18.6	13.6	6.8	0.0				
	その他	15	73.3	60.0	13.3	20.0	6.7	6.7	0.0				
世帯人数別	1人	43	62.8	48.8	16.3	16.3	11.6	4.7	0.0				
	2人	210	65.7	51.4	24.3	25.2	11.0	7.6	0.0				
	3人	195	66.2	44.1	27.2	22.6	9.7	7.7	0.0				
	4人	209	70.3	53.1	20.6	15.3	7.7	3.8	0.0				
	5人	47	68.1	46.8	19.1	14.9	10.6	6.4	0.0				
	6人	8	62.5	25.0	62.5	0.0	12.5	12.5	0.0				
	7人以上	4	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0				
居住形態別	一戸建て（持ち家）	419	64.0	46.1	21.2	19.8	11.5	6.9	0.0				
	分譲マンション（持ち家）	152	75.7	45.4	21.7	22.4	9.9	5.9	0.0				
	店舗併用住宅（持ち家）	11	54.5	36.4	27.3	36.4	0.0	18.2	0.0				
	一戸建て（借家）	23	52.2	52.2	21.7	8.7	17.4	8.7	0.0				
	店舗併用住宅（借家）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
	民営アパート・マンション	68	66.2	60.3	29.4	13.2	4.4	2.9	0.0				
	都市再生機構（旧公団）・ 公社・都営住宅・区営住宅	13	69.2	84.6	53.8	38.5	0.0	0.0	0.0				
	社宅・官舎・寮・間借り・ 住み込み	21	85.7	71.4	28.6	19.0	0.0	0.0	0.0				
	ケアつき住宅・老人ホーム	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
	その他	9	77.8	66.7	66.7	33.3	0.0	11.1	0.0				

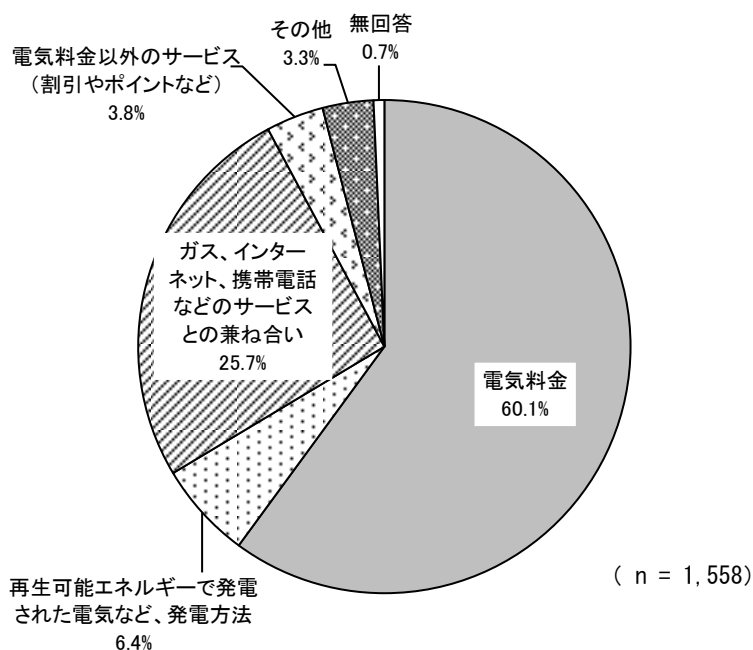
3. 区民の皆さんのエネルギー使用について

(1) 電力の購入先を選択する際に重要視すること

問3 皆さんの電気の購入などについて、分かる範囲で結構ですので、次の(1)～(3)の各項目について、当てはまるものを選んでください。

(1) あなたが電力の購入先を選択する際に重要視することを、次の中から選んでください。(○は1つ)
なお、家族が決めている、社宅等で会社が契約しているなど、現在、ご自身で電力の購入先を選択していない方は、ご自身が購入先を選択すると仮定してお答えください。

図表3-1-1 電力の購入先を選択する際に重要視すること

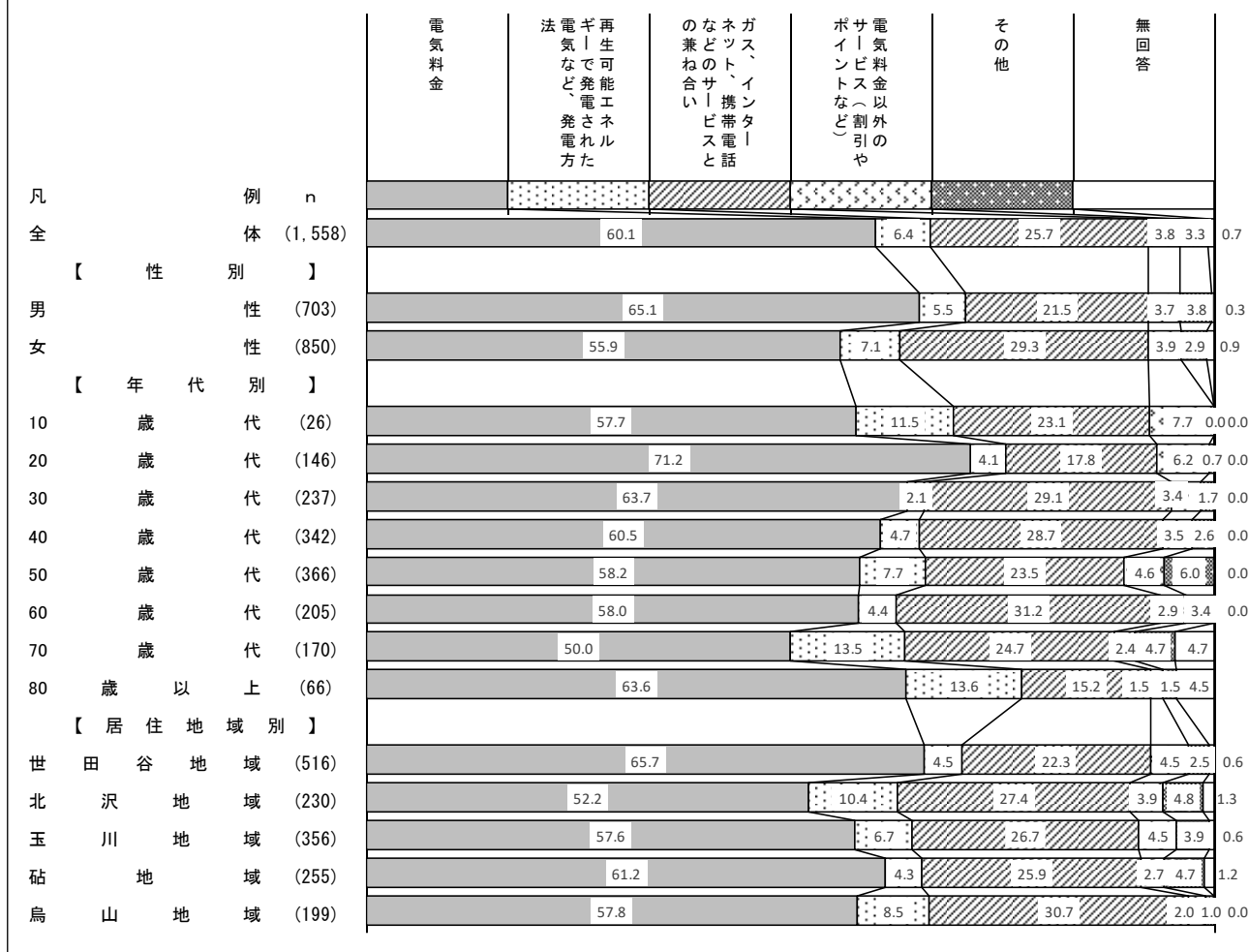


「電気料金」が60.1%で最も高く約6割となっている。次いで「ガス、インターネット、携帯電話などのサービスとの兼ね合い」(25.7%)となっている。「再生可能エネルギーで発電された電気など、発電方法」は6.4%にとどまっている。(図表3-1-1)

《その他》

その他について54件の回答があった。「安定供給」が15件と最も多く、次いで「初期に契約した会社、そのまま」が10件、「安心、信頼性」が7件となっている。なお、複数の内容を含む回答は、該当する項目すべてにカウントしている。

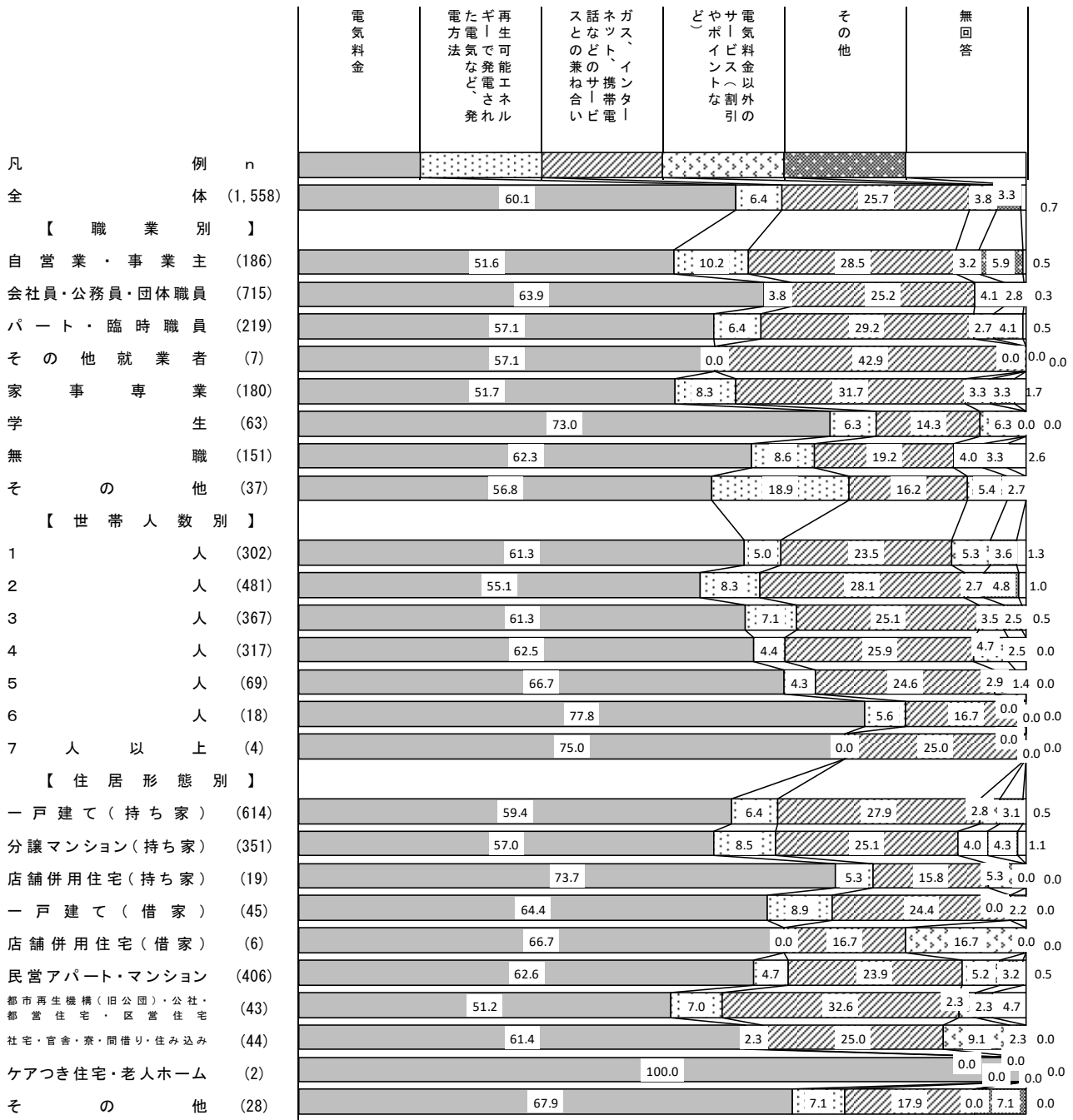
図表 3-1-2 電力の購入先を選択する際に重要視すること
(性・年代・居住地域別)



年代別では「再生可能エネルギーで発電された電気など、発電方法」は、70歳代（13.5%）、80歳以上（13.6%）で高くなっている。

住居形態別にみると、一戸建て（借家）（8.9%）、分譲マンション（持ち家）（8.5%）で「再生可能エネルギーで発電された電気など、発電方法」が高くなっている。（図表 3-1-3）

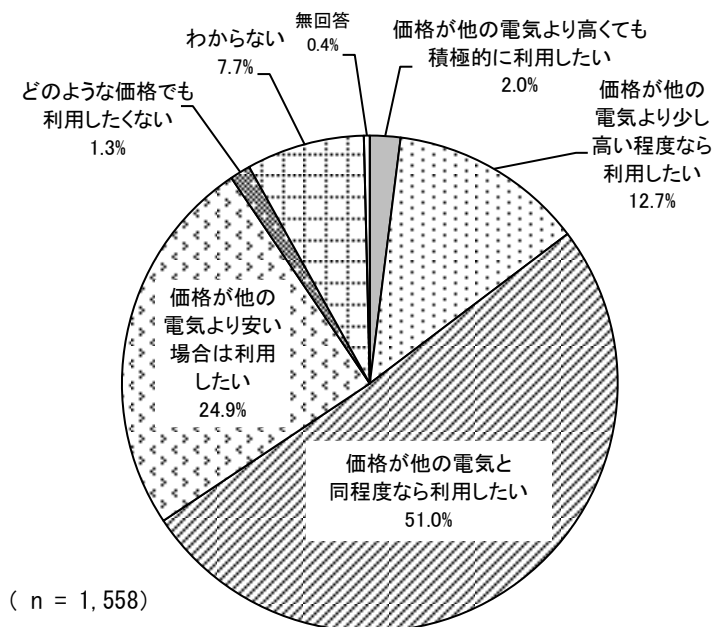
図表3-1-3 電力の購入先を選択する際に重要視すること
(職業・世帯人数・居住形態別)



(2) 再生可能エネルギーでつくられた電気を選ぶ価格条件

(2) あなたのご家庭で、再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電等）でつくられた電気を選ぶ場合、価格面での条件として当てはまるものを次の中から選んでください。（○は1つ）

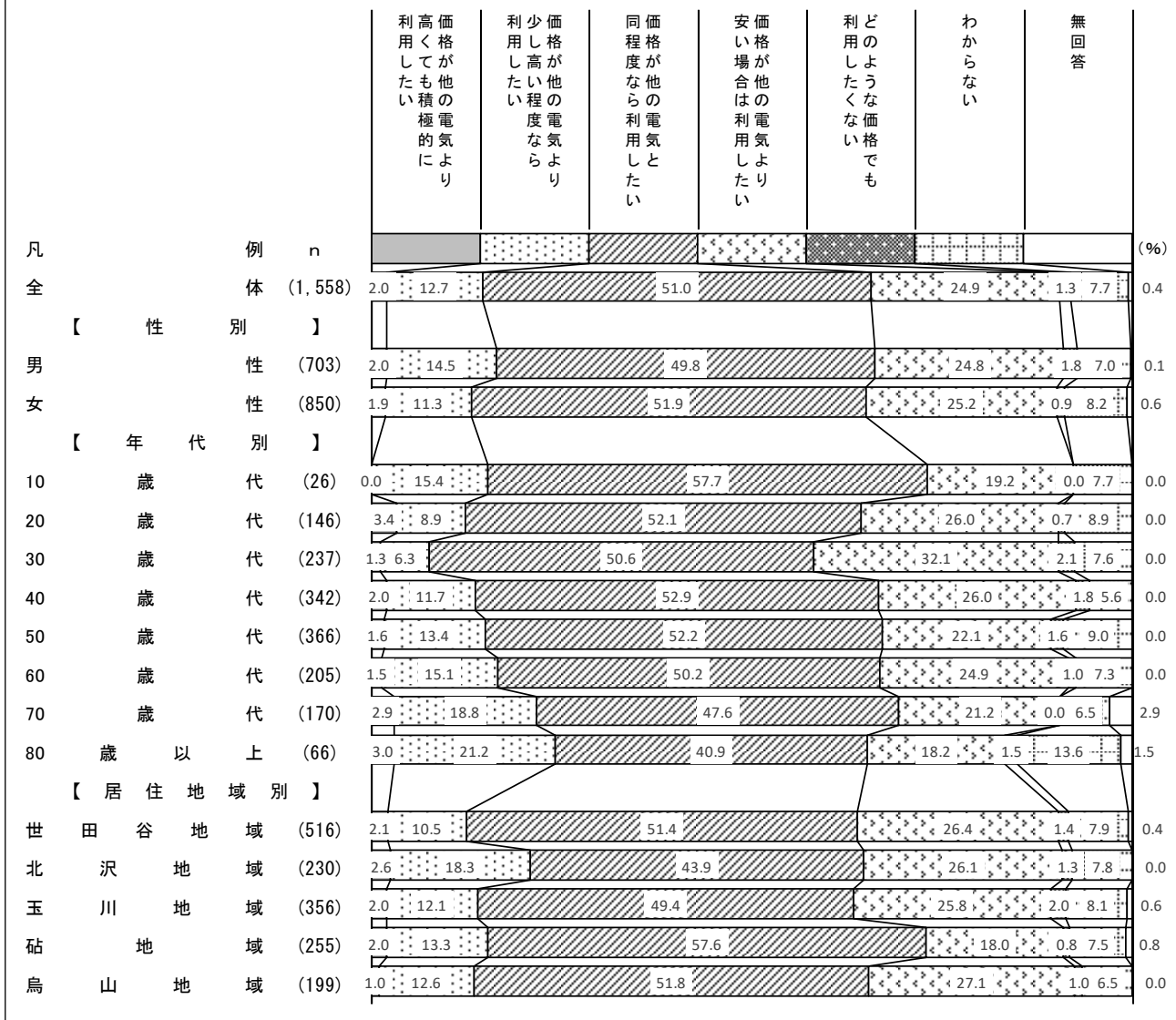
図表3-2-1 再生可能エネルギーで作られた電気を選ぶ価格条件



再生可能エネルギーでつくられた電気が「価格が他の電気と同程度なら利用したい」が 51.0%で最も高く 5 割を占めている。次いで「価格が他の電気より安い場合は利用したい」(24.9%) となっている。

「価格が他の電気より高くても積極的に利用したい」は 2.0%で、「価格が他の電気より少し高い程度なら利用したい」(12.7%) と合わせて 14.7%は《価格が他の電気より高くても利用したい》としている。一方、「どのような価格でも利用したくない」は 1.3%となっている。(図表3-2-1)

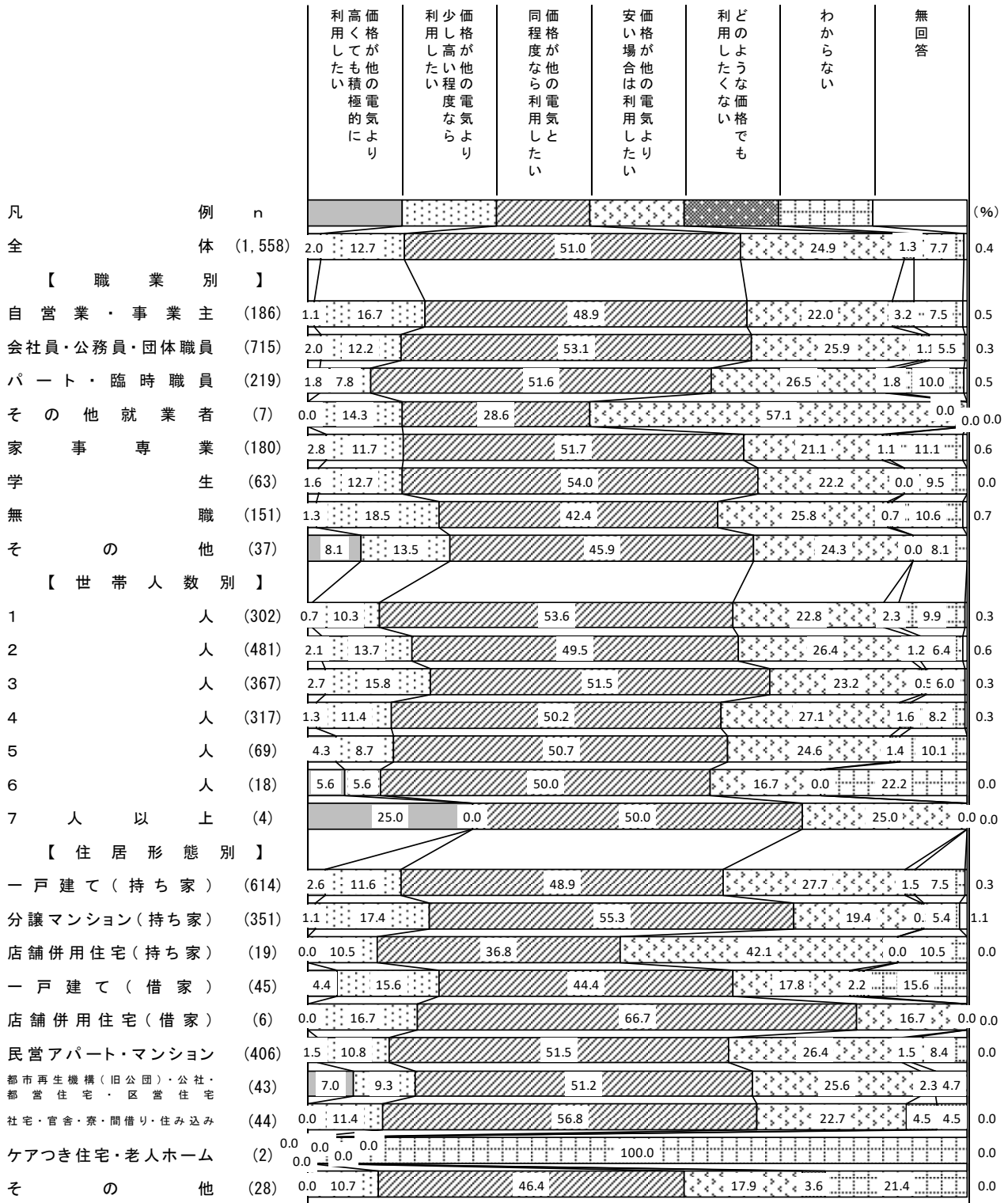
図表3-2-2 再生可能エネルギーで作られた電気を選ぶ価格条件
(性・年代・居住地域別)



年代別にみると、「価格が他の電気より高くても利用したい」は、30歳代より上の年代において年代が上がるにつれ高くなっている。「価格が他の電気と同程度なら利用したい」は70歳代（47.6%）、80歳以上（40.9%）では5割を下回っている（図表3-2-2）

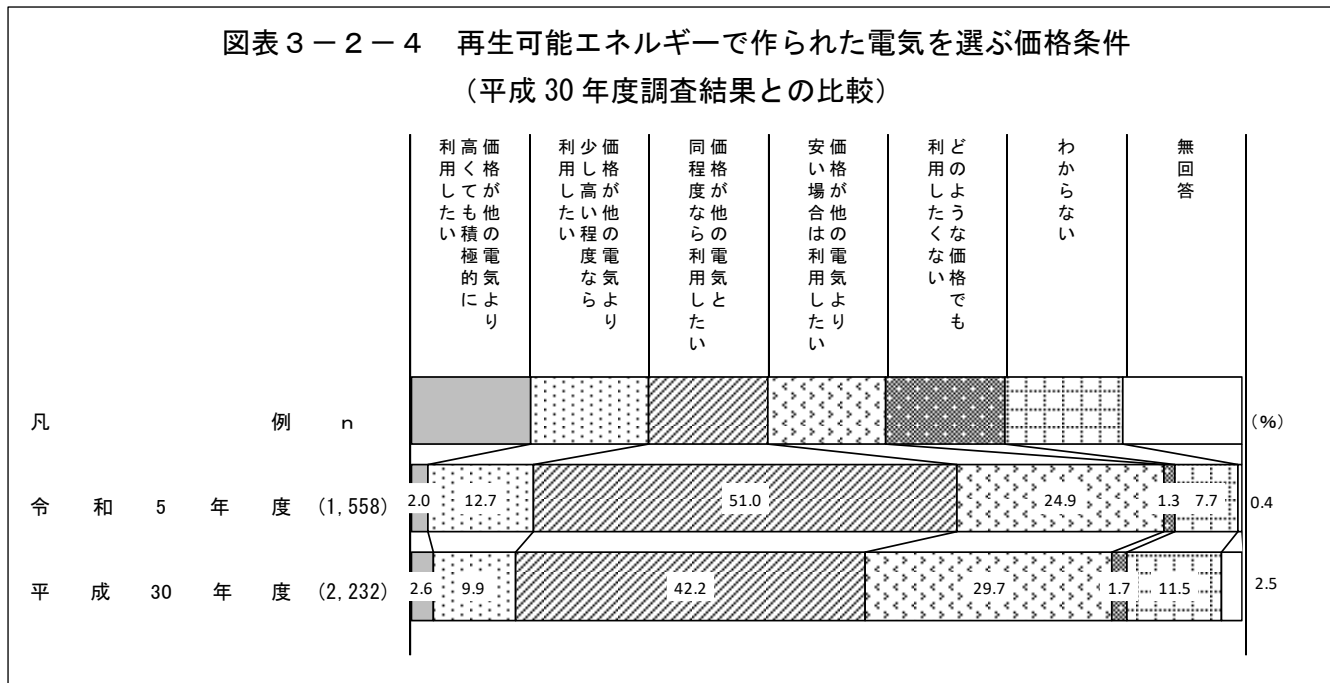
世帯人数別にみると、世帯人数が1人から3人において、「価格が他の電気より高くても利用したい」は、世帯人数が増えるにつれ高くなっている。（図表3-2-3）

図表3-2-3 再生可能エネルギーで作られた電気を選ぶ価格条件
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

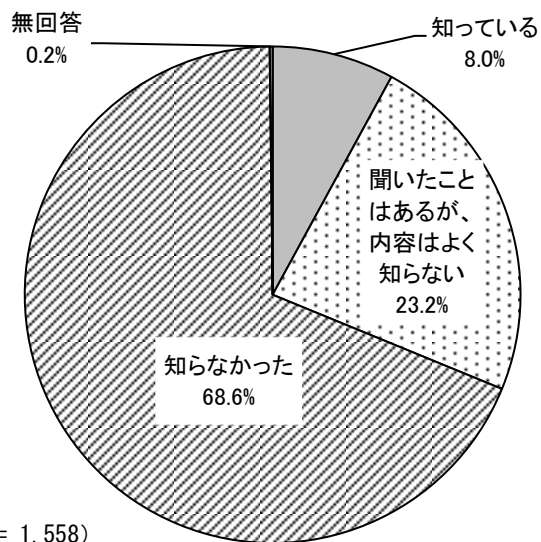
令和 5 年度の調査結果を、平成 30 年度調査と比較すると、「価格が他の電気より高くても積極的に利用したい」は 0.6 ポイントとわずかに減少しているが、「価格が他の電気より少し高い程度なら利用したい」は 2 ポイント以上増加している。「価格が他の電気と同程度なら利用したい」は 9 ポイント近い増加となっている。(図表 3-2-4)



(3) 再生可能エネルギーを活用した自治体間連携の認知度

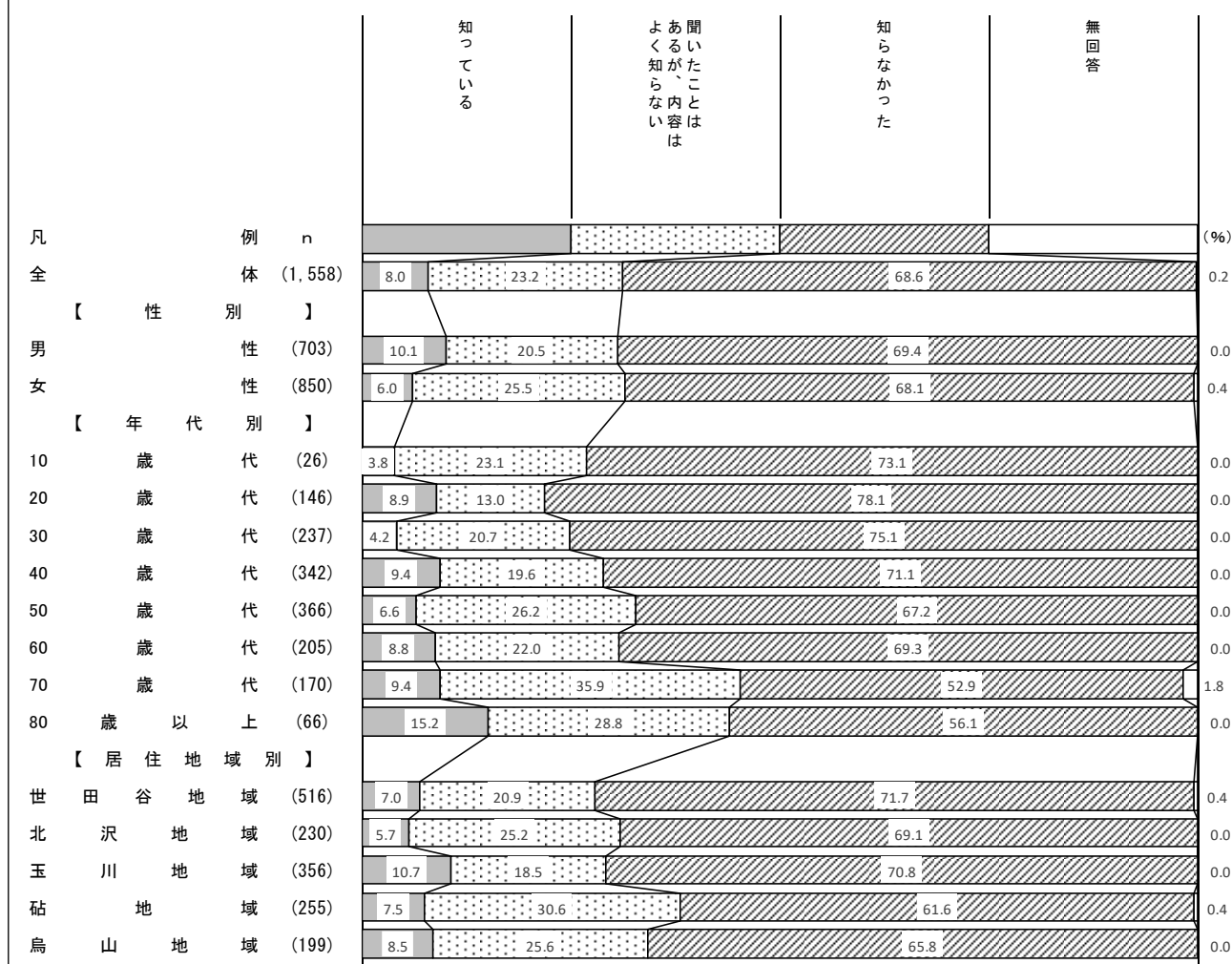
(3) 区は、群馬県川場村などをはじめとするエネルギー資源の豊富な自治体と連携することで、区内での再生可能エネルギーの利用拡大を進めています。このような再生可能エネルギーを活用した自治体間連携の取組みを、あなたは知っていますか。次の中から選んでください。(○は1つ)

図表3-3-1 再生可能エネルギーを活用した自治体間連携の認知度



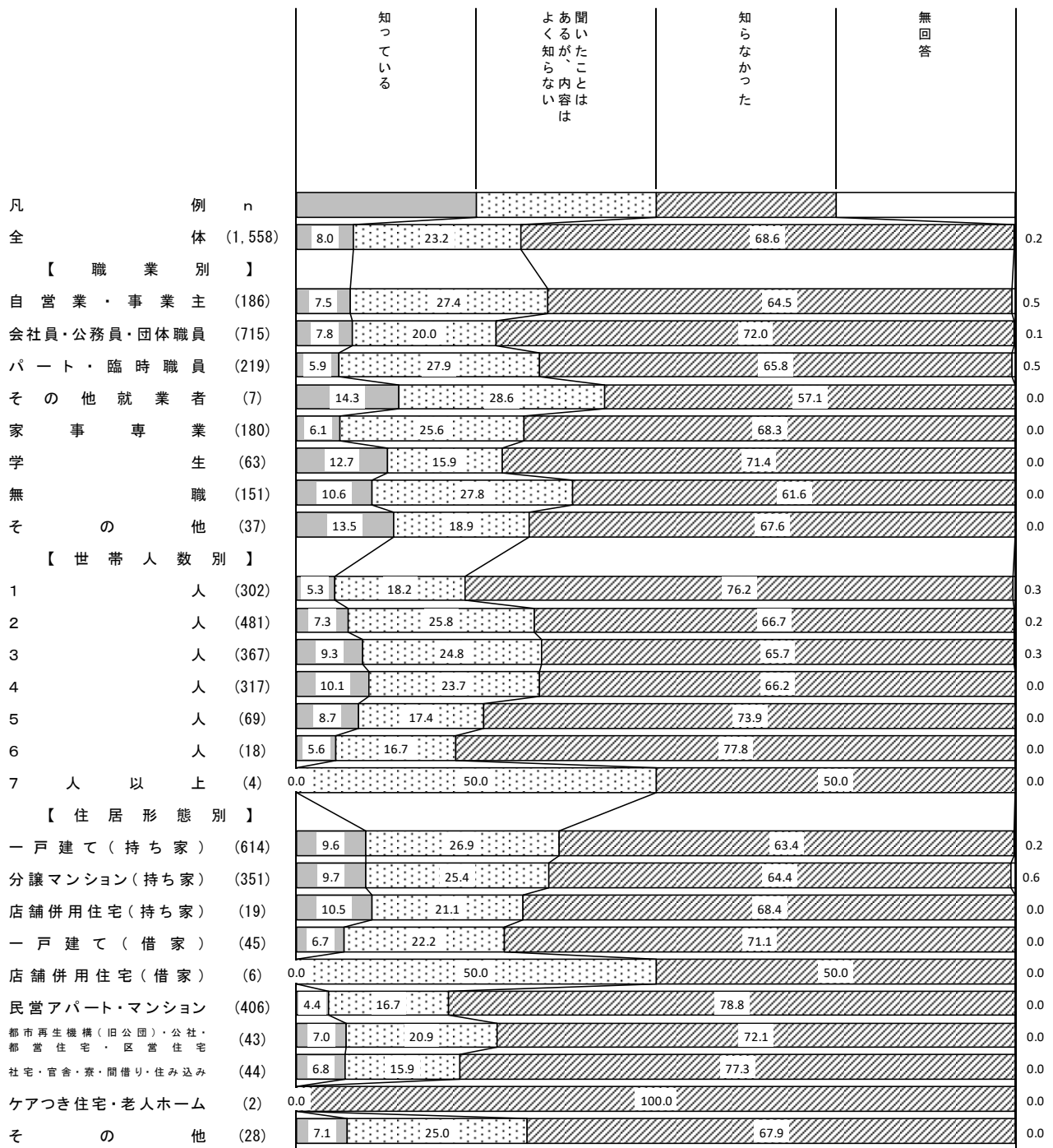
再生可能エネルギーを活用した自治体間連携を「知っている」は8.0%、「聞いたことがあるが、内容はよく知らない」が23.2%、「知らなかった」が68.6%となっている。(図表3-3-1)

図表 3-3-2 再生可能エネルギーを活用した自治体間連携の認知度
(性・年代・居住地域別)



年代別にみると、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」は70歳代(35.9%)、80歳以上(28.8%)で高くなっている。(図表3-3-2)

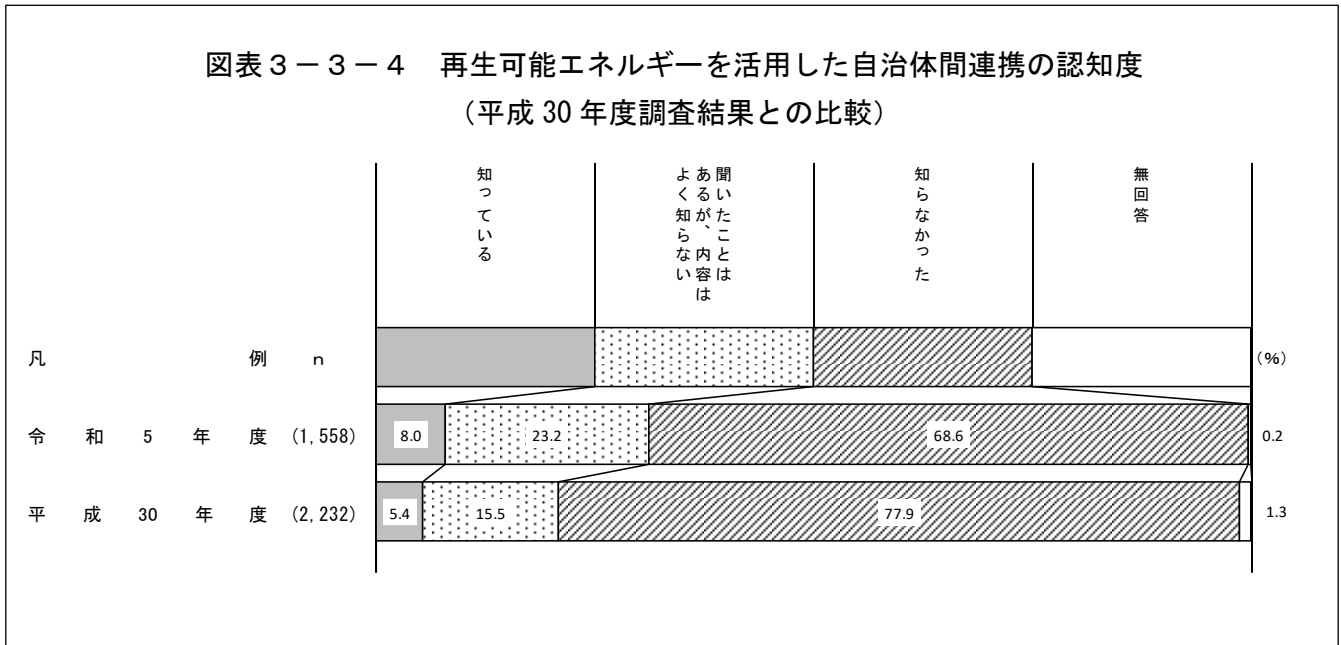
図表3-3-3 再生可能エネルギーを活用した自治体間連携の認知度
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、「知っている」が 2 ポイント余り、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が 7 ポイント余り増加している。

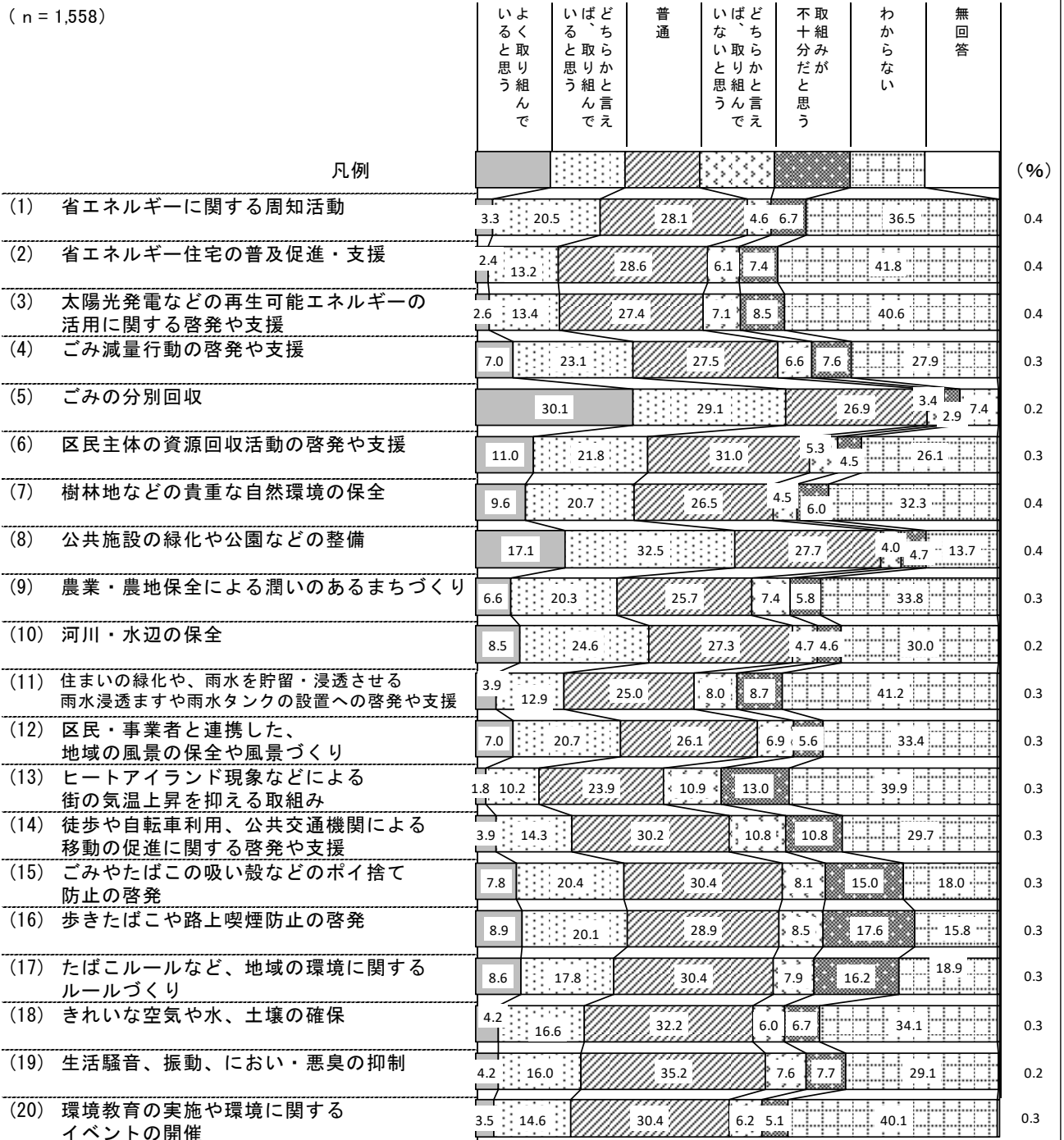
これにより「知っている」と「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」を合わせた割合は、20.9% から 31.2% へと 10 ポイント以上増加している。(図表 3-3-4)



4. 世田谷区が取り組んでいる環境施策について

問3 区は、東京都や国の各省庁の行う環境の施策と連携を取りながら、様々な施策を行っています。区
の取組みの状況についてあなたはどのように評価していますか。
次の(1)～(20)について、それぞれ当てはまる番号に1つ○をつけてください。

図表4 世田谷区が取り組んでいる環境施策について



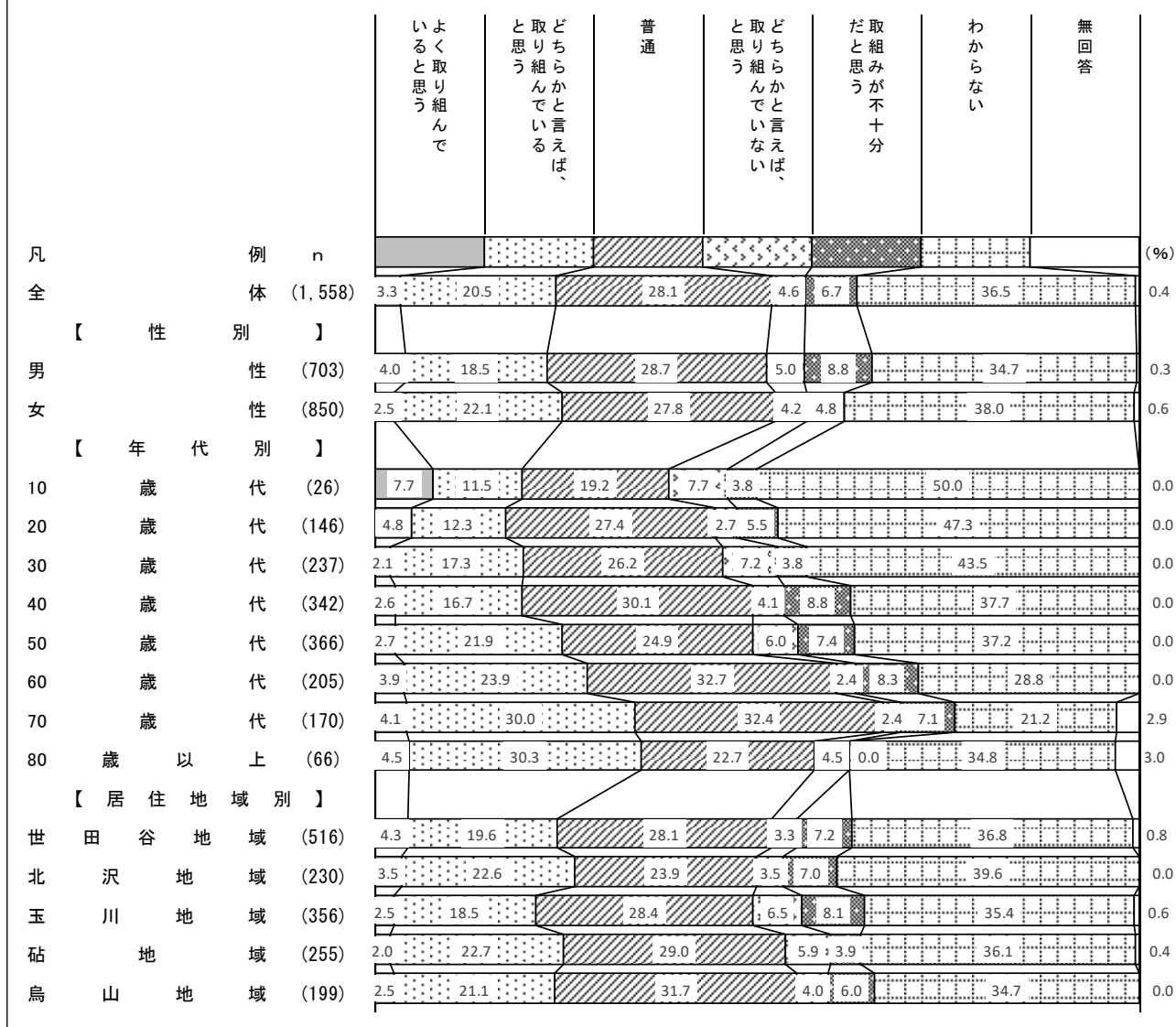
区が行っている 20 の環境施策について、「よく取り組んでいると思う」と「どちらかと言えば、取り組んでいると思う」を合わせた《取り組んでいる》の割合は、『(5) ごみの分別回収』が 59.2%と最も高く、5割以上となっている。次いで、『(8) 公共施設の緑化や公園などの整備』(49.6%)、『(10) 川辺・水辺の保全』(33.5%) となっている。(図表 4)

※以下、《取り組んでいる》は「よく取り組んでいると思う」と「どちらかと言えば、取り組んでいると思う」の合計とする。

(1) 省エネルギーに関する周知活動

図表 4-1-1 省エネルギーに関する周知活動

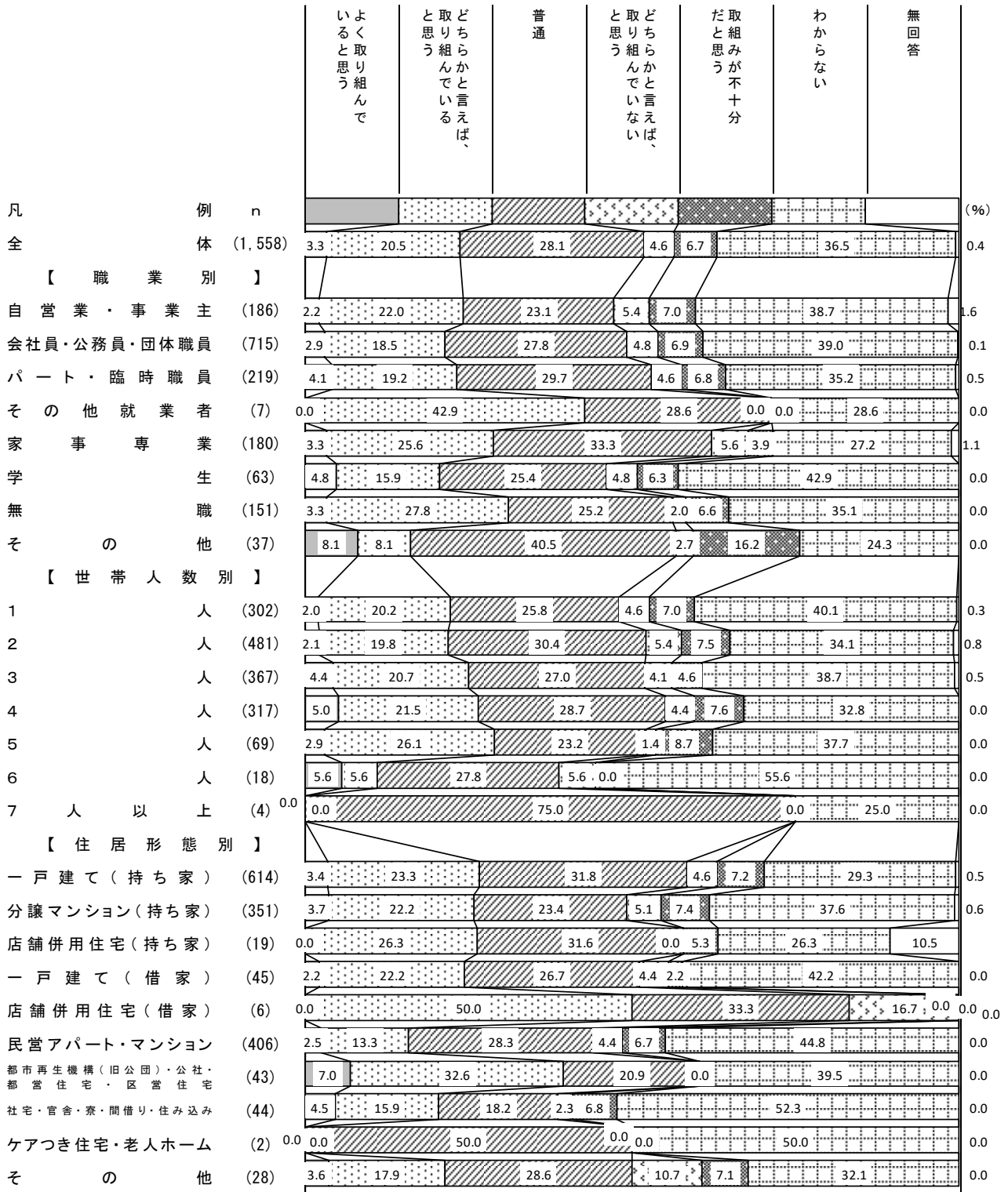
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、《取り組んでいる》が23.8%となっている。

年代別では、40歳代より上の年代において、年代が上がるにつれて《取り組んでいる》が高くなっている。(図表4-1-1)

図表4-1-2 省エネルギーに関する周知活動
(職業・世帯人数・居住形態別)



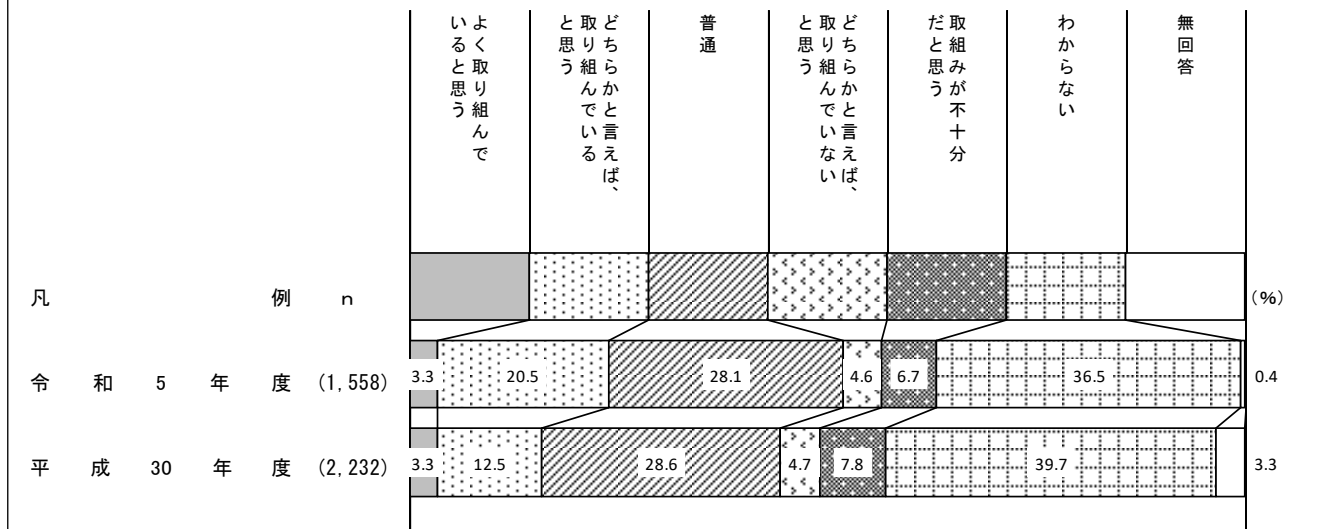
《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 15.8%、『令和 5 年度』が 23.8%で 8 ポイント増加している。(図表 4-1-3)

図表 4-1-3 省エネルギーに関する周知活動
(平成 30 年度調査結果との比較)

(平成 30 年調査の項目)

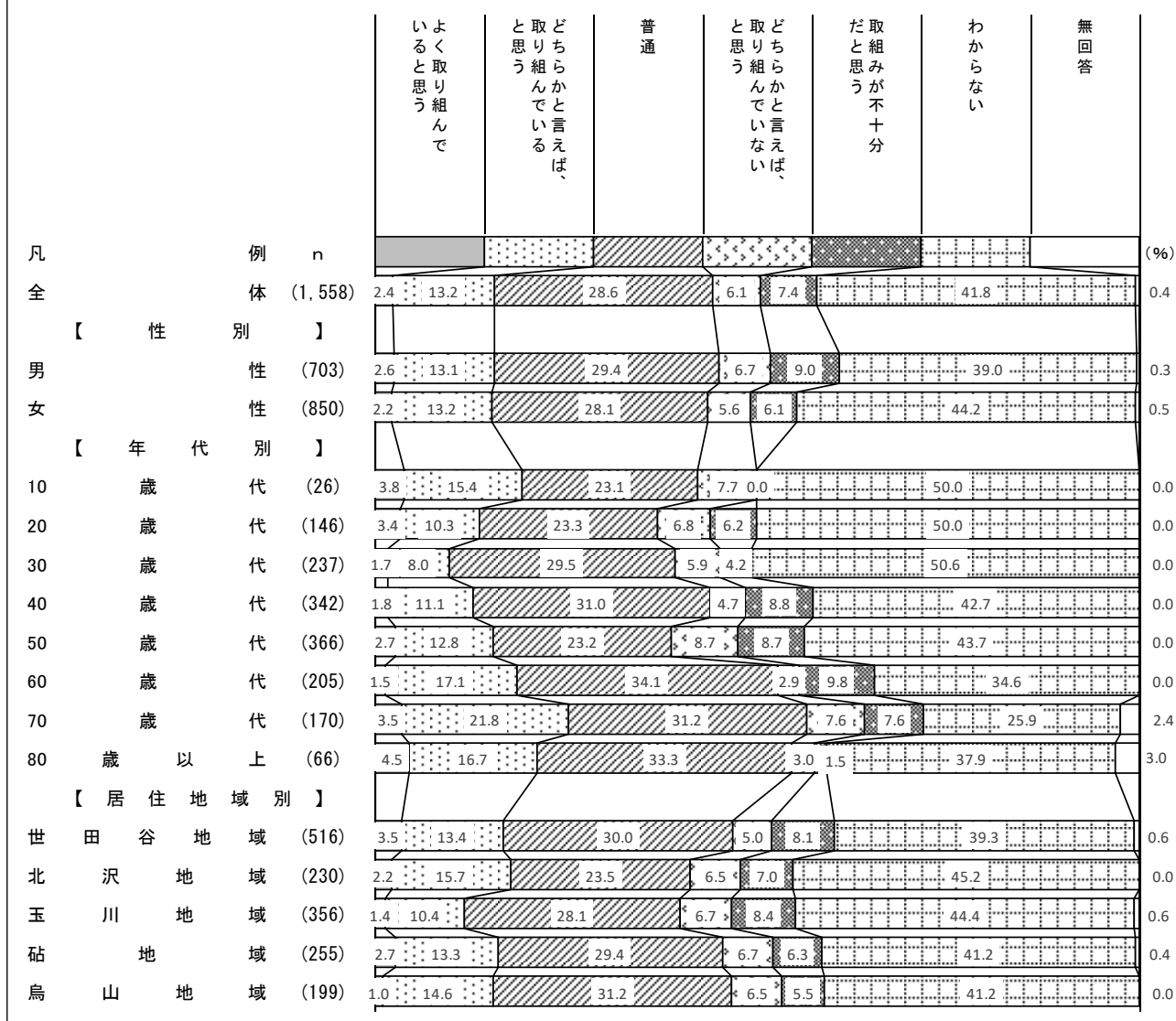
省エネルギーに関する周知活動や支援



(2) 省エネルギー住宅の普及促進・支援

図表4-2-1 省エネルギー住宅の普及促進・支援

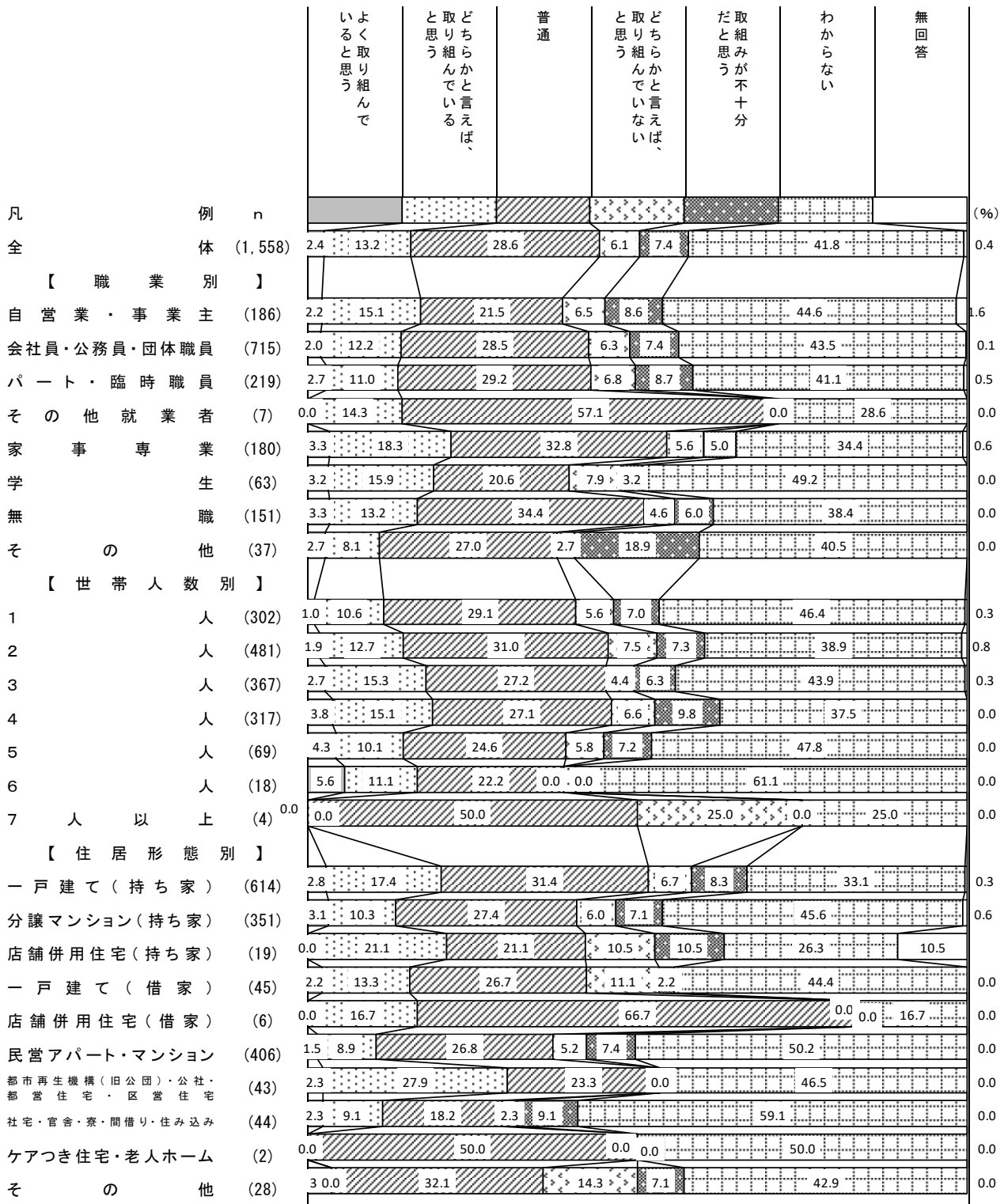
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が15.6%となっている。

年代別にみると、30歳代から70歳代において、「取り組んでいる」は年代が上がるにつれて高くなっている。(図表4-2-1)

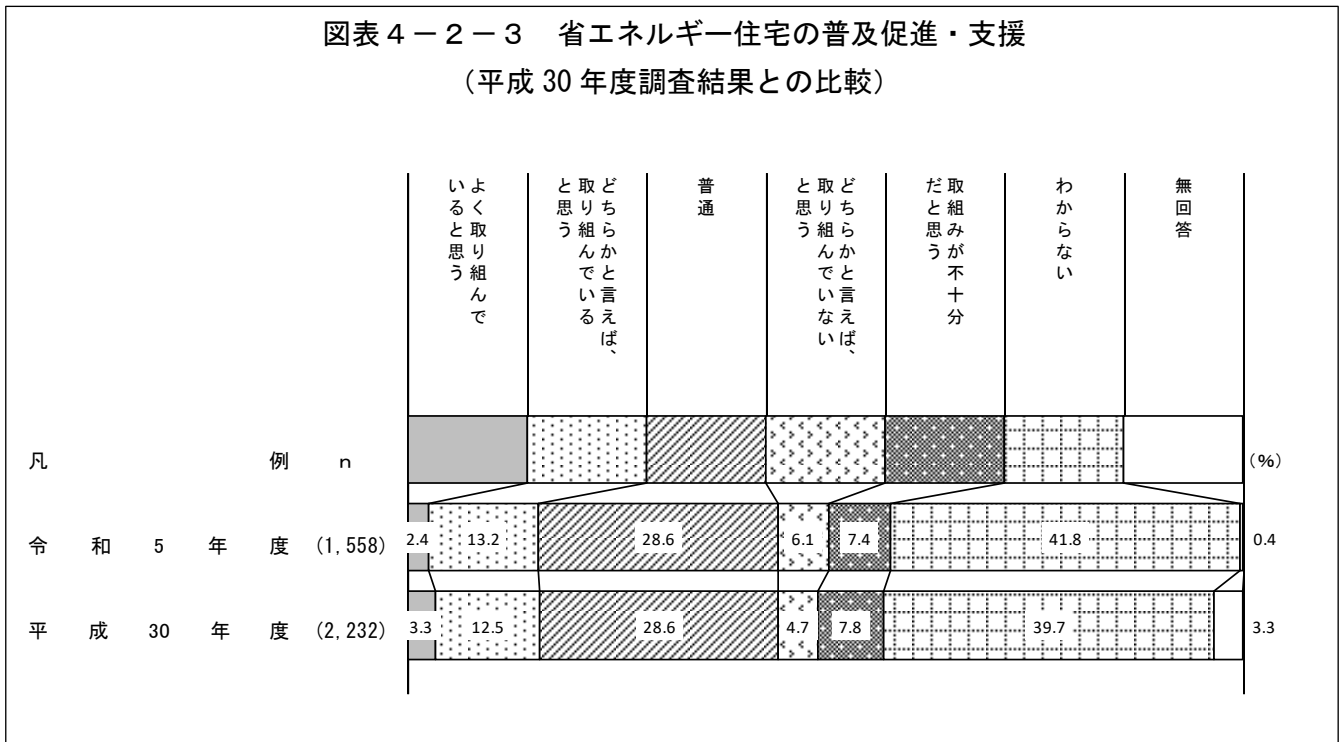
図表4-2-2 省エネルギー住宅の普及促進・支援
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

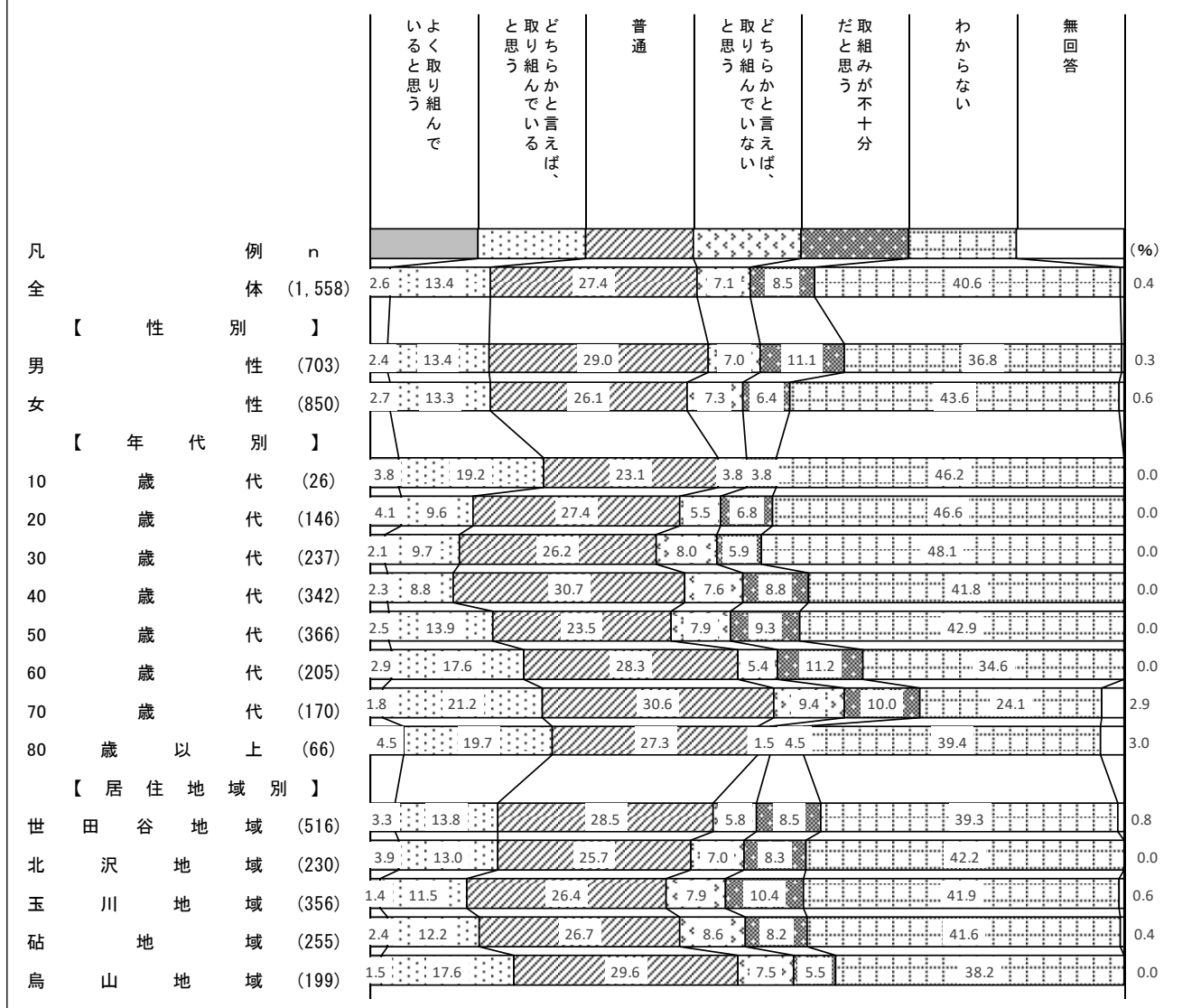
平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 15.8%、『令和 5 年度』は 15.6%と 0.2 ポイントの減少で大きな増減はみられない。(図表 4-2-3)

図表 4-2-3 省エネルギー住宅の普及促進・支援
(平成 30 年度調査結果との比較)



(3) 太陽光発電などの再生可能エネルギーの活用に関する啓発や支援

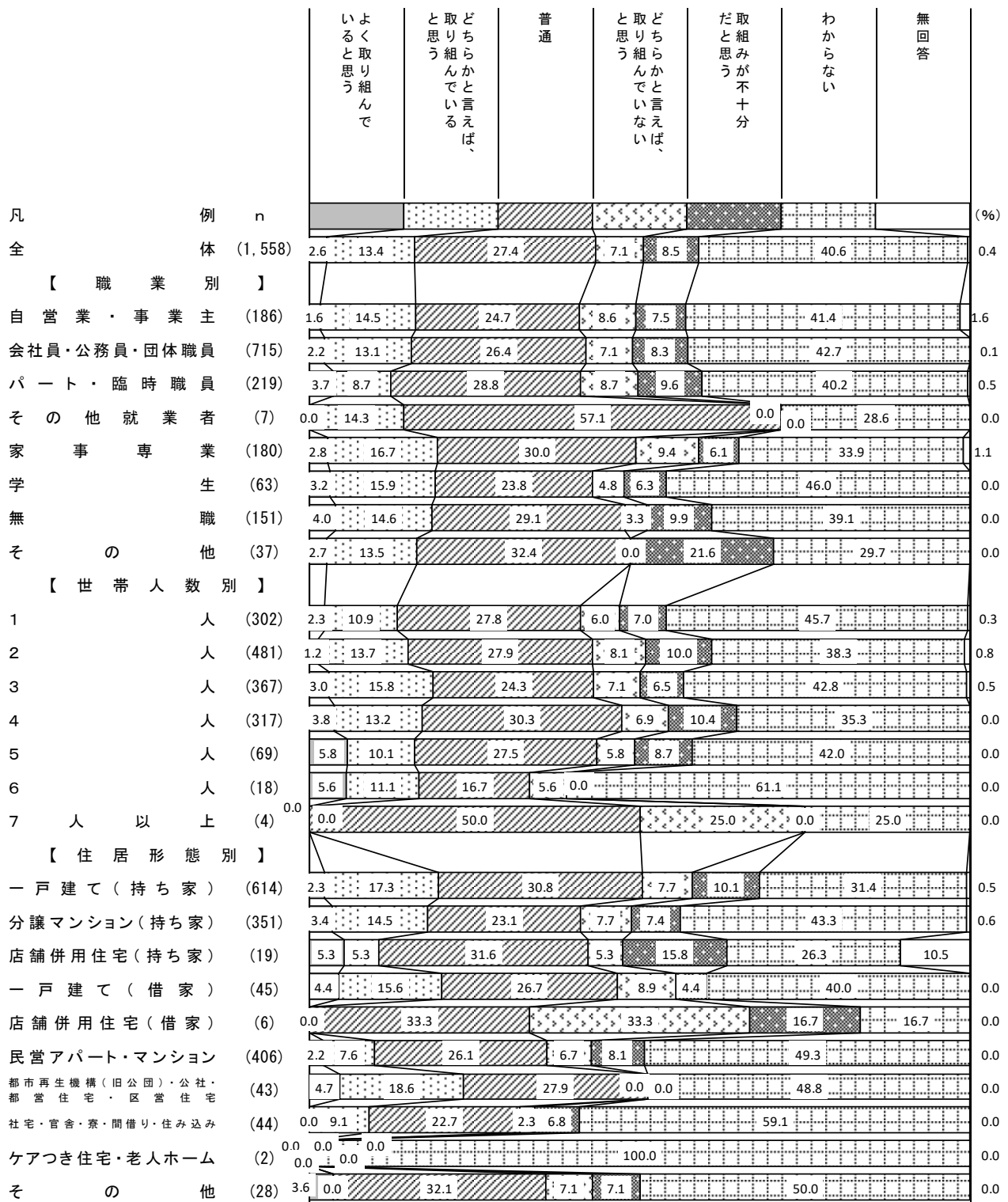
図表 4-3-1 太陽光発電などの再生可能エネルギーの活用に関する啓発や支援
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が16.0%となっている。

年代別にみると、40歳代より上の年代において、「取り組んでいる」は年代が上がるにつれて高くなっている。(図表4-2-1)

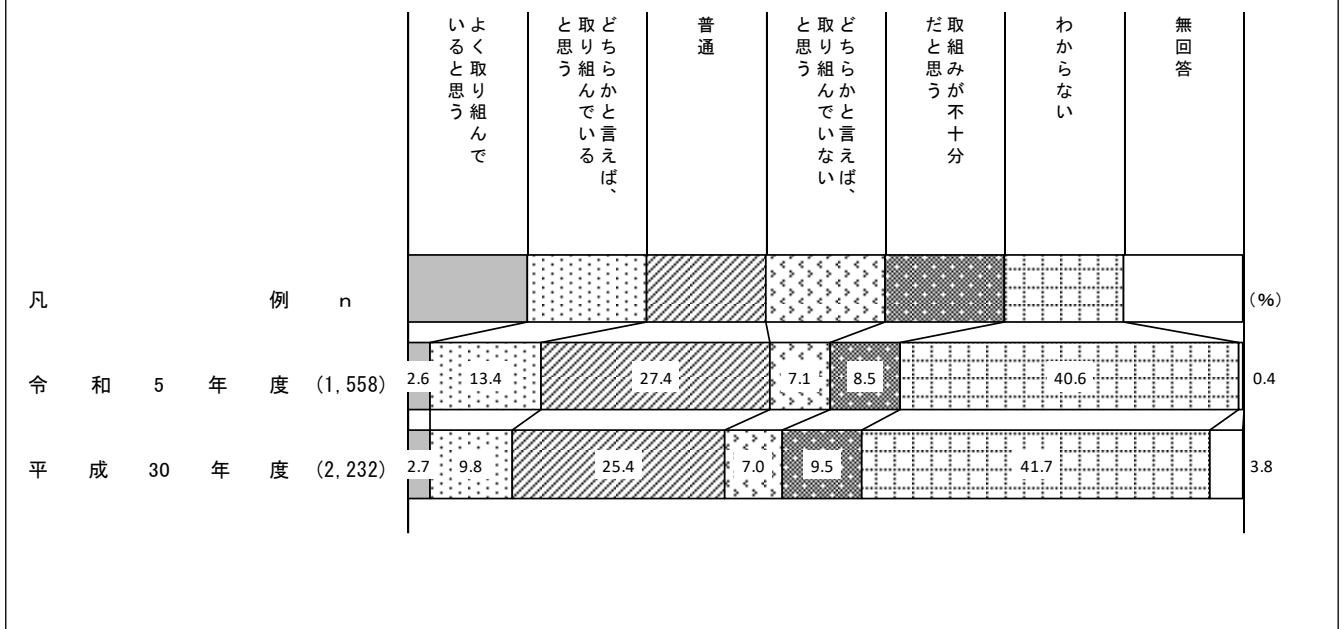
図表 4-3-2 太陽光発電などの再生エネルギーの活用に関する啓発や支援
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

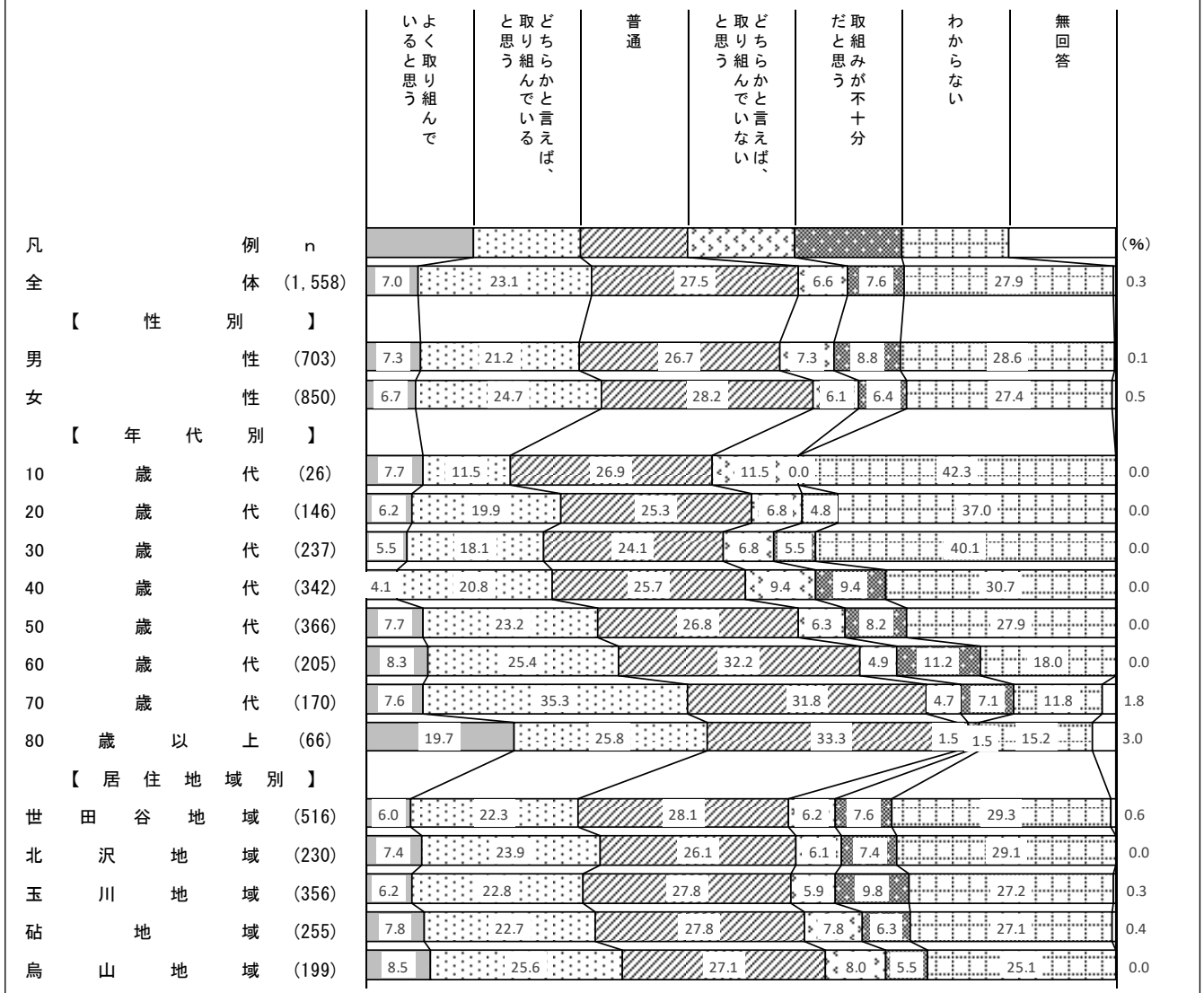
平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 12.5%、『令和 5 年度』は 16.0%と 3 ポイント余り増加している。(図表 4-2-3)

図表 4-3-3 太陽光発電などの再生エネルギーの活用に関する啓発や支援
(平成 30 年度調査結果との比較)



(4) ごみ減量行動の啓発や支援

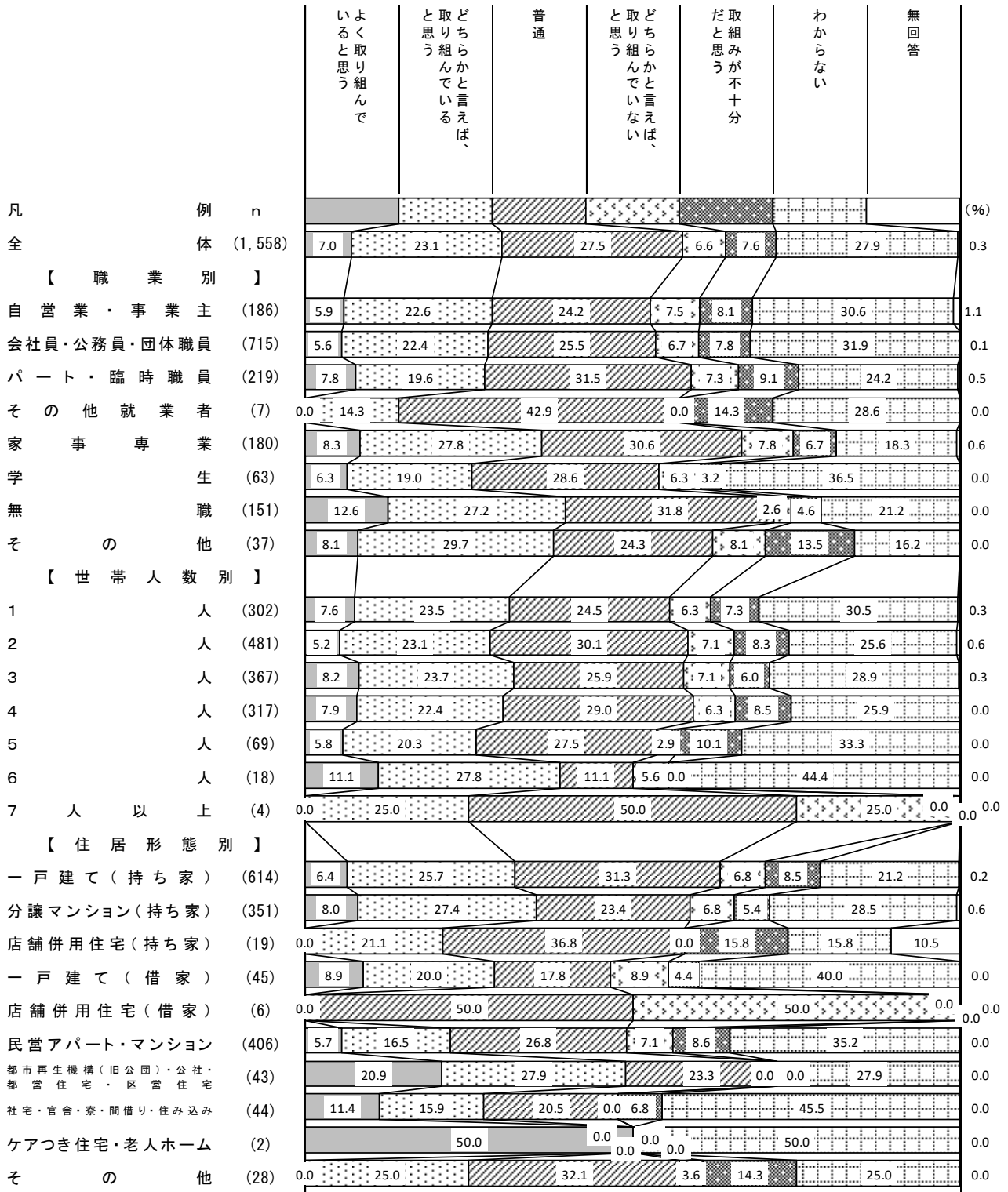
図表4-4-1 ごみ減量行動の啓発や支援
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が30.1%となっている。

年代別にみると、「よく取り組んでいると思う」は80歳以上(19.7%)で高い。「取り組んでいる」では30歳代より上の年代で、年代が上がるにつれ高くなっている。(図表4-3-1)

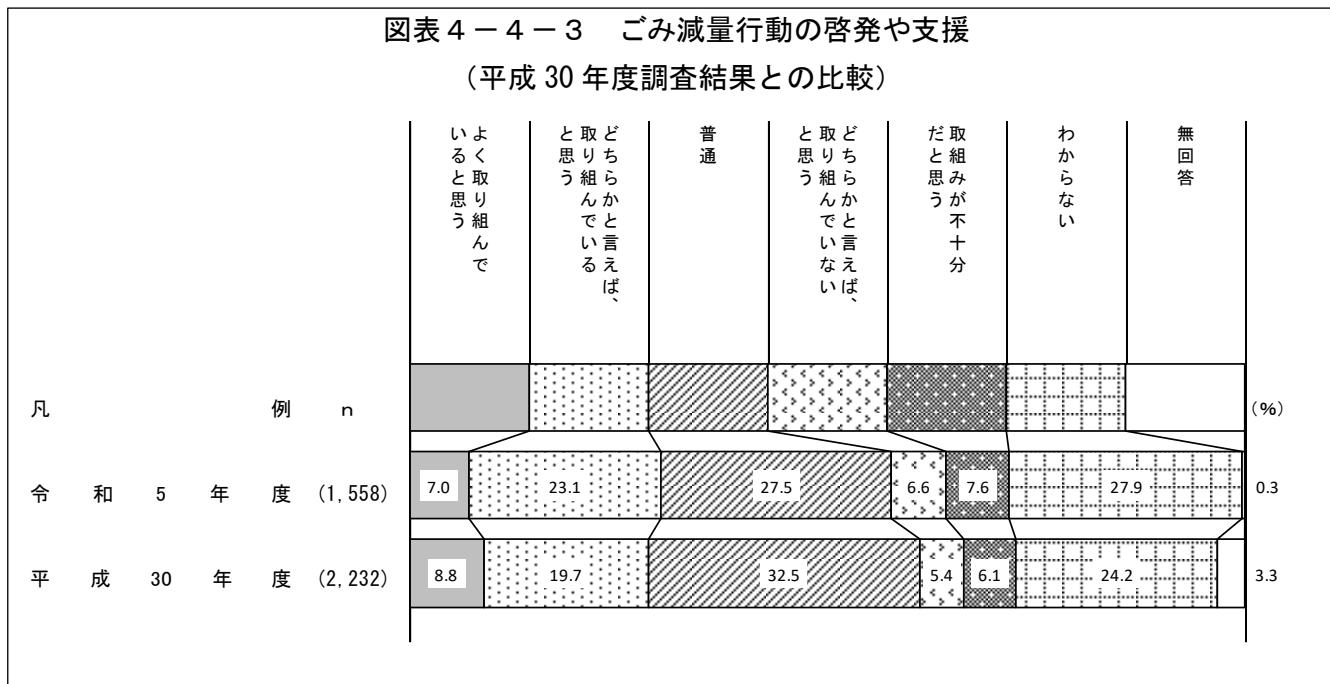
図表4-4-2 ごみ減量行動の啓発や支援
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 28.5%、『令和 5 年度』は 30.1%で 1 ポイント余りの増加と大きな増減はみられない。(図表 4-4-3)

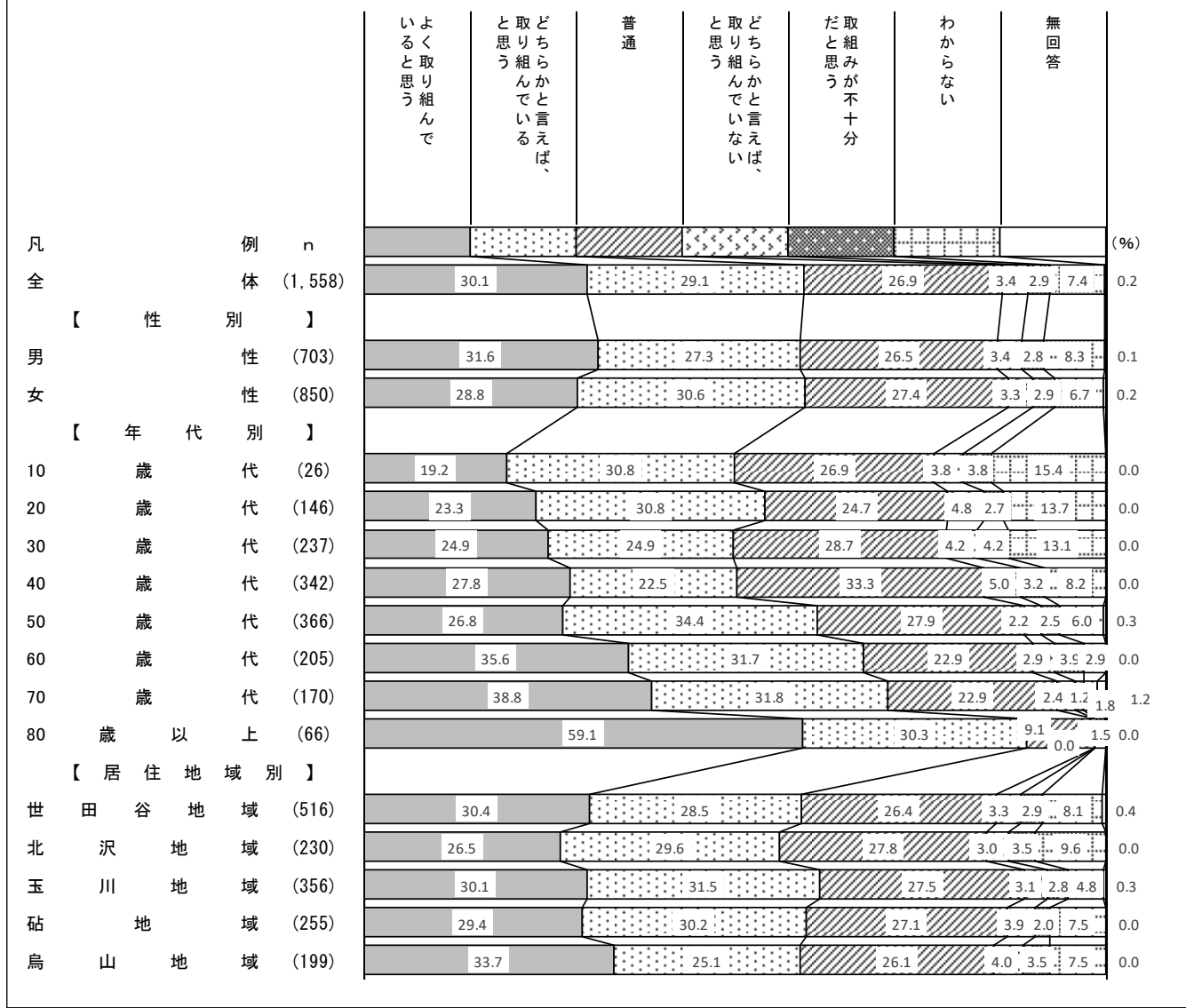
図表 4-4-3 ごみ減量行動の啓発や支援
(平成 30 年度調査結果との比較)



(5) ごみの分別回収

図表 4-5-1 ごみの分別回収

(性・年代・居住地域別)



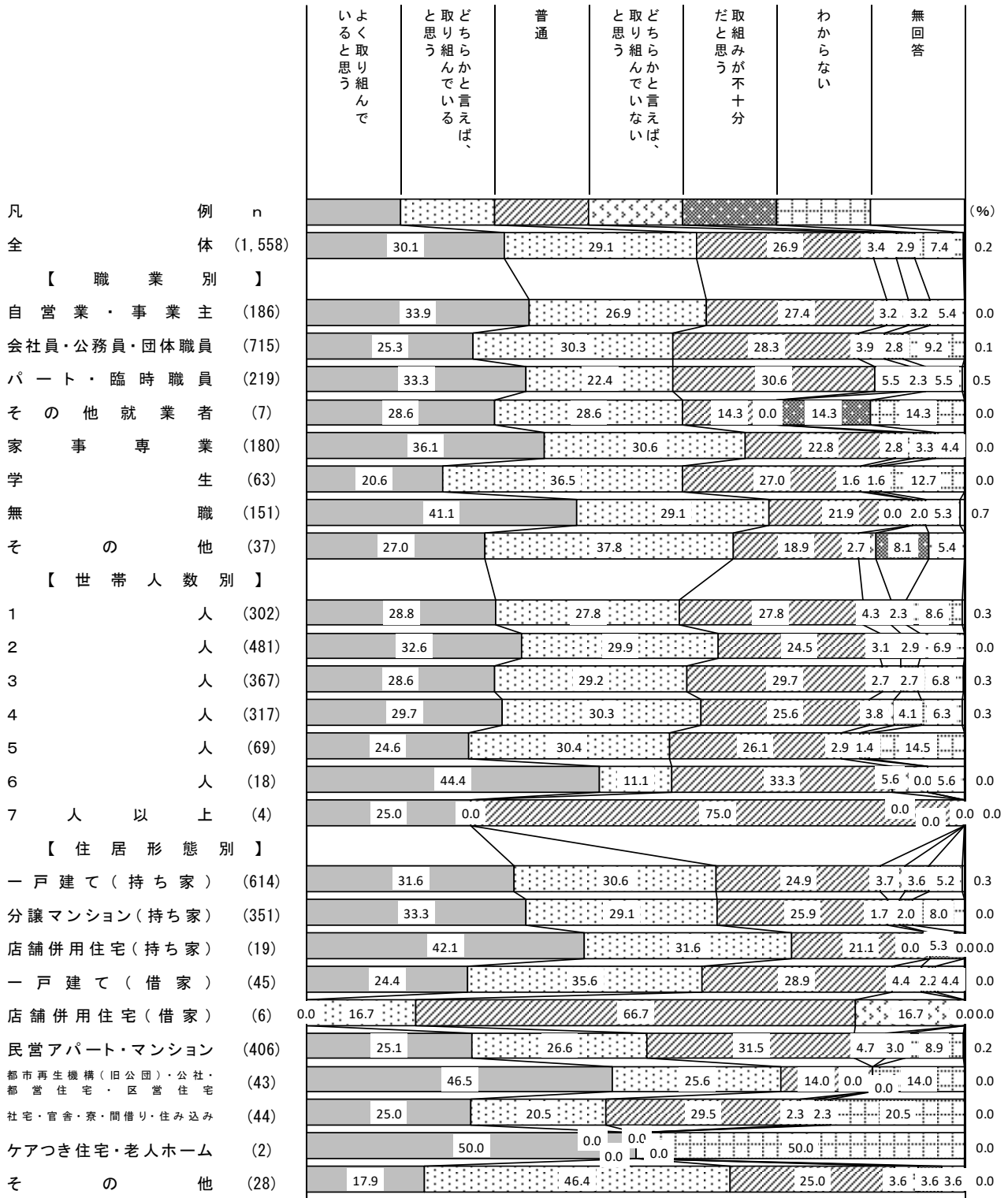
全体で見ると、「取り組んでいる」が59.2%となっている。

年代別にみると、「よく取り組んでいると思う」は80歳以上(59.1%)で高く、5割以上となっている。30歳代より上の年代において、「取り組んでいる」は年代が上がるにつれ高くなっている。

(図表 4-5-1)

職業別にみると、「取り組んでいる」は無職(70.2%)、家事専業(66.7%)で高くなっている。(図表 4-5-2)

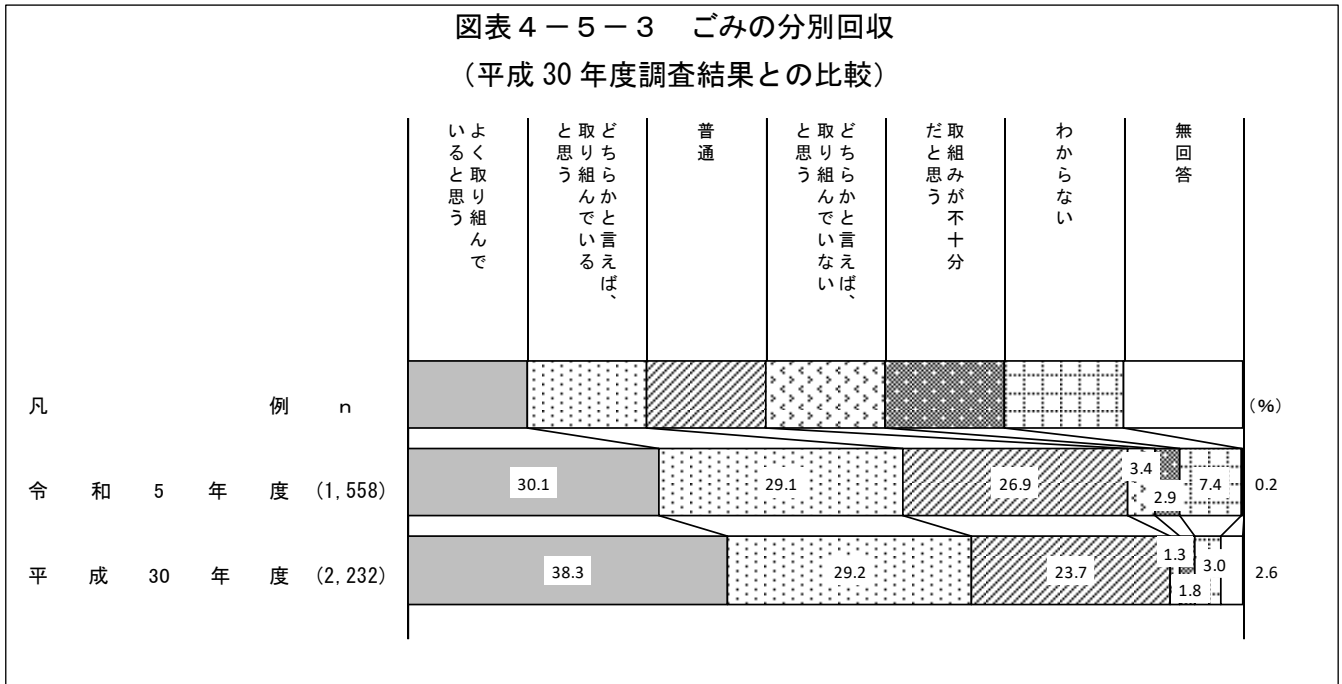
図表4-5-2 ごみの分別回収
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

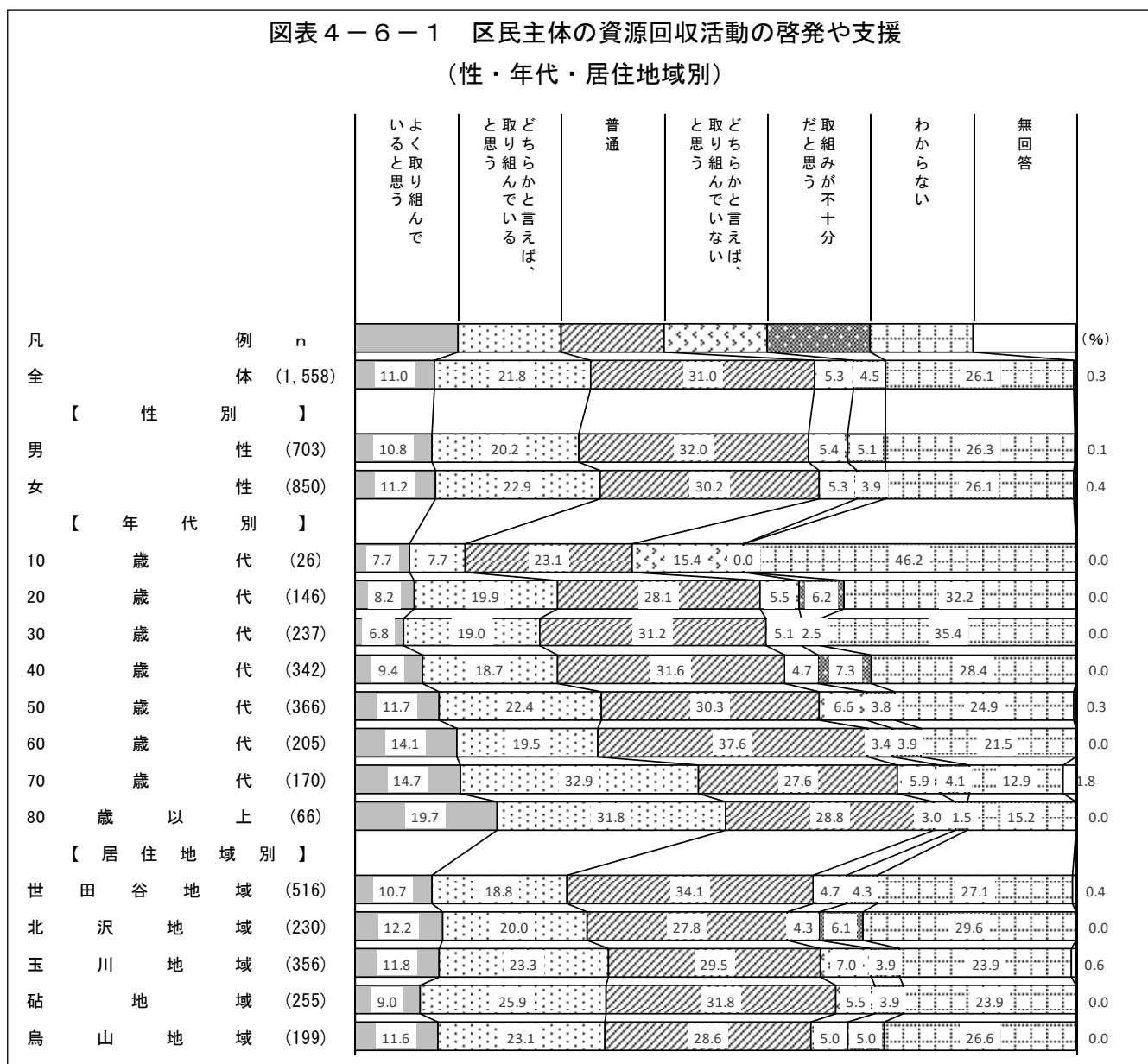
平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 67.5%、『令和 5 年度』は 59.2%と 7 ポイント以上減少している。(図表 4-5-3)

図表 4-5-3 ごみの分別回収
(平成 30 年度調査結果との比較)



(6) 区民主体の資源回収活動の啓発や支援

図表4-6-1 区民主体の資源回収活動の啓発や支援
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が32.8%となっている。

年代別にみると、「よく取り組んでいると思う」は30歳代より上の年代で、年代が上がるにつれ高くなっており、80歳以上では19.7%と2割近い。(図表4-6-1)

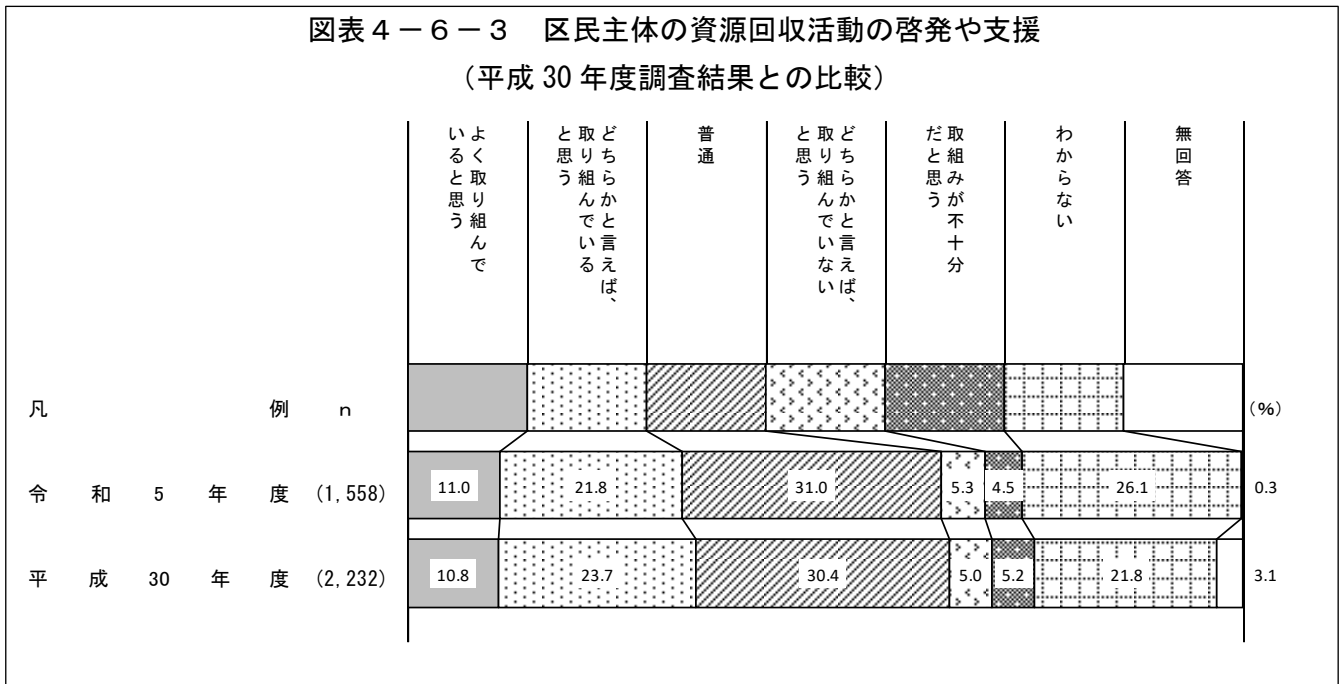
図表4-6-2 区民主体の資源回収活動の啓発や支援
(職業・世帯人数・居住形態別)

		よく取り組んでいると思う	どちらかといえば、取り組んでいる	普通	どちらかといえば、取り組んでいない	取り組みが不十分だと思う	わからない	無回答	
凡例	n								(%)
全体	(1,558)	11.0	21.8	31.0	5.3	4.5		26.1	0.3
【職業別】									
自営業・事業主	(186)	10.8	22.0	31.2	3.8	4.3		28.0	0.0
会社員・公務員・団体職員	(715)	9.1	21.4	30.9	5.3	4.5		28.7	0.1
パート・臨時職員	(219)	13.2	21.0	32.4	5.0	4.1		23.7	0.5
その他就業者	(7)	28.6	0.0	28.6	0.0	14.3		28.6	0.0
家事専業	(180)	13.3	23.3	31.1	6.7	4.4		20.6	0.6
学生	(63)	4.8	17.5	31.7	9.5	3.2		33.3	0.0
無職	(151)	17.2	24.5	28.5	4.6	4.0		20.5	0.7
その他	(37)	8.1	24.3	32.4	5.4	10.8		18.9	0.0
【世帯人数別】									
1人	(302)	11.3	19.2	32.8	4.6	4.0		27.8	0.3
2人	(481)	10.0	21.2	31.8	5.0	4.8		27.2	0.0
3人	(367)	12.0	23.7	27.0	5.7	4.1		27.0	0.5
4人	(317)	11.0	23.7	33.1	5.7	5.4		20.8	0.3
5人	(69)	13.0	15.9	31.9	8.7	2.9		27.5	0.0
6人	(18)	11.1	33.3	11.1	0.0	5.6		38.9	0.0
7人以上	(4) ^{0.0}	0.0		75.0			0.0	0.0	25.0
【住居形態別】									
一戸建て(持ち家)	(614)	11.6	23.1	32.9	6.4	5.4		20.2	0.5
分譲マンション(持ち家)	(351)	12.0	25.6	28.8	5.4	2.3		25.9	0.0
店舗併用住宅(持ち家)	(19)	21.1	21.1	26.3	5.3	5.3		21.1	0.0
一戸建て(借家)	(45)	11.1	20.0	35.6	8.9	4.4		20.0	0.0
店舗併用住宅(借家)	(6) ^{0.0}	0.0		83.3			0.0	16.7	0.0
民営アパート・マンション	(406)	9.4	16.0	30.0	4.9	4.9		34.5	0.2
都市再生機構(旧公団)・公社・都営住宅・区営住宅	(43)	16.3		34.9	23.3	0.0		25.6	0.0
社宅・官舎・寮・間借り・住み込み	(44)	11.4	15.9	27.3	0.0	6.8		38.6	0.0
ケアつき住宅・老人ホーム	(2) ^{0.0}	0.0	50.0	0.0	0.0		50.0		0.0
その他	(28)	0.0	25.0	32.1	0.0	7.1		35.7	0.0

《平成 30 年度調査結果との比較》

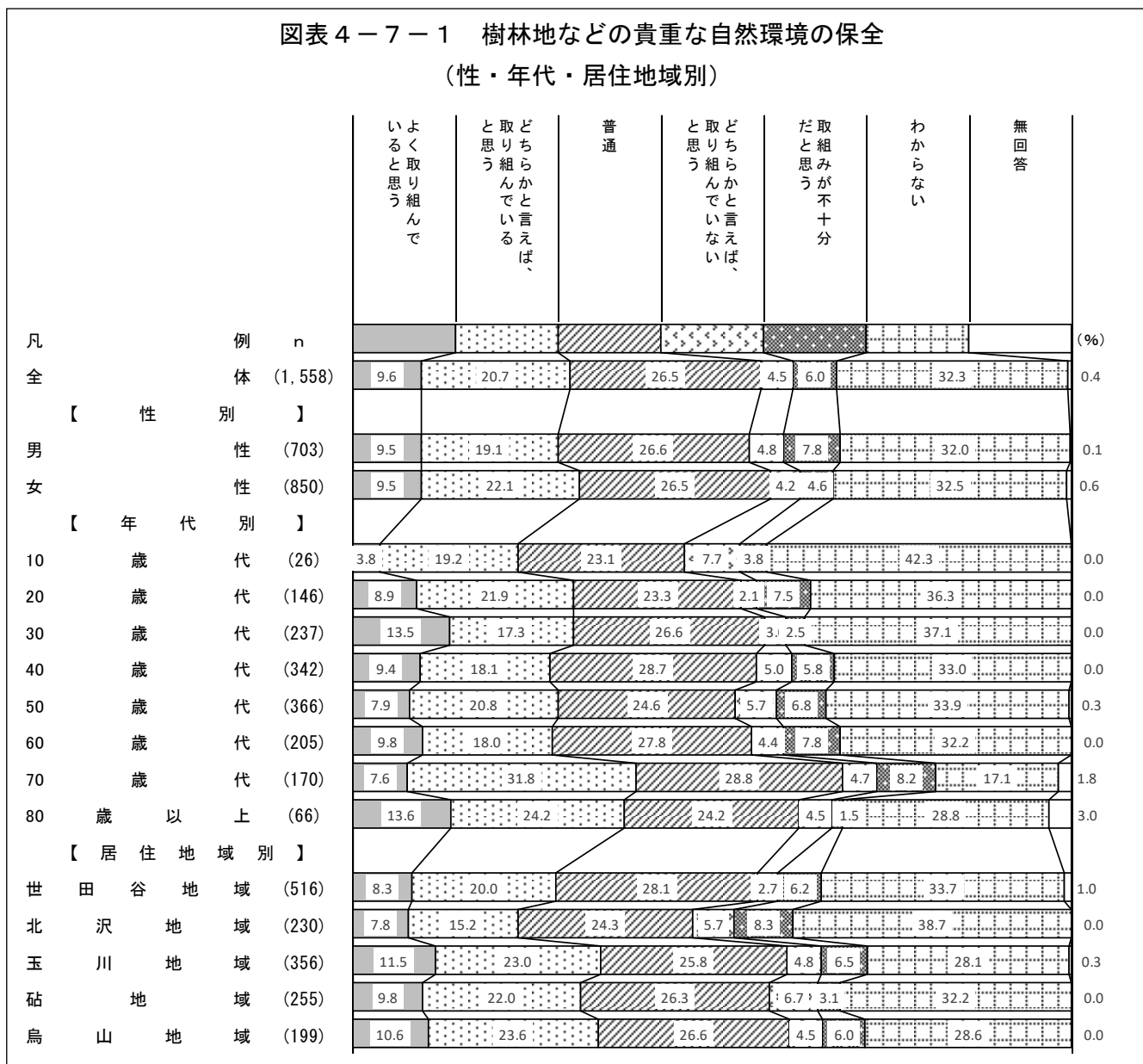
平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 34.5%、『令和 5 年度』は 32.8%で 1 ポイント余り減少している。(図表 4-4-3)

図表 4-6-3 区民主体の資源回収活動の啓発や支援
(平成 30 年度調査結果との比較)



(7) 樹林地などの貴重な自然環境の保全

図表4-7-1 樹林地などの貴重な自然環境の保全
(性・年代・居住地域別)



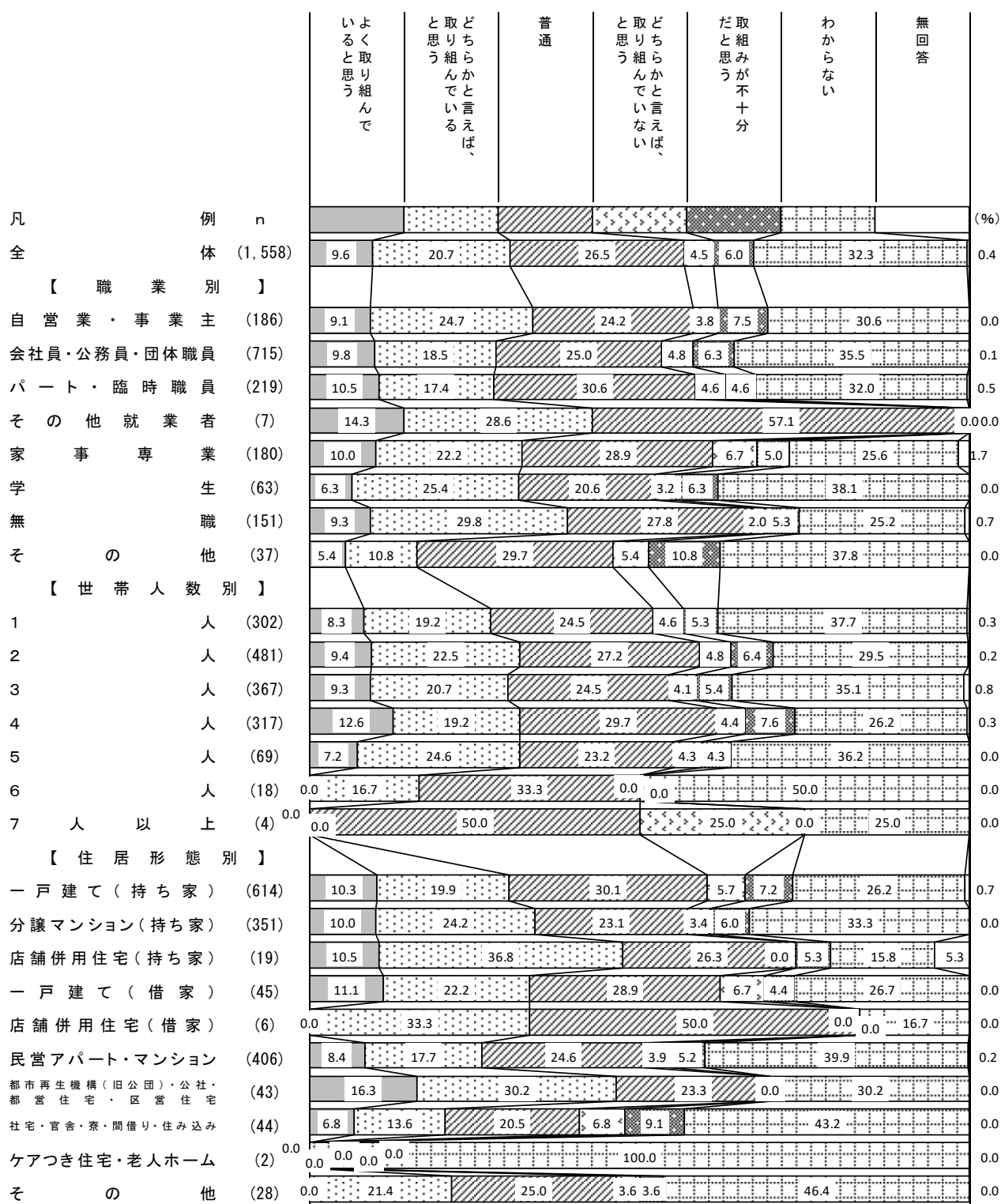
全体で見ると、「取り組んでいる」が30.3%となっている。

年代別では、「取り組んでいる」は70歳代(39.4%)、80歳以上(37.8%)で高くなっている。

地域別にみると、「取り組んでいる」は北沢地域(23.0%)で低くなっている。(図表4-7-1)

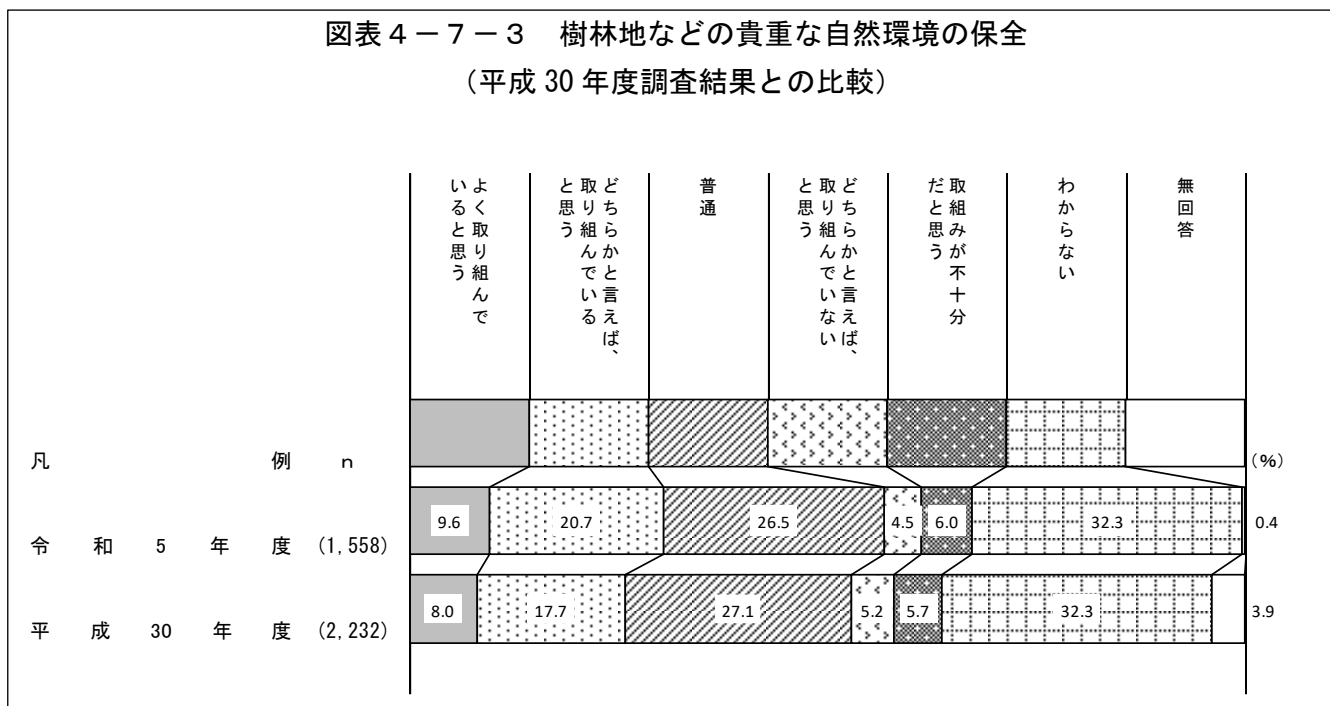
図表 4-7-2 樹林地などの貴重な自然環境の保全

(職業・世帯人数・居住形態別)



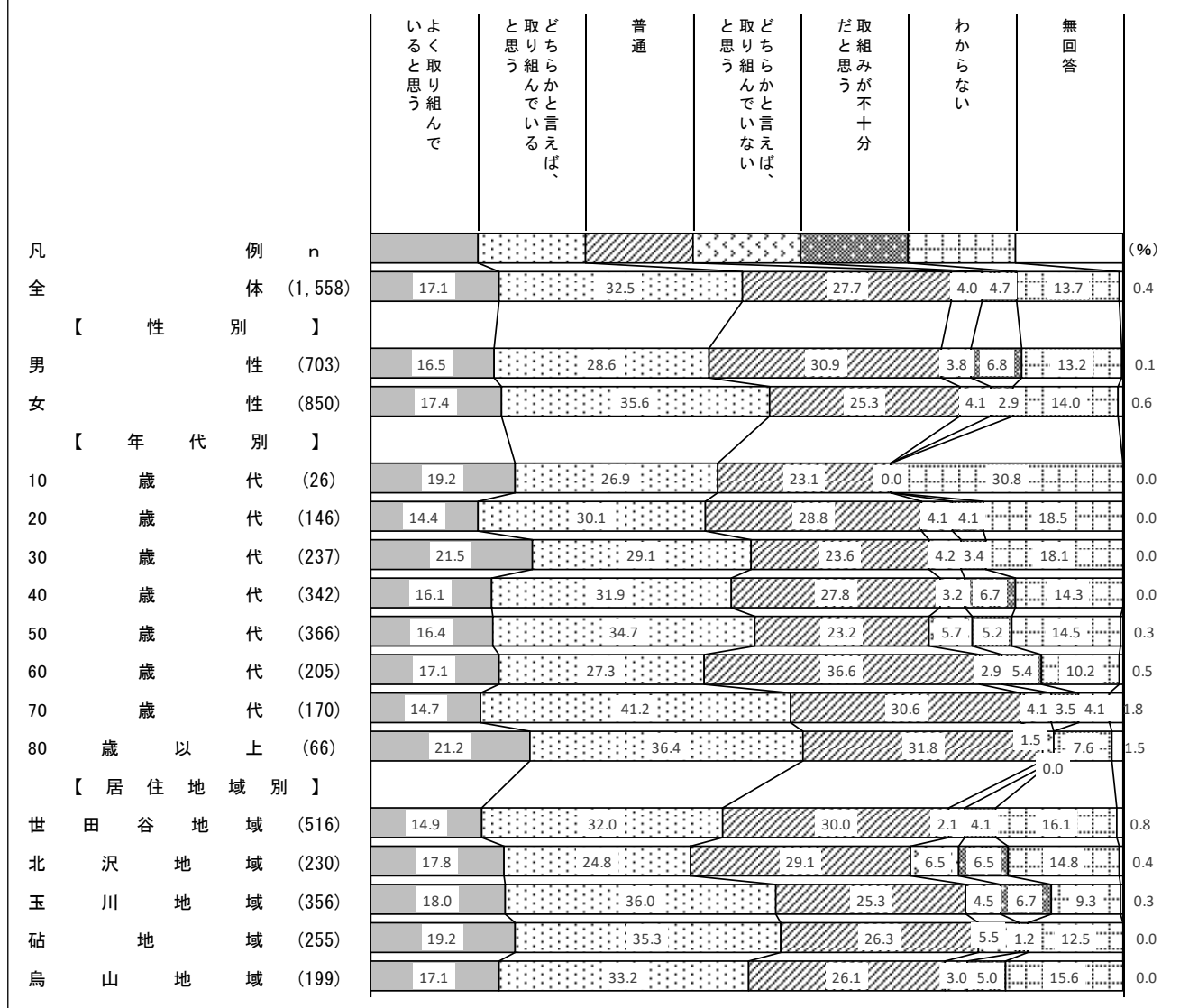
《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 25.7%、『令和 5 年度』は 30.3%で 4 ポイント余りの増加となっている。(図表 4-7-3)



(8) 公共施設の緑化や公園などの整備

図表 4-8-1 公共施設の緑化や公園などの整備
(性・年代・居住地域別)

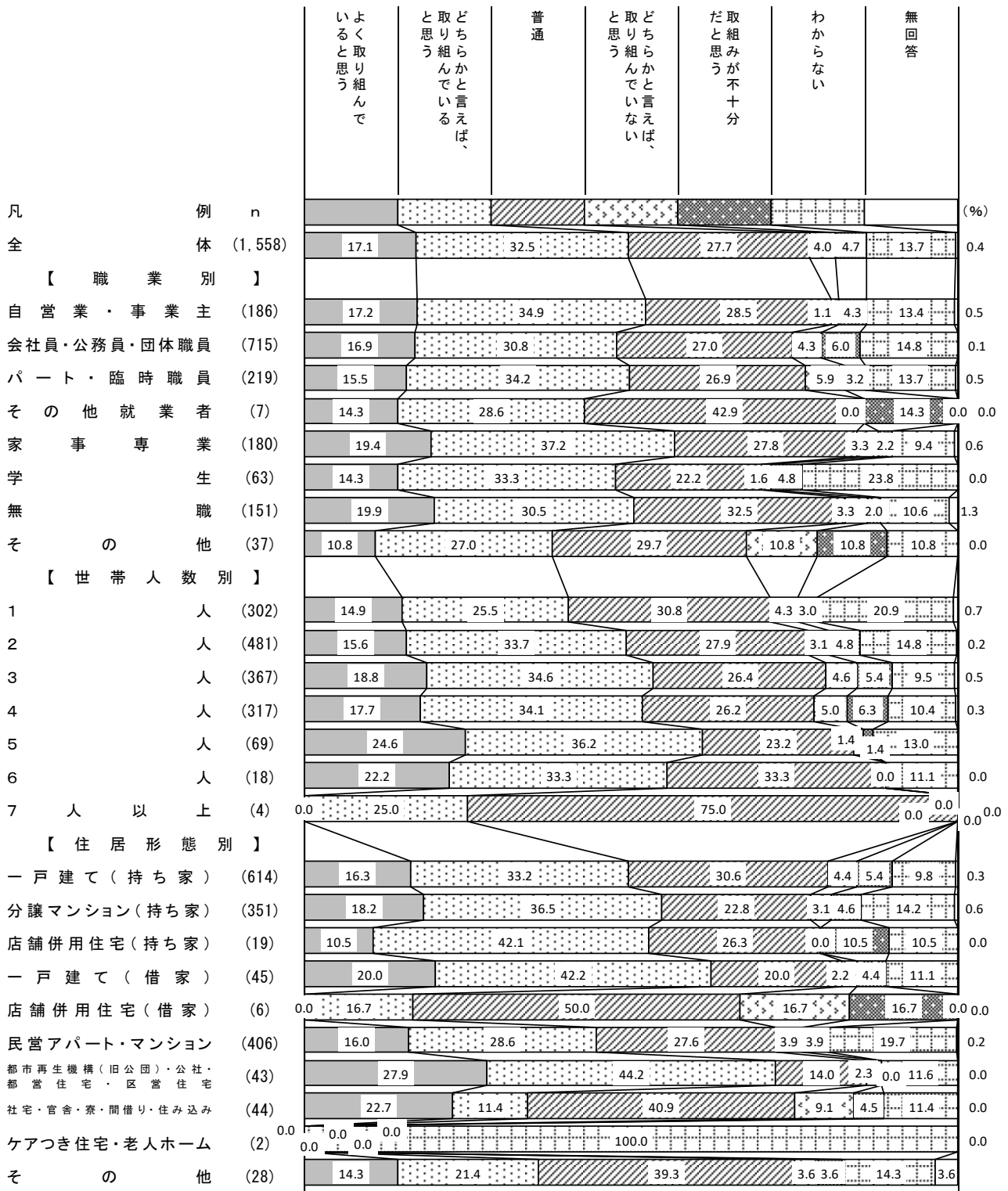


全体で見ると、「取り組んでいる」が49.6%となっている。

年代別にみると、「よく取り組んでいると思う」は30歳代(21.5%)、80歳以上(21.2%)で高く、20歳代(14.4%)、70歳代(14.7%)で低くなっている。

地域別にみると、「取り組んでいる」は砧地域(54.5%)、玉川地域(54.0%)で5割を超え高く、北沢地域(42.6%)で低くなっている。(図表4-8-1)

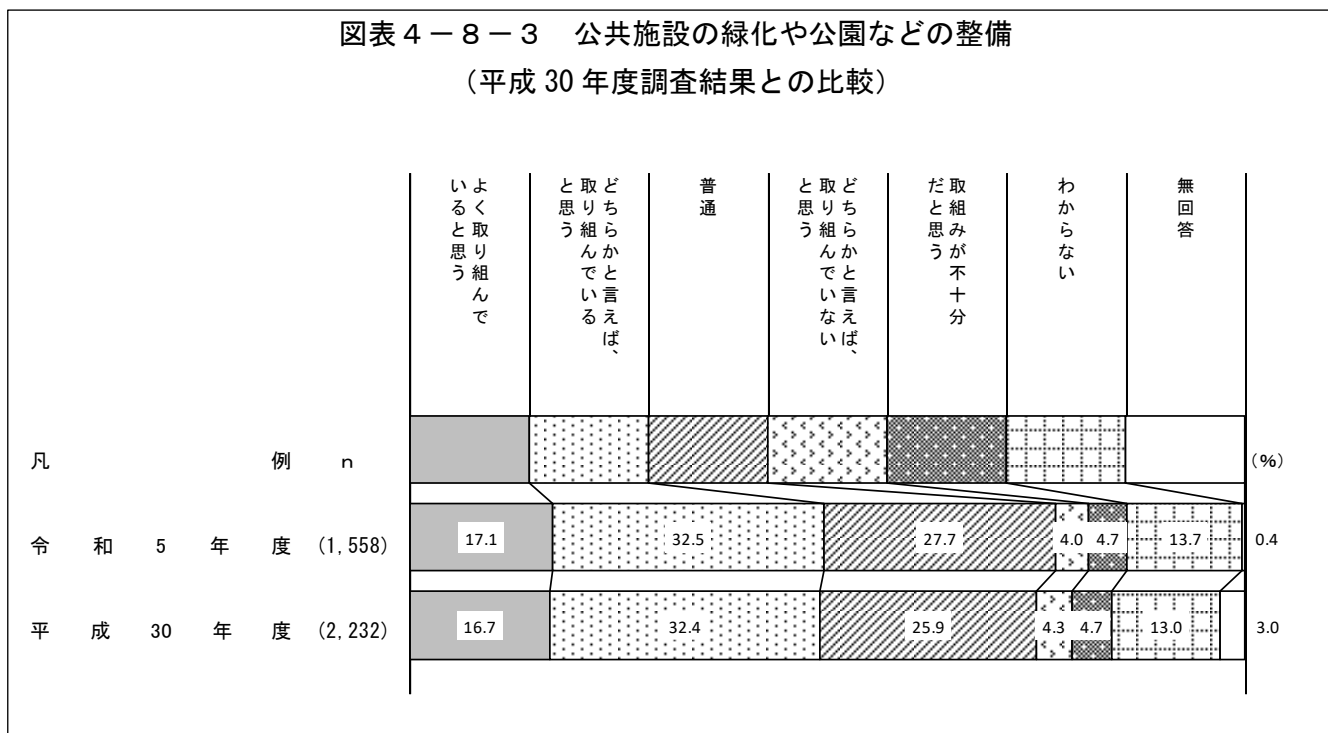
図表4-8-2 公共施設の緑化や公園などの整備
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

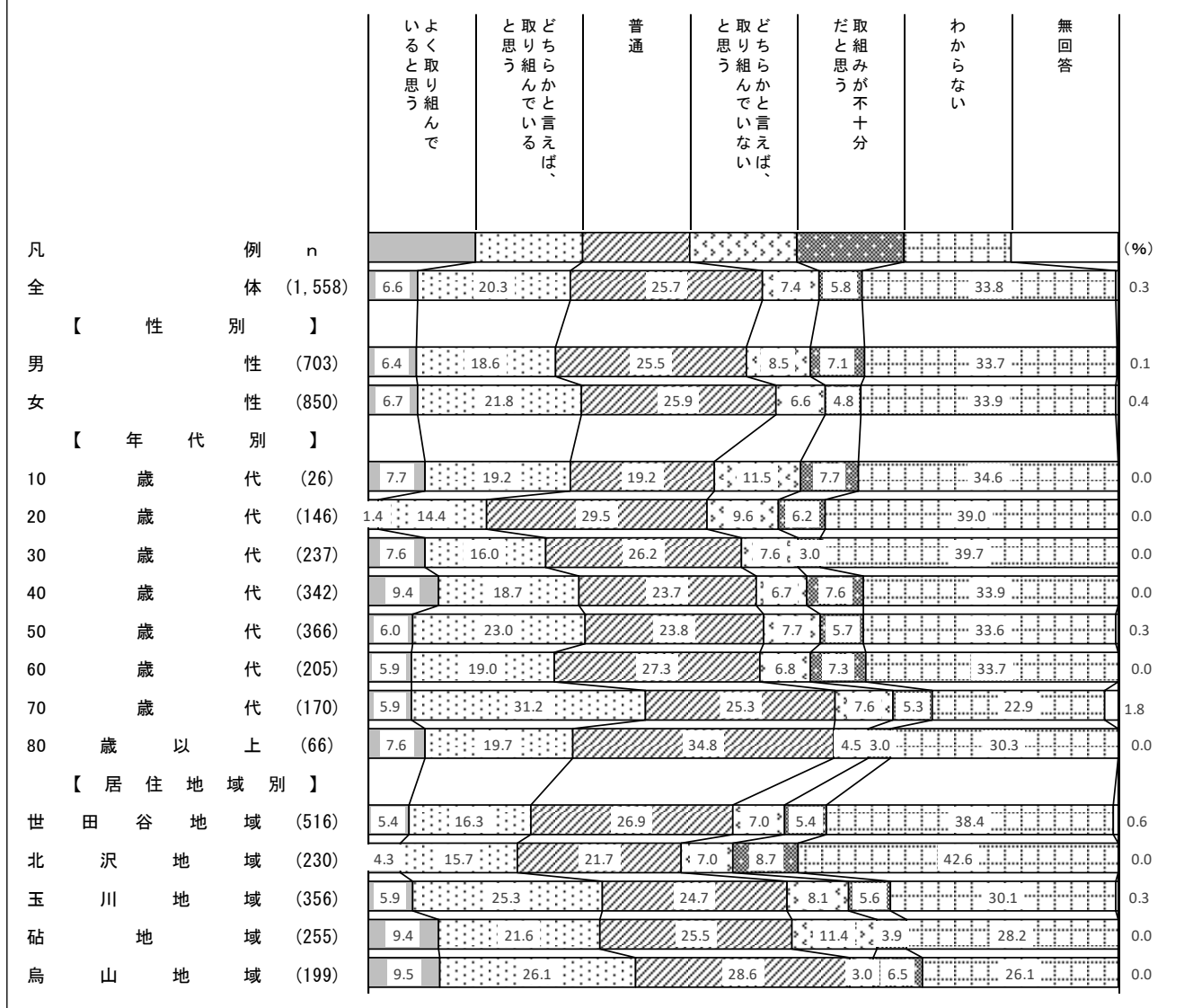
平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 49.1%、『令和 5 年度』は 49.6%と 0.5 ポイントの増加で増減はほぼない。(図表 4-8-3)

図表 4-8-3 公共施設の緑化や公園などの整備
(平成 30 年度調査結果との比較)



(9) 農業・農地保全による潤いのあるまちづくり

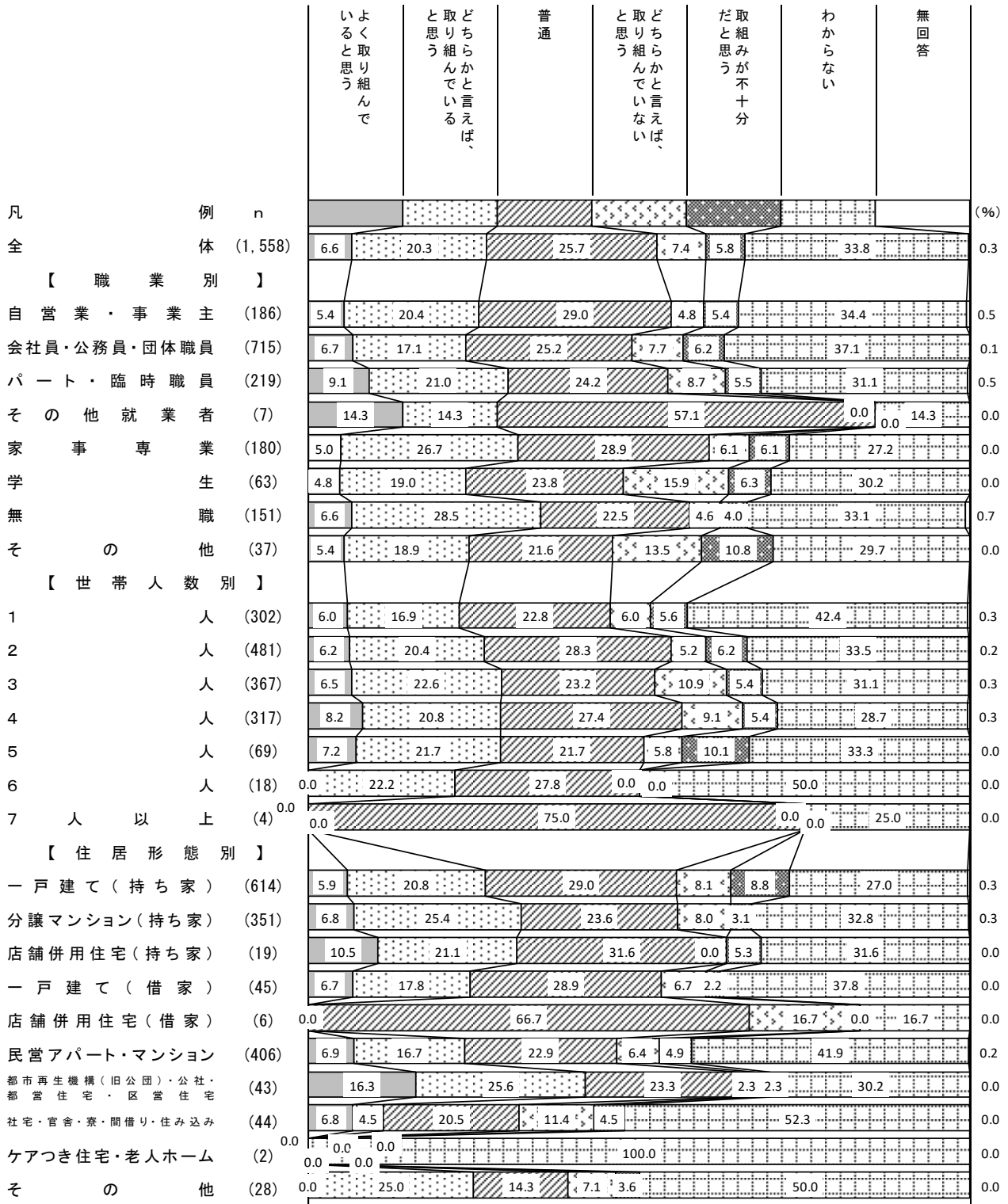
図表4-9-1 農業・農地保全による潤いのあるまちづくり
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が26.9%となっている。

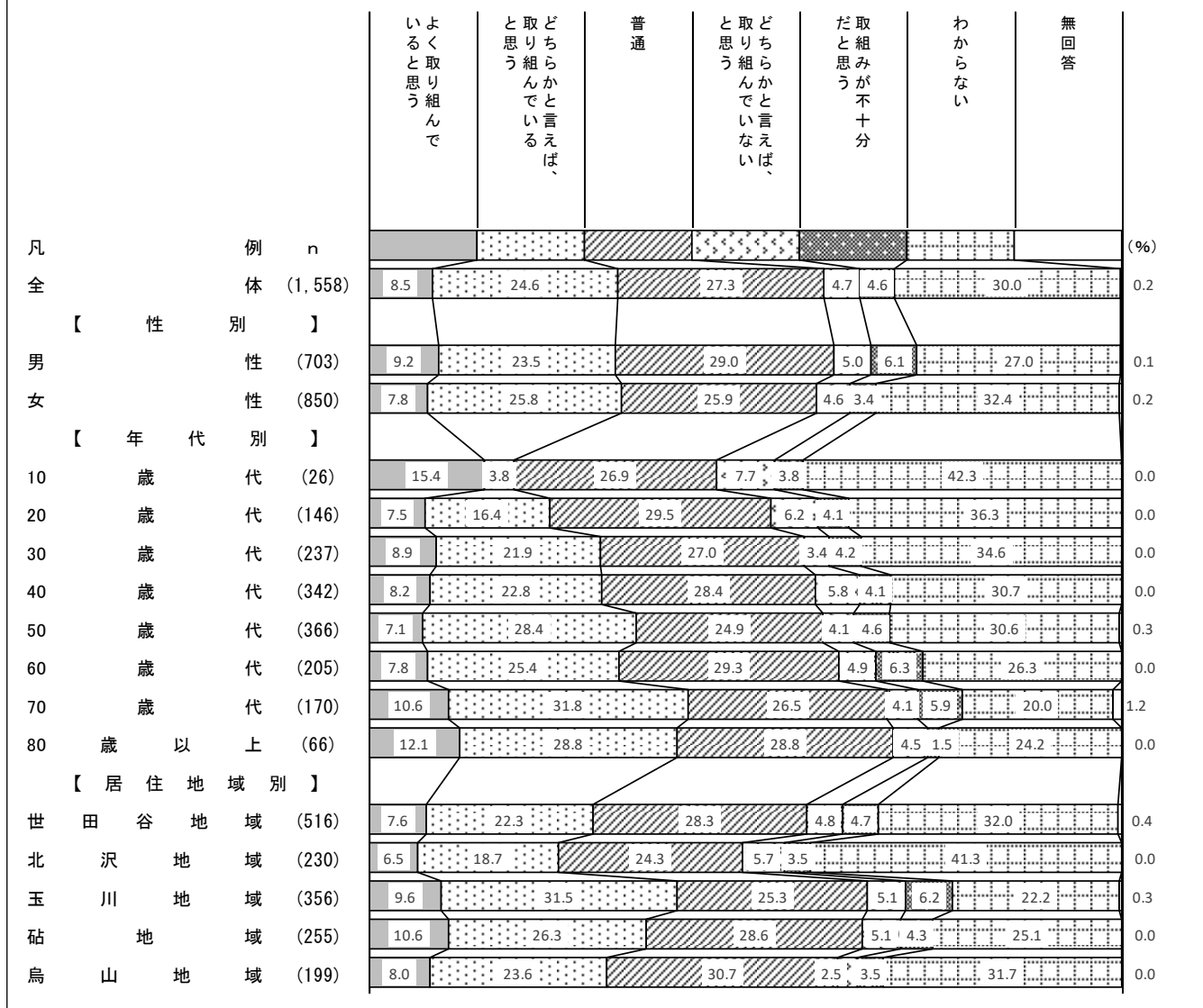
地域別にみると、「取り組んでいる」は烏山地域（35.6%）で高く、北沢地域（20.0%）で低くなっている。（図表4-9-1）

図表4-9-2 農業・農地保全による潤いのあるまちづくり
(職業・世帯人数・居住形態別)



(10) 河川・水辺の保全

図表 4-10-1 河川・水辺の保全
(性・年代・居住地域別)

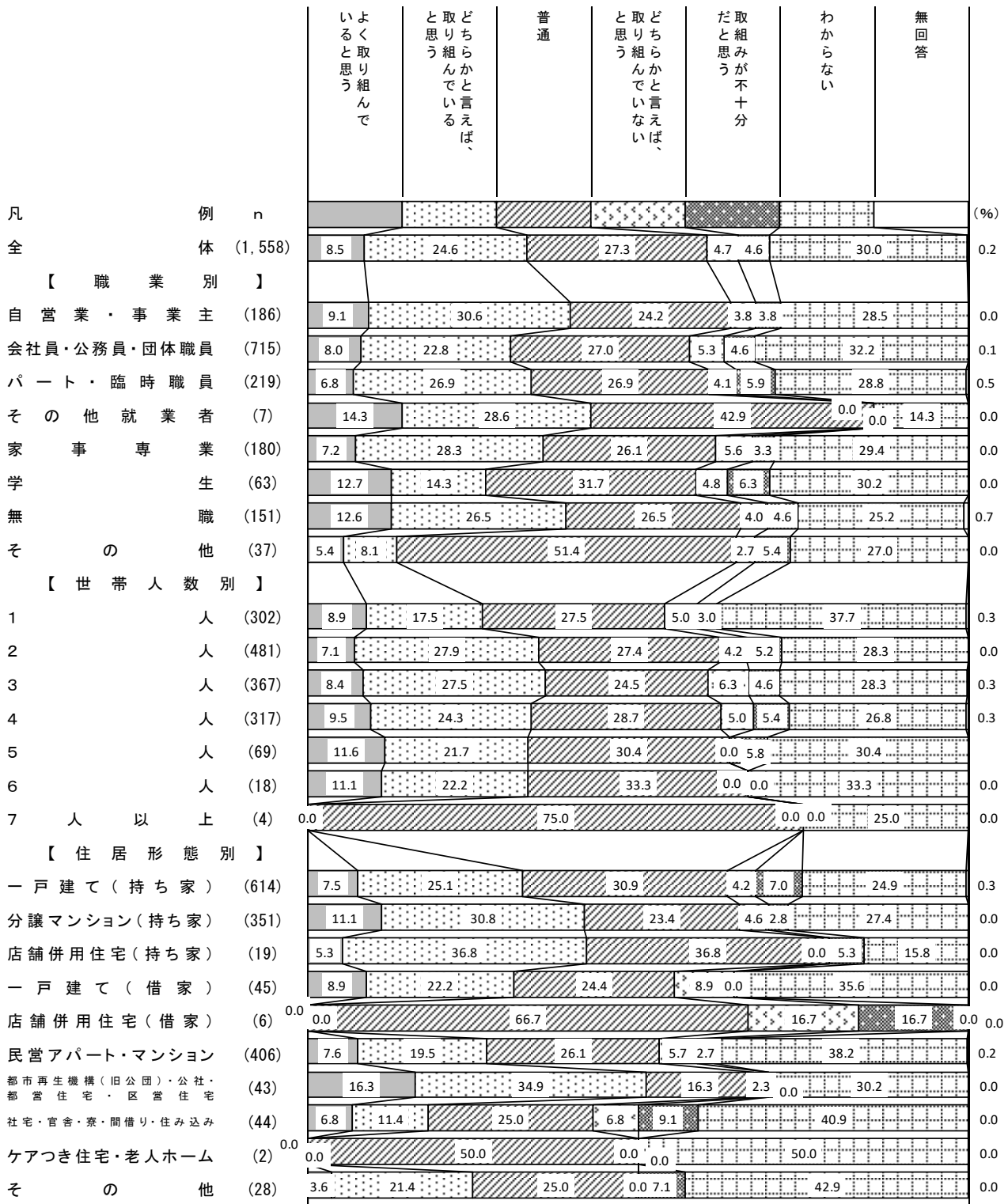


全体で見ると、「取り組んでいる」が33.5%となっている。

地域別にみると、「取り組んでいる」は玉川地域(41.1%)で高く、北沢地域(25.2%)で低くなっている。(図表4-10-1)

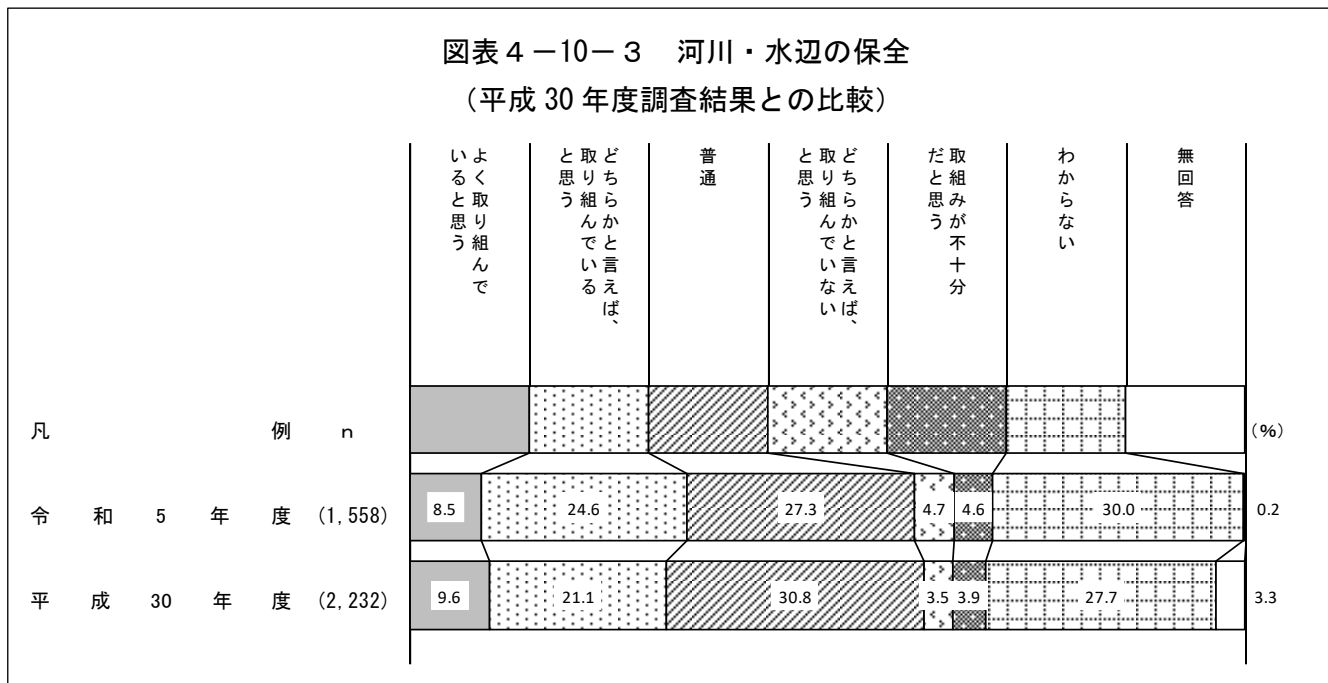
図表4-10-2 河川・水辺の保全

(職業・世帯人数・居住形態別)



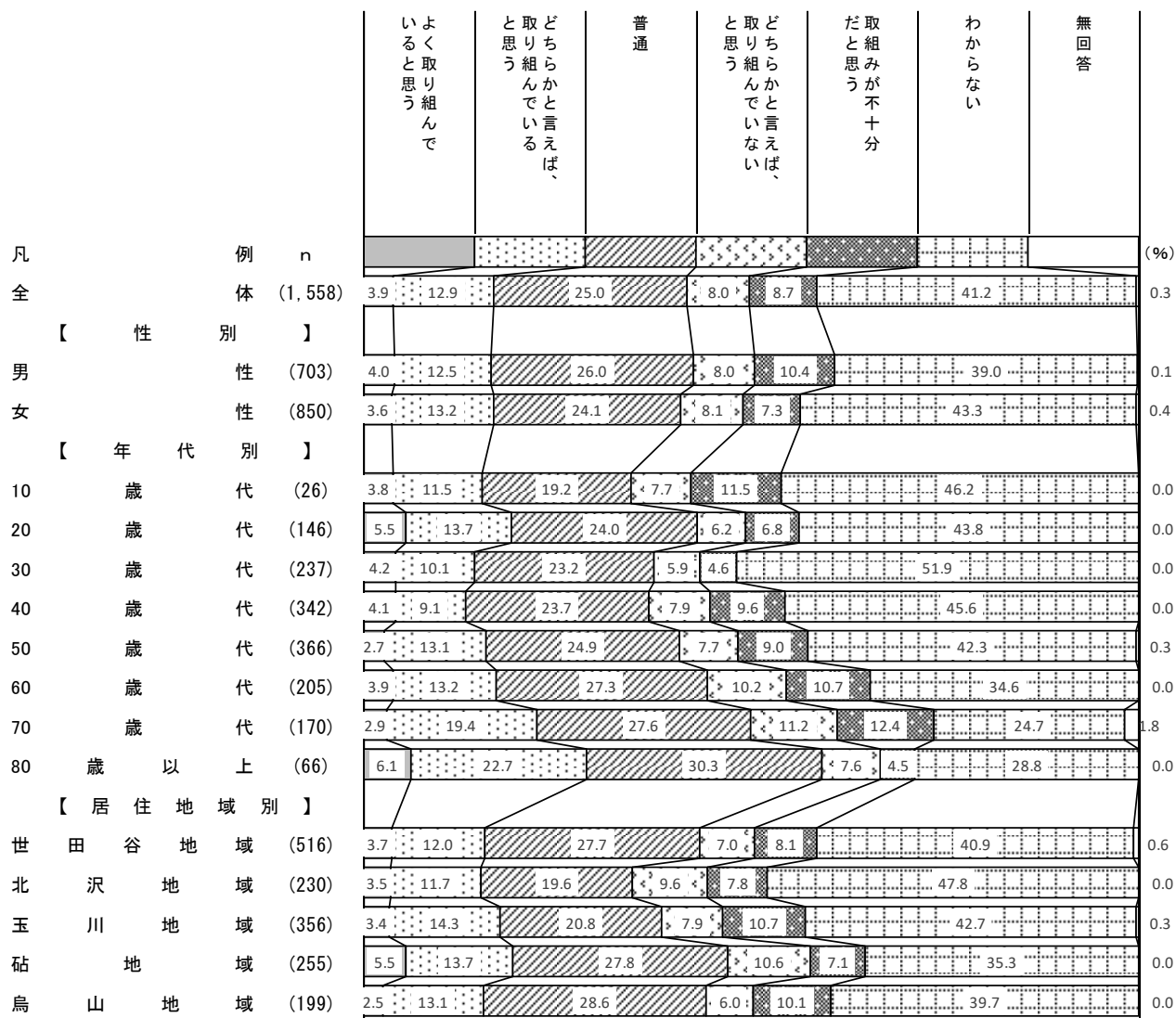
《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、「よく取り組んでいると思う」は1ポイント余り減少しているのに対して「どちらかと言えば、取り組んでいると思う」が3ポイント余り増加している。《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 30.7%、『令和 5 年度』は 33.1%で2ポイント余り増加している。(図表 4-10-3)



(11) 住まいの緑化や、雨水を貯留・浸透させる雨水浸透ますや雨水タンクの設置への啓発や支援

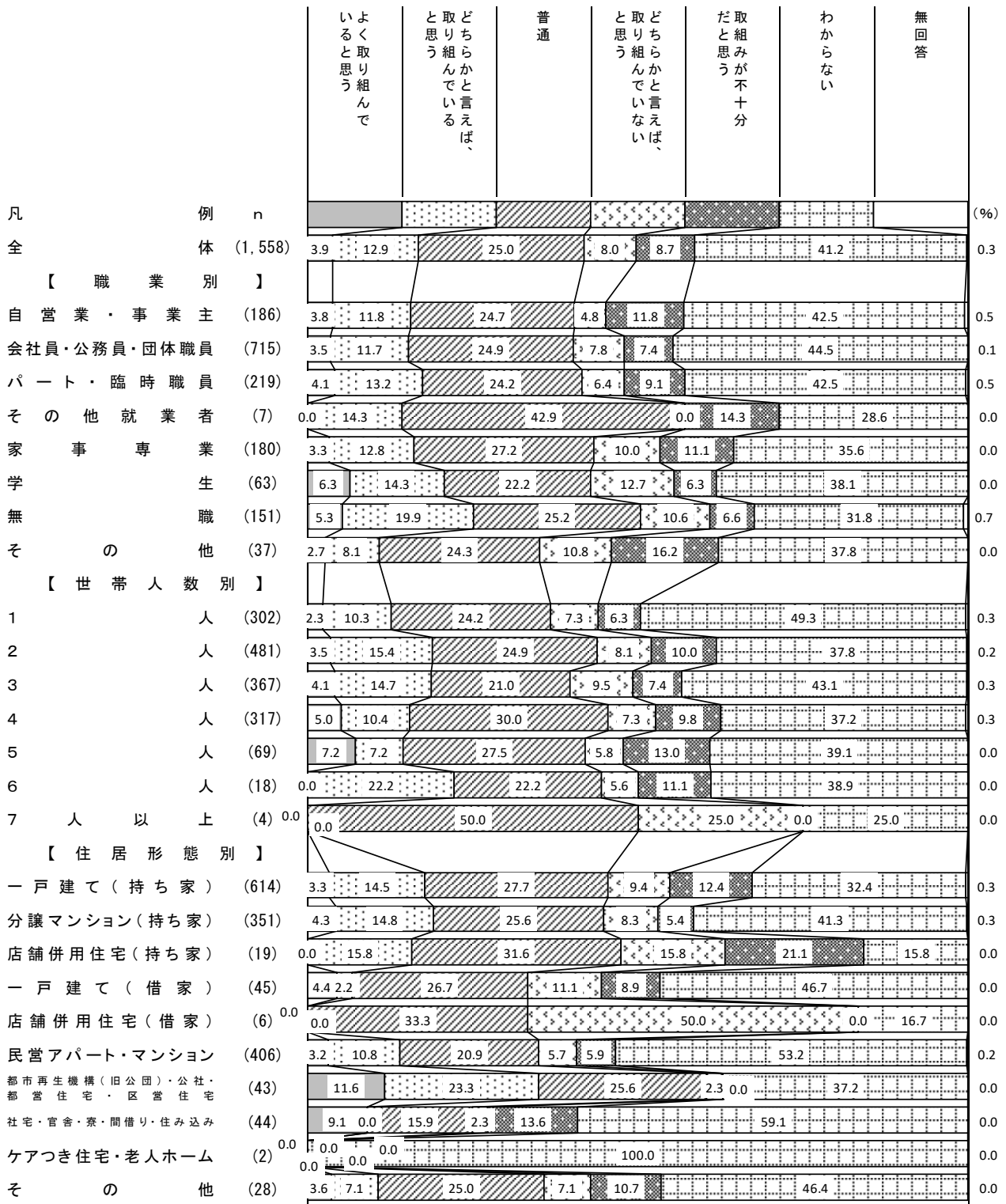
図表4-11-1 住まいの緑化や、雨水を貯留・浸透させる雨水浸透ますや雨水タンクの設置への啓発や支援（性・年代・居住地域別）



全体で見ると、《取り組んでいる》が16.8%となっている。

年代別にみると、40歳代より上の年代において、年代が上がるにつれて《取り組んでいる》が高くなっている。(図表4-11-1)

図表4-11-2 住まいの緑化や、雨水を貯留・浸透させる雨水浸透ますや雨水タンクの設置への啓発や支援（職業・世帯人数・居住形態別）



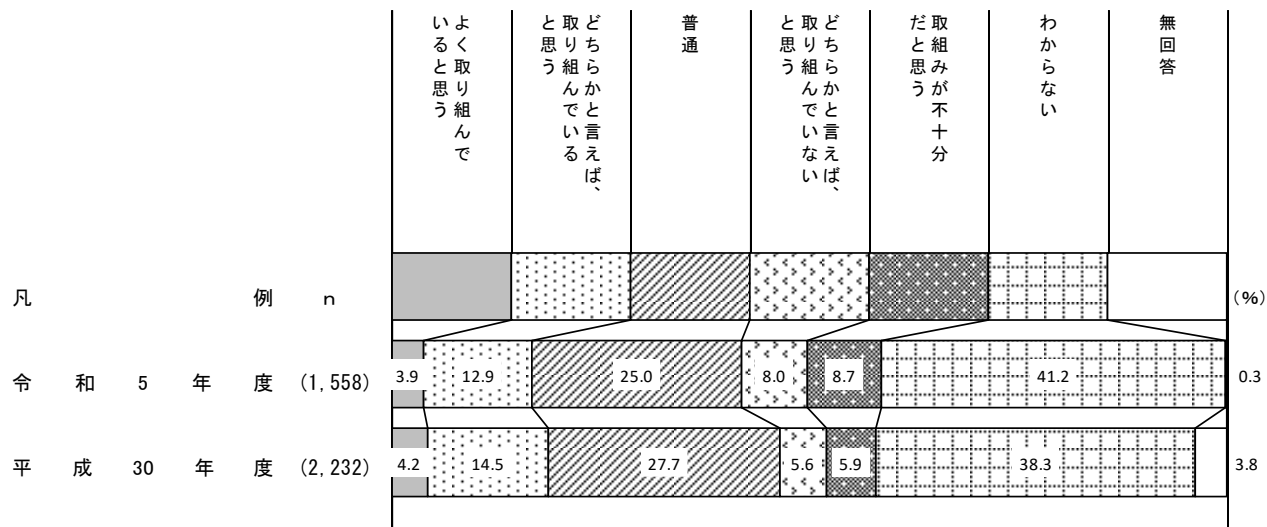
《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 18.7%、『令和 5 年度』は 16.8%と 2ポイント近く減少している。(図表 4-11-3)

図表 4-11-3 住まいの緑化や、雨水を貯留・浸透させる雨水浸透ますや雨水タンクの設置への啓発や支援 (平成 30 年度調査結果との比較)

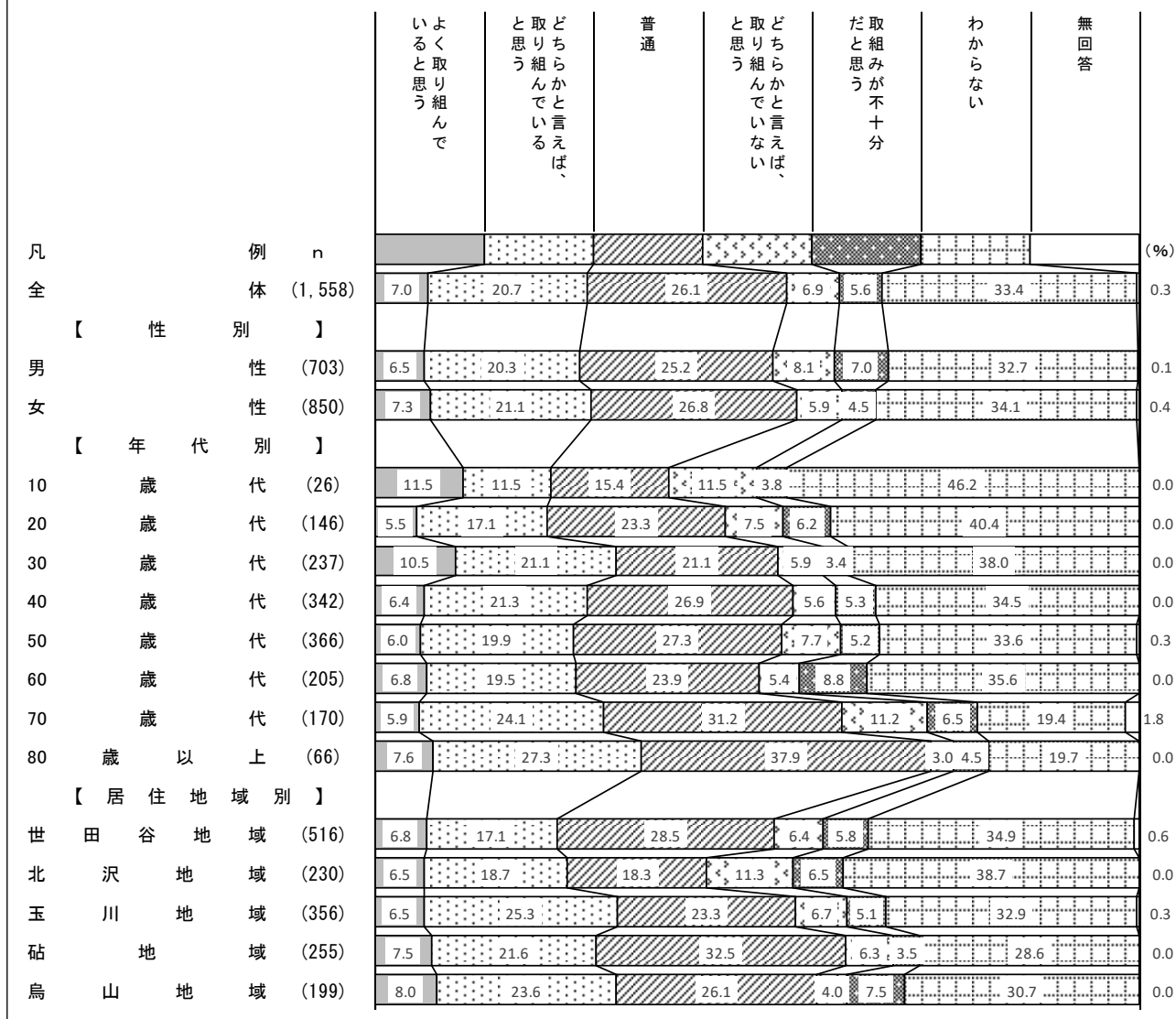
(平成 30 年調査の項目)

雨水浸透ますや雨水タンクの設置、生垣造成やシンボルツリー植栽など緑化への啓発や支援



(12) 区民・事業所と連携した、地域の風景の保全や風景づくり

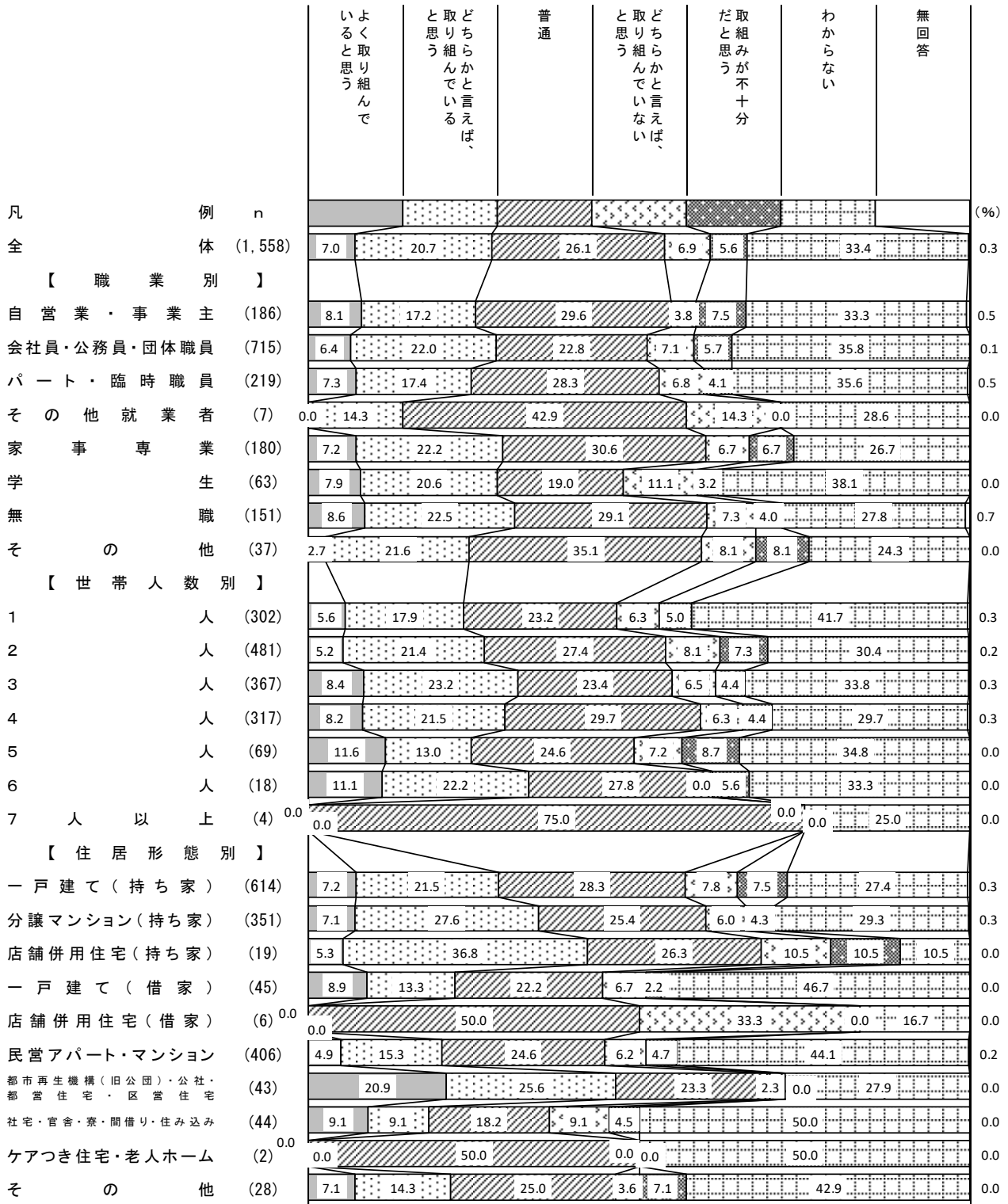
図表4-12-1 区民・事業所と連携した、地域の風景の保全や風景づくり
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が27.7%となっている。(図表4-12-1)

属性別においては、特筆すべき特徴は見られなかった。

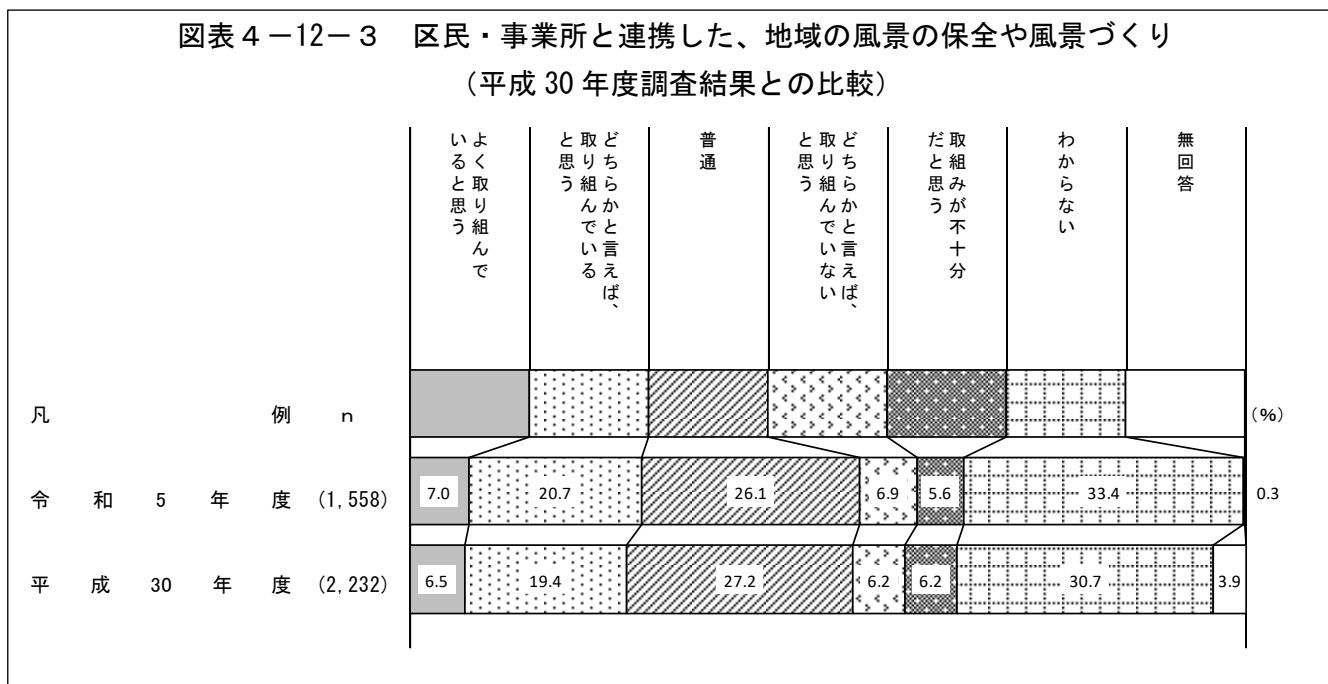
図表4-12-2 区民・事業所と連携した、地域の風景の保全や風景づくり
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

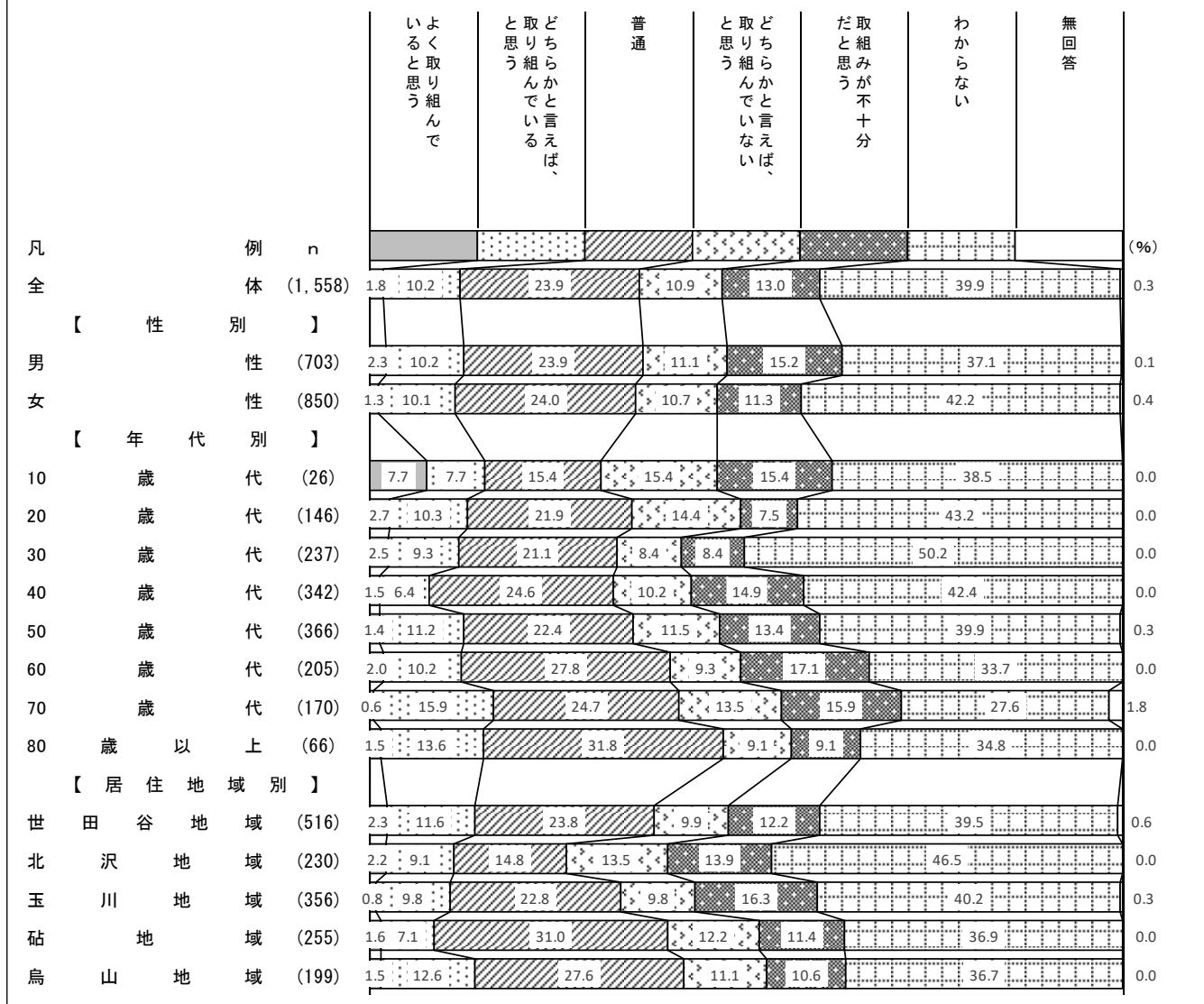
平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 25.9%、『令和 5 年度』は 27.7%と 2 ポイント近く増加している。(図表 4-12-3)

図表 4-12-3 区民・事業所と連携した、地域の風景の保全や風景づくり
(平成 30 年度調査結果との比較)



(13) ヒートアイランド現象などによる街の気温上昇を抑える取組み

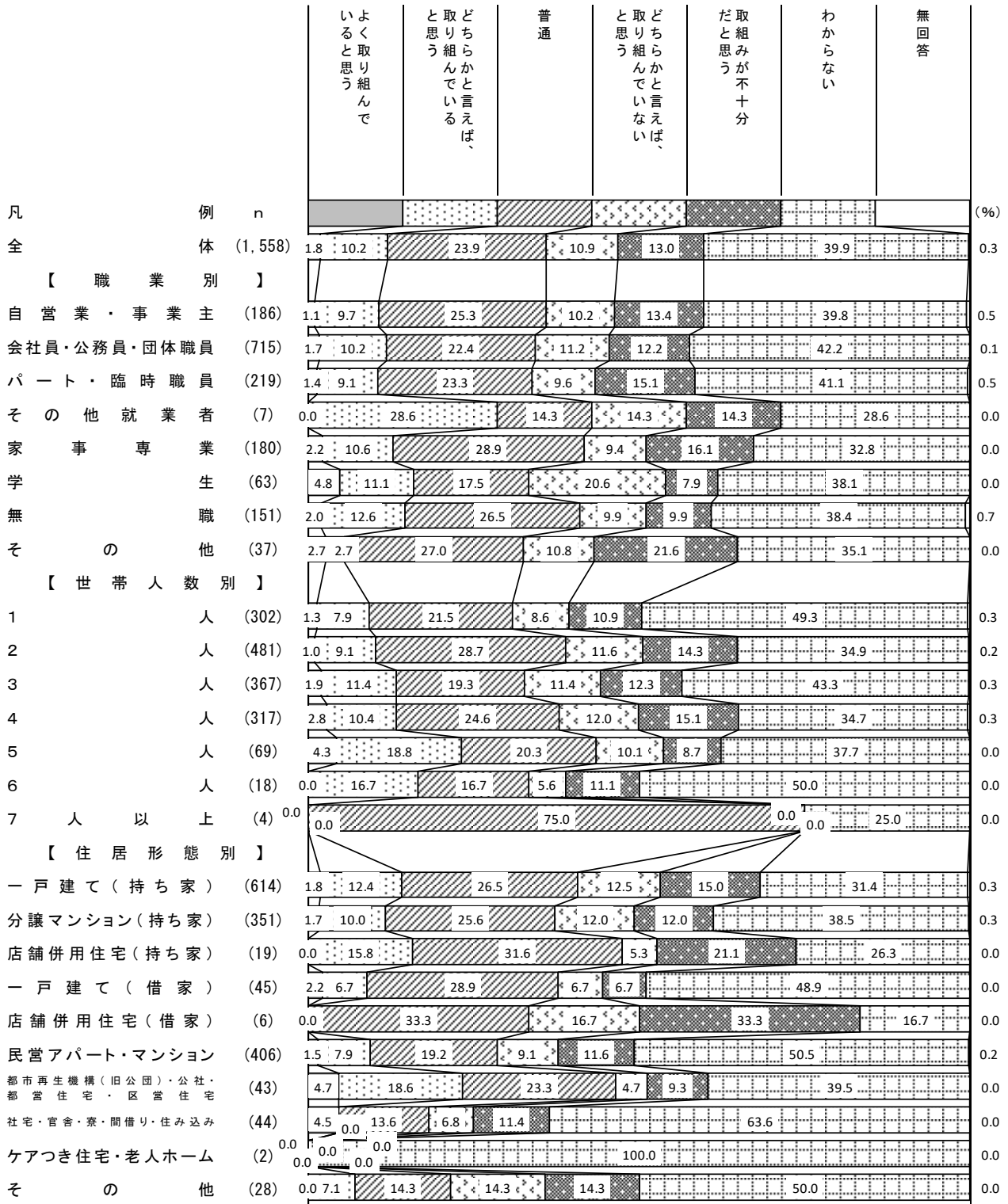
図表4-13-1 ヒートアイランド現象などによる街の気温上昇を抑える取組み
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が12.0%となっている。(図表4-13-1)

属性別においては、特筆すべき特徴は見られなかった。

図表4-13-2 ヒートアイランド現象などによる街の気温上昇を抑える取組み
(職業・世帯人数・居住形態別)



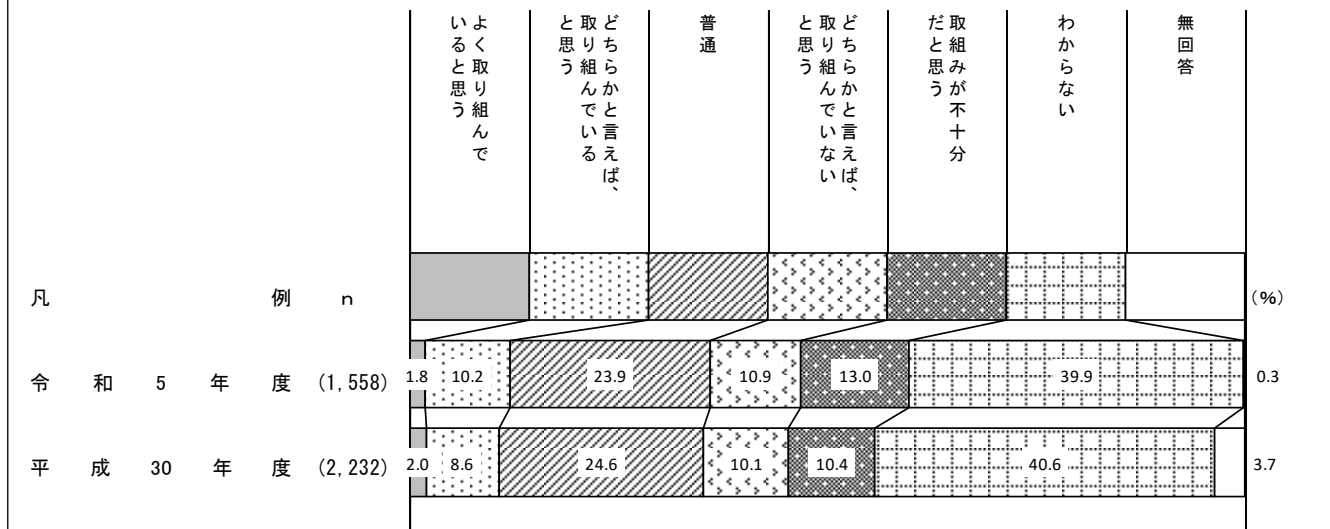
《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 10.6%、『令和 5 年度』は 12.0%と 1 ポイント余り増加している。(図表 4-13-3)

図表 4-13-3 ヒートアイランド現象などによる街の気温上昇を抑える取組み
(平成 30 年度調査結果との比較)

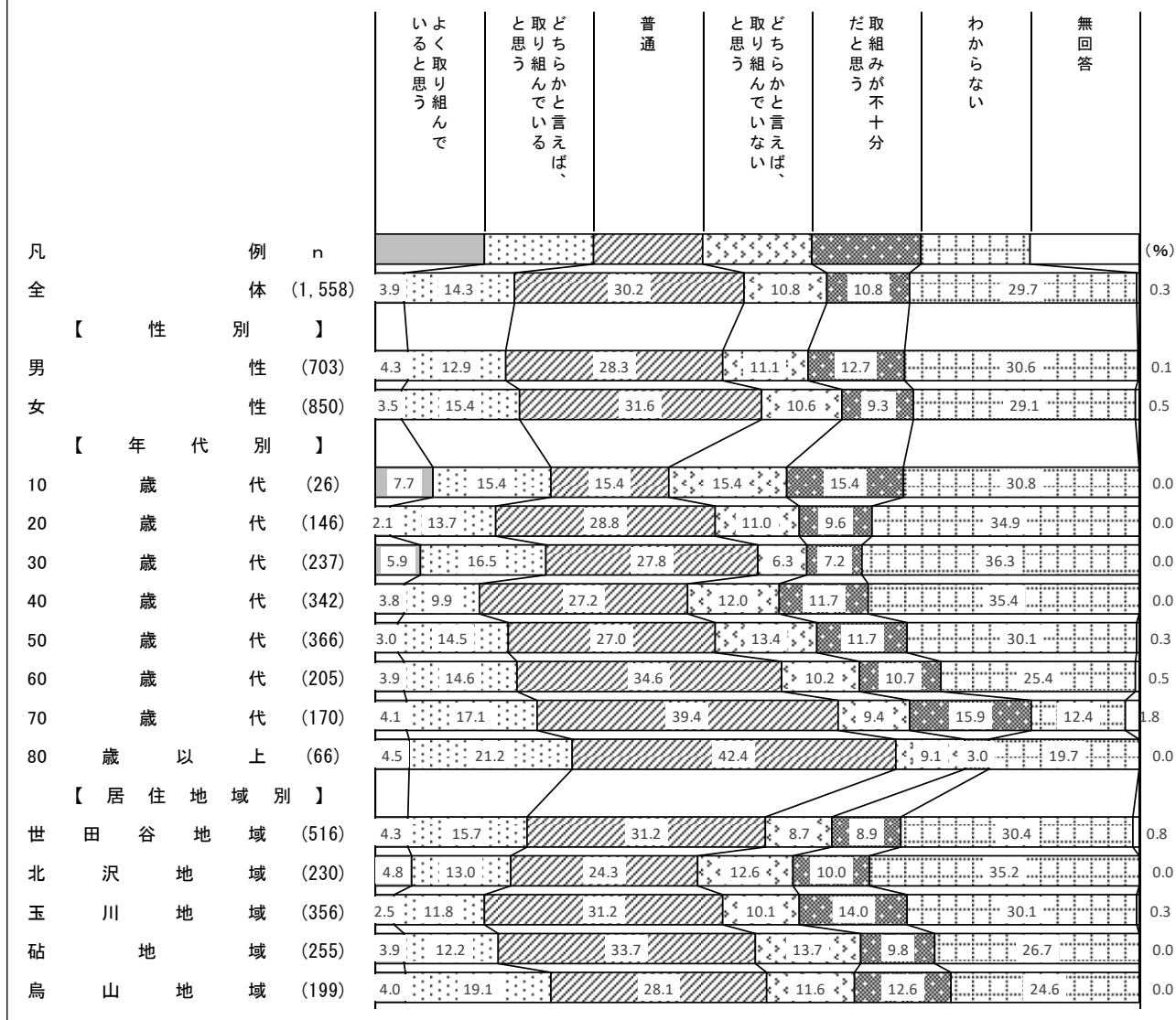
(平成 30 年調査の項目)

遮熱性舗装など、ヒートアイランド現象の抑制



(14) 徒歩や自転車利用、公共交通機関による移動の促進に関する啓発や支援

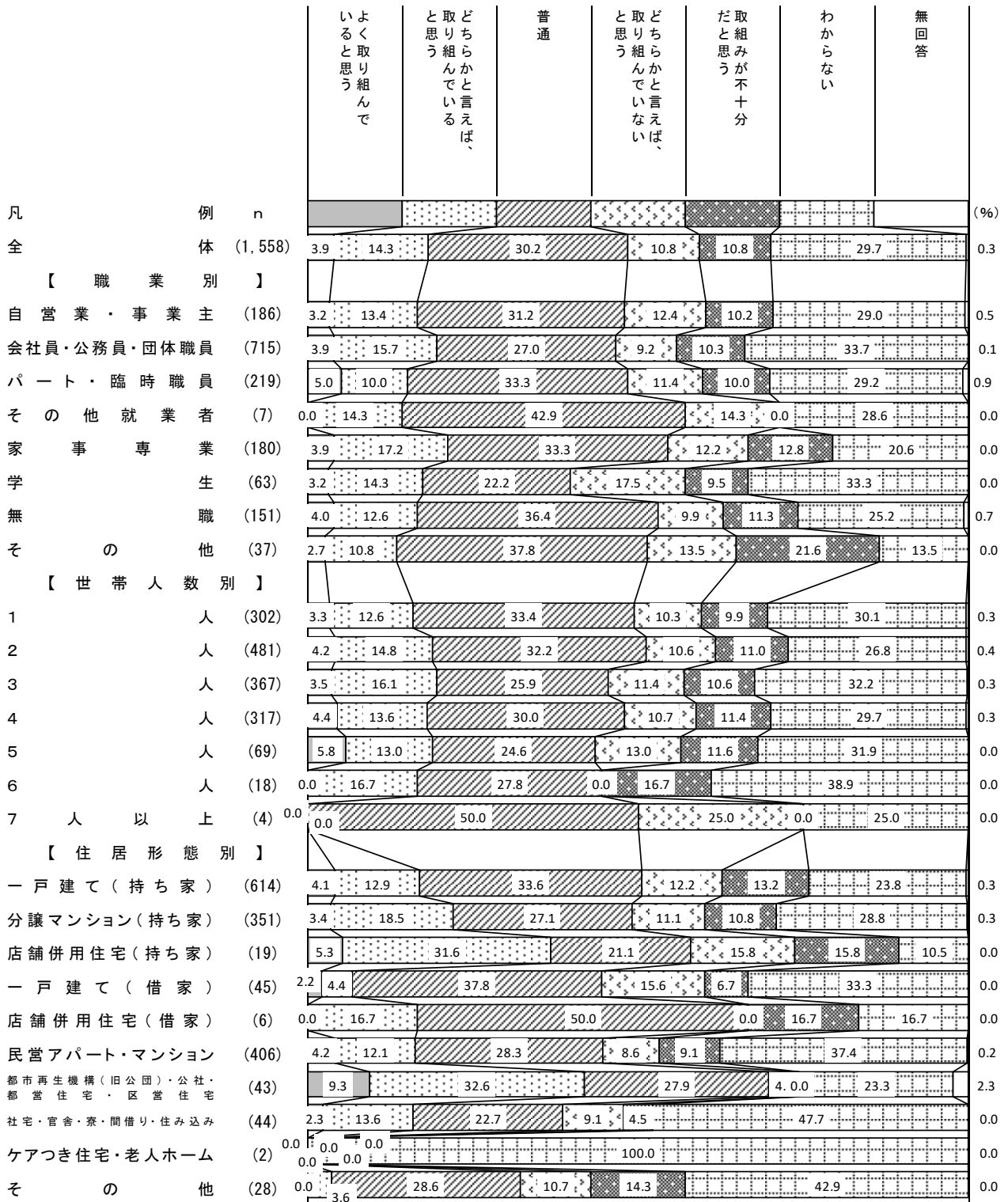
図表 4-14-1 徒歩や自転車利用、公共交通機関による移動の促進に関する啓発や支援
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が18.2%となっている。

年代別にみると、40歳代より上の年代において、年代が上がるにつれて「取り組んでいる」が高くなっている。(図表4-14-1)

図表4-14-2 徒歩や自転車利用、公共交通機関による移動の促進に関する啓発や支援
(職業・世帯人数・居住形態・自家用車の有無別)



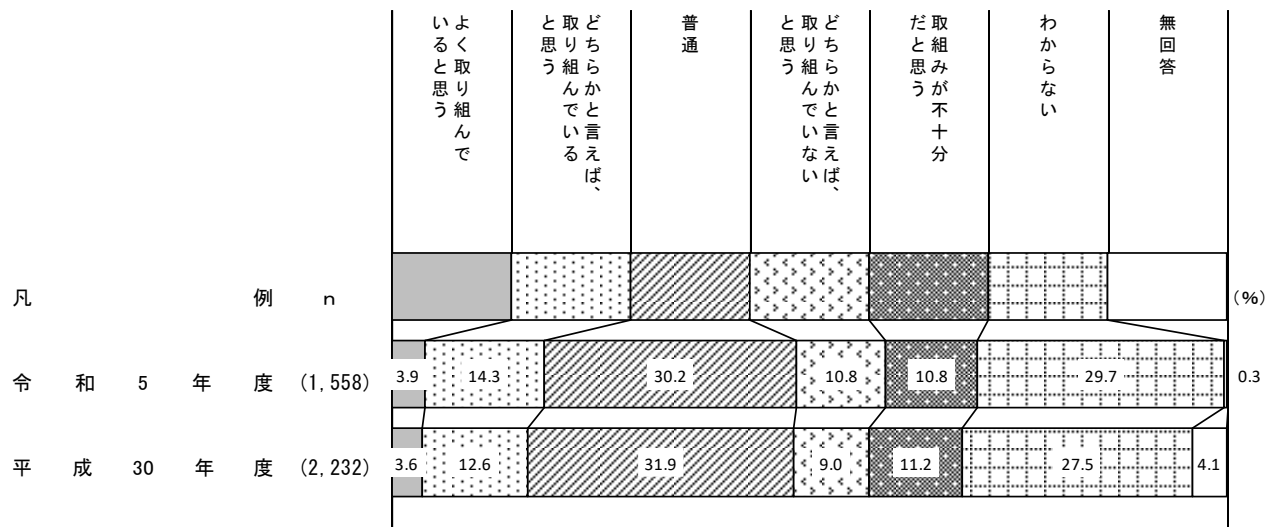
《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 16.2%、『令和 5 年度』は 18.2%と 2 ポイント増加している。(図表 4-14-3)

図表 4-14-3 徒歩や自転車利用、公共交通機関による移動の促進に関する啓発や支援
(平成 30 年度調査結果との比較)

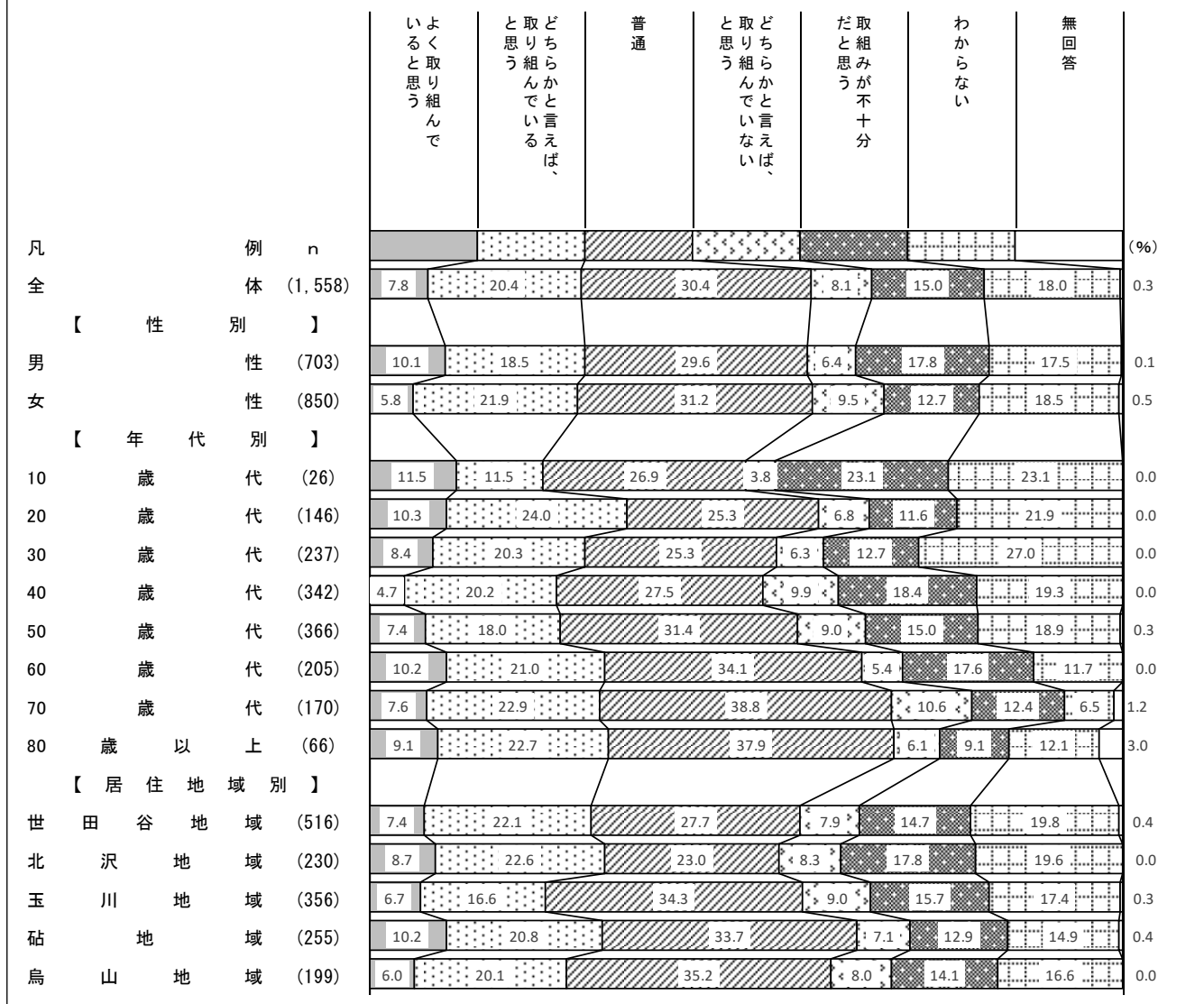
(平成 30 年調査の項目)

公共交通機関や自転車利用の促進に関する啓発や支援



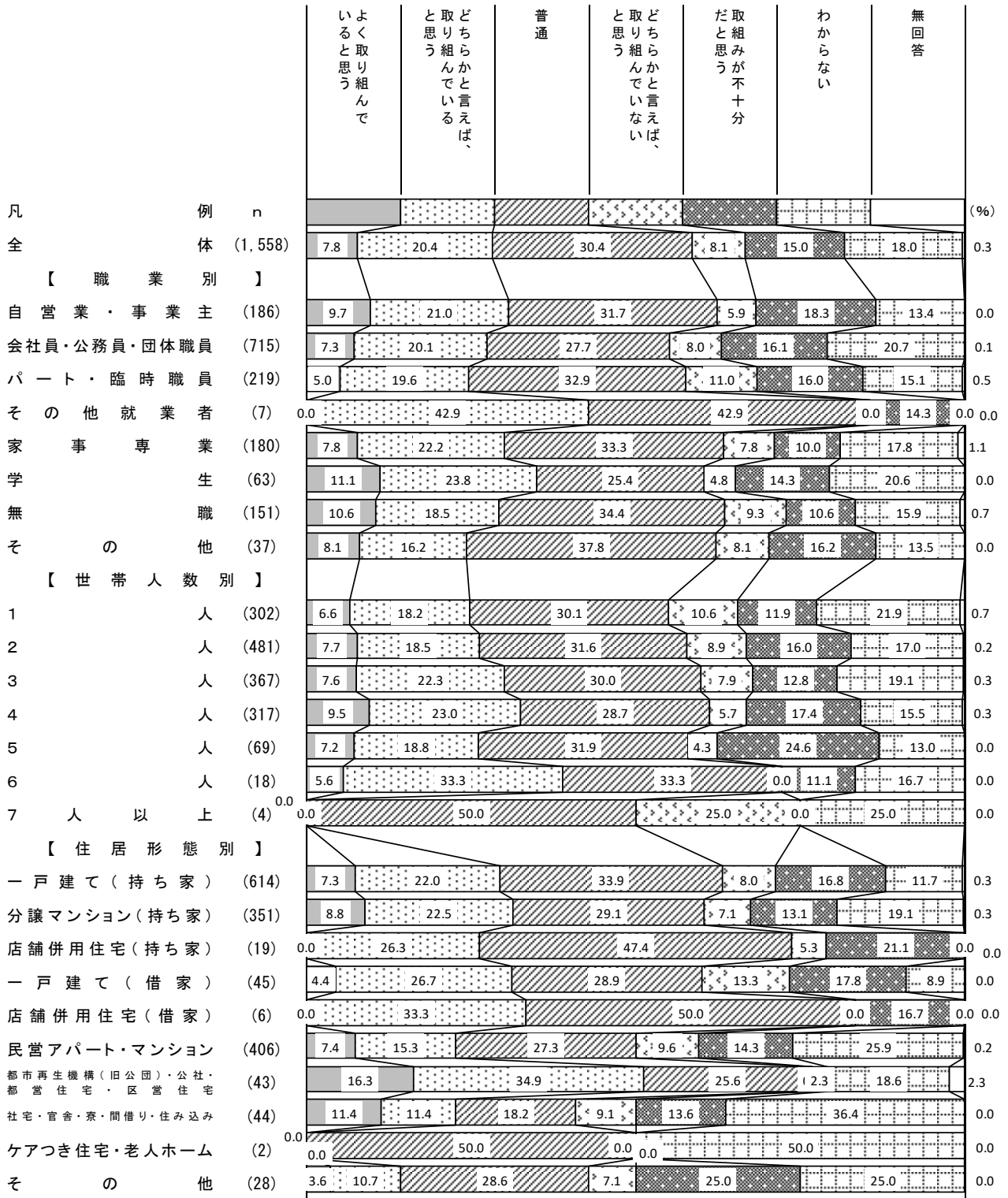
(15) ごみやたばこの吸い殻などのポイ捨て防止の啓発

図表4-15-1 ごみやたばこの吸い殻などのポイ捨て防止の啓発
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が28.2%となっている。(図表4-15-1)
属性別においては、特筆すべき特徴は見られなかった。

図表4-15-2 ごみやたばこの吸い殻などのポイ捨て防止の啓発
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 25.2%、『令和 5 年度』は 28.2%と 3 ポイント増加している。(図表 4-15-3)

図表 4-15-3 ごみやたばこの吸い殻などのポイ捨て防止の啓発
(平成 30 年度調査結果との比較)

(平成 30 年調査の項目)

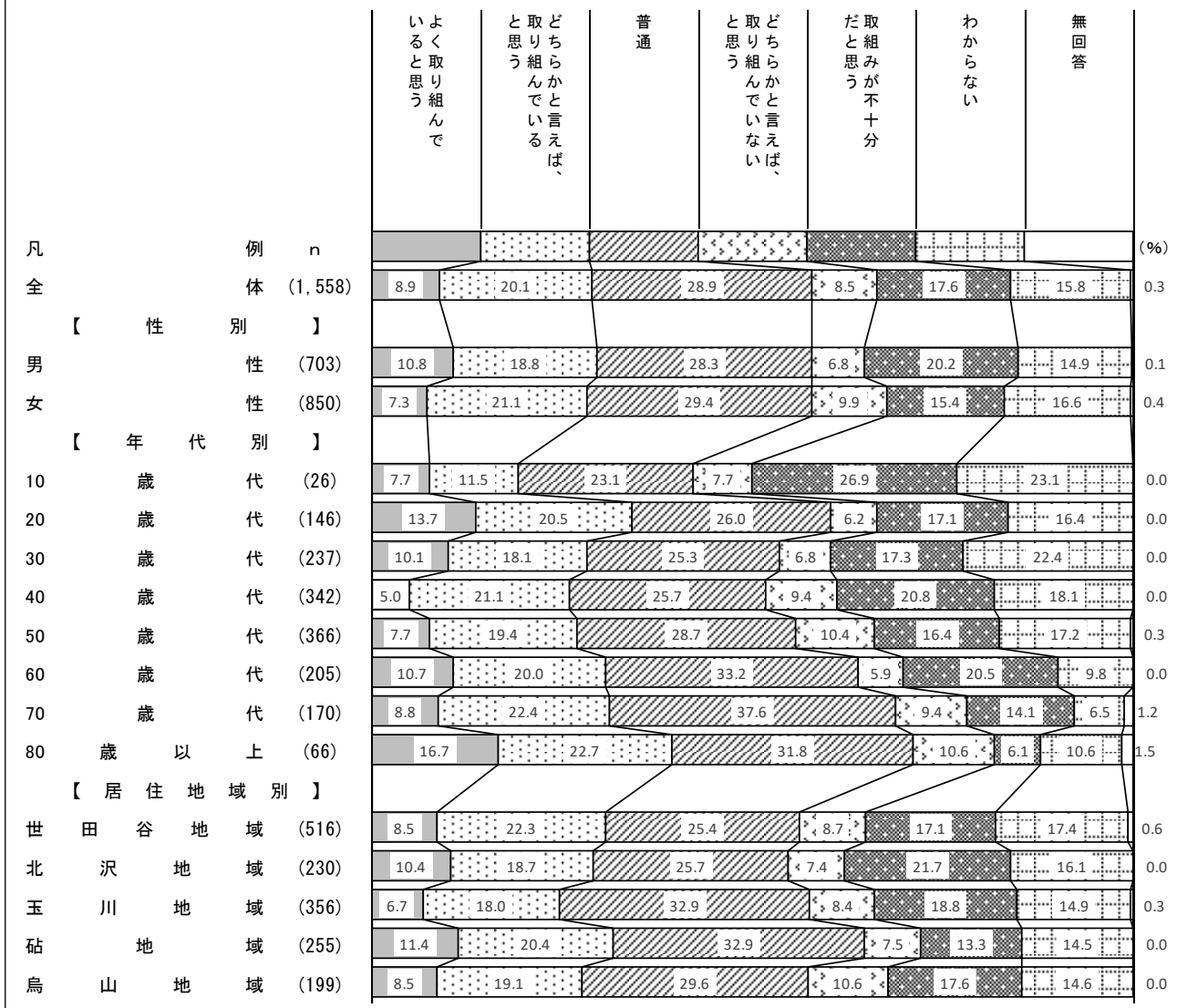
たばこの吸い殻などのポイ捨て防止の啓発

		よく 取 り 組 ん で 思 う	ど ち ら か と 言 え ば、 取 り 組 ん で 思 う	普 通	ど ち ら か と 言 え ば、 取 り 組 ん で い な い	取 組 み が 不 十 分 だ	わ か ら な い	無 回 答	
凡	例 n								(%)
令	和 5 年 度 (1,558)	7.8	20.4	30.4	8.1	15.0	18.0		0.3
平	成 30 年 度 (2,232)	6.7	18.5	26.9	9.8	18.4	16.7		3.0

(16) 歩きたばこや路上喫煙防止の啓発

図表4-16-1 歩きたばこや路上喫煙防止の啓発

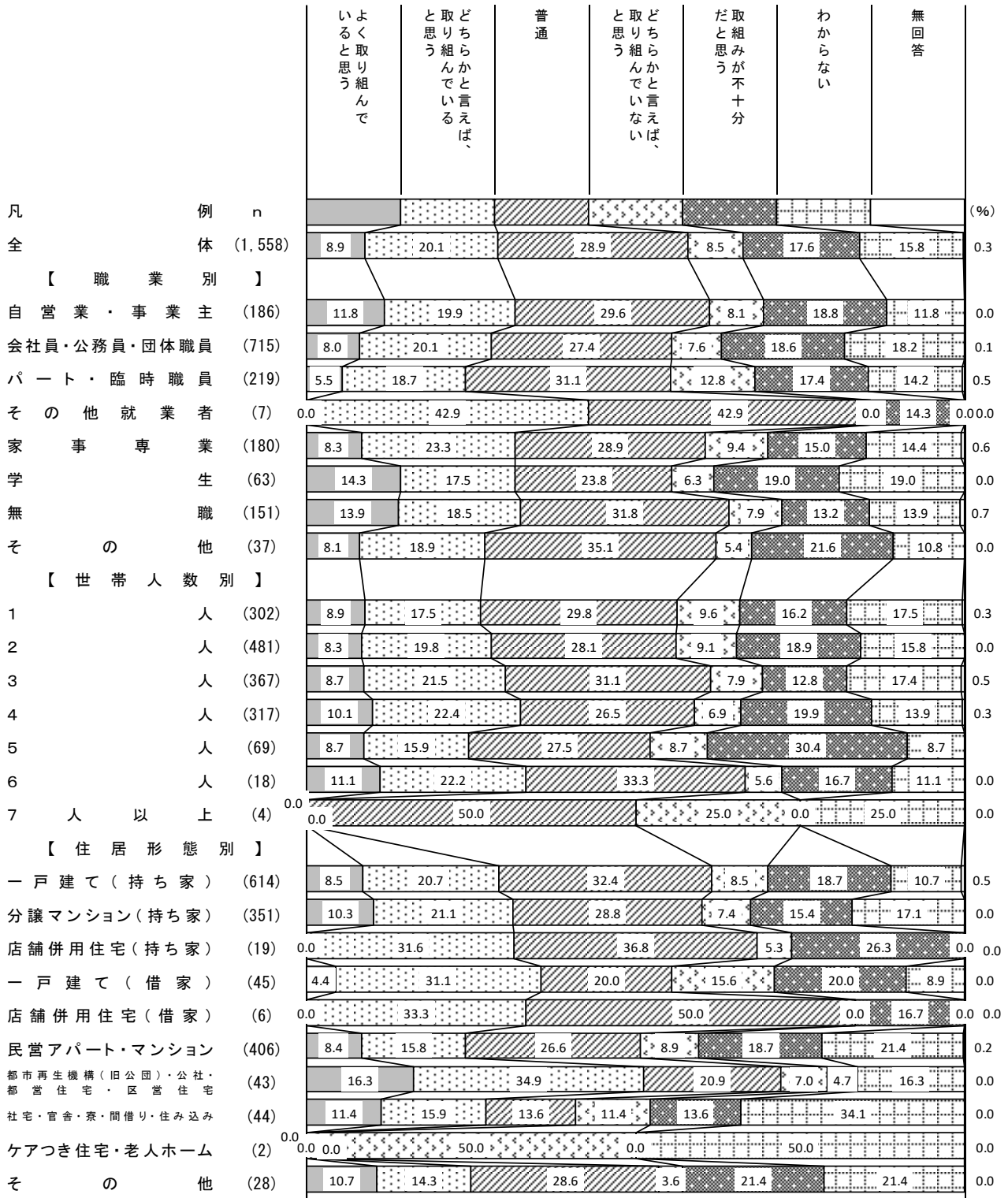
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が29.0%となっている。(図表4-16-1)

属性別においては、特筆すべき特徴は見られなかった。

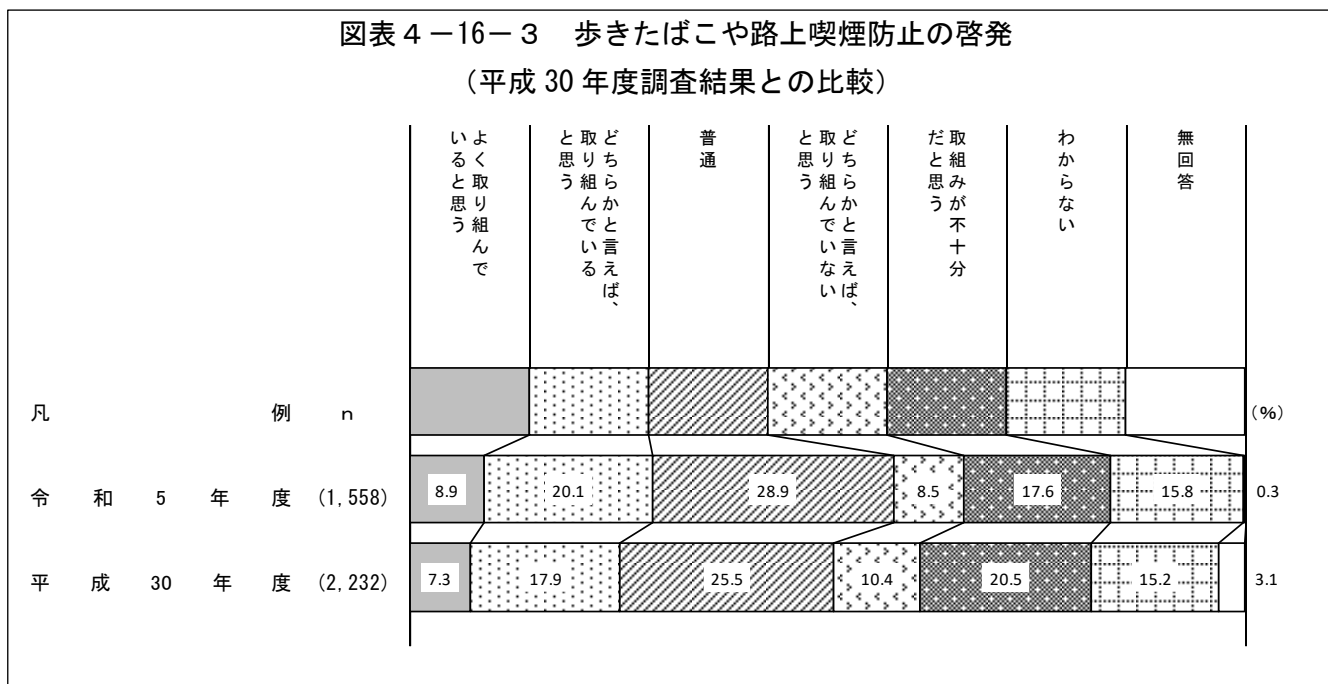
図表4-16-2 歩きたばこや路上喫煙防止の啓発
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

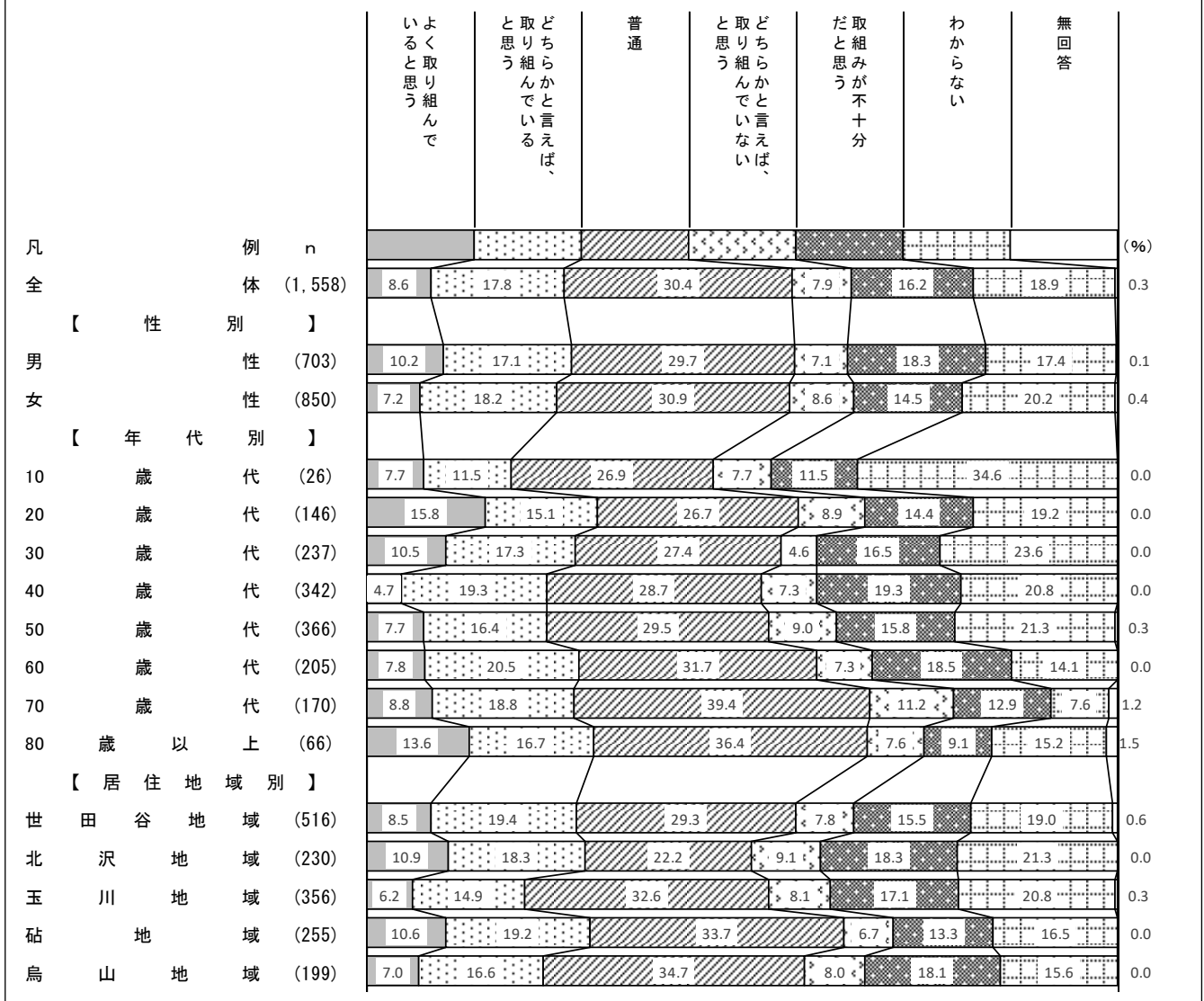
平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 25.2%、『令和 5 年度』は 29.0%と 4 ポイント近く増加している。(図表 4-14-3)

図表 4-16-3 歩きたばこや路上喫煙防止の啓発
(平成 30 年度調査結果との比較)



(17) たばこルールなど、地域の環境に関するルールづくり

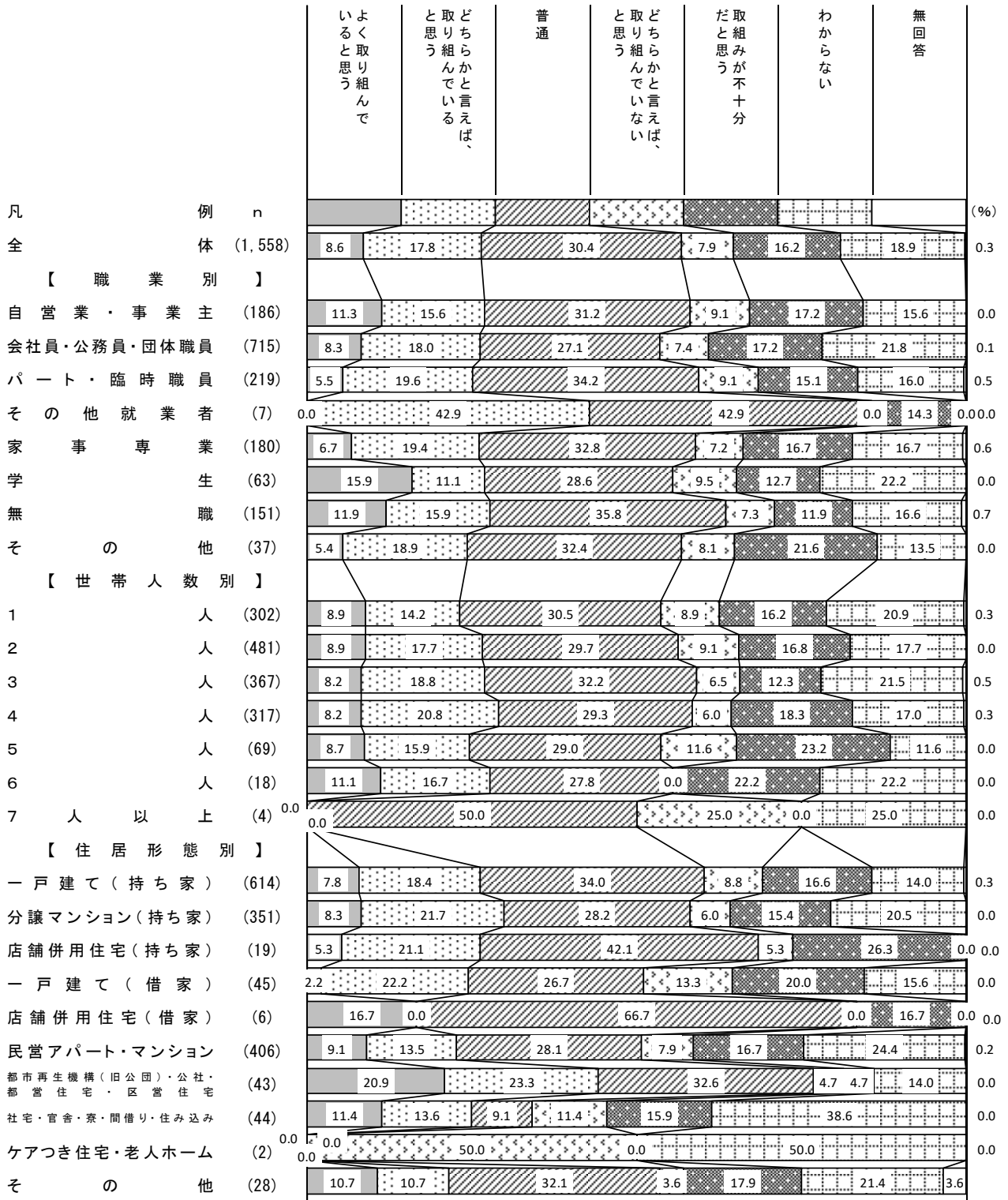
図表4-17-1 たばこルールなど、地域の環境に関するルールづくり
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が26.4%となっている。(図表4-17-1)

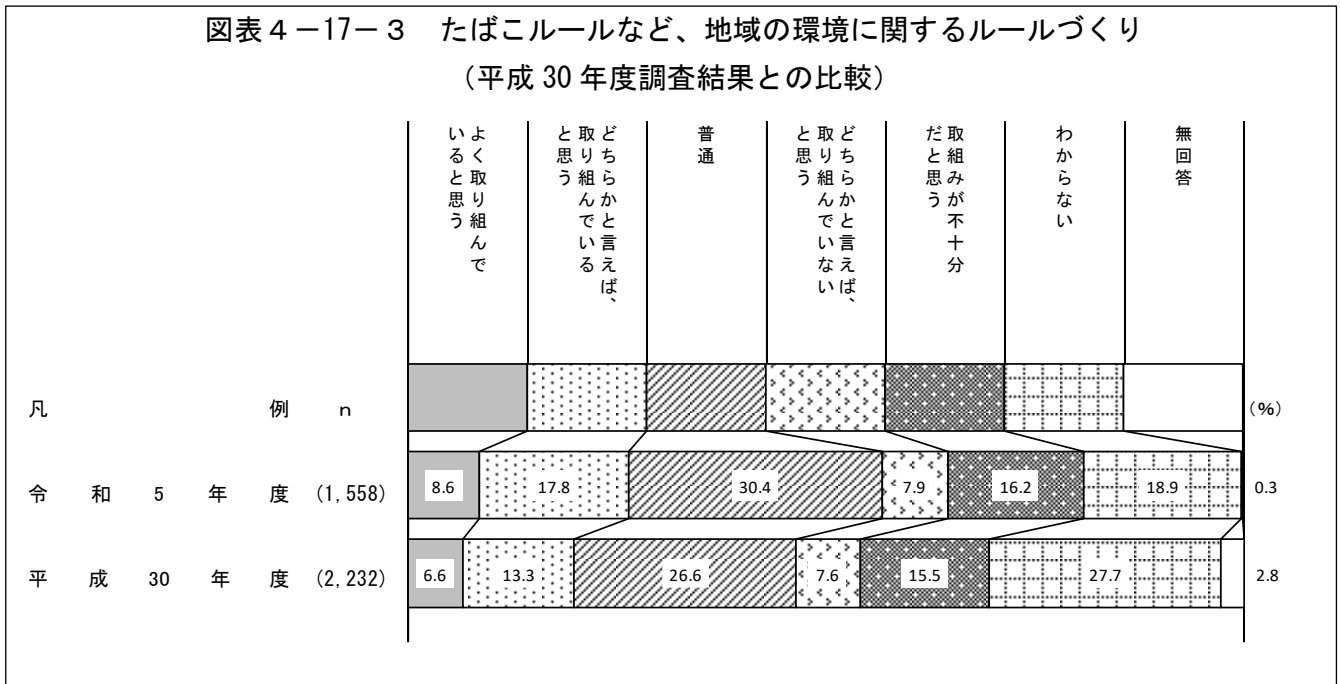
属性別においては、特筆すべき特徴は見られなかった。

図表4-17-2 たばこルールなど、地域の環境に関するルールづくり
(職業・世帯人数・居住形態別)



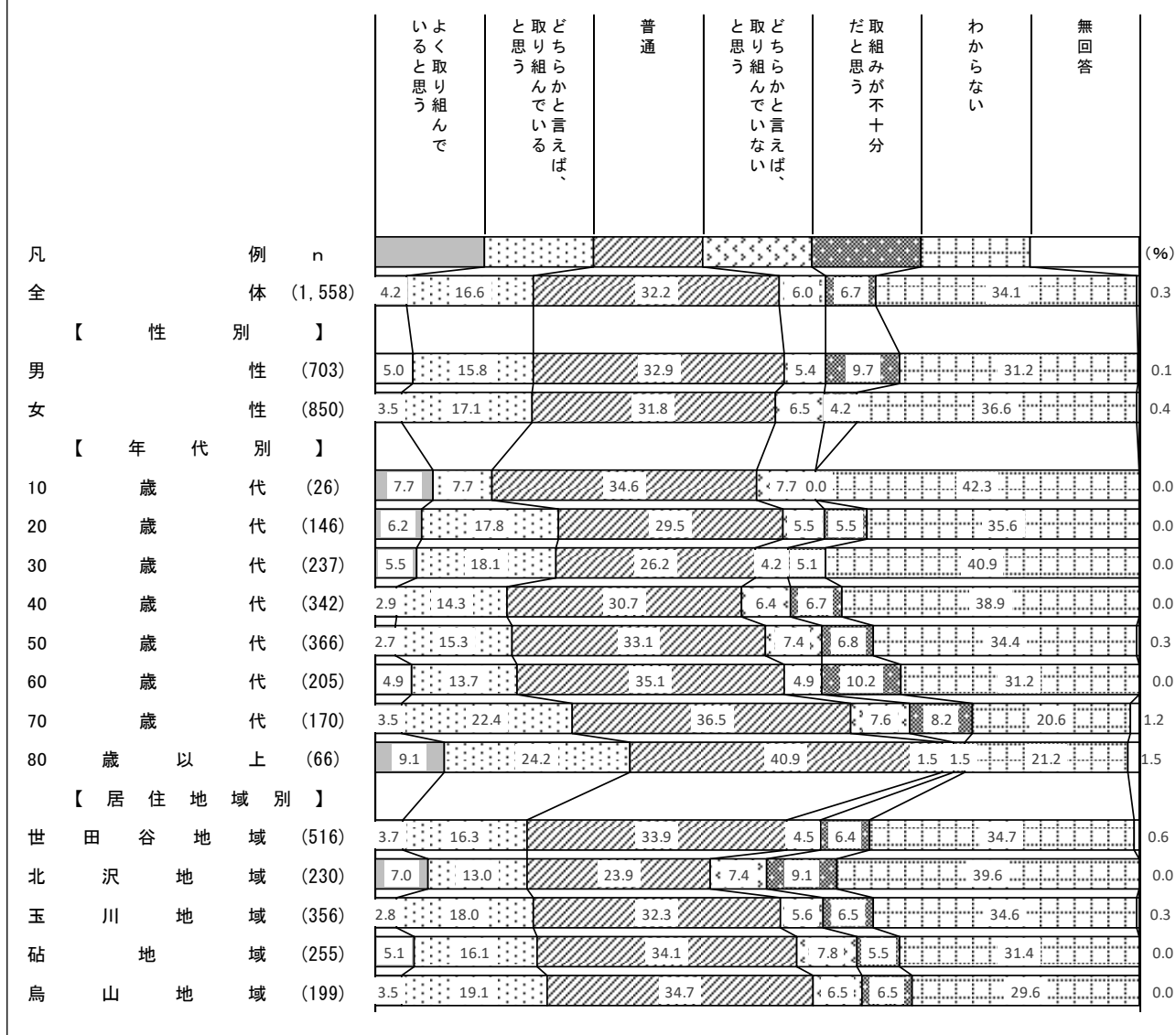
《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査と比較すると、《取り組んでいる》は、『平成 30 年度』が 19.9%、『令和 5 年度』は 26.4%と 6 ポイント余り増加している。(図表 4-17-3)



(18) きれいな空気や水、土壌の確保

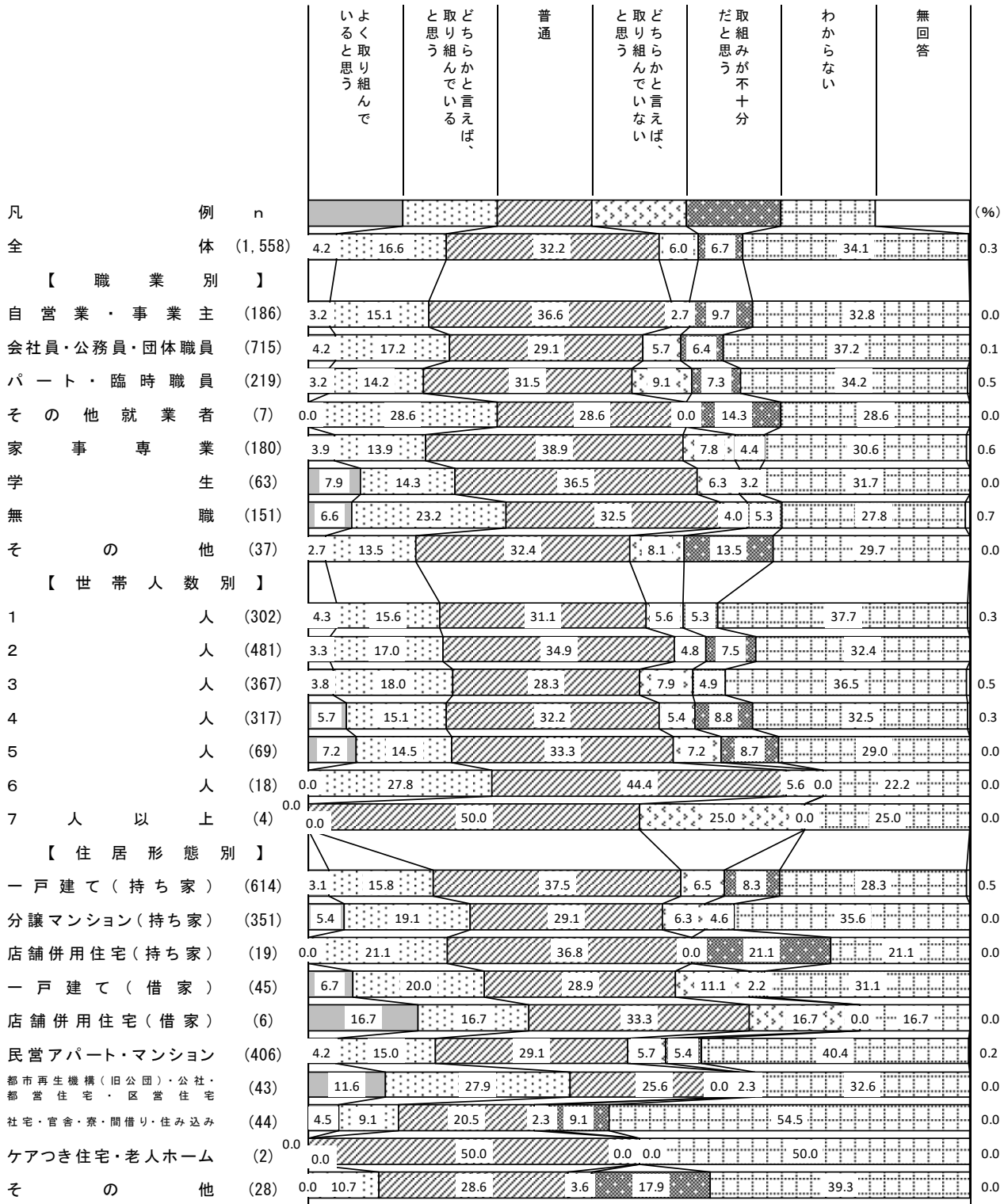
図表 4-18-1 きれいな空気や水、土壌の確保
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が20.8%となっている。

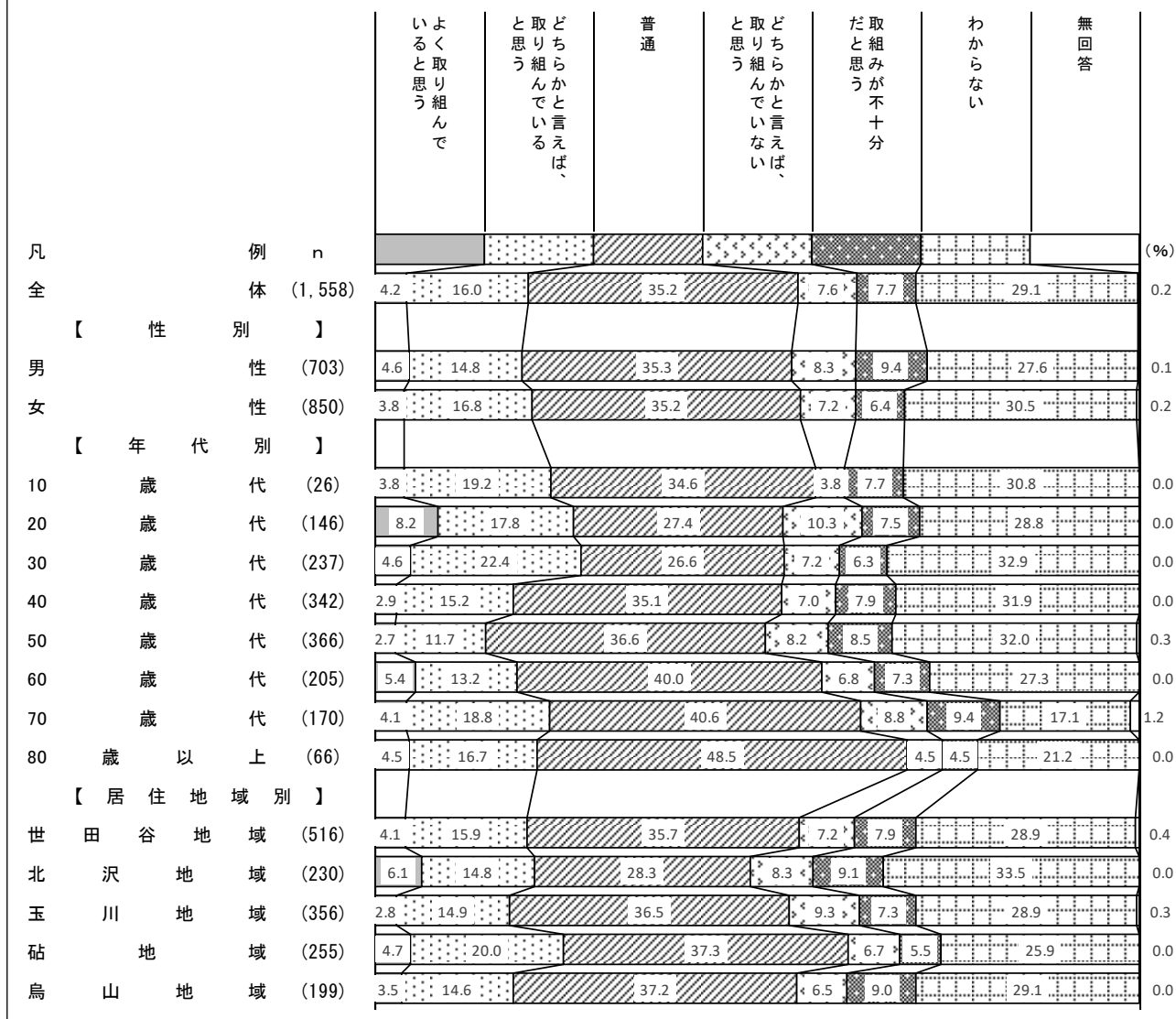
年代別にみると、40歳代より上の年代において、年代が上がるにつれて「取り組んでいる」が高くなっている。(図表4-18-1)

図表4-18-2 きれいな空気や水、土壌の確保
(職業・世帯人数・居住形態別)



(19) 生活騒音、振動、におい・悪臭の抑制

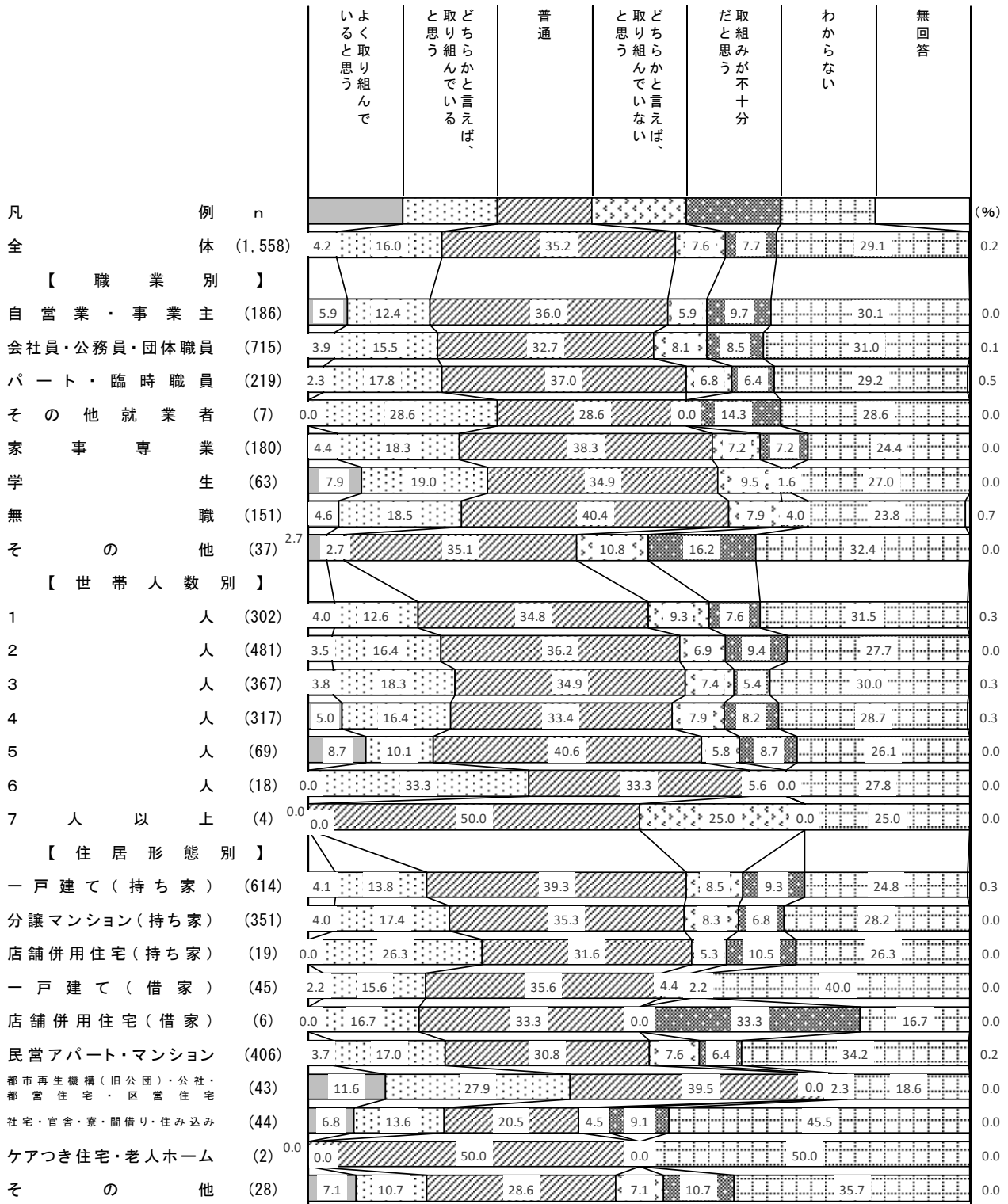
図表4-19-1 生活騒音、振動、におい・悪臭の抑制
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が20.2%となっている。

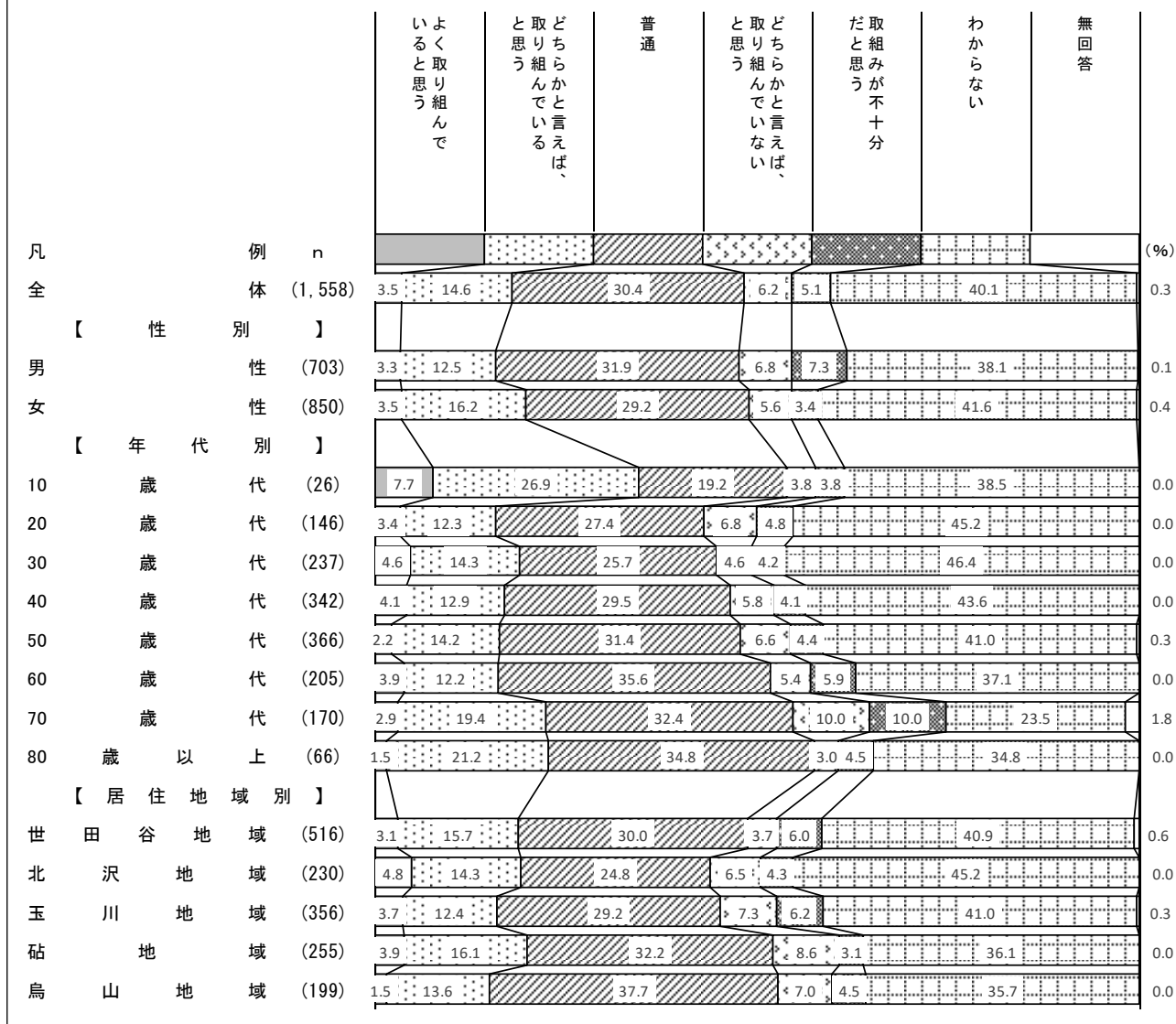
住居形態別にみると、「取り組んでいる」は都市再生機構(旧公団)・公社・都営住宅・区営住宅(39.5%)で高くなっている。(図表4-19-1)

図表4-19-2 生活騒音、振動、におい・悪臭の抑制
(職業・世帯人数・居住形態別)



(20) 環境教育の実施や環境に関するイベントの開催

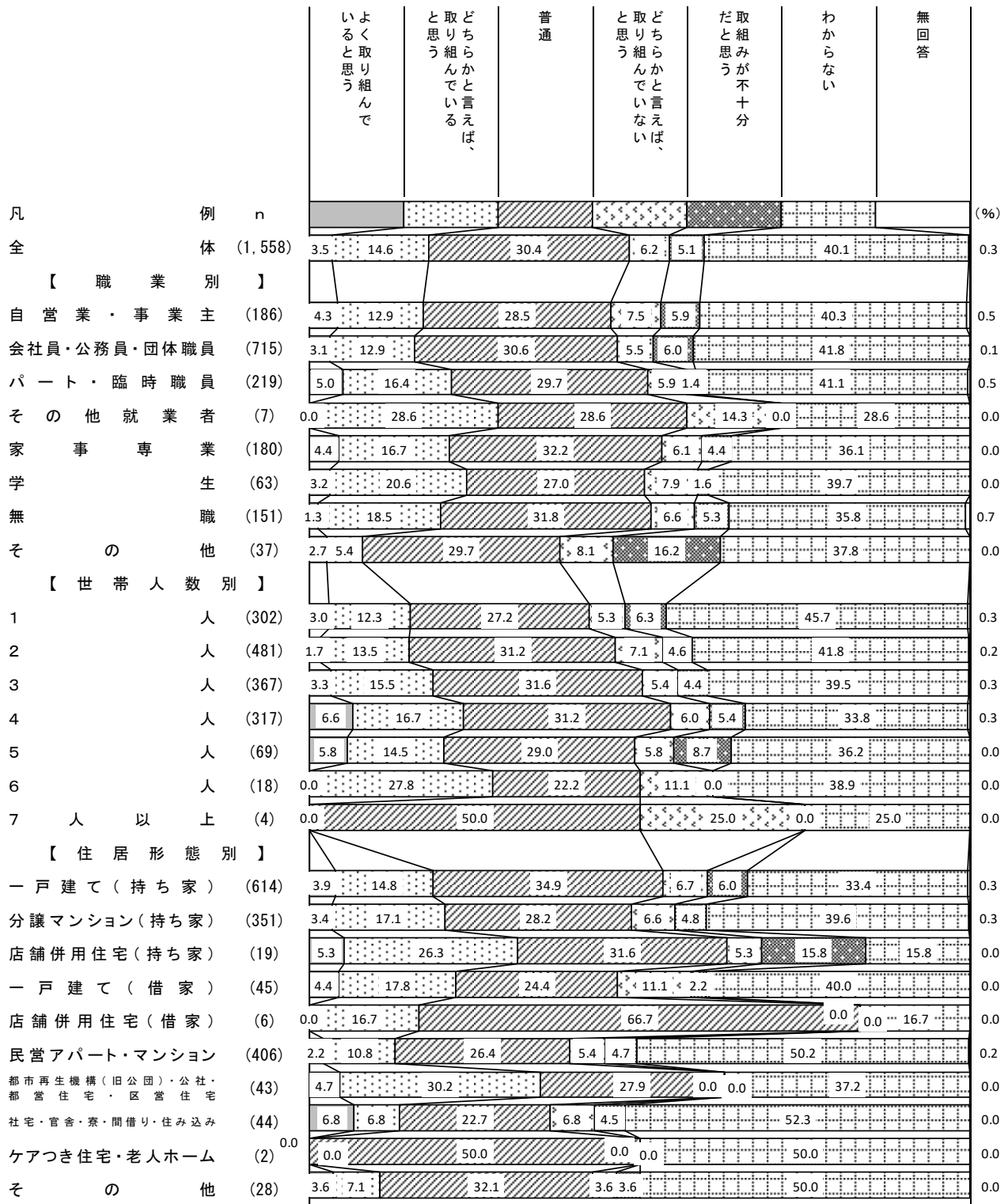
図表 4-20-1 環境教育の実施や環境に関するイベントの開催
(性・年代・居住地域別)



全体で見ると、「取り組んでいる」が18.1%となっている。

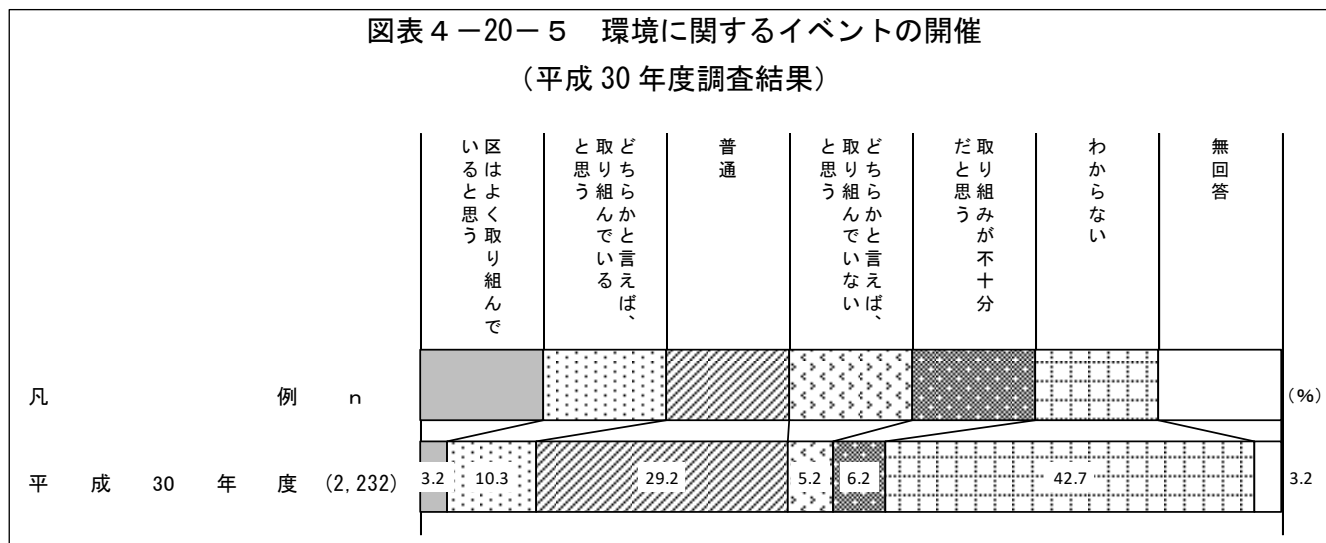
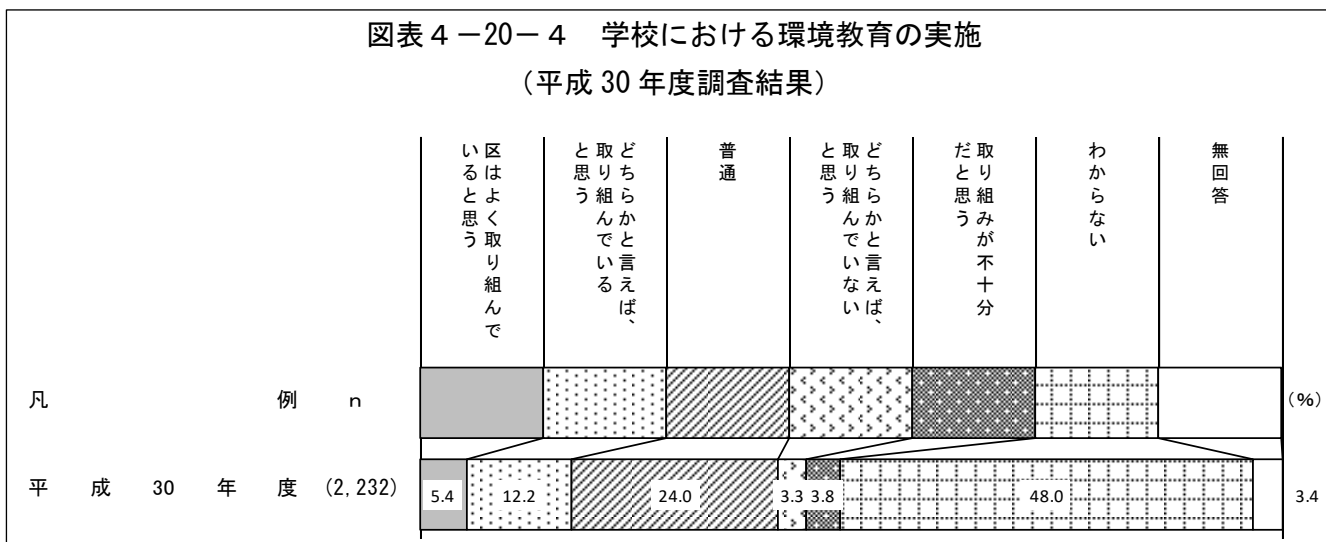
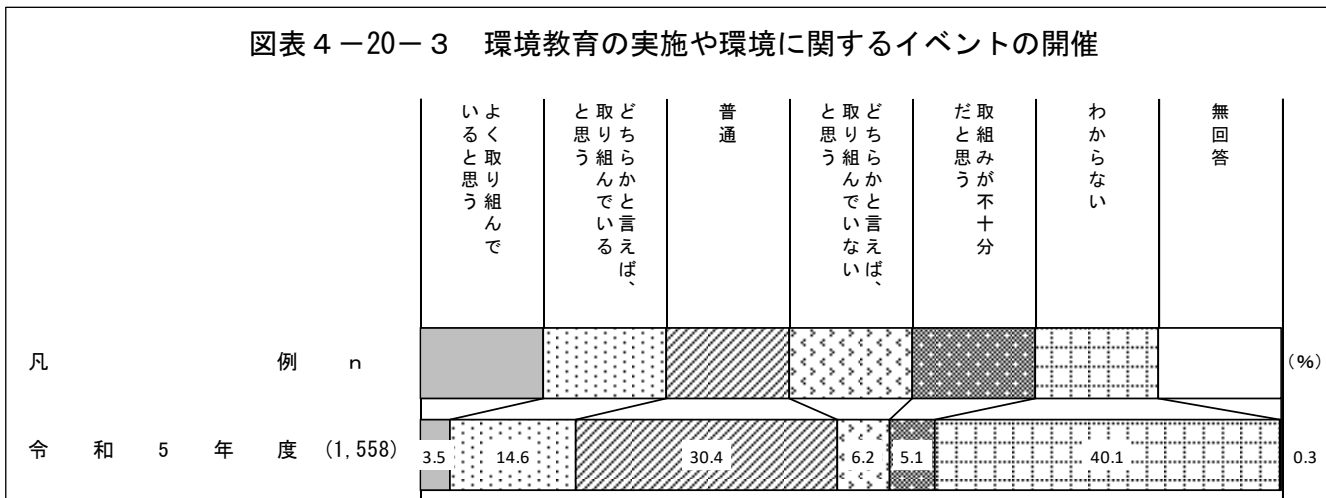
年代別にみると、「取り組んでいる」は80歳以上(22.7%)、70歳代(22.3%)で高くなっている。(図表4-20-1)

図表 4-20-2 環境教育の実施や環境に関するイベントの開催
(職業・世帯人数・居住形態別)



《平成 30 年度調査結果との比較》

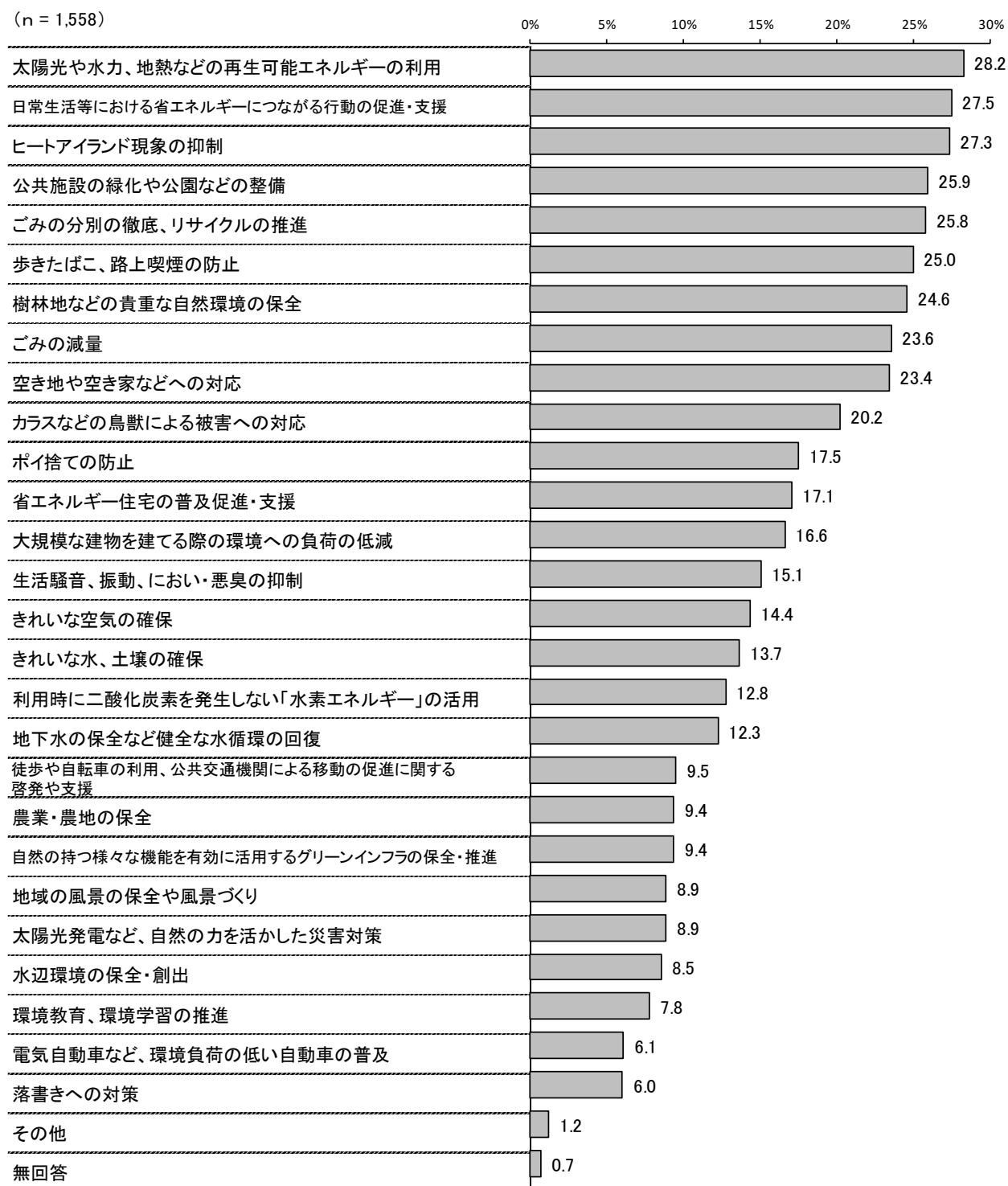
平成 30 年度調査では、《取り組んでいる》は「学校における環境教育の実施」で 17.6%、「環境に関するイベントの開催」で 13.5%。『令和 5 年度』では「環境教育の実施や環境に関するイベントの開催」で《取り組んでいる》は 18.1%となっている。（図表 4-20-3、図表 4-20-4、図表 4-20-5）



5. 世田谷区の環境に期待することについて

問5 あなたが、今後、世田谷区の環境に関する施策の中で、充実させていく必要があると感じるものはどれですか。次の中から5つまで選んでください。

図表5-1 世田谷区の環境に期待することについて



区の環境に関する施策について、充実させていく必要があるもの5つを選んでもらった。

「太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用」が28.2%で最も高く、次いで「日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援」(27.5%)、「ヒートアイランド現象の抑制」(27.3%)、「公共施設の緑化や公園などの整備」(25.9%)、「ごみの分別の徹底、リサイクルの推進」(25.8%)となっている。(図表5-1)

性別にみると、男性では「太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用」が最も高く、女性では「ヒートアイランド現象の抑制」が最も高い。男性では「歩きたばこ、路上喫煙の防止」が4位に入っている。

年代別にみると、「太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用」が10歳代、20歳代、40歳代、60歳代で最も高い。「歩きたばこ、路上喫煙の防止」が30歳代、40歳代で最も高くなっている。「公共施設の緑化や公園などの整備」は20歳代、「ヒートアイランド現象の抑制」は50歳代、「樹林地などの貴重な自然環境の保全」は70歳代、「ごみの分別の徹底、リサイクルの推進」は80歳以上で最も高くなっている。(図表5-2)

※属性別の表において、同率の項目は1マスにまとめている。(例：年代別「10歳代」3位～5位)

図表 5-2 世田谷区の環境に期待することについて

(性・年代別)

(%)

		n	1位	2位	3位	4位	5位
全 体		1,558	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 28.2	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.5	ヒートアイランド現象の抑制 27.3	公共施設の緑化や公園などの整備 25.9	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 25.8
性別	男性	703	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 29.9	公共施設の緑化や公園などの整備 29.3	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.9	歩きタバコ、路上喫煙の防止 25.6	樹林地などの貴重な自然環境の保全 24.2
	女性	850	ヒートアイランド現象の抑制 30.7	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 27.6	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.2	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 26.9	樹林地などの貴重な自然環境の保全 24.9
年代別	10歳代	26	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 34.6	歩きタバコ、路上喫煙の防止 30.8	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 ヒートアイランド現象の抑制 公共施設の緑化や公園などの整備 ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 ポイ捨ての防止		26.9
	20歳代	146	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 公共施設の緑化や公園などの整備 30.1		日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 26.0	歩きタバコ、路上喫煙の防止 24.7	樹林地などの貴重な自然環境の保全 24.0
	30歳代	237	歩きタバコ、路上喫煙の防止 33.8	公共施設の緑化や公園などの整備 30.8	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 26.6	ごみの減量 24.1	空き地や空き家などへの対応 23.6
	40歳代	342	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 歩きタバコ、路上喫煙の防止 30.1		ヒートアイランド現象の抑制 28.9	空き地や空き家などへの対応 26.9	公共施設の緑化や公園などの整備 26.6
	50歳代	366	ヒートアイランド現象の抑制 32.5	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 29.5	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 29.2	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 28.1	樹林地などの貴重な自然環境の保全 カラスなどの鳥獣による被害への対応 25.1
	60歳代	205	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 32.2	ヒートアイランド現象の抑制 31.7	樹林地などの貴重な自然環境の保全 30.7	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 30.2	空き地や空き家などへの対応 24.9
	70歳代	170	樹林地などの貴重な自然環境の保全 37.6	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 34.7	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 ごみの分別の徹底、リサイクルの推進	31.2	大規模な建物を建てる際の環境への負荷の低減 30.6
	80歳以上	66	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 31.8	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 大規模な建物を建てる際の環境への負荷の低減	30.3	樹林地などの貴重な自然環境の保全 25.8	公共施設の緑化や公園などの整備 ごみの減量 22.7

図表 5-3 世田谷区の環境に期待することについて
(居住地域別)

(%)

		n	1位	2位	3位	4位	5位
全 体		1,558	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 28.2	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.5	ヒートアイランド現象の抑制 27.3	公共施設の緑化や公園などの整備 25.9	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 25.8
地域別	世田谷地域	516	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 29.7	ヒートアイランド現象の抑制 26.6	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 26.2	歩きタバコ、路上喫煙の防止 26.0	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 ごみの減量 24.4
	北沢地域	230	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 30.0	歩きタバコ、路上喫煙の防止 29.1	ヒートアイランド現象の抑制 公共施設の緑化や公園などの整備 28.3	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用/ごみの分別の徹底、リサイクルの推進/樹林地などの貴重な自然環境の保全 26.1	
	玉川地域	356	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 30.1	公共施設の緑化や公園などの整備 29.8	ヒートアイランド現象の抑制 27.8	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 27.0	樹林地などの貴重な自然環境の保全 26.4
	砧地域	255	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 31.8	ヒートアイランド現象の抑制 樹林地などの貴重な自然環境の保全 28.6	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 27.8	ごみの減量 27.1	
	烏山地域	199	空き地や空き家などへの対応 28.6	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 28.1	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 26.6	ヒートアイランド現象の抑制 公共施設の緑化や公園などの整備 26.1	

地域別にみると、烏山地域では「空き地や空き家などへの対応」が 28.6%最も高く、次いで「日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援」が 26.6%となっている。(図表 5-3)

図表5-4 世田谷区の環境に期待することについて

(職業別)

(%)

		n	1位	2位	3位	4位	5位
全 体		1,558	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 28.2	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.5	ヒートアイランド現象の抑制 27.3	公共施設の緑化や公園などの整備 25.9	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 25.8
職業別	自営業・事業主	186	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 33.9	樹林地などの貴重な自然環境の保全 30.1	公共施設の緑化や公園などの整備 26.9	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 26.3	ヒートアイランド現象の抑制 ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 25.8
	会社員・公務員・団体職員	715	公共施設の緑化や公園などの整備 28.5	歩きタバコ、路上喫煙の防止 28.3	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 28.0	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 26.3	ヒートアイランド現象の抑制 25.9
	パート・臨時職員	219	ヒートアイランド現象の抑制 37.0	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.9	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 25.6	空き地や空き家などへの対応 25.1	ごみの減量 カラスなどの鳥獣による被害への対応 24.7
	その他就業者	7	省エネルギー住宅の普及促進・支援 57.1	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 樹林地などの貴重な自然環境の保全 42.9	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援/ヒートアイランド現象の抑制/ごみの分別の徹底、リサイクルの推進/きれいな水、土壌の確保/ 28.6		
	家事専業	180	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 28.3	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 ヒートアイランド現象の抑制 27.8	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 ごみの減量 25.6		
	学生	63	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 33.3	公共施設の緑化や公園などの整備 28.6	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 ごみの減量 27.0	ヒートアイランド現象の抑制 25.4	
	無職	151	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 34.4	樹林地などの貴重な自然環境の保全 31.8	大規模な建物を建てる際の環境への負荷の低減 31.1	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 29.8	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 28.5
その他	37	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 樹林地などの貴重な自然環境の保全 32.4		ヒートアイランド現象の抑制 大規模な建物を建てる際の環境への負荷の低減 利用時に二酸化炭素を発生しない「水素エネルギー」の活用 27.0			

図表 5-5 世田谷区の環境に期待することについて
(世帯人数別)

(%)

		n	1位	2位	3位	4位	5位	
全 体		1,558	日常太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 28.2	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.5	ヒートアイランド現象の抑制 27.3	公共施設の緑化や公園などの整備 25.9	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 25.8	
世帯人数別	1人	302	ヒートアイランド現象の抑制 28.1	日常太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 25.2	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 歩きたばこ、路上喫煙の防止 24.8	公共施設の緑化や公園などの整備 24.2		
	2人	481	樹林地などの貴重な自然環境の保全 30.6	日常太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 28.7	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 28.5	ヒートアイランド現象の抑制 27.9	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 27.7	
	3人	367	日常太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 30.2	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.8	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 27.0	公共施設の緑化や公園などの整備 26.7	ヒートアイランド現象の抑制 26.4	
	4人	317	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 29.7	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.8	ヒートアイランド現象の抑制 公共施設の緑化や公園などの整備 27.4			
	5人	69	歩きたばこ、路上喫煙の防止 40.6	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 空き地や空き家などへの対応 29.0	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.5	公共施設の緑化や公園などの整備 26.1		
	6人	18	ごみの減量 38.9	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用/日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援/ヒートアイランド現象の抑制/歩きたばこ、路上喫煙の防止/ポイ捨ての防止/きれいな空気の確保/きれいな水、土壌の確保/利用時に二酸化炭素を発生しない「水素エネルギー」の活用			33.3	
	7人以上	4	ごみの減量 75.0	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用/日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援/公共施設の緑化や公園などの整備/歩きたばこ、路上喫煙の防止/ポイ捨ての防止/省エネルギー住宅の普及促進・支援/大規模な建物を建てる際の環境への負荷の低減/きれいな空気の確保/きれいな水、土壌の確保/水辺環境の保全・創出			25.0	

図表 5-6 世田谷区の環境に期待することについて

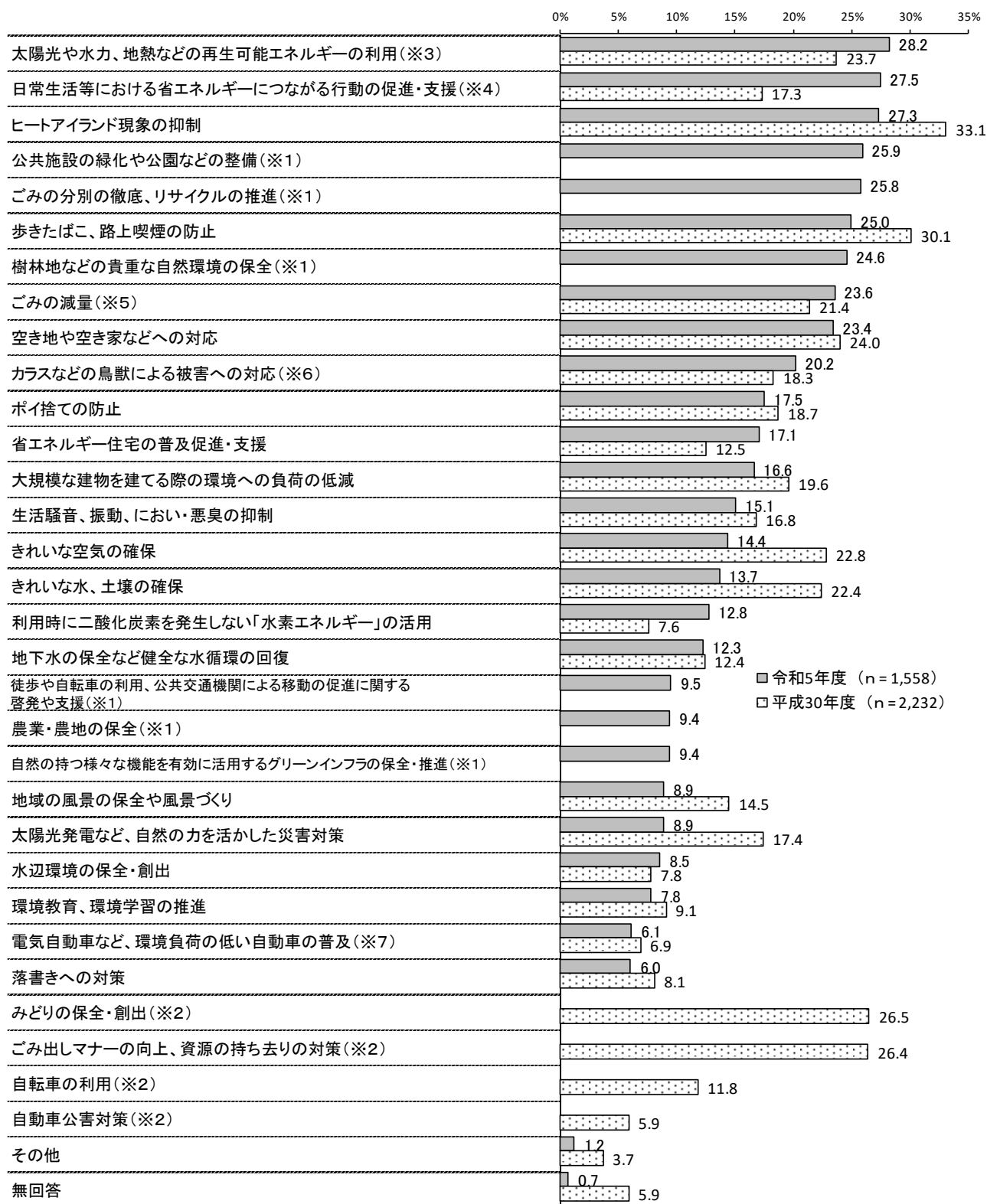
(居住形態別)

(%)

		n	1位	2位	3位	4位	5位
全 体		1,558	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 28.2	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.5	ヒートアイランド現象の抑制 27.3	公共施設の緑化や公園などの整備 25.9	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 25.8
居住形態別	一戸建て(持ち家)	614	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 29.8	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 28.3	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 27.7	ヒートアイランド現象の抑制 26.5	樹林地などの貴重な自然環境の保全 25.1
	分譲マンション(持ち家)	351	日常太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 31.3	ヒートアイランド現象の抑制 30.8	樹林地などの貴重な自然環境の保全 29.1	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.9	空き地や空き家などへの対応 27.1
	店舗併用住宅(持ち家)	19	カラスなどの鳥獣による被害への対応 36.8	ヒートアイランド現象の抑制 樹林地などの貴重な自然環境の保全 31.6	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援/公共施設の緑化や公園などの整備/ごみの分別の徹底、リサイクルの推進/大規模な建物を建てる際の環境への負荷の低減/自然の持つ様々な機能を有効に活用するグリーンインフラの保全・推進 26.3		
	一戸建て(借家)	45	日常太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 37.8	歩きたばこ、路上喫煙の防止 33.3	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 28.9	ヒートアイランド現象の抑制 ごみの減量 26.7	
	店舗併用住宅(借家)	6	きれいな水、土壌の確保 66.7	公共施設の緑化や公園などの整備 ごみの減量 50.0	きれいな空気の確保 地下水の保全など健全な水循環の回復 33.3		
	民営アパート・マンション	406	歩きたばこ、路上喫煙の防止 32.5	公共施設の緑化や公園などの整備 27.8	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 27.3	ヒートアイランド現象の抑制 26.1	ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 25.1
	都市再生機構(旧公団)・公社・都営住宅・区営住宅	43	公共施設の緑化や公園などの整備 34.9	樹林地などの貴重な自然環境の保全 32.6	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 30.2	ヒートアイランド現象の抑制 27.9	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用 農業・農地の保全 25.6
	社宅・官舎・寮・間借り・住み込み	44	公共施設の緑化や公園などの整備 40.9	ごみの減量 31.8	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 27.3	歩きたばこ、路上喫煙の防止 25.0	太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーの利用/生活騒音、振動、におい・悪臭の抑制 20.5
	ケアつき住宅・老人ホーム	2	日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援/公共施設の緑化や公園などの整備/樹林地などの貴重な自然環境の保全/ごみの減量/利用時に二酸化炭素を発生しない「水素エネルギー」の活用/その他 50.0				
その他	28	ヒートアイランド現象の抑制 生活騒音、振動、におい・悪臭の抑制 32.1		日常生活等における省エネルギーにつながる行動の促進・支援 公共施設の緑化や公園などの整備 きれいな空気の確保 ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 28.6			

図表5-7 世田谷区の環境に期待することについて

(平成30年度調査結果との比較)



※1 令和5年度のみある選択肢

※2 平成30年度のみある選択肢

※3 平成30年度は「太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギー(自然エネルギー)の利用」

※4 平成30年度は「省エネルギー活動」

※5 平成30年度は「ごみの減量・リサイクル活動」

※6 平成30年度は「カラスなどによる被害への対応」

※7 平成30年度は「電気自動車など、次世代自動車の普及」

《平成 30 年度調査結果との比較》

平成 30 年度調査とは選択肢の変更もあり、直接の比較はできないものの、前回高かった「ヒートアイランド現象の抑制」や「歩きたばこの防止」は令和 5 年度調査でも上位になっている。また選択肢が異なっても“ごみ出し”に関することや、“緑化”に関することについても、平成 30 年度調査、令和 5 年度調査のいずれも上位となっていることが分かる。

令和 5 年度調査における上位 2 項目については、いずれも平成 30 年度と比べ割合が増加している。(図表 5-7)

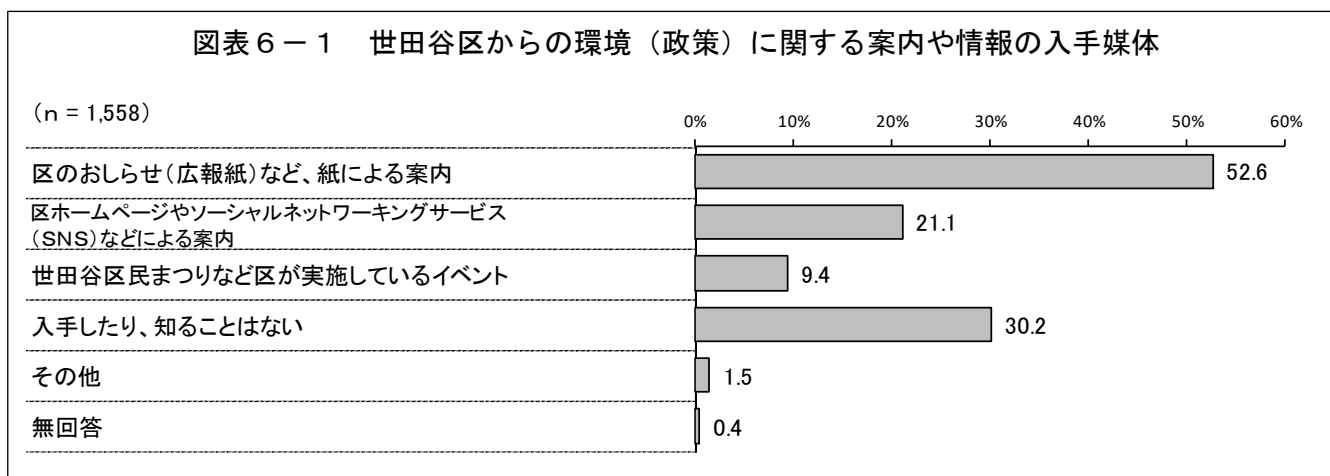
《その他》

その他について 21 件の回答があった。「交通」に関する回答が 6 件と最も多く、次いで、「周知・啓発」に関する回答が 3 件となっている。なお、複数の内容を含む回答は、該当する項目すべてにカウントしている。

6. 世田谷区からの案内や情報について

問6 あなたは、世田谷区の環境（政策）に関する案内や情報を、どのような方法で入手したり、知りしていますか。（〇はいくつでも）

図表6-1 世田谷区からの環境（政策）に関する案内や情報の入手媒体



世田谷区からの案内や情報を入手できる媒体は、「区のおしらせ(広報紙)など、紙による案内」が52.6%と最も高く、次いで、「区ホームページやソーシャルネットワーキングサービス(SNS)などによる案内」(21.1%)となっている。(図表6-1)

《その他》

その他について23件の回答があった。「掲示板」が6件と最も多く、次いで「図書館等の公共施設」が5件、「回覧板」が3件となっている。なお、複数の内容を含む回答は、該当する項目すべてにカウントしている。

図表6-2 世田谷区からの環境（政策）に関する案内や情報の入手媒体
（性・年代・居住地域別）

			(%)						
		n	紙による案内 （区のおしらせ 紙、広報紙など、 紙による案内）	区ホームページ ソーシャルネットワー キングサービス（SNS） などによる案内	区が実施している イベント	世田谷区民まつりなど が実施している	入手したり、 知ることはない	その他	無回答
全 体		1,558	52.6	21.1	9.4	30.2	1.5	0.4	
性 別	男性	703	50.5	21.1	8.1	33.3	1.4	0.4	
	女性	850	54.5	21.1	10.4	27.5	1.5	0.5	
年 齢 別	10歳代	26	23.1	11.5	3.8	65.4	0.0	0.0	
	20歳代	146	26.7	18.5	8.9	52.1	1.4	0.0	
	30歳代	237	30.4	24.5	14.8	43.9	0.8	0.0	
	40歳代	342	41.8	25.1	10.8	34.8	0.9	0.0	
	50歳代	366	57.9	25.4	7.4	24.3	1.9	0.3	
	60歳代	205	71.2	19.5	7.3	21.5	1.0	0.0	
	70歳代	170	88.2	9.4	5.9	7.1	3.5	1.8	
	80歳以上	66	78.8	9.1	12.1	13.6	1.5	4.5	
地 域 別	世田谷地域	516	48.8	20.2	9.7	32.9	1.9	0.6	
	北沢地域	230	50.4	17.8	10.0	36.5	1.3	0.4	
	玉川地域	356	52.0	20.5	7.9	29.8	1.7	0.6	
	砧地域	255	57.6	23.9	9.8	24.7	1.2	0.0	
	烏山地域	199	59.8	24.1	9.5	23.6	0.5	0.5	

年代別にみると、40歳代より下の年代では「区のおしらせ（広報紙）など、紙による案内」が5割を下回っており、20歳代以下では3割を下回っている。10歳代から30歳代では「入手したり、知ることはない」の割合が高くなっている。（図表6-2）

世帯人数別ではいずれも「区のおしらせ（広報紙）など、紙による案内」が最も高いが、1人では「入手したり、知ることはない」（41.1%）も4割を超えて比較的高い。

居住形態別にみると、「区のおしらせ（広報紙）など、紙による案内」が高いものが多いが、民営アパート・マンションでは、「入手したり、知ることはない」が最も高くなっている。（図表6-3）

図表6-3 世田谷区からの環境（政策）に関する案内や情報の入手媒体
（職業・世帯人数・居住形態別）

		n	紙の （広報紙） による案内 など、 区のおしらせ	区ホームページや ソーシャルネットワーキ ングサービス（SNS） などによる案内	区が実施している イベント	世田谷区民まつりなど	入手したり、 知ることはない	その他	無回答 （%）
全 体		1,558	52.6	21.1	9.4	30.2	1.5	0.4	
職業別	自営業・事業主	186	52.7	16.1	9.1	35.5	2.2	0.0	
	会社員・公務員・団体職員	715	43.2	25.9	10.1	35.1	1.3	0.1	
	パート・臨時職員	219	62.1	22.4	10.5	20.5	1.4	0.5	
	その他就業者	7	42.9	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	
	家事専業	180	66.7	15.6	10.0	21.1	1.7	0.6	
	学生	63	33.3	22.2	7.9	46.0	0.0	0.0	
	無職	151	71.5	9.9	4.0	21.2	2.0	2.6	
	その他	37	67.6	16.2	10.8	21.6	0.0	0.0	
世帯人数別	1人	302	48.0	13.9	4.6	41.1	1.7	0.7	
	2人	481	60.1	20.4	8.3	25.4	1.9	0.2	
	3人	367	54.2	21.3	9.5	29.2	0.5	0.8	
	4人	317	45.7	27.4	14.2	26.8	1.9	0.3	
	5人	69	46.4	27.5	14.5	39.1	0.0	0.0	
	6人	18	33.3	27.8	11.1	27.8	5.6	0.0	
	7人以上	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
居住形態別	一戸建て（持ち家）	614	60.9	19.5	9.0	24.1	1.8	1.0	
	分譲マンション（持ち家）	351	54.4	27.1	10.5	25.1	0.6	0.0	
	店舗併用住宅（持ち家）	19	68.4	21.1	10.5	21.1	10.5	0.0	
	一戸建て（借家）	45	48.9	17.8	15.6	26.7	6.7	0.0	
	店舗併用住宅（借家）	6	50.0	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	
	民営アパート・マンション	406	36.7	20.9	7.1	44.6	1.0	0.2	
	都市再生機構（旧公団）・ 公社・都営住宅・区営住宅	43	69.8	16.3	18.6	20.9	2.3	0.0	
	社宅・官舎・寮・間借り・ 住み込み	44	45.5	15.9	6.8	38.6	0.0	0.0	
	ケアつき住宅・老人ホーム	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
	その他	28	60.7	7.1	10.7	32.1	0.0	0.0	

7. 世田谷区の環境についての意見、要望 自由意見

問7 あなたが日頃、環境について感じる事、区へ伝えたいことなどを、自由にご記入ください。

世田谷区の環境についての意見、要望は510件の回答があった。以下、回答の抜粋。

(1) みどりの保全、創出について

- 樹木が、案外簡単に伐採されているように思う。車優先道路拡張(整備)とか、マンション建設のみならず、敷地の狭い戸建住宅建設のために。樹は100年経たなければ大きくなるのだから、新しい苗木を植えても代替えにはならない。樹木を伐らないで下さい。(女性70歳代・砧地域)
- 以前からあった樹木が減り、道路が増えていると感じる。緑を残すことに税制面でも優遇するなど積極的に保全してほしい。(男性50歳代・砧地域)
- 生産緑地の宅地化を抑えて欲しい。(女性40歳代・烏山地域)
- 世田谷区は、緑豊かでありながら暮らしやすい住宅地として成り立っているところがとても良いと感じています。まだ残っている畑などの農地の保全に力を入れていただけると良いです。(女性60歳代・烏山地域)
- 落葉樹をこれまで以上に茂らせて、木漏れ日の豊かな街づくりを進めてほしい。(男性40歳代・世田谷地域)
- 世田谷区は公園や、道路沿いの樹林など、緑が多く、生活する上で都会と自然が共存している非常に良い環境だと思います。これからも緑の多い世田谷区を保って欲しいと思います。(女性20歳代・砧地域)
- 夏の強烈な日差しを遮る街路樹がもっとももっと増えたらうれしい。(男性40歳代・砧地域)
- 安く草花を買える補助があれば、沢山植える人が増えるかもしれません。(女性50歳代・烏山地域)

(2) たばこマナーについて

- 世田谷区は綺麗な街だと思います。
しかしながら、喫煙しながら歩いている人はまだまだ多く見られます。罰金にして良いのではないのでしょうか。(女性60歳代・砧地域)
- 歩きたばこを取り締まって欲しい。(女性10歳代・北沢地域)
- たばこのポイ捨てが酷い。
歩きたばこやポイ捨てに対する規制や監視を強めて欲しい。(女性30歳代・玉川地域)

(3) ごみ、資源回収について

- 透明のプラスチック容器、よくたまるので、リサイクルしている所へ持って行ってはいますが、遠いので、近いところに出せたらごみの量が減ると思います。よろしくお願いします。(女性 80 歳以上・北沢地域)
- 最近引っ越してきて、驚いたことは、プラスチック類を可燃ごみにしていることです。熱エネルギーに替えているとのことかもしれませんが、他の市区町村は分けています。プラスチック類をリサイクルすることはできないのでしょうか？可燃ごみを出す量が増えていて、環境に良くないと思います。これからも可燃ごみにするというのだったら、区民に説明すべきだと思います。(女性 40 歳代・北沢地域)
- 充電式の小型家電が増えているので、リチウムイオン電池等の回収を区の方でも積極的にやって欲しい。特に膨らんでしまったバッテリー等は家電量販店やメーカーとの間でたらい回しにされたりするので、そういうものでも回収出来る環境をつくって欲しい。(女性 30 歳代・世田谷地域)
- 車がなく、古着を回収場所に持参することが難しく普通ごみに出すことがある。半年に一度程度でも、資源ごみとして収集を行なっていただけるとありがたい。(女性 50 歳代・玉川地域)
- 粗大ごみが捨てられて放置されている。おそらくルールを守らない人が多いのだと思う。(男性 30 歳代・北沢地域)
- プラの分別がなぜ無いのか？疑問です。ごみを減らすためには必要だと思います。(女性 30 歳代・玉川地域)
- プラスチック系のごみの、資源ごみでの回収があるとよいと思う (女性 60 歳代・世田谷地域)

(4) 地球温暖化などについて

- 災害に供えて、太陽光パネルの設置をしたいのですが、世田谷区・東京都などから補助金などを出していただければ助かります。安心して任せられる設置会社、数社の紹介もお願い致します。(女性 70 歳代・砧地域)
- 環境問題は本当に重要課題です。地球温暖化対策を含め行政がもっと区民にアピール、指導して頂きたいと願っております。(男性 70 歳代・世田谷地域)
- 温暖化、地球破壊が恐ろしいが、個人で生活しながらどうしていいかわからない。(女性 50 歳代・北沢地域)
- 年々、温暖化の影響で気温の上昇、特に都心部ではヒートアイランド現象が酷く、子供やお年寄り、犬の散歩も大変そうです。世田谷区は都心の割に緑も多く手入れも計画的にされていて、木陰はいこいと暑さを凌ぐのに役に立っています。公園の水辺で子供達がよく遊んでいたのも、地域や皆様の環境整備の努力のおかげだと感じております。緑化や再生可能エネルギー利用、ごみ減量化等これからも自分達でできる事をやり少しでも温暖化を防げればと考えておりますので、これからも率先してアイデアや方法をご提示下さい。(女性 40 歳代・世田谷地域)
- 今年夏の異常な暑さを体験すると、地球温暖化が確実に進行しているのをマジマジと感じる。区もとっくに推進、検討しているとは思いますが、原発だけでなく、コストの面が一番大きいと思いますが、代替エネルギーの推進を少しずつでも進めて欲しいと思います。(男性 60 歳代・烏山地域)

- 現在のTVのニュース等を見ると、地球の温暖化による異常気象は確実に進んでしまっており、一人ひとりの人間が本当に少しずつでも意識して、出来る様に、環境に良い行いを心掛ける必要があると思います。町の緑を増やす事、出来るだけ、自然の多い環境を目指すこと、空気がきれいである事、それが住みやすい町だと思います。(女性 40 歳代・玉川地域)

(5) 道路・交通について

- 道路の渋滞がなくなるようにして欲しい(女性 50 歳代・砧地域)
- 狭い歩道が多いと思う。自分はよく歩くので歩道が歩きやすく整備されていると嬉しいです(女性 40 歳代・砧地域)
- 世田谷区は住環境は良いが、道が狭かったり、入り組んでいる。自転車を使用する人も多いので安全な道路環境も見直してほしい。(男性 50 歳代・烏山地域)
- 道路の植え込みがあるのはいいのですが、幅が広すぎてすれ違うのもやっとの道路があります。幅を見直して欲しいです。(女性 40 歳代・世田谷地域)
- トラックの違法駐車対策を厳しくしてほしい。間接的に事故の原因になっている。(男性 50 歳代・烏山地域)

(6) 広報、情報発信について

- 環境作りへの広告、支援等、不足していると思われる。(男性 70 歳代・北沢地域)
- 区のお知らせ(広報紙)の内容を、もう少し解りやすく工夫して欲しい。(男性 70 歳代・世田谷地域)
- もっと区が取り組んでいるさまざまな活動のことを知りたいと感じた。知った上で手伝えることがあるなら手伝いをしてみたい。(女性 30 歳代・玉川地域)
- 区の取組みがあまり知られていないと思うのもっと周知徹底して、意識の改革が必要だとおもます。(女性 50 歳代・玉川地域)
- いろんな取組みをされていると思うのですが、その取組みが区民に対して周知がされていないように感じます。せっかく頑張っていると思うので、残念な気がします。これからも頑張ってください。(女性 40 歳代・烏山地域)

(7) 美化、ポイ捨て等について

- 川周辺のごみが目立ちます。近くに住んでいる人ではなく、外から来る人たちのポイ捨てが目立つような気がします。(男性 40 歳代・玉川地域)
- 公園や公園の木々や植え込み、道路や道路横、歩道の植え込みにポイ捨てが多く、せっかくの住みたい街ランキング上位なのに残念。とにかくごみのポイ捨てが多いのをどうにかしたいです！(女性 50 歳代・世田谷地域)
- 三軒茶屋の駅を利用していますが、駅までの 246 の道が汚くて朝の通勤時など悲しくなります。(女性 50 歳代・世田谷地域)

(8) 公園について

- 公園を増やした方がいいのでは？と思います、子供達をもっと外で遊べる場所を増やしてあげるべきだと思います。(男性 30 歳代・玉川地域)
- 子ども(特に小学生)がボールを使って遊べる公園をもっと増やしたほうがいいと感じる。(男性 10 歳代・玉川地域)
- 世田谷公園を常々利用しますが公園内は樹々が多く季節ごとの花の咲く植物が少なく寂しい。樹木の多いのはそれなりに清々しく気持ちよいけれど…何か花の色彩が欲しいです。手入れが大変なのでしょうか…(女性 80 歳以上・世田谷地域)

(9) 自転車について

- シェアサイクルの拡充をしてほしい(女性 20 歳代・北沢地域)
- 自転車置き場が圧倒的に足りない。自転車で出掛けたくても駐輪出来ないことが多いのでやめる事も多い。(男性 50 歳代・砧地域)
- 自転車が走りやすい道の整備をすすめて頂きたい(男性 20 歳代・玉川地域)

(10) その他

- 京王線の踏切問題を何とかしてほしい(男性 30 歳代・烏山地域)
- 近所に空き家が増えています。
伸びきった草木や壊れそうな外壁、気になります。(女性 60 歳代・世田谷地域)
- 子どもたちや孫の世代まで、安心して住める地球を作って行って欲しい。(女性 30 歳代・北沢地域)
- 最近、日が落ちた頃の時間帯に焦げた様なニオイが何処からともなく漂って来て、甚だ不愉快である。エアコンしている室内に居てもわかるレベルです。(男性 60 歳代・世田谷地域)
- 台風によって下水があふれるような事はないように整備してほしい(男性 50 歳代・玉川地域)
- 犬のフンがそのままになっており、公園を歩く時は、地面を気にしながら歩いています。(女性 50 歳代・北沢地域)
- 小中学校の授業の一環として、環境教育を取り入れていただけたらと思います。(女性 60 歳代・砧地域)
- 駅前等商業施設や飲食店、住居で、ネズミが大量発生しているので、地域全体でネズミ駆除対策に力を入れて欲しい。(女性 40 歳代・世田谷地域)
- 良い区だと思いますが、家賃相場が高く、住み続けられるか不安です(女性 30 歳代・玉川地域)

